

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H10101	人間環境学	1	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	1	

授業のキーワード：

学問の意義、人間環境学、総合的教養、主専攻・副専攻

授業のテーマ：

人間環境学は人間環境大学の根本理念である。この理念について十分に理解することは、全体知を目指し、又、環境の各々の専門を修めるといふ大学設立以来の教育の目的を達成するために不可欠である。

授業の概要：

人間環境学の理念と人間環境大学とについて、その歴史と設立の意義を理解することとともに、人間環境学の学問、研究、教育における歴史的な意義を理解する。そのために、現在、広く学問がどのようなシステムになっているのか、そしてその課題がどのようなものか理解し、さらに、現在人類社会が直面しているさまざまな課題と学問の役割について考察する。

授業の計画：

1. 人間環境大学の設立
2. 人間環境大学の概要
3. 人間環境大学の学問理念「人間環境学」
4. 学問とは何か
5. 諸文化における学問
6. ヨーロッパにおける学問の理念と哲学
7. ヨーロッパにおける学問の歴史（1）
8. ヨーロッパにおける学問の歴史（2）
9. 近現代における学問の変容
10. わが国における大学の歴史
11. 世界的な大学および学問の変化
12. 環境問題と人間環境学
13. こころの問題と人間環境学
14. 歴史・文化と人間環境学
15. 人間環境学の意義

授業方法：

講義における解説を主として、適宜レポートを課する。

達成目標：

人間環境大学の設立理念を理解し、大学での学修の意義、学問の意義を理解する。

評価方法：

論述試験70%、出席など30%

- S. 人間環境学について理解し、本学で学ぶことの意義を把握している。
 A. 人間環境学について理解し、本学で学ぶことの意義を考えることが出来た。
 B. 人間環境学について理解することが出来た。
 C. 人間環境学について一部理解した。
 D. 理解しなかった。

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H10201~20	基礎ゼミナール I	1	1	下記参照

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
前期	水	3	

担当教員：

神谷、日比野、川口、岡、森、奥田、藪谷、伊藤、吉田、吉野、島崎、磯貝、渡、内藤、菅原、藤井、長井、守村、山根、花井

授業のテーマ：

基礎ゼミナールは、本学1年生の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な基礎的な技能や、知的探究心を鍛錬することを目的としています。また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯の意識を育てます。

授業の概要：

1. 基礎ゼミナールは、I（前期）とII（後期）に区分され、両科目は必修科目です。
2. 基礎ゼミナールでは、共通テキストを使用して、ノート・テイキング、文献調査、レポート作成、プレゼンテーションなど大学に必要な基礎的技法を学びます。

授業の計画：

1. 第1章 スタディスキルズとは
2. 第2章 ノート・テイキング（その1）
3. 第2章 ノート・テイキング（その2）
4. 第3章 リーディングの基本スキル（その1）
5. 第3章 リーディングの基本スキル（その2）
6. 第4章 より深いリーディングのために（その1）
7. 第4章 より深いリーディングのために（その2）
8. 第5章 大学図書館における情報収集（その1）
9. 第5章 大学図書館における情報収集（その2）
10. 第8章 アカデミックライティングの基本スキル（その1）
11. 第8章 アカデミックライティングの基本スキル（その2）
12. 第9章 効果的なアカデミックライティングのために（その1）
13. 第9章 効果的なアカデミックライティングのために（その2）
14. レポート作成についてのQ&A（その1）
15. レポート作成についてのQ&A（その2）

授業方法：

初講時に各担当教員が指示します。

達成目標：

大学の学習に必要な基礎学力、基礎的技能を修得し、学習意欲と知的探究心を養う。

評価方法：

授業への取り組み（レポート提出、討議参加、など）を総合的に評価します。

教科書：

『知へのステップ（改訂版）』（くろしお出版）
担当教員によっては別途、補助教材を使用することがあります。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H10301~20	基礎ゼミナールⅡ	1	1	下記参照

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
後期	水	3	

担当教員：

神谷、日比野、川口、岡、森、奥田、藪谷、伊藤、吉田、吉野、島崎、磯貝、渡、内藤、菅原、藤井、長井、守村、山根、花井

授業のテーマ：

基礎ゼミナールは、本学1年生の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な基礎的な技能や、知的探究心を鍛錬することを目的としています。また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯の意識を育てます。

授業の概要：

1. 基礎ゼミナールは、Ⅰ（前期）とⅡ（後期）に区分され、両科目は必修科目です。
2. 基礎ゼミナールⅡでは、前期で学んだことに加え、コンピューターを利用した技法を学び、基礎的現代的な教養や社会問題、問題の発見と解決、創造と発想、調査研究の方法など幅広い分野を取り上げ、大学に必要な基礎的技法を学びます。

授業の計画：

1. 第10章 パソコンによるライティングスキル（その1）
2. 第10章 パソコンによるライティングスキル（その2）
3. 第11章 プレゼンテーションの基本スキル（その1）
4. 第11章 プレゼンテーションの基本スキル（その2）
5. 第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために（その1）
6. 第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために（その2）
7. 身の回りにある問題を見つけてみよう（その1）
8. 身の回りにある問題を見つけてみよう（その2）
9. 図書館などで情報を収集してみよう（その1）
10. 図書館などで情報を収集してみよう（その2）
11. レポートを作成してみよう（その1）
12. レポートを作成してみよう（その2）
13. プレゼンテーションをしてみよう（その1）
14. プレゼンテーションをしてみよう（その2）
15. まとめ

授業方法：

初講時に各担当教員が指示します。

達成目標：

大学の学習に必要な基礎学力、基礎的技能を修得し、学習意欲と知的探究心を養う。

評価方法：

授業への取り組み（レポート提出、討議参加、など）を総合的に評価します。

教科書：

『知へのステップ（改訂版）』（くろしお出版）
担当教員によっては別途、補助教材を使用することがあります。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H12101~05	日本語リテラシー I (共通)	1	1	森順子 伊藤利行 吉田喜久子 島崎義治 菅原太

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
前期	水	2	

授業のテーマ：

日本語リテラシーは、本学1年生の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な日本語の能力を高めるために、基礎的な日本語表現技術を学ぶことを目的としています。

授業の概要：

1. 日本語リテラシーは、I（前期）とII（後期）に区分され、両科目は必修科目です。
2. 日本語リテラシーでは、共通テキストを使用して、大学で使う基本的な用語や、一般教養として知っていなければならない知識を学びます。それぞれの単元にはTOPIC、確認シート、自己採点シートがあり、自分の学習成果を確認できるようになっています。（基礎編）
3. 教科書とは別に、具体的な作業をしながら、自分の学んだことを実践します。（応用編）

授業の計画：

1. TOPIC 1 高校と大学の違い（基礎編）
2. TOPIC 1 （応用編）
3. TOPIC 2 キャンパス案内（基礎編）
4. TOPIC 2 （応用編）
5. TOPIC 3 履修登録とシラバス（基礎編）
6. TOPIC 3 （応用編）
7. 2ヶ月の大学生活についてふりかえってチェックしてみよう
8. TOPIC 4 講義の受け方（基礎編）
9. TOPIC 4 （応用編）
10. 講義の内容についてまとめてみよう
11. TOPIC 5 教授からのメール（基礎編）
12. （応用編）
13. TOPIC 6 先生との付き合い方（基礎編）
14. （応用編）
15. 大学で使う日本語表現がマスターできましたか

授業方法：

初講時に各担当教員が指示します。

達成目標：

大学の学習に必要な日本語能力を修得し、学習意欲と知的探究心を養う。

評価方法：

期末試験で評価します。

教科書：

『大学生の日本語トレーニング』（世界思想社）

別途、補助教材を使用します。補助教材については教室で指示します。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H12201~05	日本語リテラシⅡ（共通）	1	1	森順子 伊藤利行 吉田喜久子 島崎義治 菅原太

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
後期	水	2	

授業のテーマ：

日本語リテラシーは、本学1年生の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な日本語の能力を高めるために、基礎的な日本語表現技術を学ぶことを目的としています。

授業の概要：

1. 日本語リテラシーは、Ⅰ（前期）とⅡ（後期）に区分され、両科目は必修科目です。
2. 日本語リテラシーでは、共通テキストを使用して、大学で使う基本的な用語や、一般教養として知っていなければならない知識を学びます。それぞれの単元にはTOPIC、確認シート、自己採点シートがあり、自分の学習成果を確認できるようになっています。（基礎編）
3. 教科書とは別に、具体的な作業をしながら、自分の学んだことを実践します。（応用編）

授業の計画：

1. 後期にむけて
2. TOPIC 7 情報の探し方（基礎編）
3. TOPIC 7（応用編）
4. TOPIC 8 勉強以外のこと（基礎編）
5. TOPIC 8（応用編）
6. サークル活動や得意なことを表現してみよう
7. TOPIC 9 将来のこと（基礎編）
8. TOPIC 9（応用編）
9. 大学卒業後について考えてみよう
10. TOPIC 10 友人を作ろう（基礎編）
11. TOPIC 10（応用編）
12. 自分について考えてみよう
13. 2年生からのコースを考えよう
14. 一冊、気になる本または論文についてまとめてみよう
15. 大学で使う日本語表現がマスターできましたか

授業方法：

初講時に各担当教員が指示します。

達成目標：

大学の学習に必要な日本語能力を修得し、学習意欲と知的探究心を養う。

評価方法：

期末試験で評価します。

教科書：

『大学生の日本語トレーニング』（世界思想社）
別途、補助教材を使用します。補助教材については教室で指示します。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H12301	総合日本語 I (週2コマ)	1	1	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス（留学生）
前期	水	4・5	

総合日本語 認定制度：

「日本留学試験日本語科目（記述問題を除く）」の得点が250点以上、または、日本語能力試験N1合格者、あるいはそれと同等の日本語能力があることを認められた者は留学生1年生必修 総合日本語 I・IIを履修したものと認定する。

授業のキーワード：

文法，語彙，漢字語，インタビュー，発表

授業のテーマ：

N2レベルまでの復習，N1レベルへの挑戦

授業の概要：

文法，文字語彙の復習，聴解・読解練習，報告・発表の練習など日本語力全般のブラッシュアップを行う。プロジェクトワークの授業では，テーマを決めて教室外でインタビューや調査を行い，結果をまとめてクラスで発表する。

授業の計画：

1. 文法，文字語彙の復習－1
2. 聴解練習－1『聴くトレーニング』他
3. 文法，文字語彙の復習－2
4. 聴解練習－2『聴くトレーニング』他
5. 文法，文字語彙の復習－3
6. 聴解練習－3『聴くトレーニング』他
7. 文法，文字語彙の復習－4
8. 聴解練習－4『聴くトレーニング』他
9. 文法，文字語彙の復習－5
10. 聴解練習－5『聴くトレーニング』他
11. 文法，文字語彙の復習－6
12. 読解練習－1『読むトレーニング』他
13. 文法，文字語彙の復習－7
14. 読解練習－2『読むトレーニング』他
15. 文法，文字語彙の復習－8
16. 読解練習－3『読むトレーニング』他
17. 文法，文字語彙の復習－9
18. 読解練習－4『読むトレーニング』他
19. 文法，文字語彙の復習－10
20. 読解練習－5『読むトレーニング』他
21. プロジェクトワーク1：プロジェクトワークとは
22. プロジェクトワーク2：テーマ決め，調査内容決定
23. プロジェクトワーク3：インタビュー設問作成－検討－修正
24. プロジェクトワーク4：インタビュー練習
25. プロジェクトワーク5：インタビュー実施・記録
26. プロジェクトワーク6：インタビュー実施・記録
27. プロジェクトワーク7：調査結果まとめ・発表準備（PPT作成）
28. プロジェクトワーク8：調査結果まとめ・発表準備 評価基準を考える
29. プロジェクトワーク9：発表
30. プロジェクトワーク10：振り返り

授業方法：

文法，文字語彙等基礎的な知識の復習と確認は，毎回小テストをして定着を図る。聴解，読解，プロジェクトワークは，グループで議論し発表するなど学生が主体的に参加する形態で行う。

達成目標：

文法，文字，語彙，聴解，読解分野における日本語力，及びコミュニケーション能力は，講義の概要が聞き取れる，わからないところは質問するなどして問題解決ができるレベル（CEFR外国語能力評価基準のB1レベル）になる。

評価方法：

課題提出	30%
授業参加・貢献度	40%
期末テスト	30%

教科書：

授業時に指示

参考文献：

- 『聴くトレーニング：聴解・聴読解（応用編）』スリーエー・ネットワーク
『読むトレーニング（基礎編）（応用編）』スリーエー・ネットワーク
『留学生の日本語 3 論文読解編』アカデミック研究会

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H12401	総合日本語Ⅱ（週2コマ）	1	1	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス（留学生）
後期	水	4・5	

認定制度：

日本語能力試験N1合格者、あるいはそれと同等の日本語能力があることを認められた者は留学生1年生必修 総合日本語Ⅱを履修したものと認定する。

授業のキーワード：

レポート作成、書き言葉、わかりやすい文章、わかりやすい構成

授業のテーマ：

中上級文型、N1レベルの文字語彙の習得と定着、ディベート

授業の概要：

総合日本語Ⅱは、中上級レベルへの挑戦をテーマに、特にライティングに焦点を当てて授業を行う。中級文型および文字語彙の習得と定着は、毎回小テストで確認する。ライティングの授業は、学生が主体的に活動する参加型とする。

授業の計画：

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------------|
| 1. 中上級文型、文字語彙 - 1 | 17. 中上級文型、文字語彙9 |
| 2. ライティング-1 意見文と事実文 | 18. ライティング-9 ディベートの立論を読み、意見を書く |
| 3. 中上級文型、文字語彙 - 2 | 19. 中上級文型、文字語彙10 |
| 4. ライティング-2 長すぎる文、ねじれ文 | 20. ライティング-10 ディベートの立論を読み、意見を書く |
| 5. 中上級文型、文字語彙 - 3 | 21. ディベート-1 論題を決める |
| 6. ライティング-3 レポートを書く-①アウトライン | 22. ディベート-2 論点を考える（ブレインストーミング） |
| 7. 中上級文型、文字語彙 - 4 | 23. ディベート-3 肯定側立論を書く |
| 8. ライティング-4 アウトライン検討 | 24. ディベート-4 立論を検討する |
| 9. 中上級文型、文字語彙 - 5, | 25. ディベート-5 反論練習 反駁用カード作成 |
| 10. ライティング-5 レポートを書く-② | 26. ディベート-6 反論練習 反駁用カード作成 |
| 11. 中上級文型、文字語彙 - 6 | 27. ディベート-7 マイクロディベート 審査、フローチャートの書き方 |
| 12. ライティング-6 レポートの推敲 | 28. ディベート-8 マイクロディベート |
| 13. 中上級文型、文字語彙7 | 29. ディベート-9 ディベート決戦 |
| 14. ライティング-7 レポートを書く-③ | 30. ディベート-10 ディベート 審査結果発表 |
| 15. 中上級文型、文字語彙8 | |
| 16. ライティング-8 レポートの推敲 | |

授業方法：

文法、文字語彙等基礎的な知識の復習と確認は、毎回小テストをして定着を図る。ライティングおよびプロジェクトワークは、グループで議論し発表するなど学生が主体的に参加する形態で行う。

達成目標：

文法、文字、語彙、ライティング分野における日本語力、及びコミュニケーション能力は、新聞や教科書に見られる書き言葉が聞いて理解でき、簡単なレポートが自力で書けるレベル（CEFR外国語能力評価基準のB2レベル）になる。

評価方法：

課題提出	30%
授業参加・貢献度	40%
期末テスト	30%

教科書：

授業時に提示

参考文献：

授業時に提示

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H14101	キャリアデザイン I	1	2	長井・磯貝・芳賀・岡

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	2	

授業のキーワード：

職業人意識 カリキュラムの特徴 コースの選択 人材育成目標

授業のテーマ：

自らの職業人意識を高め、環境コース・経営コース・心理コース・日本研究コースのカリキュラムの特徴と、各コースの目指す職業や進路について理解する。また、各コースの主な科目について理解し、コース選択のための知識を習得し、4年間の学びの目標を設定できるようにする。

授業の概要：

キャリアデザインの考え方・方法について解説し、実際に自らの職業意識をもてるように、各コースのカリキュラムの概要や目標とする職業および進路について紹介する。また、各コースの主な科目について概説し、各コースの基本的理解を深める。

授業の計画：

1. オリエンテーション・キャリアデザイン
2. キャリアガイダンス
3. 自己適性検査
4. 環境コース (1) カリキュラムの概要と目指す進路
5. 環境コース (2) 農学に関する科目を学ぶ意義
6. 環境コース (3) 経済学に関する科目を学ぶ意義
7. 経営コース (1) 大学で学ぶ経済・経営・金融
8. 経営コース (2) 学びの目標とカリキュラムの特徴
9. 経営コース (3) 目標とする職業・業種
10. 心理コース (1) 大学で心理学を学ぶ意義
11. 心理コース (2) 学びの目標とカリキュラムの特徴
12. 心理コース (3) 心理学と職業
13. 日本研究コース (1) 日本の歴史・文学を学ぶ意義
14. 日本研究コース (2) 学びの目標とカリキュラムの特徴
15. 日本研究コース (3) 職業としての教員／教育

授業方法：

講義形式。必要に応じて視聴覚教材を用いる。
担当講師のオムニバス形式で行う。

達成目標：

自らの職業人意識を明確にもち、志望するコースのカリキュラムの特徴と目標を理解する。

評価方法：

レポート（詳細は開講時に説明）50%、授業への取り組み50%

教科書：

なし

参考文献：

開講時および必要に応じて適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H20101~03	情報実習 I	1	1	広田建一 水谷秀雄

授業コード	期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
H20101	前期	月	2	
H20102	前期	金	3	
H20103	前期	金	4	

授業のキーワード：

コンピュータの活用、ITリテラシ、情報技術

授業のテーマ：

情報技術を正確に効率よく活用するための基礎知識と、実習を通してワープロソフトによる文書作成の基本、表計算ソフトの利用技術として集計・グラフ表現・データベース機能、またプレゼンテーションソフトの基礎、およびネットワークの利用として電子メールの送受信・インターネットの基礎知識など、パソコン検定3級程度の知識・技術の習得を目指す。

授業の概要：

インターネットの使い方、メールの送受信、またその際に必要となるセキュリティやマナーなど、情報技術を活用する上で必須となる知識を学ぶ。情報実習Iではワードの操作を、実習を通して身に付ける。

授業の計画：

- 1回 パソコン・Windowsの基礎
- 2回 日本語入力
- 3回 インターネット基礎
- 4回 メール活用・データのコピー
- 5回 インターネットの活用
- 6回 ワード：基礎
- 7回 ワード：書式設定と編集
- 8回 ワード：表の作成
- 9回 ワード：オブジェクトの作成
- 10回 ワード：図形描画とスマートアート
- 11回 ワード：差し込み印刷
- 12回 ワード：オブジェクトを効果的に使った文書
- 13回 ワード：ドロー実習
- 14回 ワード：ドロー実習
- 15回 ワード：総合演習

授業方法：

テキストに沿って、講義を交えながらパソコンを操作して実習する。
評価項目ごとに演習課題の作成に取り組む。

達成目標：

コンピュータ・インターネットを活用してレポート、論文の作成を効率よくできる能力を身につける。

評価方法：

評価項目ごとに演習課題に取り組み、その達成度と普段の出席状況・受講態度などから総合評価する。評価の内訳は、出席点15%、テスト（演習問題）60%、課題と受講態度25%である。

教科書：

- 『Windows 7 対応30時間でマスターWord2010』（実教出版株式会社／950円税込）
- 『Windows 7 対応30時間でマスターExcel2010』（実教出版株式会社／900円税込）
- 『キーワードで理解する最新情報リテラシー 第4版』（日経BP社／1,260円税込）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H20201~03	情報実習 II	1	1	広田建一 水谷秀雄

授業コード	期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
H20201	後期	月	2	
H20202	後期	金	3	
H20203	後期	金	4	

授業のキーワード：

コンピュータの活用、ITリテラシ、情報技術

授業のテーマ：

情報技術を正確に効率よく活用するための基礎知識と、実習を通してワープロソフトによる文書作成の基本、表計算ソフトの利用技術として集計・グラフ表現・データベース機能、またプレゼンテーションソフトの基礎、およびネットワークの利用として電子メールの送受信・インターネットの基礎知識など、パソコン検定3級程度の知識・技術の習得を目指す。

授業の概要：

インターネットの使い方、メールの送受信、またその際に必要となるセキュリティやマナーなど、情報技術を活用する上で必須となる知識を学ぶ。後期はエクセル・パワーポイントの操作を、実習を通して身に付ける。

授業の計画：

後期

- 1回 エクセル：基礎
- 2回 エクセル：基本的な表計算
- 3回 エクセル：絶対参照
- 4回 エクセル：IF関数
- 5回 エクセル：グラフ1
- 6回 エクセル：グラフ2
- 7回 エクセル：データベースの活用
- 8回 エクセル：応用関数
- 9回 エクセル：関数復習
- 10回 エクセル：ワードとの連携
- 11回 エクセル：分析・考察
- 12回 パワーポイント：基本操作・ITリテラシ
- 13回 パワーポイント：実践・ITリテラシ
- 14回 パワーポイント：自由制作・ITリテラシ
- 15回 パワーポイント：自由制作・ITリテラシ

授業方法：

テキストに沿って、講義を交えながらパソコンを操作して実習する。
評価項目ごとに演習課題の作成に取り組む。

達成目標：

コンピュータ・インターネットを活用してレポート、論文の作成を効率よくできる能力を身につける。

評価方法：

評価項目ごとに演習課題に取り組み、その達成度と普段の出席状況・受講態度などから総合評価する。評価の内訳は、出席点15%、テスト（演習問題）60%、課題と受講態度25%である。

教科書：

- 『Windows 7 対応30時間でマスターWord2010』（実教出版株式会社／950円税込）
- 『Windows 7 対応30時間でマスターExcel2010』（実教出版株式会社／900円税込）
- 『キーワードで理解する最新情報リテラシー 第4版』（日経BP社／1,260円税込）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H30101	英語 I	1	2	日比野雅彦
H30104・06				白井恵三

授業コード	期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
H30101	前期	月	2	
H30104	前期	金	3	
H30106	前期	金	4	

授業のキーワード：

コミュニケーション、読み書き、対話

授業のテーマ：

授業の到達目標およびテーマ

英語を使ってコミュニケーションをとるとはということかについて考えを進め、コミュニケーションに必要な基礎知識（文法・語彙・表現）を学び、外国語を使ったコミュニケーションの基礎を習得する。

授業の概要：

リーディング、基礎文法の復習、語彙力増強、およびリスニング、スピーキングをバランスよく学び総合的に英語の基本的な表現力を身につけ、簡単な表現で英語が使えるようになることを目標とする。

授業の計画：

- (1) 1. 「名前」
- (2) 動詞の基本、「自己紹介」
- (3) 2. 「あなた」
- (4) 名詞と代名詞、「他己紹介」
- (5) 3. 「英語の中の外来語」
- (6) 形容詞、副詞、比較、「レストラン案内」
- (7) 1～3のまとめと復習
- (8) 4. 「ジョーク」
- (9) 構文について、疑問詞、前置詞、「レストランでの注文」
- (10) 5. 「外国語としての英語」
- (11) 助動詞、「店内の案内」
- (12) 6. 「英語のつづり」
- (13) 動名詞、不定詞、「問題解決」
- (14) 4～6のまとめと復習
- (15) 1～6で学んだ英語でのプレゼンテーション

授業方法：

次に読む英語の単語や熟語をあらかじめ調べ、CDをよく聞いて繰り返し練習をしてください。授業では辞書の使い方を確認し、本文の内容の概略をつかみ、内容について考えます。基本文法の確認をしてそれをもとに練習問題をして表現に慣れ、簡単なことを英語で表現します。毎回、課題を提出。

達成目標：

「言語に関するヨーロッパ共通基準（CEF）」のA2（基礎レベル初級：きわめて身近な領域に関する文や表現を理解でき、簡単に直接的なコミュニケーションをはかることができる）

評価方法：

授業への取り組み（20％）と課題およびプレゼンテーション評価（80％）による総合評価

S：A2レベルをほぼ完全にできる

A：上記項目について、やや問題はあるがほぼ完全にできる

B：やや問題はあるが、ほぼコミュニケーションが可能である。

C：表現に問題はあるが、コミュニケーションはどうか可能である。

D：Cのレベルに到達していない

教科書：

小島章子、Daniel H. Lowit著 『イングリッシュ・ワールド』 朝日出版社、1,700円

参考文献：

英和辞典（電子辞書でも可）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H30102	英語 I	1	2	石上文正

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
前期	月	2	

授業のキーワード：

①英語を音読する、②英語の基礎を学ぶ、③英語の勉強の仕方を学ぶ

授業のテーマ：

英語の学習方法について学び、基本的な文法・読解・音読能力を養い、英語を「身につける」授業をおこないます。中学・高校の授業は一般的に、「読み」「書き」が多かったと思われるので、「音を聞く」「声を出す」点に留意した授業をおこないます。

授業の概要：

人間環境大学にふさわしい教材を用いて、英語を読み、書き、聴き、話すという総合的な授業をおこないます。

授業の計画：

1～2. Unit 1	9～10. Unit 5
3～4. Unit 2	11～12. Unit 6
5～6. Unit 3	13～14. Unit 7
7～8. Unit 4	15 まとめ・復習

授業方法：

授業は、下記教材を用いて行い、次のような学習を中心におこなう。

- ①基礎的な英文の精読（文法的にも語彙的にも英文を理解する）
- ②英文のヒアリング
- ③英文の音読
- ④英文の暗唱
- ⑤基礎的な英文法の確認

達成目標：

外国語の勉強の仕方と、基本的な英語の基礎を身につけることと、人前で声を出して読んだり、暗唱したりする訓練を通じて、コミュニケーション力を高めることの二つが目標です。

評価方法：

受講生は、オフィス・アワーに石上研究室で教科書の音読と文法事項の確認をおこなうことが、評価の最低条件です。定期試験（筆記）によって評価を行います。

教科書：

Our Sacred Health and Environment（かけがえのない健康と環境） 成美堂 1,995円

授業に、英和辞典を持参すること

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H30103・05	英語 I	1	2	森順子

授業コード	期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
H30103	前期	金	3	
H30105	前期	金	4	

授業のキーワード：

コミュニケーション、読み書き、対話

授業のテーマ：

英語を読み、書き、話し、聴く総合的な力を身につけること。

授業の概要：

英文の読解を経て、ディスカッションで自分の考えを英語で発表する段階まで楽しく到達できることを目指す。さらに配布するプリントの英文を習得する。

授業の計画：

- 1 オリエンテーション
- 2 Lesson 1
- 3 Lesson 2
- 4 Lesson 3
- 5 Lesson 4
- 6 Lesson 5
- 7 Lesson 6
- 8 Lesson 7
- 9 Lesson 8
- 10 Lesson 9
- 11 Lesson10
- 12 Lesson11
- 13 Lesson12
- 14 演習
- 15 まとめ

授業方法：

テキストを全員で読解する。適宜文法事項の説明を加えながら解説を行う。テーマ毎に自分の意見を英語で発表する時間をみんなで楽しみたい。なお、プリントを配布する。

達成目標：

読解力以外にコミュニケーション力を習得すること。特に英語による発表にみんなで楽しんで取り組む姿勢をもち、プリントの英文を習得すること。

評価方法：

授業の取り組み60% 試験40%
 英語の読解力をもち完成度の高い独自のコミュニケーションができるーS
 英語の読解力をもち独自のコミュニケーションができるーA
 英語の読解力をもち相応のコミュニケーションができるーB
 英語の読解力をほぼ相応のコミュニケーションができるーC
 Cのレベルに達していないーD

教科書：

J.Barrows他著『Practical Reading Expert』成美堂（1,800円＋税）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H30201	英語Ⅱ	1	2	日比野雅彦
H30204・06				白井恵三

授業コード	期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
H30201	後期	月	2	
H30204	後期	金	3	
H30206	後期	金	4	

授業のキーワード：

コミュニケーション、読み書き、対話

授業のテーマ：

授業の到達目標およびテーマ

英語を使ってコミュニケーションをとるとはどのようなことかについて考えを進め、コミュニケーションに必要な基礎知識（文法・語彙・表現）を学び、外国語を使ったコミュニケーションの基礎を習得する。

授業の概要：

リーディング、基礎文法の復習、語彙力増強、およびリスニング、スピーキングをバランスよく学び総合的に英語の基本的な表現力を身につけ、簡単な表現で英語が使えるようになることを目標とする。

授業の計画：

- (1) 7. 「アメリカ英語とイギリス英語」
- (2) 5文型、現在進行形、現在分詞、「感情表現」
- (3) 8. 「男性と女性」
- (4) 過去時制、現在完了時制、「伝言」
- (5) 9. 「和製英語」
- (6) 受動態、過去分詞、Itの用法、「公共アナウンス」
- (7) 7～9のまとめと復習
- (8) 10. 「俗語」
- (9) 関係詞
- (10) 11. 「英語の俳句」
- (11) 仮定法、「郵便局での会話」
- (12) 12. 「異文化コミュニケーション」
- (13) 冠詞、文
- (14) 10～12のまとめと復習
- (15) 7～12で学んだ英語でのプレゼンテーション

授業方法：

次に読む英語の単語や熟語をあらかじめ調べ、CDをよく聞いて繰り返し練習をしてください。授業では辞書の使い方を確認し、本文の内容の概略をつかみ、内容について考えます。基本文法の確認をしてそれをもとに練習問題をして表現に慣れ、簡単なことを英語で表現します。毎回、課題を提出。

達成目標：

「言語に関するヨーロッパ共通基準（CEF）」のA2（基礎レベル初級：きわめて身近な領域に関する文や表現を理解でき、簡単に直接的なコミュニケーションをはかることができる）

評価方法：

授業への取り組み（20％）と課題およびプレゼンテーション評価（80％）による総合評価

S：A2レベルをほぼ完全にできる

A：上記項目について、やや問題はあるがほぼ完全にできる

B：やや問題はあるが、ほぼコミュニケーションが可能である。

C：表現に問題はあるが、コミュニケーションはどうか可能である。

D：Cのレベルに到達していない

教科書：

小島章子、Daniel H. Lowit著 『イングリッシュ・ワールド』 朝日出版社、1,700円

参考文献：

英和辞典（電子辞書でも可）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H30202	英語Ⅱ	1	2	石上文正

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
後期	月	2	

授業のキーワード：

①英語を音読する、②英語の基礎を学ぶ、③英語の勉強の仕方を学ぶ

授業のテーマ：

英語の学習方法について学び、基本的な文法・読解・音読能力を養い、英語を「身につける」授業をおこないます。中学・高校の授業は一般的に、「読み」「書き」が多かったと思われるので、「音を聞く」「声を出す」点に留意した授業をおこないます。

授業の概要：

人間環境大学にふさわしい教材を用いて、英語を読み、書き、聴き、話すという総合的な授業をおこないます。

授業の計画：

1～2. Unit 8	9～10. Unit 12
3～4. Unit 9	11～12. Unit 13
5～6. Unit 10	13～14. Unit 14
7～8. Unit 11	15 まとめ・復習

授業方法：

授業は、下記教材を用いて行い、次のような学習を中心におこなう。

- ①基礎的な英文の精読（文法的にも語彙的にも英文を理解する）
- ②英文のヒアリング
- ③英文の音読
- ④英文の暗唱
- ⑤基礎的な英文法の確認

達成目標：

外国語の勉強の仕方と、基本的な英語の基礎を身につけることと、人前で声を出して読んだり、暗唱したりする訓練を通じて、コミュニケーション力を高めることの二つが目標です。

評価方法：

受講生は、オフィス・アワーに石上研究室で教科書の音読と文法事項の確認をおこなうことが、評価の最低条件です。定期試験（筆記）によって評価を行います。

教科書：

Our Sacred Health and Environment（かけがえのない健康と環境） 成美堂 1,995円

授業に、英和辞典を持参すること

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H30203・05	英語Ⅱ	1	2	森順子

授業コード	期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
H30203	後期	金	3	
H30205	後期	金	4	

授業のキーワード：

コミュニケーション、読み書き、対話

授業のテーマ：

英語を読み、書き、話し、聴く総合的な力を身につけること。

授業の概要：

英文の読解を経て、ディスカッションで自分の考えを英語で発表する段階まで楽しく到達できることを目指す。さらに配布するプリントの英文を習得する。

授業の計画：

- 1 演習
- 2 Lesson13
- 3 Lesson14
- 4 Lesson15
- 5 Lesson16
- 6 Lesson17
- 7 Lesson18
- 8 Lesson19
- 9 Lesson20
- 10 Lesson21
- 11 Lesson22
- 12 Lesson23
- 13 Lesson24
- 14 演習
- 15 まとめ

授業方法：

テキストを全員で読解する。適宜文法事項の説明を加えながら解説を行う。テーマ毎に自分の意見を英語で発表する時間をみんなで楽しみたい。なお、プリントを配布する。

達成目標：

読解力以外にコミュニケーション力を習得すること。特に英語による発表にみんなで楽しんで取り組む姿勢をもち、プリントの英文を習得すること。

評価方法：

授業の取り組み60% 試験40%
 英語の読解力をもち完成度の高い独自のコミュニケーションができるーS
 英語の読解力をもち独自のコミュニケーションができるーA
 英語の読解力をもち相応のコミュニケーションができるーB
 英語の読解力をほぼ相応のコミュニケーションができるーC
 Cのレベルに達していないーD

教科書：

J.Barrows他著『Practical Reading Expert』成美堂（1,800円＋税）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H30601	英会話 I	1	2	ジェラルド・マクレラン

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	5	

授業のキーワード：

Speaking, Listening, Communicating

授業のテーマ：

In this class students will be required to be able to communicate in English at a basic level. This class will concentrate on reinforcing the language learned at junior high school. As the level is low, students will be expected to master it and to do well in tests. We will do easy tasks in English and there are many structured questions to build confidence.

授業の概要：

We will cover all the basic grammar points. Students should be prepared to speak in class and to contribute to the lessons. Students who assume a passive role will fail this class.

授業の計画：

- 1 Unit 1 : Exchange students
- 2 Unit 1
- 3 Unit 2 : Eating out
- 4 Unit 2
- 5 Unit 3 : Music
- 6 Unit 3:
- 7 Unit 4 : Activities
- 8 Unit 4 :
- 9 Unit 5 : Physical Appearance
- 10 Unit 5
- 11 Unit 6 : Jobs
- 12 Unit 6
- 13 Unit 7 : Personality
- 14 Unit 7
- 15 Review

授業方法：

We will use the textbook to discuss the various topics. Each unit should take two class periods.

達成目標：

The aim is to allow students to use language that they should already know in a natural way. Emphasis will be given to listening and speaking in this class. Students will be required to study.

評価方法：

Effort/ Participation: 30%. Class Tests: 70%. Students who DO NOT attend this class will fail. There will be two short class tests each semester. They will last about one hour.
 Participates in class, speaks fluently, and gets over 80% in class tests……S
 Participates in class, speaks fluently, and gets over 70% in class tests………A
 Participates in class, communicates with difficulty, and gets over 60% in class tests………B
 Participates in class, communicates with help, and gets over 60% in class tests………C
 Fails to show, doesn't participate in class, gets below 60% in class tests………D

教科書：

David Nunan, Go For it! Thomson,

参考文献：

実験・実習・教材費：

None

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H30701	英会話Ⅱ	1	2	ジェラルド・マクレラン

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	5	

授業のキーワード：

Speaking, Listening, Communicating

授業のテーマ：

In this class students will be required to be able to communicate in English at a basic level. This class will concentrate on reinforcing the language learned at junior high school. As the level is low, students will be expected to master it and to do well in tests. We will do easy tasks in English and there are many structured questions to build confidence.

授業の概要：

We will cover all the basic grammar points. Students should be prepared to speak in class and to contribute to the lessons. Students who assume a passive role will fail this class.

授業の計画：

- 1 Unit 8 : Weather
- 2 Unit 8
- 3 Unit 9 : Vacations
- 4 Unit 9 :
- 5 Unit 10 : Buying Gifts
- 6 Unit 10
- 7 Unit 11 : Rules
- 8 Unit 11 :
- 9 Unit 12 : Fun and Fitness
- 10 Unit 12 :
- 11 Unit 13 : Health
- 12 Unit 14 : Summer Plans
- 13 Unit 14
- 14 Unit 15 : Getting Around
- 15 : Review

授業方法：

We will use the textbook to discuss the various topics. Each unit should take two class periods.

達成目標：

The aim is to allow students to use language that they should already know in a natural way. Emphasis will be given to listening and speaking in this class. Students will be required to study.

評価方法：

Effort/ Participation : 30%. Class Tests : 70%. Students who DO NOT attend this class will fail. There will be two short class tests each semester. They will last about one hour.
 Participates in class, speaks fluently, and gets over 80% in class tests……S
 Participates in class, speaks fluently, and gets over 70% in class tests………A
 Participates in class, communicates with difficulty, and gets over 60% in class tests………B
 Participates in class, communicates with help, and gets over 60% in class tests………C
 Fails to show, doesn't participate in class, gets below 60% in class tests………D

教科書：

David Nunan, Go For it! Thomson,

参考文献：

実験・実習・教材費：

None

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H30801	フランス語 I	1	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	5	

授業のキーワード：

コミュニケーション、読み書き、対話、異文化理解

授業のテーマ：

現在フランス語が使われている地域とその歴史的経緯について概観し、フランス語を学ぶ意味について考える。フランス語を使ってコミュニケーションをとるとはどのようなことかについて考えを進め、コミュニケーションに必要な基礎知識（文法・語彙・表現）を学ぶ。

授業の概要：

フランス語の基礎を学びながら、フランス語とフランス文化の理解を深める。日常的に使われるきわめて簡単な表現を理解し、簡単な内容であればフランス語でやり取りができるところまで到達できるようにする。

授業の計画：

- (1) ヨーロッパの中のフランス、フランスの文化
- (2) フランスとフランス語、つづり字と発音のしくみ
- (3) 到着、あいさつ
- (4) 名詞と基本表現
- (5) カフェで
- (6) 動詞の基礎 (1)
- (7) マルシェで
- (8) フランスの食事
- (9) 夕食
- (10) 動詞の基礎 (2)
- (11) 友人に会いに
- (12) 代名詞・形容詞
- (13) 花火・革命記念日
- (14) 代名動詞
- (15) まとめとチェック

授業方法：

音声教材を利用して発音練習をし、基本的な表現をもとに練習問題をやります。予習は必要ありませんが必ず復習をしてください。

達成目標：

「言語に関するヨーロッパ共通基準 (CEF)」のA1 (基礎レベル入門：くだけた言い回しや日常的な語句、および具体的な用件をすませるためによく使われる簡単な表現を理解し用いることができる)

評価方法：

授業への取り組み (20%) と課題およびプレゼンテーション評価 (80%) による総合評価

S：A1レベルをほぼ完全にできる

A：上記項目について、やや問題はあるがほぼ完全にできる

B：やや問題はあるが、ほぼコミュニケーションが可能である。

C：表現に問題はあるが、コミュニケーションはどうか可能である。

D：Cのレベルに到達していない

教科書：

ボムルー、高橋 共著 『サン・ファッソン』 朝日出版社、2,500円

参考文献：

『ロベール・クレ仏和辞典』(駿河台出版社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『プログレッシブ仏和辞典』(小学館)、『ディコ仏和辞典』(白水社)、『クラウン仏和辞典』(三省堂)

実験・実習・教材費

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H30901	ドイツ語 I	1	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	5	

授業のキーワード：
ドイツ語、基礎、ドリル

授業のテーマ：
ドイツ語文法の基礎を学び、基本的な単語・表現を記憶する。

授業の概要：
会話調の短い簡明な文章でドイツ語への入門を導く教科書（全9課）に即し、ドイツ語文法の基礎知識の獲得を目指す。Iでは第4課終了までを扱う。目安として、1年後にBeethovenの第9交響曲のAn die Freude「歓喜に寄す」の歌詞を文法的に完全に理解しドイツ語的に歌えるように指導したい。

授業の計画（大体の予定）：

回	内容
第1回	概論：ドイツ語の特徴と学習方法など
第2回	発音 1
第3回	発音 2
第4回	第1課-1
第5回	第1課-2
第6回	第1課-3
第7回	第2課-1
第8回	第2課-2
第9回	第2課-3
第10回	第3課-1
第11回	第3課-2
第12回	第3課-3
第13回	第4課-1
第14回	第4課-2
第15回	第4課-3

授業方法：
受講者は、必ず予習をして出席すること。この作業なしで出席しても実力は上がらないし、評価も出来ない。

達成目標：
ドイツ語の基礎文法と基本語彙の習得。

評価方法：

- ・授業への参加態度（間違っても良いからあらかじめ見当をつけておく）。単に出席するだけで授業準備が無ければ平常点の加算は行わない。必ず予習して出席すること。欠席5回で単位認定不可。
- ・ミニテスト（各課終了毎）や宿題を課す。
- ・上記の幾つかの平常点の合計で行い定期試験は行わない。

教科書：
『はじめようドイツ語』（郁文堂）ISBN 978-4-261-01217-0 ¥2,500+税

参考文献：

<参考書>：（一応次のものを挙げておく）
常木実『標準ドイツ語』（郁文堂）¥2,500
<推薦辞書>：（このほかにもあるが、一応次のものを推薦する。学習意欲に応じて選択のこと）
a) 中級以上のドイツ語までやる気のある人には、『郁文堂独和辞典』第2版（郁文堂）¥4,200 [語彙数11万語]
b) 入門・初級程度で終わるつもりの人には、『新キャンパス独和辞典』（郁文堂）¥3,000 [語彙数2万3千語]
c) どちらか迷っている人には、『クラウン独和辞典』第3版（三省堂）¥4,100 [語彙数6万4000語] や『アクセス独和辞典』第3版（三修社）¥4,100 [語彙数7万3500語] や『フロイデ独和辞典』（白水社）¥4,000 [語彙数7万5千語]
など
担当者ホームページ（<http://www1.uhe.ac.jp>）参照。連絡先ito@uhe.ac.jp

実験・実習・教材費：
なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H31001	中国語 I	1	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	5	

授業のキーワード：

コミュニケーション、読み書き、異文化理解

授業のテーマ：

中国語入門。初めて中国語を学ぶ人を対象とする。

授業の概要：

- ・ピンインと簡体字を習得する。
- ・基礎的な文法事項を学び、それらを用いた表現を練習する。

授業の計画：

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 発音 3. 「的」の用法、名前について 5. 副詞「也」 7. 形容詞述語文、量詞 9. 時間詞と時刻 11. 選択疑問文 13. 反復疑問文、意志表示 15. まとめ | <ol style="list-style-type: none"> 2. 人称代名詞、「是」の用法 4. 動詞述語文、疑問詞「誰」など 6. 場所を示す指示代名詞、 8. 連動文、指示代名詞 10. アスペクト助詞 12. 副詞「都」、助動詞「想」 14. 前置詞「在」、助動詞「能」「会」 |
|--|---|

授業方法：

- ・教科書にしたがって進める。
- ・随時、小テストを実施する。

達成目標：

- ・ピンインを正しく発音できる。
- ・教科書収録の重要な表現が読み書きできる。

評価方法：

- 試験（80％）と授業への取り組み（20％）により行う。
- S…正しい発音ができ、基礎的な文法事項を活用した表現ができる
 - A…正しい発音ができ、基礎的な文法事項に基づいた表現ができる
 - B…正しい発音ができ、基礎的な文法事項を用いた表現ができる
 - C…ピンインを読むことができ、基礎的な文法事項を理解できる
 - D…Cのレベルに達していない

教科書：

木村裕章ほか著『中国語初級テキスト どんどん吸収中国語』光生館、2,300円（税別）。ただし授業期間内に教科書を終了しない。

参考文献：

辞書などは授業時に紹介する。

実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H31101	フランス語Ⅱ	1	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	5	

授業のキーワード：

コミュニケーション、読み書き、対話、異文化理解

授業のテーマ：

現在フランス語が使われている地域とその歴史的経緯について概観し、フランス語を学ぶ意味について考える。フランス語を使ってコミュニケーションをとるとはどのようなことかについて考えを進め、コミュニケーションに必要な基礎知識（文法・語彙・表現）を学ぶ。

授業の概要：

フランス語の基礎を学びながら、フランス語とフランス文化の理解を深める。日常的に使われるきわめて簡単な表現を理解し、簡単な内容であればフランス語でやり取りができるところまで到達できるようにする。

授業の計画：

- (1) フランス語Ⅰの復習とチェック
- (2) 病気
- (3) 過去の表現 (1)
- (4) 電話
- (5) 目的語の代名詞
- (6) 秋の万聖節
- (7) 過去の表現 (2)
- (8) オペラ座で
- (9) 未来の表現
- (10) 遊園地で (1)
- (11) 遊園地で (2)
- (12) 別れ (1)
- (13) 別れ (2)
- (14) フランス語の手紙
- (15) まとめとチェック、フランス語のステップアップには

授業方法：

音声教材を利用して発音練習をし、基本的な表現をもとに練習問題をやります。予習は必要ありませんが必ず復習をしてください。

達成目標：

「言語に関するヨーロッパ共通基準 (CEF)」のA1 (基礎レベル入門：くだけた言い回しや日常的な語句、および具体的な用件をすませるためによく使われる簡単な表現を理解し用いることができる)

評価方法：

授業への取り組み (20%) と課題およびプレゼンテーション評価 (80%) による総合評価

S：A1レベルをほぼ完全にできる

A：上記項目について、やや問題はあるがほぼ完全にできる

B：やや問題はあるが、ほぼコミュニケーションが可能である。

C：表現に問題はあるが、コミュニケーションはどうか可能である。

D：Cのレベルに到達していない

教科書：

ボムルー、高橋 共著 『サン・ファッソン』 朝日出版社、2,500円

参考文献：

『ロベール・クレ仏和辞典』(駿河台出版社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『プログレッシブ仏和辞典』(小学館)、『ディコ仏和辞典』(白水社)、『クラウン仏和辞典』(三省堂)

実験・実習・教材費

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H31201	ドイツ語Ⅱ	1	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	5	

授業のキーワード：
ドイツ語、基礎、ドリル

授業のテーマ：
ドイツ語文法の基礎を学び、基本的な単語・表現を記憶する。

授業の概要：
ドイツ語Ⅰを習得済みであること。会話調の短い簡明な文章でドイツ語への入門を導く教科書（全9課）に即し、ドイツ語文法の基礎知識の獲得を目指す。第5課から第9課までを扱う。目安として、1年後にBeethovenの第9交響曲のAn die Freude「歓喜に寄す」の歌詞を文法的に完全に理解しドイツ語的に歌えるように指導したい。

授業の計画（大体の予定）：

回	内容
第1回	第5課-1
第2回	第5課-2
第3回	第5課-3
第4回	第6課-1
第5回	第6課-2
第6回	第6課-3
第7回	第7課-1
第8回	第7課-2
第9回	第7課-3
第10回	第8課-1
第11回	第8課-2
第12回	第8課-3
第13回	第9課-1
第14回	第9課-2
第15回	第9課-3

授業方法：
受講者は、必ず予習をして出席すること。この作業なしで出席しても実力は上がらないし、評価も出来ない。

達成目標：
ドイツ語の基礎文法と基本語彙の習得。

評価方法：

- ・授業への参加態度（間違っても良いからあらかじめ見当をつけておく）。単に出席するだけで授業準備が無ければ平常点の加算は行わない。必ず予習して出席すること。欠席10回で単位認定不可。
- ・ミニテスト（各課終了毎）や宿題を課す。
- ・上記の幾つかの平常点の合計で行い定期試験は行わない。

教科書：
『はじめようドイツ語』（郁文堂）ISBN 978-4-261-01217-0 ¥2,500+税

参考文献：

<参考書>：（一応次のものを挙げておく）
常木実『標準ドイツ語』（郁文堂）¥2,500
<推薦辞書>：（このほかにもあるが、一応次のものを推薦する。学習意欲に応じて選択のこと）
a) 中級以上のドイツ語までやる気のある人には、『郁文堂独和辞典』第2版（郁文堂）¥4,200 [語彙数11万語]
b) 入門・初級程度で終わるつもりの人には、『新キャンパス独和辞典』（郁文堂）¥3,000 [語彙数2万3千語]
c) どちらか迷っている人には、『クラウン独和辞典』第3版（三省堂）¥4,100 [語彙数6万4000語] や『アクセス独和辞典』第3版（三修社）¥4,100 [語彙数7万3500語] や『フロイデ独和辞典』（白水社）¥4,000 [語彙数7万5千語]
など
担当者ホームページ（<http://www1.uhe.ac.jp>）参照。連絡先ito@uhe.ac.jp

実験・実習・教材費：
なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
H31301	中国語Ⅱ	1	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	5	

授業のキーワード：

コミュニケーション、読み書き、異文化理解

授業のテーマ：

「中国語Ⅰ」に続き、初めて中国語を学ぶ人を対象とする。

授業の概要：

- ・ピンインと簡体字を習得する。
- ・基礎的な文法事項を学び、それらを用いた表現を練習する。

授業の計画：

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. 年月日・曜日、時間量 | 2. 助動詞「打算」「要」 |
| 3. 動作の回数・順番 | 4. 二重目的語文 |
| 5. アスペクト助詞「着」、動詞の重ね型 | 6. 程度副詞 |
| 7. 結果補語、方向補語 | 8. 「比」を用いた比較構文 |
| 9. 禁止の表現 | 10. 方位詞、変化の「了」 |
| 11. 「是～的」構文 | 12. 接続詞の用法 |
| 13. 使役文 | 14. 「把」構文 |
| 15. まとめ | |

授業方法：

- ・教科書にしたがって進める。
- ・随時、小テストを実施する。

達成目標：

- ・ピンインを正しく発音できる。
- ・教科書収録の重要な表現が読み書きできる。

評価方法：

- 試験（80％）と授業への取り組み（20％）により行う。
- S…正しい発音ができ、基礎的な文法事項を活用した表現ができる
 - A…正しい発音ができ、基礎的な文法事項に基づいた表現ができる
 - B…正しい発音ができ、基礎的な文法事項を用いた表現ができる
 - C…ピンインを読むことができ、基礎的な文法事項を理解できる
 - D…Cのレベルに達していない

教科書：

木村裕章ほか著『中国語初級テキスト どんどん吸収中国語』光生館、2,300円（税別）。ただし「中国語Ⅰ」の残りの部分を用いる。

参考文献：

辞書などは授業時に紹介する。

実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
I10101	地球環境問題概説	1	2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
前期	水	1	

授業のキーワード：

地球環境、温暖化、海洋汚染、生物多様性、森林の減少

授業のテーマ：

温暖化、砂漠化、森林破壊、海洋汚染、生物多様性の減少など地球規模の環境問題が深刻化しつつあり、人類の存続さえ脅かされています。その主要な要因は急激に膨張した人類活動が、46億年をかけて形成してきた地球の恒常的なメカニズムを攪乱していることにあります。この地球環境問題の解決は人類の喫緊的課題であり、高度な国際的取り組みだけでなく、私たち一人一人の自覚と行動が求められています。この授業では地球環境問題全般を概説し、基本的な知識の修得と環境マインドを醸成し、より専門的な学修のための知的土台を形成することにあります。

授業の概要：

地球環境問題に対する基本的な見方、考え方を説明したうえで、温暖化、酸性雨、砂漠化など代表的な個別テーマを毎回取り上げて、その現象と構造、影響と要因、国際的取り組みと日本の対策などを概説する。最後に地球環境問題の文明的な位置づけと今後の展望について検討する。

授業の計画：

- | | |
|-----------------------------|--------------------|
| 1. 地球環境問題の見取り図（1） | 2. 地球環境問題の見取り図（2） |
| 3. 地球の温暖化（1） | 4. 地球の温暖化（2） |
| 5. オゾン層の破壊 | 6. 酸性雨 |
| 7. 海洋汚染 | 8. 有害廃棄物の越境移動 |
| 9. 生物の多様性の減少 | 10. 森林の減少 |
| 11. 砂漠化 | 12. 開発途上国等における環境問題 |
| 13. その他（南極、世界遺産、黄砂、漂流・漂着ゴミ） | 14. その他（食糧問題、水問題） |
| 15. まとめ（地球環境問題と文明） | |

授業方法：

教科書を基本にスライドと配布資料を活用した講義形式とする。

達成目標：

- 地球環境問題に関する時事報道を容易に理解できる知識レベルと、それを正しく読み解く環境リテラシーを身につける。
- 地球環境問題へ高い関心を持ち、環境に配慮した日常行動を心掛ける環境マインドを身につける。

評価方法：

授業の取り組み40%、テスト60%として評価する。

教科書：

地球環境研究会編『地球環境キーワード辞典』中央法規 1,575円

参考文献：

「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第4次評価報告書統合報告書要約」
http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4th/syr_spm.pdf

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
I10201	生命と環境の倫理	1	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード：

環境問題、批判的思考、論理的思考、社会問題への関心

授業のテーマ：

今、資源、食料、環境、人口の大きな問題が同時に深刻化しつつある。私たちの人生、未来に生きる人々の命はかけがえのないものである。これらをまもるために人間は変わることができるのか？本講義では、今人間に求められている生き方・倫理を明らかにし、これを実現するために、新しい環境倫理学を構想する。

授業の概要：

「自然」「環境」「倫理」といった語を疑い、反省していくことで、私たちの偏った自然観、人間観を把握することからはじめる。こうして、現代文明と私たちの生き方の問題を捉え、さらに学問の問題と使命について考えていく。

授業の計画：

1. まもるべき「環境」とは何か？
- 2・3. 「自然」とは何を指すのか？（「自然」の概念について）①②
- 4・5. 人間の生き方としての「倫理」とその現状①②
- 6・7・8. 公害と地球規模の自然破壊の違い。環境倫理学の使命。①②
- 9・10・11・12. 「学問」への批判。真剣な取り組みの必要性。①②③④
- 13・14. 環境倫理学の既存の諸説の批判。環境倫理学の条件とは。①②
15. まとめ

授業方法：

講義を中心に、レポートなどを課し、試験を行う。

達成目標：

環境問題の現状を理解し、本質にある倫理の問題を考える。

評価方法：

- 試験 90%、レポート、取り組み 10%。
- S. 環境問題の本質を適切に論じることができる。
 - A. 環境問題の本質を批判的に論じることができる。
 - B. 環境問題の本質について論じることができる。
 - C. 環境倫理について論じることができる。
 - D. 環境倫理について論じることができない。

教科書：

増田昭一『満州の星くずと散った子供たちの遺書』（夢書房）

参考文献：

授業中に指示。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
I10301	基礎数学	1	2	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	1	

授業のキーワード：

有効数字、指数・対数、平均値・分散、微分・積分

授業のテーマ：

環境に関する知識の習得、文献講読、実験・実習などを行うにあたって、数値を扱うことを避けることはできない。本講義は、将来、数値解析する際の基礎学力を養成することを目標にしている。本講義では、数値計算に関数電卓を積極的に利用する。このことにより、コンピューターを利用したの簡便な数値解析では習得が困難な、計算過程に関する感覚を養う。

授業の概要：

数値解析の基礎となる次の3項目について、順に講義を行う。(1) 四則演算、指数、対数の計算を行い、関数電卓の扱いになれるとともに、併せて、物理単位・有効数字の扱いを習得する。(2) 統計の基礎である平均値・分散・標準偏差の計算方法を習得する。(3) 微分・積分の考え方を習得する。

授業の計画：

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 1. 関数電卓の使い方. | 9. ばらつき (範囲, 不偏分散, 標準偏差) . |
| 2. 物理単位と接頭語、示量変数と示強変数 | 10. まとめ (2) |
| 3. 有効数字 (足し算と引き算) | 11. 一次関数の傾き |
| 4. 有効数字 (かけ算と割り算) | 12. 指数関数 |
| 5. 指数の計算 | 13. 微分 |
| 6. 対数の計算 | 14. 積分 |
| 7. まとめ (1) | 15. まとめ (3) |
| 8. 代表値 (平均値と中央値) . | |

授業方法：

配布資料に基づいて、板書を中心に講義を進める。

関数電卓を用いての計算を積極的に行ってもらおう。関数電卓は授業中に貸し出す。機種によって扱い方が異なるため、購入する場合は、貸し出すものと同じもの (カシオ製 FX-290-N、1000~1500円程度) が望ましい。

講義の最初に前回の講義の内容確認のための小テストをする。解答と解説の後に、当日の講義を始める。

達成目標：

関数電卓を用いた四則演算、指数、対数の計算が有効数字を考慮してできる。

平均値、分散、標準偏差の計算ができる。

微分・積分の考え方がわかる。

評価方法：

試験 (80%) と授業への取り組み (20%) により行う。

試験では、関数電卓を用いた有効数字を考慮した計算、基礎的な統計計算、簡単な関数の微分・積分ができる能力を問う。

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
I10401	基礎生態学	1	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	1	

授業のキーワード：

気候と植生、遷移、生態系、個体群

授業のテーマ：

生態系の体系的理解。

授業の概要：

生態系における物質循環、群集構造、生物間相互作用、個体群動態について学ぶ。

授業の計画：

- 1～2. 遷移と森林類型
- 3～5. 気候と植生
- 6～8. 物質生産と生態ピラミッド
- 9～10. 適応度
- 11～13. 共進化と送粉共生系
- 14～15. 個体群増加モデル

授業方法：

板書を中心とした講義。資料を適宜配布。

達成目標：

生物間の相互作用を基軸に、生態系の成り立ちについての理解を深める。

評価方法：

試験（100％）による。

教科書：

鈴木孝仁（監修）、「視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録改訂版」、数研出版、880円（税別、各自で購入のこと）。

参考文献：

- 1) 日本生態学会（編）、「生態学入門」、東京化学同人、2,800円（税別）。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
I10501	物質と原子（基礎化学Ⅰ）	1	2	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	1	

授業のキーワード：

物質、原子、濃度

授業のテーマ：

水・土壌・森林・農地などの自然環境や生物に配慮した人間活動を行うためには、こうした環境中の物質のふるまいに関する知識を習得することが必要である。そして、その習得には、物質の最小単位である原子に関する知識が前提になる。

本講義は、将来、自然環境保全に関わることを希望する学生を対象に、原子に関する基礎知識を習得させることを目標にしている。

授業の概要：

本講義では、科学的思考の基礎となる原子に関する知識を、(1) 元素との関係、(2) 大きさ・質量、(3) 内部構造、(4) 原子間の結合、(5) 物質量（モル）に整理して説明する。さらに、化学の基礎知識である(6) 物質の濃度の表し方と計算方法を説明する。また、周辺知識として(7) 宇宙での原子の誕生過程、自然環境中の元素存在度についても紹介する。

授業の計画：

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 元素と原子、原子の大きさ | 10. 原子の数え方 (2) 分子量・式量と物質量 |
| 2. 周期表から得られる情報 | 11. 物質の分類、物質の三態 |
| 3. 原子の構造 (1) 原子オービタル | 12. 溶液濃度 (1) 重量分率 |
| 4. 原子の構造 (2) 殻という考え方 | 13. 溶液濃度 (2) モル濃度 |
| 5. 原子の数え方 (1) 原子量と物質量 | 14. 溶液濃度 (3) 濃度の変換 |
| 6. 原子の誕生、元素の宇宙存在度 | 15. 元素の岩石圏・水圏・気圏における存在度 |
| 7. 原子と原子の結合 (1) 共有結合 | |
| 8. イオン化ポテンシャル、電子親和力 | |
| 9. 原子と原子の結合 (2) イオン結合、金属結合 | |

授業方法：

教科書と配布資料に基づいて、板書を中心に講義を進める。

講義の最初に前回の講義の内容確認のための小テストをする。解答と解説の後に、当日の講義を始める。

達成目標：

原子に関する基礎知識を習得する。

濃度計算ができる。

評価方法：

試験 (80%) と授業への取り組み (20%) により行う。

試験では、原子に関する基礎的事項を説明し、物質量および濃度に関する計算を行うことができるかを問う。

教科書：

大野公一ら「化学入門」共立出版、2,000円

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
I10601	物質と生物（基礎化学Ⅱ）	1	2	片山幸士

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3	

授業のキーワード：

環境，生命，生活物質

授業のテーマ：

人類を取り巻く環境，エネルギー，食料などの問題を日々の生活の中から取り上げ，有機化学，生化学的な観点から考察する。

授業の概要：

生物を構成する物質についての基本的な知識を習得させる。それらの物質と環境，エネルギー，食料などの諸問題との関連について考察する。

授業の計画：

- | | |
|--------------|------------------|
| 1 有機化学の基礎（1） | 9 糖類の化学（5） |
| 2 有機化学の基礎（2） | 10 アミノ酸とタンパク質（1） |
| 3 生化学の基礎（1） | 11 アミノ酸とタンパク質（2） |
| 4 生化学の基礎（2） | 12 アミノ酸とタンパク質（3） |
| 5 糖類の化学（1） | 13 脂質の化学（1） |
| 6 糖類の化学（2） | 14 脂質の化学（2） |
| 7 糖類の化学（3） | 15 脂質の化学（3） |
| 8 糖類の化学（4） | |

授業方法：

教科書「化学入門」を中心にし，授業計画に示した内容について講述する。さらに，小テストを行なう。

達成目標：

物質や動植物の生命現象を化学の目を通して理解させる。さらに循環型社会への移行との関係についても，授業計画に挙げた個々の課題の中で検討させる。

評価方法：

授業への取り組み（15%），小テスト（15%），期末テスト（70%）

教科書：

大野公一ら「化学入門」共立出版，2,000円

参考書：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
J10101	経営学概論	1	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3	

授業のキーワード：

日本型経営、グローバルスタンダード、モチベーション、コミュニケーション

授業のテーマ：

企業経営に関心がある学生だけでなく、新入生レベルでのキャリア教育の基礎、大学生の必須教養として、会社及び企業経営の初歩的理解と労働観、仕事観を深める。

授業の概要：

経営学の入門編として、(1) 組織論 (2) マーケティング論を取り上げる。経済・経営の最新情報をDVDや資料として編集し、リアルなイメージを提供したい。

授業の計画：

1. そもそも会社って何？経営学ってどんな学問？
2. 経営管理の誕生～それは組織の検証から始まり、フォード・システムとして発展した
3. 労働者から人材へ、人材から人財へ～伸びる会社は社員が元気
4. 社員を伸ばす管理者・経営者～ものづくりはひとづくり、ひとづくりとものづくりは会社づくり
5. 今こそ求む！日本のリーダー
6. 中間まとめ
7. あらためて会社とは？～会社の仕組み
8. あらためて会社とは？～会社のカタチ
9. 有効な組織をつくりだす～処理から創造へ
10. 中間まとめ
11. マーケティング論によるこそ～「何でもある」けど、この違い！コンビニとスーパー
12. マーケティングって何ですか？～販促だけじゃないよ、マーケティング
13. 今、企業が最もめざす取り組み！～ブランドの構築
14. 現代マーケティング論の新展開～経営学は飛翔する
15. 総まとめ

授業方法：

毎回、新聞記事を編集したプリントを配布する。テーマに即しつつ、経済・経営情報を編集したDVDを活用する。就職・雇用に関する最新情報も扱う。

達成目標：

日本や地域の産業、経済・経営に関する日常的な報道を、受講生自身の、身近な問題にひきつけて、興味・関心がもてるようになる。企業や経営を見る（評価する）目を養う。（詳細な到達目標・履修水準の一覧表を別途、配布する。）

評価方法：

試験（レポートを含む）60%、積極的・主体的な授業参加態度40%

教科書：

未定

参考文献：

授業の中で、テーマごとに紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
J10201	現代社会と経済	1	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	4	

授業のキーワード：

資本主義、マルクス、豊かな社会、必要と需要、持続可能な発展

授業のテーマ：

現代社会がこれからどうなるのか、その中で人はどんな風に生きることになるのか、それを改善するにはどうしたらいいか、そのようなことを自らの問題として考えること。講義では、現代社会の特徴の一つである資本主義の発展とその課題について考える。

授業の概要：

資本主義の性質についてのアダム・スミスの発見から始まり、マルクスの分析を経て現代の市場主義の課題に至るまでを概観する。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 経済成長の要因
3. 市場の発見
4. マルクスの分析：資本家と利潤
5. マルクスの分析：労働者と格差
6. 大量生産
7. 豊かな社会
8. 必要と需要の乖離
9. 冷戦の終結と資本主義
10. 経済のグローバル化
11. 資本主義の宿命
12. 経済成長の限界
13. 停止状態
14. 持続可能な発展
15. まとめ

授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

達成目標：

現代文明の大きな特徴である資本主義について正しく理解するとともに、その内包する課題について身近な問題として捉えられるようになること。

評価方法：

授業への取組（30％）に試験の結果（70％）を加味して判定する。

教科書：

なし。

参考文献：

その都度プリントを配布したり参考文献を指示したりする。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
J10301	基礎簿記	1	4	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	2・3	

授業のキーワード：

資格、日商簿記検定3級、情報処理能力、ビジネススキル、経済知識

授業のテーマ：

企業が営利を追求していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ簿記は会計学を学習するうえでの基本となるものである。本講義では、簿記を始めて学ぶ学生が日商簿記検定3級の合格水準に達することを目的としている。

授業の概要：

日商簿記検定3級合格を目指した講義を行う。簿記をはじめて学ぶ学生にもわかりやすいよう、初歩的な内容から解説を始めていく。日商簿記検定3級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。また、必要に応じて最近の経済・経営関連の話題や実例を提供し、企業会計をより身近な学問として捉えられるよう講義していく。

授業の計画：

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 会計の機能と分類 | 16. 小切手の処理 |
| 2. 企業会計システムと利害関係者 | 17. 当座借越・現金過不足・小口現金 |
| 3. 取引 | 18. 伝票 |
| 4. 簿記の基本（勘定・用語説明） | 19. 資本金と引出金 |
| 5. 資産・負債・純資産・費用・収益 | 20. 手形（約束手形・為替手形） |
| 6. 財政状態と経営成績 | 21. 手形（裏書手形・割引手形） |
| 7. 仕訳（解説） | 22. その他の債権・債務 |
| 8. 仕訳（演習問題） | 23. 商品有高帳の管理 |
| 9. 元帳 | 24. 有形固定資産と減価償却 |
| 10. 試算表 | 25. 有価証券 |
| 11. 精算表 | 26. 貸倒の処理 |
| 12. 貸借対照表と損益計算書 | 27. 費用・収益の見越し・繰延べ（1） |
| 13. 商品売買に関する3つの方法 | 28. 費用・収益の見越し・繰延べ（2） |
| 14. 現金・預金（1） | 29. 決算整理・精算表（1） |
| 15. 現金・預金（2） | 30. 決算整理・精算表（2） |

授業方法：

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、例題を用いて問題の解法を説明する。また、理解を深めるために、テキストの演習問題・ワークブックを使って実際に問題を解いていく。

達成目標：

日商簿記検定3級取得

評価方法：

定期試験70%、授業への取り組み30%

教科書：

渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記講義 平成24年度版 3級商業簿記』
中央経済社 ¥735
渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記ワークブック 3級商業簿記（第6版）』
中央経済社 ¥735

参考文献：

開講時および必要に応じて適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
J10401	現代企業論	1	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	4	

授業のキーワード：

株式会社、株主、経営者、大企業、日本的経営

授業のテーマ：

現代社会において、さまざまな生産活動は、企業が中心となって行われている。そこで、企業とは何か、その役割を遂行していくためのさまざまな仕組みや働きなど、現代企業の全体像を、最新のデータや事例を用いて多面的に理解する。

授業の概要：

企業とは何か、その仕組みと働き、企業を取り巻く環境など、現代社会における企業について概観する。とくに株式会社の役割と仕組み、大企業の現実、そして日本型経営について解説する。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 企業の役割
3. 株式会社とは何か
4. 株式会社の仕組み
5. 株主と利益
6. 上場企業と株式市場
7. 株式公開と創業者利益
8. 大企業
9. 大企業は誰のもの
10. 大企業の経営者
11. コーポレートガバナンス
12. 日本の会社
13. 日本社会と企業
14. 揺らぐ日本型経営
15. まとめ

授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

達成目標：

現代社会において重要な組織である企業について、その役割を正しく捉え、その基本的な仕組みを理解する。

評価方法：

授業への取組（30％）に試験の結果（70％）を加味して判定する。

教科書：

参考文献：

その都度プリントを配布したり参考文献を指示したりする。

実験・実習・教材費

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
J10501	日本経済と金融	1	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	1	

授業のキーワード：

国内総生産（GDP）、金融・財政政策、経済活動と豊かさとの関係

授業のテーマ：

経済全体のモノとお金の流れについて学び、景気をコントロールするための金融政策・財政政策について理解する。また、「景気が良くなれば幸福である」という考え方を当然のこととして受け入れず、その考え方の有効性と限界について論じる。

授業の概要：

国内総生産（GDP）について解説した後、①現代経済のしくみはどうなっているのか、②なぜ生産や所得を増大させることがよいと言われているのか、③生産や所得はどのように生み出されるのか、④それらを増やすためにはどのような政策が必要か、などについて検討する。

授業の計画：

- (1) 経済とは（社会的分業とお金の役割）
- (2) 経済循環（経済全体のお金の流れ）
- (3) 国内総生産（GDP）とは
- (4) 国内総生産（GDP）と景気
- (5) 財政政策による景気対策
- (6) 財政政策と公共事業
- (7) 財政政策と財政赤字問題
- (8) 景気回復と財政健全化の両立
- (9) 中央銀行と民間銀行によるお金の発行
- (10) 金融政策による景気対策
- (11) 直接金融（証券市場）の役割
- (12) 日本におけるバブルの形成とバブル崩壊
- (13) サブプライムローン問題
- (14) リーマンショックと金融恐慌
- (15) まとめ

授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。所々で意見・質問を受け付ける。

達成目標：

経済ニュースの内容が理解でき、経済政策を評価できるほどの経済学の知識を身につける。

評価方法：

期末試験60%、授業への取り組み10% 小テスト30%。

経済学の有効性と限界をよく理解している…S

経済学を知っている…A

経済学を知っているがあまり説明力がない…B

ところどころ間違っ理解している…C

上記のレベルに達していない…D

教科書：

特に指定しない。

参考文献：

次を挙げておくが、その他はそのつど紹介していく。

L.サロー、R.ハイルブローナー、J.ガルブレイス [1990]『現代経済学（上・下）』中村達也訳、TBSブリタニカ。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
K10101	心理学概論 I	1	2	芳賀康朗

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	2	

授業のキーワード：

感覚・知覚, 学習・記憶, 動機づけ, 情動

授業のテーマ：

「心理学は心と行動を研究する科学である」という立場から, 心理現象を理解するとともに, 心理学の基礎的な知識を身につける。

授業の概要：

心理学の歴史と研究方法について概観し, 実験心理学の立場から人間の基本的な心的機能である, 感覚・知覚, 学習・記憶, 動機づけ, 情動について解説する。

授業の計画：

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1) ガイダンス | 9) 学習・記憶 (行動の分類) |
| 2) 心理学の歴史と研究方法 (1) | 10) 学習・記憶 (条件づけによる学習) |
| 3) 心理学の歴史と研究方法 (2) | 11) 学習・記憶 (社会的学習と技能学習) |
| 4) 心的機能の生理学的基礎 | 12) 学習・記憶 (記憶の分類) |
| 5) 感覚・知覚 (感覚の種類・感覚の限界) | 13) 学習・記憶 (記憶の忘却) |
| 6) 感覚・知覚 (知覚の体制化) | 14) 動機づけ (動因と誘因・欲求の階層) |
| 7) 感覚・知覚 (空間知覚と運動知覚) | 15) 情動 (情動の種類・フラストレーション) |
| 8) 感覚・知覚 (知覚の恒常性) | |

授業方法：

プリントや映像資料を使いながら進めていく。授業内容と関連した課題の提出を求めることもある。授業の進行を妨げる行為, および授業開始20分以降の遅刻は厳禁とする。

達成目標：

心理学の基礎知識を身につけ, 科学的視点から心理現象を考察できる力を身につける。

評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし, 提出課題 (約20%) と定期試験の結果 (約80%) によって評価する。遅刻や私語などの授業態度も評価の対象とする。

教科書：

梅本ら共著 『コンパクト新心理学ライブラリ 1 心理学』 サイエンス社 1,418円

参考文献：

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
K10201	心理学概論Ⅱ	1	2	三後美紀

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード：

パーソナリティ，発達と成長，社会と対人関係，適応と臨床

授業のテーマ：

心理学の基礎知識を身につけ，さらに，日常生活におけるさまざまな事象を心理学的な視点で捉えようとする思考力を獲得することを目的とします。

授業の概要：

人と人のかかわりに着目しながら，性格心理学，発達心理学，社会心理学，臨床心理学における心理学の知見を紹介します。

授業の計画：

- 1) ガイダンス
- 2) パーソナリティ(心のなりたち)
- 3) パーソナリティ(類型論と特性論)
- 4) パーソナリティ(無意識・防衛機制)
- 5) 発達と成長(発達の原理)
- 6) 発達と成長(思考の発達)
- 7) 発達と成長(ライフサイクル)
- 8) 社会と対人関係(自己の形成・自己開示)
- 9) 社会と対人関係(対人認知)
- 10) 社会と対人関係(態度変容)
- 11) 社会と対人関係(集団のダイナミクス)
- 12) 社会と対人関係(リーダーシップ)
- 13) 適応と臨床(ストレスと対処)
- 14) 適応と臨床(さまざまな心理療法)
- 15) まとめ

授業方法：

講義を中心に，適宜，プリントや映像資料を使いながら進めます。受講生の内容理解の確認と知的関心の共有のため，講義中に小レポートの提出を求めることがあります。

達成目標：

われわれの身近にある事象を心理学的に捉えた知見を学ぶことで，分析・総合の思考力と判断力の基礎を学生自身が身につけます。

評価方法：

期末試験(およそ70%)と授業への取り組み(およそ30%)により総合的に評価します。
 心理学的な視点から身近な事象の説明ができ，かつその問題点を論ずることができる…S
 心理学的な視点から身近な事象の説明ができる…A
 心理学的な基礎知識を身につけており，身近な事象との関連性が理解できる…B
 心理学的な基礎知識が身につけている…C
 Cのレベルに達していない…D

教科書：

なし

参考文献：

齊藤 勇 『イラストレート心理学入門』 誠信書房 1,575円
 大坊郁夫・安藤清志 『社会の中の人間理解』 ナカニシヤ出版 1,995円
 その他，授業中に紹介します

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
K10301	臨床心理学 I	1	2	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	1	

授業のキーワード：

心理アセスメント、心理療法、社会とのかかわり

授業のテーマ：

臨床心理学の概論を学んでいきます。今期は人の心に対する接近法として、まずその基礎となる心の発達段階の問題を考え、人間に対する理解を深めながら心理アセスメントの問題に足を踏み入れます。健常人の心のあり方を土台として、心病む人に対するかかわりは精神病理や心理的防衛機制に対する専門的な知識や技法が必要であり、その初歩段階としての多種多様な技法の概略を学んでいくことを目的とします。

授業の概要：

この授業では、まず前期に続いて発達段階のまとめから、臨床アセスメントとは何かについて学び、心理検査の概説を行っていきます。そして次に「カウンセリングや心理療法についての理解をテキストに沿って概説します。そこからパーソナリティや心のあり方についての接近法を学び、基礎的な知識や理解を促し、臨床心理学的な見方を考えていきます。

授業の計画：

1. オリエンテーション
- 2～6. エリクソンの発達段階
7. 障害者の問題
8. 心理アセスメントとは何か
- 9～10. 心理テストについて
11. 疑問への応答
- 12～14. 具体的な心理検査から心理療法へ
15. まとめ

授業方法：

テキストに基づいて、購読しながらそれに沿って進めていきます。資料を配付したり、DVDを見ていただいて、感想を書いてもらうこともあります。そしてその時々テーマについて、身近な例を考えながら体得できるように考えていきます。

達成目標：

心理アセスメントと心理療法についての基本的な概念と用語を学び、その概略をつかむこと。

評価方法：

出席状況および受講態度（30%）とテスト（70%）によって総合的に評価します。

教科書：

「はじめての臨床心理学」 森谷寛之・竹松志乃編著 北樹出版 2,500円＋税

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
K10401	教育心理学 I	1	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	4	

授業のキーワード：

教育 学校 学習 発達

授業のテーマ：

教育の営みに含まれる要因は、対象としての幼児・児童・生徒、働きかけるものとしての教師、両者の関係を通して起こってくる成長、学習、教授等の事象です。これらを理解するための教育心理学の基礎的な事柄について学びます。

授業の概要：

学校における適応の問題や発達障害などの基礎的な事柄について学びます。

授業の計画：

1. オリエンテーション・教育心理学の概要
2. 教師と児童・生徒
3. 学校適応 (1)
4. 学校適応 (2)
5. 学校適応 (3)
6. 発達障害 (1) 概要
7. 発達障害 (2) 知的障害
8. 発達障害 (3) 広汎性発達障害
9. 発達障害 (4) 学習障害・AD/HD
10. 発達障害児への支援 (1)
11. 発達障害児への支援 (2)
12. 教育評価 (1)
13. 教育評価 (2)
14. 教育評価 (3)
15. 後期のまとめ

授業方法：

基本的には講義を中心に行います。必要に応じて、視聴覚教材を用います。教育に関するトピックがあれば、発表することが求められる場合もあります。

達成目標：

教育現場で起こるさまざまな問題を検討することによって、教育についての考えを深め、基本的な知識を習得することを目標とします。

評価方法：

期末試験 (80%) と授業へのとりくみ (20%) によって総合的に評価します。なお、6回以上欠席した場合は、受講放棄とみなし、期末試験の受験資格を失いますので注意してください。

教科書：

西村純一・井森澄江編「教育心理学エッセンシャルズ」第2版
(ナカニシヤ出版/2,200円+税)

参考文献：

授業の中で提示します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
K10501	心理学研究法 I	1	2	芳賀・三後

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	2	

授業のキーワード：

現代社会 ころろ 心理学

授業のテーマ：

われわれは日常生活において心に関係するさまざまな現象や問題に遭遇している。この授業では、それらの現象や問題を扱った心理学の代表的な研究を紹介し、心理学という学問がいかなる方法を用いて心にアプローチしていくのかについて考えていく。

授業の概要：

前半は、主に実験心理学の立場から、知覚、認知、生理、心の進化といった問題を扱った研究を紹介し、心に対する科学的アプローチの実際を理解する。後半は、発達、社会、動機づけ、臨床、キャリア発達などの分野におけるさまざまな研究を概観し、代表的な心理学研究法について理解を深める。

授業の計画：

前半

- 1) ガイダンス・心とは何か？
- 2) 眼は心の窓にすぎない
- 3) 考えることの不思議
- 4) 心と身体の関係
- 5) ヒトの心と動物の心 (1)
- 6) ヒトの心と動物の心 (2)
- 7) ロボットは心をもつことができるか？(1)
- 8) ロボットは心をもつことができるか？(2)

後半

- 9) ガイダンス・私たちの心の成長とは
- 10) 「出会い」と「かかわりあい」の心理学
- 11) 「迷惑」と「共感」の心理学
- 12) 「やる気」の心理学
- 13) 「心の健康」と心理学
- 14) 「キャリア」をデザインする心理学
- 15) 心理学の学びを活かすには

授業方法：

各回のテーマについてプリント資料や映像資料を用いながら説明し、その後に意見発表や討論を行う。そしてそれらの内容をもとにしてレポートを作成・提出してもらう。

達成目標：

大学で心理学を専門的に学ぶために必要な問題意識と基礎知識、専門的な立場から心の問題に取り組むための実践力の基礎を身につける。

評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、レポートの成績(約70%)と意見発表や討論の内容を含む授業態度(約30%)により評価する。

教科書：

なし

参考文献：

海保博之著 『心理学ってどんなもの』 岩波ジュニア新書427 740円
 藤本忠明・東正訓 編著 『ワークショップ大学生生活の心理学』 ナカニシヤ出版 2,000円+税

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
K10601	心理統計法 I	1	2	芳賀・坂本

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	2	

授業のキーワード：

心理統計法, 数量化, 尺度基準, 基礎統計量

授業のテーマ：

実験, 調査, 検査といった研究手法を駆使する際には, 計測するデータの特性を理解し, 得られたデータを処理・分析する能力が不可欠となる。この授業ではそうした心理統計の基本的技能を身につけ, 心理現象を科学的な視点から捉える姿勢を身につけることを目的とする。

授業の概要：

心理統計の基本的概念とデータ処理の基本的な計算技法を解説する。

授業の計画：

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1) ガイダンス | 9) 母集団と標本 |
| 2) 心理統計の考え方 | 10) 基礎統計量の算出 (代表値 1) |
| 3) データの数量化 | 11) 基礎統計量の算出 (代表値 2) |
| 4) データの尺度基準 | 12) 基礎統計量の算出 (散布度 1) |
| 5) 基本的な演算 | 13) 基礎統計量の算出 (散布度 2) |
| 6) データの整理 (集計と度数) | 14) 正規分布の概念 |
| 7) データの整理 (比率) | 15) まとめ |
| 8) データの整理 (図表化) | |

授業方法：

配布プリントに沿った解説と小課題を中心に進めていく。授業外での課題 (宿題) を課すこともある。遅刻は厳禁とする。

達成目標：

自らの興味・関心に基づき研究テーマを設定し, その研究遂行に必要な基本的な作業を独力で行えるようになることを目指す。

評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし, 授業内での小課題 (約50%) と定期試験 (レポート) の結果 (約50%) によって評価する。遅刻や私語などの授業態度も評価の対象とする。

教科書：

なし

参考文献：

田中・山際共著 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』 教育出版 3,045円
 鶴沼・長谷川共著 『はじめての心理統計法』 東京図書 2,625円
 大山ら共著 『コンパクト新心理学ライブラリ12 心理学研究法』 サイエンス社 2,310円

実験・実習・教材費：

なし

準備物：

関数電卓 (カシオ製で統計計算ができるもの)

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
L10101	日本文学の基礎 I	1	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード：

日本文学、日本文学史、読解力

授業のテーマ：

奈良時代から明治時代にいたるまでの、日本文学の代表的な作品に触れることにより、美しい日本語表現を味わう、とともに日本文学の基礎的な知識を養う。

授業の概要：

日本文学の代表的な作品についての基礎的な知識を養う。

授業の計画：

- 1 概説
 - 2 文章表現の基礎 1
 - 3 文章表現の基礎 2
 - 4 評論の読解 1
 - 5 評論の読解 2
 - 7 『万葉集』
 - 8 『古今和歌集』
 - 9 『源氏物語』
 - 10 『枕草子』
 - 11 『平家物語』
 - 12 『奥の細道』
 - 13 森鷗外『舞姫』
 - 14 夏目漱石『坊っちゃん』
 - 15 まとめ
- ※ 授業計画は、受講生の興味等により変更を行う場合がある。

授業方法：

講義形式を基本とする。
教科書と配布するプリント資料によって授業を行う。

達成目標：

日本語に表現を正確に理解することができる。

評価方法：

期末試験（100％）による。

教科書：

夏目漱石『坊っちゃん』角川文庫300円
数研出版編集部編『漢字能力検定8～4級対応基本漢字マスター』数研出版（457円＋税）

参考文献：

授業内で指示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
L10201	日本文学の基礎Ⅱ	1	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	3	

授業のキーワード：

読解力、表現力、宮沢賢治

授業のテーマ：

宮沢賢治の、さまざまなジャンルの文学作品に触れ、日本語による表現を正確に読解するとともにレポートの作成を通して基礎的な国語能力の習得をめざす。

授業の概要：

宮沢賢治の童話・短歌・口語詩・文語詩・芸術論などの作品を読む。

授業の計画：

※ 前期からの継続受講を基本とする。

- 1 概説
- 2 『洞熊学校を卒業した三人』 1
- 3 『洞熊学校を卒業した三人』 2
- 4 『洞熊学校を卒業した三人』 3
- 5 『なめとこ山の熊』 1
- 6 『なめとこ山の熊』 2
- 7 『なめとこ山の熊』 3
- 8 『銀河鉄道の夜』 1
- 9 『銀河鉄道の夜』 2
- 10 『銀河鉄道の夜』 3
- 11 短歌
- 12 詩 1
- 13 詩 2
- 14 芸術論
- 15 まとめ

※ 授業計画は、受講生の興味等により変更を行う場合がある。

授業方法：

講義形式を基本とするが、適宜学生自らの感想・意見を発表してもらい発表形式も取り入れる。教科書と配布するプリント資料によって授業を行う。

達成目標：

日本語による表現を正確に読解する。
わかりやすい文章を記述する。

評価方法：

期末試験（100％）による

教科書：

『宮沢賢治全集』 7 （ちくま文庫 1,050円＋税）

参考文献：

授業内で指示する。
宮沢賢治の作品は新潮文庫や岩波文庫などでも手軽に読めるが、現在最も信頼に足るテキストを用いたものとして、ちくま文庫の『宮沢賢治全集』をあげておく。

実験・実習・材料費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
L12101	日本史概説	1	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード：

歴史観、日本史知識

授業のテーマ：

高校時代までに学んだ歴史知識の確認を第一として、古代から現在までの我が国の歴史を広い視点から学ぶ。また、周辺諸国や世界の動向との関係も意識し、我が国が如何なる発展をしてきたかを考え、現在の我が国がどのような理由で形成されているのかを理解する。

授業の概要：

日本史の基本的知識、その関連知識、また、やや専門的な知識を習得し、プリント等でそれぞれを確認する。そして、日本史全体を理解できるようにする。

授業の計画：

- 1 日本のあけぼの
- 2 大和政権の成立
- 3 東アジア情勢と古代国家の成立
- 4 律令国家の変質と摂関政治
- 5 武家社会の形成
- 6 蒙古襲来と武家社会の転換
- 7 下克上と戦国大名
- 8 幕藩体制の確立
- 9 幕政の安定と町人の活動
- 10 幕藩体制の動揺
- 11 幕末の動乱と明治維新
- 12 近代国家の成立と明治立憲制の形成
- 13 日清・日露戦争と帝国主義的発展
- 14 日本をめぐる内外情勢
- 15 「大東亜戦争」と戦後日本

授業方法：

講義形式を中心とする。同じ時間内に、プリント等により、講義内容の確認作業を行う。

達成目標：

日本史に関する基本的かつやや専門的知識を獲得し、バランスのとれた歴史観の確立をめざす。

評価方法：

期末試験（100％）による。

教科書：

『もういちど読む山川日本史』 山川出版社、2009年

参考文献：

講義の中で折々に紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
L12201	日本近世史	1	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	4	

授業のキーワード：

武士、武士道、忠・忠義、近代化

授業のテーマ：

徳川時代は近代化の胎動期であり、また、現在の日本社会にも通じる多くの文化遺産の産出期であった。授業では、社会の特性を論考すると共に、同時期における、「知」の成長過程を考察する。

授業の概要：

武士道や武家社会の構造を通して、江戸という時代のタテ社会のメカニズムを検討し、リーダーシップ、組織と個人との関係を論ずる。また、他方では、文化、思想の多様な展開を検討し、徳川社会の政治的近代化を論じる。

授業の計画：

- 1 藩の組織
- 2 武士道Ⅰ
- 3 武士道Ⅱ
- 4 武士道Ⅲ
- 5 元禄時代
- 6 儒学の発展Ⅰ
- 7 儒学の発展Ⅱ
- 8 能力主義とシステム
- 9 ペリー来航と幕藩体制
- 10 志士吉田松陰の誕生
- 11 吉田松陰の武家観
- 12 吉田松陰の天皇観
- 13 吉田松陰の国際観
- 14 維新への胎動
- 15 江戸という時代

授業方法：

講義形式

達成目標：

講義内容を理解すると共に、自己の歴史認識能力を高める。

評価方法：

期末試験（100％）による。

教科書：

なし

参考文献：

講義の中で折々に紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
L14101	教職概論	1	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	5	

授業のキーワード：

教師、教職、人づくり

授業のテーマ：

学級崩壊、いじめ、引きこもり、また、青少年犯罪の凶悪化など、現在、我が国の教育が大きな混乱状態にあることはいうまでもない。また、これらの教育問題は制度的改革のみで乗り切ることが不可能と考える。

そこで、本講では「教育とは何か」という最も基本的な問題を総合的に考察する。

授業の概要：

授業では、自分自身の教職経験（山口県立高校教諭十四年在職）を具体的に語りながら、教師とは何かということを学生に理解させたい。

授業の計画：

- 1 教育とは何か①
- 2 教育とは何か②
- 3 学校教育とは何か①
- 4 学校教育とは何か②
- 5 我が国における学校の発達と性格①
- 6 我が国における学校の発達と性格②
- 7 教師の性格と課題①
- 8 教師の性格と課題②
- 9 家庭・地域と学校①
- 10 家庭・地域と学校②
- 11 教師の性格と課題
- 12 家庭・地域と学校
- 13 学級・学校経営
- 14 教育内容—我が国の教科書
- 15 生徒指導の体制と方法

授業方法：

講義形式

達成目標：

学生が自分で理想の教師像を描き、それに向かって努力するようにする。

評価方法：

期末試験（100％）による。

教科書：

なし

参考文献：

折々に紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
L14201	教育原論	1	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	5	

授業のキーワード：

西洋、教育史、人づくり

授業のテーマ：

学級崩壊、いじめ、とじこもり、また、青少年犯罪の凶悪化など、現在、我が国の教育が大きな混乱状態にあることはいうまでもない。また、これらの教育問題は制度的改革のみで乗り切ることが不可能と考える。

そこで、本講では「教育とは何か」という最も基本的な問題を総合的に考察する。

授業の概要：

講義では、まず、ギリシア、ローマの教育からはじめ、近代学校制度の成立までを概観する。具体的には、各時代、各地域の代表的な「私塾」、「学校」、「教育者」などを取り上げ、そこで行われた教育実践などを概観し、教育のあり方を総合的に考察する。

授業の計画：

- 1 ギリシアの教育①
- 2 ギリシアの教育②
- 3 ソクラテス
- 4 プラトン
- 5 アリストテレス
- 6 ローマの教育
- 7 イスラエルの教育
- 8 中世の教育①
- 9 中世の教育②
- 10 人文主義と教育
- 11 宗教改革と教育
- 12 啓蒙主義と教育
- 13 ルソー
- 14 ペスタロッチ
- 15 フレーベル

授業方法：

講義形式を中心として進める。

達成目標：

近代教育の源流とされるギリシア以来の西欧教育思想を理解し、今後の我が国の教育を具体的に構想する。

評価方法：

期末試験（100％）による。

教科書：

なし。

参考文献：

折々に紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00101	人間環境学	2・3・4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学問の意義、人間環境学、総合的教養、主専攻・副専攻	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

人間環境学は人間環境大学の根本理念である。この理念について十分に理解することは、全体知を目指し、又、環境の各々の専門を修めるという大学設立以来の教育の目的を達成するために不可欠である。

授業の概要：

人間環境学の理念と人間環境大学とについて、その歴史と設立の意義を理解することとともに、人間環境学の学問、研究、教育における歴史的な意義を理解する。そのために、現在、広く学問がどのようなシステムになっているのか、そしてその課題がどのようなものか理解し、さらに、現在人類社会が直面しているさまざまな課題と学問の役割について考察する。

授業の計画：

1. 人間環境大学の設立
2. 人間環境大学の概要
3. 人間環境大学の学問理念「人間環境学」
4. 学問とは何か
5. 諸文化における学問
6. ヨーロッパにおける学問の理念と哲学
7. ヨーロッパにおける学問の歴史（1）
8. ヨーロッパにおける学問の歴史（2）
9. 近現代における学問の変容
10. わが国における大学の歴史
11. 世界的な大学および学問の変化
12. 環境問題と人間環境学
13. こころの問題と人間環境学
14. 歴史・文化と人間環境学
15. 人間環境学の意義

授業方法：

講義における解説を主として、適宜レポートを課する。

達成目標：

人間環境大学の設立理念を理解し、大学での学修の意義、学問の意義を理解する。

評価方法：

論述試験 70%、出席など 30%

- S. 人間環境学について理解し、本学で学ぶことの意義を把握している。
- A. 人間環境学について理解し、本学で学ぶことの意義を考えることが出来た。
- B. 人間環境学について理解することが出来た。
- C. 人間環境学について一部理解した。
- D. 理解しなかった。

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00201	哲学A	2・3・4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学問のルーツ、批判的思考、論理的思考	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

古代ギリシアに起源する哲学の歴史を近世までたどる。その中で、哲学という学問、つまり、あらゆる学問の起源としてのこの知的営為の意味を解明していく。その際、常に哲学の問いの根本にある「存在」の問題を「理性」との関係から論じていく。このようにして、西洋哲学の本質を把握することを目的とする。

授業の概要：

まず哲学という学問の理解から始める。哲学は他の学問とは根本的に異なる側面を持っている。その一つは、その歴史が常に問題とされるということである。したがって、授業では哲学という学問の理解のために哲学の誕生とその歴史をたどることとなる。哲学Aにおいては、近代に至るその歴史を、代表的な哲学者達の「存在」、「理性」の主張に辿り、ヨーロッパ哲学の本質を論じる。

授業の計画：

1. 哲学の語義、意味
2. 古代ギリシアにおける哲学の発祥
3. ミレトス派の哲学、万物と「アルケー」
4. 哲学の岐路、パルメニデスとヘラクレイトス、存在と生成
5. 多元論と原子論、万物と自然
6. 人間の問い、ソクラテス
7. 存在と本質、プラトンとイデア論
8. アリストテレスから古代後期への哲学
9. ヘレニズムとヘブライズム、キリスト教と中世哲学
10. ルネサンスと科学、機会論的自然解釈
11. 理性と存在、デカルトにおける真理
12. 合理論と経験論、哲学の二つの流れ
13. 近代哲学とは
14. デカルトまでの歴史の概観
15. まとめ

授業方法：

歴史上の諸説について解説し、さらに現代の立場から批判する。また、その歴史的な影響関係から歴史的意義を確認していく。

達成目標：

学問のルーツとしての哲学の歴史と本質を理解する。論理的思考を身につける。

評価方法：

- 論述試験 90%、レポート、取り組み 10%。
- S. 哲学の歴史の意義について適切に論じることができる。
- A. 哲学の歴史の意義について論じることができる。
- B. 哲学の歴史について論じることができる。
- C. 哲学について論じることができる。
- D. 哲学について論じることができない。

教科書：

参考文献：

岩崎武雄『西洋哲学史』有斐閣

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00301	哲学B	2・3・4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学問、論理的思考、価値判断、批判的思考	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

「私」とは、人間とは、生と死とは何か。我々はまだ明確な答えを持っていない。その解明のためには「存在」について考えていくことが必要である。そのため、現代の社会や文化にいまなお大きな影響を残している近代哲学を歴史的に辿り、その本質を批判し、今日我々が直面する諸問題を解き明かしていく。

授業の概要：

ヨーロッパ文明の隆盛を導いた哲学は、しかし、近代に至って本質的な矛盾、困難につきあたる。さらに近代哲学批判の後、現代の哲学と学問とは危機直面した。今日の哲学の動向も含め、以上の歴史を辿る。その中で「私」、「生・死」などについて考えていく。

授業の計画：

1. 「存在」を問う問いの意味
2. ルネサンスから近代に至る哲学史の概観
3. カント、経験論と合理論、批判哲学
4. ヘーゲル、理性、歴史、存在、近代哲学の到達点
5. 近代哲学の限界と実存主義
6. ニーチェ、「存在」「理性」への徹底的批判
7. ニーチェ、ニヒリズムとその克服の道、未来の哲学
8. ハイデッガーから現代へ
9. 今日の哲学的状況
10. 現代の諸問題1、「私」とはなにか、死の問いの不在
11. 現代の諸問題2、環境問題の哲学的意味、
12. 哲学の可能性（1）
13. 哲学の可能性（2）
14. 現代までの歴史の概観
15. まとめ

授業方法：

近代以来の哲学について解説し、さらに現代の立場から批判する。また、今日我々が直面する問題を哲学の立場から考えていく。

達成目標：

現代の哲学を理解し、我々を取りまく諸問題を批判的に考える力を身につける。

評価方法：

- 論述試験 90%、レポート、取り組み 10%。
- S. 哲学的に現代の問題の本質を適切に論じることができる。
- A. 哲学的に現代の問題の本質を論じることができる。
- B. 哲学的に現代の問題を論じることができる。
- C. 哲学について論じることができる。
- D. 哲学について論じることができない。

教科書：

参考文献：

岩崎武雄『西洋哲学史』有斐閣

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00601	倫理学A	2・3・4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
生の意味・価値 批判的思考 他者の理解	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

今日、倫理の欠如があらゆる場面で問題となっている。環境倫理や生命倫理をはじめ現代に特有の様々な倫理的問題が噴出する現状を確認しつつ、このような状況を導いた西洋における倫理思想の歴史を辿り、その本質的な問題を把握することを試みる。

授業の概要：

今日の倫理的な問題、つまり環境保護や遺伝子操作、医療技術、死刑などをはじめ無数の問題の根本を探っていく。その中で、西洋倫理思想を歴史的に辿り批判していくことの必要性を確認。古代以来の倫理思想の歴史を辿っていく。

授業の計画：

- 1 倫理学とは
- 2 現代の倫理の問題の概要
- 3 現代の倫理の問題（環境問題）
- 4 現代の倫理の問題（生命倫理）
- 5 現代の倫理の問題（情報倫理）
- 6 現代の倫理の問題（死刑、戦争、動物実験など）
- 7 現代の倫理の問題（政治経済、コンプライアンスなど）
- 8 今日の倫理の本質問題について
- 9 法系と倫理思想の関係
- 10 今日の倫理思想の特殊性
- 11 西洋倫理思想の歴史（哲学の発祥）
- 12 西洋倫理思想の歴史（古代哲学とキリスト教）
- 13 西洋倫理思想の歴史（ルネサンス）
- 14 西洋倫理思想の近世までの総括
- 15 まとめ

授業方法：

講義形式、適宜質問への応答やレポートを課す。最後に論述試験を行う。

達成目標：

今日の倫理の問題を自覚し、その歴史を理解する。

評価方法：

論述試験を中心に（90%）評価する。レポートおよび授業の取り組みにより10%程度の加減点を行う。

- S 倫理思想の問題の本質を適切に論じることができる
- A 倫理思想の問題の本質について論じることができる
- B 倫理思想の歴史を把握し倫理の問題を論じることができる
- C 倫理の問題を論じることができる
- D 倫理の問題を論じることができない

教科書：

授業において指示。適宜資料配布。

参考文献：

授業において指示。適宜資料配布。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00701	倫理学B	2・3・4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
生の意味・価値 批判的思考 他者の理解	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

西洋倫理思想の特殊性の自覚によって、今日の倫理を大きな転換に直面している。西洋中心主義、人間中心主義などの限界の自覚の意味を理解することともに、同時に生じた倫理の喪失・欠如、生の意味喪失を超え、諸文化の倫理を評価しつつ新しい倫理の可能性を探る。

授業の概要：

近代から現代にかけての倫理思想の大きな転換（ニーチェなど）を辿り、さらに、今日我々が直面する倫理の文化的相対性の問題を考察する。また、「倫理学」自体の本質的な問題も反省し検証しながら、東洋などの諸文化の倫理思想の意義を評価し未来の倫理について考えていく。

授業の計画：

- 1 倫理学とは
- 2 西洋倫理思想の歴史（古代から近世）
- 3 西洋倫理思想の歴史（近代－デカルト、カント）
- 4 西洋倫理思想の歴史（近代－ベンサム、ヘーゲル左派など）
- 5 ニーチェによる西洋倫理思想の批判（ニヒリズム）
- 6 ニーチェによる西洋倫理思想の批判（道徳の系譜）
- 7 ニーチェによる西洋倫理思想の批判（生の価値）
- 8 ニーチェによる西洋倫理思想の批判（権力への意志）
- 9 現代の倫理学の状況（概要）
- 10 現代の倫理学の状況（問題と限界）
- 11 諸文化における倫理（儒教思想）
- 12 諸文化における倫理（仏教思想）
- 13 人間の死の意味について
- 14 人間の生の意味について
- 15 まとめ

授業方法：

講義形式、適宜レポートを課す。最後に論述試験を行う。

達成目標：

倫理思想の転換と諸文化の倫理の意義を理解する。

評価方法：

論述試験を中心に（90%）評価する。レポートおよび授業の取り組みにより10%程度の加減点を行う。

- S 倫理思想の問題の本質を適切に論じることができる
A 倫理思想の問題の本質について論じることができる
B 倫理思想の歴史を把握し倫理の問題を論じることができる
C 倫理の問題を論じることができる
D 倫理の問題を論じることができない

教科書：

授業において指示。適宜資料配布。

参考文献：

授業において指示。適宜資料配布。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00801	宗教学A	2・3・4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
宗教、歴史、一神教の世界	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

宗教の歴史は人類の歴史であるとも言えるほど、人が集まるところには宗教が存在する。それだけに一口に宗教といってもその対象は広大である。この広大な世界を理性の立場から学問的に考察することが宗教学の課題である。本講義は、その基礎となる宗教史（一神教の世界）を概観する。

授業の概要：

現代世界における宗教と宗教研究について考察した後、唯一神教（ユダヤ教・キリスト教・イスラム教）の世界のそれぞれの発端に関して概観する。

授業の計画：

- 第1回 第1章 現代世界における宗教と宗教研究
1. 世界の宗教人口、2. 現代世界における宗教問題、3. 宗教の概念、4. 宗教研究
- 第2回 第2章 唯一神教の世界
1. 舞台としての中近東と三宗教に共通な特徴
A. 自然・社会・歴史環境（メソポタミア、シリア・パレスチナ、エジプト、アラビア）
B. 基本的相互関係
C. 唯一神教、啓示宗教、預言者
D. 啓典の基本的構成概観（聖書、タルムード、クルアーンなど）
- 第3回 2. 聖書以前
- 第4回 3. ユダヤ教
A. 旧約聖書の重要な思想：創造
B. 旧約聖書の重要な思想：律法
C. 旧約聖書の重要な思想：預言者
D. 旧約聖書の重要な思想：知恵
E. 旧約聖書の重要な思想：黙示思想
F. 旧約から新約へ
- 第5回 3. キリスト教
A. 原始キリスト教
B. 初期キリスト教の発展と課題（新約聖書正典の成立、基本的教義の確立）
C. キリスト教諸派の系譜【概観】
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回 4. イスラム教
A. ムハッマドの生涯とイスラム的信仰運動の概観
B. ムハッマド以後の展開
C. イスラム教諸派の概観
- 第14回
- 第15回

授業方法：

主として講義形式。ビデオを用いることもある。授業用のPDF文書（本文編と資料編）を担当者ホームページに用意するので適宜用いること。

達成目標：

本講義は宗教史の観点から宗教の抱える諸問題と歴史的影響等について基本的知識を得ることを目標とするが、偉大な宗教的人格を紹介することにも出来るだけ配慮したい。

評価方法：

筆記試験（持込み無し）。毎回出席をとる。

教科書：

授業用PDF文書（本文編・資料編）

参考文献：

担当者ホームページ（<http://www1.uhe.ac.jp>）でユーザー登録して授業用PDF文書（本文編・資料編）をダウンロードして下さい。連絡先 ito@uhe.ac.jp

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00901	宗教学B	2・3・4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考:
後期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
宗教、歴史、非一神教の宗教	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野

授業のテーマ:

宗教の歴史は人類の歴史であるとも言える程、人の集まるところには宗教が存在する。それだけに一口に宗教といってもその対象は広大である。この広大な世界を理性の立場から学問的に考察することが宗教学の課題である。本講義は、その基礎となる宗教史（非一神教の世界と日本の宗教史）を概観する。

授業の概要:

前期の宗教学Aとペアで宗教史を概観している。宗教学Bでは、非一神教の世界と日本の宗教史を概観する。具体的には、ヒンドゥー教、仏教、東アジアの宗教（道教・儒教・中国仏教・朝鮮仏教）を概観し、最後に日本宗教史を概観する。

授業の計画:

- 第1回 第3章 非唯一神教の世界
 - 1. ヒンドゥー教
 - A. インドの自然・社会・歴史と古代インドの宗教
 - B. ヒンドゥー教
 - C. 仏教の揺籃としてのヒンドゥー教
- 第2回
- 第3回 2. 仏教
 - A. 原始仏教 (a. 文献、b. ブッダの悟り、c. ブッダと初期仏教教団)
 - B. 部派仏教 (a. ブッダ以後の仏教教団、b. 紛争、c. 部派仏教の成立)
 - C. 大乘仏教 (a. 大衆運動、b. 大乘仏教の特徴、c. 仏教のヒンドゥー化と衰退)
 - D. チベット仏教
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回 3. 東アジアの宗教
 - A. 道教と儒教
 - B. 中国仏教 (a. 中国への伝播、b. 格義仏教、c. 仏教の中国的受容)
 - C. 朝鮮仏教
- 第8回
- 第9回
- 第10回 4. 日本の宗教
 - A. 仏教伝来以前の日本の宗教と神道史概観
 - B. 日本の仏教 (a. 仏教伝来、b. 平安時代、c. 鎌倉時代、d. 江戸時代)
 - C. 日本のキリスト教
- 第11回
- 第12回
- 第13回 (a.16世紀におけるカトリック・キリスト教の伝来、
- 第14回 b. キリスト教の禁制からキリシタン潜伏
- 第15回 c. 幕末・明治のキリスト教)

授業方法:

主として講義形式。ビデオを用いることもある。授業用のPDF文書(本文編と資料編)を担当者ホームページに用意するので適宜用いること。

達成目標:

本講義は宗教史の観点から宗教の抱える諸問題と歴史的影響等について基本的知識を得ることを目標とするが、偉大な宗教的人格を紹介することにも出来るだけ配慮したい。宗教学A・宗教学Bは一体の授業であるので、第3章から始める構成となっている。

評価方法:

筆記試験(持込み無し)。毎回出席をとる。

教科書:

授業用PDF文書(本文編・資料編)

参考文献:

担当者ホームページ(<http://www1.uhe.ac.jp>)でユーザー登録して授業用PDF文書(本文編・資料編)をダウンロードして下さい。連絡先 ito@uhe.ac.jp

実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
A01201	文学A	2・3・4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本文学、日本文学史、読解力	コミュニケーション力、美的感受性

授業のテーマ：

奈良時代から明治時代にいたるまでの、日本文学の代表的な作品に触れることにより、美しい日本語表現を味わう、とともに日本文学の基礎的な知識を養う。

授業の概要：

日本文学の代表的な作品についての基礎的な知識を養う。

授業の計画：

- 1 概説
 - 2 文章表現の基礎 1
 - 3 文章表現の基礎 2
 - 4 評論の読解 1
 - 5 評論の読解 2
 - 6 まとめ
 - 7 『万葉集』
 - 8 『古今和歌集』
 - 9 『源氏物語』
 - 10 『枕草子』
 - 11 『平家物語』
 - 12 『奥の細道』
 - 13 まとめ
 - 14 夏目漱石『坊っちゃん』
 - 15 まとめ
- ※ 授業計画は、受講生の興味等により変更を行う場合がある。

授業方法：

講義形式を基本とする。
教科書と配布するプリント資料によって授業を行う。

達成目標：

日本語に表現を正確に理解することができる。

評価方法：

期末試験（100％）による。

教科書：

夏目漱石『坊っちゃん』角川文庫 300円
数研出版編集部編『漢字能力検定8～4級対応基本漢字マスター』数研出版（457円＋税）

参考文献：

授業内で指示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A01301	文学B	2・3・4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
読解力、表現力、宮沢賢治	コミュニケーション力、美的感受性

授業のテーマ：

宮沢賢治の、さまざまなジャンルの文学作品に触れ、日本語による表現を正確に読解するとともにレポートの作成を通して基礎的な国語能力の習得をめざす。

授業の概要：

宮沢賢治の童話・短歌・口語詩・文語詩・芸術論などの作品を読む。

授業の計画：

※ 前期からの継続受講を基本とする。

- 1 概説
- 2 『洞熊学校を卒業した三人』 1
- 3 『洞熊学校を卒業した三人』 2
- 4 『洞熊学校を卒業した三人』 3
- 5 『なめとこ山の熊』 1
- 6 『なめとこ山の熊』 2
- 7 『なめとこ山の熊』 3
- 8 『銀河鉄道の夜』 1
- 9 『銀河鉄道の夜』 2
- 10 『銀河鉄道の夜』 3
- 11 短歌
- 12 詩 1
- 13 詩 2
- 14 芸術論
- 15 まとめ

※ 授業計画は、受講生の興味等により変更を行う場合がある。

授業方法：

講義形式を基本とするが、適宜学生自らの感想・意見を発表してもらい発表形式も取り入れる。教科書と配布するプリント資料によって授業を行う。

達成目標：

日本語による表現を正確に読解する。
わかりやすい文章を記述する。

評価方法：

期末試験（100％）による。

教科書：

『宮沢賢治全集』 7 （ちくま文庫 1,050円＋税）
数研出版編集部編『漢字能力検定5～2級対応 級別漢字マスター』数研出版 457円＋税

参考文献：

授業内で指示する。
宮沢賢治の作品は新潮文庫や岩波文庫などでも手軽に読めるが、現在最も信頼に足るテキストを用いたものとして、ちくま文庫の『宮沢賢治全集』をあげておく。

実験・実習・材料費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A01601	社会学A	2・3・4	2	安福恵美子
期間	曜日	時限	備考：	
前期	集中	D		
授業のキーワード		人間環境大学が育む八つの能力		
現代社会、社会学的視点、社会学的探求		コミュニケーション力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）		

授業のテーマ：

私たちの社会はさまざまな問題を抱えながら変化している。本講義では、社会的行為、社会集団、地位と役割、社会変動、文化などを取りあげ、社会学の基本的な理論や概念を学ぶとともに、社会学の探求の方法についての理解を深めてゆく。

授業の概要：

社会学の概念を概説するとともに、教育、家族、労働、環境、福祉などの問題を取りあげ、社会学の視点から現実の社会や社会問題がどのように分析され、理解されているかを問題提起しながら講義する。

授業の計画：

- 1回 社会学とは何か
- 2回 社会学に何ができるのか
- 3回 社会学と調査
- 4回 近代社会の成立
- 5回 現代社会と教育
- 6回 現代社会と家族
- 7回 現代社会と環境
- 8回 現代社会と政治
- 9回 現代社会と福祉
- 10回 現代社会と情報
- 11回 現代社会と労働
- 12回 現代社会とレジャー
- 13回 現代社会における格差
- 14回 現代社会における文化装置
- 15回 まとめ

授業方法：

各回のテーマに即した資料・文献（ビデオを含む）を参考に、受講生各自が感想や意見を述べることによってテーマに対する理解を深めてゆく。そのため、受講生各自の積極的な授業参加を求める。

達成目標：

さまざまな社会現象を社会学的に分析するための視角を養う。

評価方法：

小テスト50%および小レポート50%によって評価する。

教科書：

安福恵美子著『ツーリズムと文化体験』（流通経済大学出版社）

参考文献：

授業のなかで随時紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A01701	社会学B	2・3・4	2	安福恵美子

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
現代社会、社会学的視点、社会学的探求、地域社会	コミュニケーション力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

社会学の基本的な理論や概念を基に、戦後急激に変化を遂げた日本社会の仕組みを考察することによって、そのなかに潜在化しているさまざまな問題点を観察・認識する。そして、産業化が進展する中で生じた高度産業社会や地域社会における問題などに焦点を当て、現代社会のあり方について考える。

授業の概要：

本講義では、社会的行為、社会集団、地位と役割、社会変動、文化などの社会学の概念を概説するとともに、地域社会や情報社会などを取りあげ、社会学の視点から現実の社会や社会問題がどのように分析され、理解されているかを問題提起しながら講義する。

授業の計画：

- 1回 社会学の考え方
- 2回 社会学と調査
- 3回 現代社会の問題に対するアプローチ
- 4回 現代社会と労働
- 5回 現代社会とレジャー活動
- 6回 地域社会の仕組みと構造
- 7回 地域社会とまちづくり
- 8回 地域社会と環境
- 9回 地域社会と文化創造
- 10回 情報社会とマス・メディア
- 11回 情報社会とインターネット
- 12回 情報社会における問題点
- 13回 グローバル化社会
- 14回 グローバル化社会における問題点
- 15回 まとめ

授業方法：

各回のテーマに即した資料・文献（ビデオを含む）を参考に、受講生各自が感想や意見を述べることによってテーマに対する理解を深めてゆく。そのため、受講生各自の積極的な授業参加を求める。

達成目標：

さまざまな社会現象を社会学的に分析するための視角を養う。

評価方法：

小テスト40%およびレポート60%によって評価する。

教科書：

安福恵美子著『ツーリズムと文化体験』（流通経済大学出版社）

参考文献：

授業のなかで随時紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A07501	基礎数学	2・3	2	長井正博
A03001	基礎数学A	4		

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
有効数字、指数・対数、平均値・分散、微分・積分	分析・統合の思考力と判断力

授業のテーマ：

環境に関する知識の習得、文献講読、実験・実習などを行うにあたって、数値を扱うことを避けることはできない。本講義は、将来、数値解析する際の基礎学力を養成することを目標にしている。本講義では、数値計算に関数電卓を積極的に利用する。このことにより、コンピューターを利用したの簡便な数値解析では習得が困難な、計算過程に関する感覚を養う。

授業の概要：

数値解析の基礎となる次の3項目について、順に講義を行う。(1) 四則演算、指数、対数の計算を行い、関数電卓の扱いになれるとともに、併せて、物理単位・有効数字の扱いを習得する。(2) 統計の基礎である平均値・分散・標準偏差の計算方法を習得する。(3) 微分・積分の考え方を習得する。

授業の計画：

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 関数電卓の使い方 | 9. ばらつき（範囲，不偏分散，標準偏差） |
| 2. 物理単位と接頭語、示量変数と示強変数 | 10. まとめ（2） |
| 3. 有効数字（足し算と引き算） | 11. 一次関数の傾き |
| 4. 有効数字（かけ算と割り算） | 12. 指数関数 |
| 5. 指数の計算 | 13. 微分 |
| 6. 対数の計算 | 14. 積分 |
| 7. まとめ（1） | 15. まとめ（3） |
| 8. 代表値（平均値と中央値） | |

授業方法：

配布資料に基づいて、板書を中心に講義を進める。

関数電卓を用いての計算を積極的に行ってもらおう。関数電卓は授業中に貸し出す。機種によって扱い方が異なるため、購入する場合は、貸し出すものと同じもの（カシオ製 FX-290-N、1000～1500円程度）が望ましい。

講義の最初に前回の講義の内容確認のための小テストをする。解答と解説の後に、当日の講義を始める。

達成目標：

関数電卓を用いた四則演算、指数、対数の計算が有効数字を考慮してできる。

平均値、分散、標準偏差の計算ができる。

微分・積分の考え方がわかる。

評価方法：

試験（80%）と授業への取り組み（20%）により行う。

試験では、関数電卓を用いた有効数字を考慮した計算、基礎的な統計計算、簡単な関数の微分・積分ができる能力を問う。

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A07601	統計処理入門	2・3	2	野田信明
A03101	基礎数学B	4		

期間	曜日	時限	備考：「基礎数学A」の受講を前提としないが、数学の基礎に関するある程度の知識を前提とする。
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
統計、確率、二項分布、正規分布、標準偏差、相関係数、表計算、グラフ	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

数学の知識と方法を基礎とし、テレビ、新聞、インターネット等に現れる数値データ、統計、トレンド（傾向）分析、予想の意味を理解できる力を身につける。具体的には、度数分布と平均、データのばらつき、標準偏差と偏差値、確率と密度分布、相関、指数関数と正規分布、全数調査と標本調査、母集団と標本、推測と検定など。また、データ解析の基礎技術として EXCEL の初歩を学ぶ。

授業の概要：

具体的な事例を取り上げ、統計処理で使われる専門用語や手法を理解するとともに、応用する力をつける。統計と確率の関係を理解し、得られた結果をどのように推測や予測に活かすかを学ぶ。その時々のお話も実例として取り上げ、理解の助けとする。

授業の計画：

- | | |
|-----------------------|---------------------------------------|
| 1. 統計解析の概要 | 9. 二項分布と正規分布、指数関数 |
| 2. 度数分布、ヒストグラム、平均値 | 10. 二種類のデータの相関、CO ₂ 濃度と温暖化 |
| 3. データの広がりや分散、標準偏差 | 11. 全数調査と標本調査 |
| 4. EXCEL を使って表とグラフを作る | 12. 標本の平均、分散と母集団の平均、分散 |
| 5. コイン・トス、サイコロの目の数 | 13. 標本分析から母集団の特徴、性質を推測 |
| 6. EXCEL を使ってサイコロ投げ | 14. 復習とまとめ |
| 7. 場合の数と確率、順列と組み合わせ | 15. まとめとレポート作成 |
| 8. YES、NO の確率と二項分布 | |

授業方法：

講義方式で行う。毎回例題を出し、15分程度を使って考え方、解き方をその場で指導する。時間内に解けたところまでを提出してもらい、次回の講義で例題回答の解説と補足の説明を行う。PC教室でパソコンを活用し、Excel とグラフを利用しつつ実例データを取り扱う。

達成目標：

統計処理の基礎を理解できるとともに将来応用して自分の仕事に活かす力を養う。

評価方法：

前期末のレポート（50%）と例題解答など日常の授業への取り組み（50%）により行う。
 統計、確率、予測の概念、手法、専門用語の全面的理解、計算法習熟と応用 --- S,
 統計処理とその結果の意味するところの基本的理解、計算法習得 --- A,
 統計処理と結果の基礎的理解 --- B, 統計処理分析データを読む力の習得 --- C,
 C のレベルに到達していない ---D

教科書：

特に既成の教科書は使わない。講義ノートをプリントし配布する。

参考文献：

丹羽勝市著「図解雑学 統計解析」ナツメ社 ¥1,300（ISBN978-4-8163-3472-6）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A03201	基礎物理学A	2・3・4	2	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
前期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
エネルギー、光、熱	分析・統合の思考力と判断力

授業のテーマ：

地球環境、生態系、生物、人間社会などのあらゆるシステムは、エネルギーを継続的に供給することによってのみ成立することができる。このことを理解するためには、エネルギーが最終的に全て熱に変わることを理解する必要がある。

地球環境の最大のエネルギー源である太陽光に関する知識とともに、エネルギーと熱についての物理学的な基礎知識を紹介する。

授業の概要：

エネルギーの定義とエネルギー保存則について説明したのち、光のエネルギーについて解説する。続いて、熱の量の表現にエネルギーとエントロピーの2種類があること、そして、エネルギーが熱に変わることを表現するためにはエントロピーを用いなければならないことを説明する。

授業の計画：

1. 力と加速度と質量
2. 仕事とエネルギー、エネルギー保存則
3. 電子の移動によるエネルギーの取り出し
4. 人間活動とエネルギー
5. 光の速度・波長・振動数
6. 光の波動性と粒子性、光子のエネルギー
7. 太陽光とエネルギー
8. 温度と熱容量
9. 熱量の表現：エネルギーとエントロピー
10. 熱の移動によるエネルギーの取り出し
11. 熱の移動時の熱の発生
12. 物質の拡散によるエネルギーの取り出し
13. 物質の拡散時の熱の発生
14. エネルギーの熱への変換とエントロピーの発生
15. システムの維持とエネルギーの供給

授業方法：

配布資料に基づいて、板書を中心に講義を進める。

講義の最初に前回の講義の内容確認のための小テストをする。解答と解説の後に、当日の講義を始める。

達成目標：

エネルギーの観点から、光と熱について説明できる。

システムの維持にエネルギーの持続的供給が必要なことが理解できる。

評価方法：

試験（80%）と授業への取り組み（20%）により行う。

試験では、エネルギー・光・熱に関する基礎知識と計算能力を確認する。

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A03601	基礎化学 I A	2・3・4	2	片山幸士

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
元素, 原子, 化学結合, 物質量	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, グローバルな視野

授業のテーマ：

環境と生命の本質を化学的な面から理解するための必要な基礎知識を習得する。

授業の概要：

物質を構成する原子の構造や結合について基本的な事項から理解させる。さらに化学の基本単位である物質量（モル）の概念と使い方を学ぶ。

授業の計画：

- 1 化学で学ぶこと
- 2 元素と周期律表
- 3 原子の構造（原子核）
- 4 原子の構造（電子配置）
- 5 イオン結合
- 6 イオン性物質
- 7 共有結合
- 8 共有性物質
- 9 金属結合
- 10 分子間力
- 11 物質量—化学の基本単位—
- 12 原子量・分子量・式量と物質量
- 13 粒子の数・質量・体積と物質量
- 14 液体と溶液
- 15 モル濃度

授業方法：

教科書「化学の基礎」を中心にして、授業計画に示した内容について講述する。さらに適宜、小テストや演習問題を行なう。

達成目標：

- 1 原子・分子や化学結合について理解させる。
- 2 原子量と質量を使って溶液の濃度計算ができるようにする。

評価方法：

授業への取り組み（15%）、小テスト（20%）、期末テスト（65%）

教科書：

中川徹夫「化学の基礎」化学同人, 1,500円

参考書

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A03701	基礎化学 I B	2・3・4	2	片山幸士

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
物質の三態, コロイド溶液, 化学反応	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, グローバルな視野

授業のテーマ：

物質の状態変化とエネルギーとの関係や、物質の化学反応による変化について述べる。

授業の概要：

気体・液体・固体間の変化、また、それぞれの状態のもつ特性について学ぶとともに、コロイド溶液の基礎を理解させる。さらに化学反応についての基本事項を習得させる。

授業の計画：

- 1 物質の三態
- 2 物質の三態変化と熱エネルギー
- 3 気体の状態変化
- 4 気体の状態方程式
- 5 理想気体と実存気体
- 6 溶液（溶解のしくみ）
- 7 溶解度
- 8 希薄溶液の性質
- 9 コロイドとは
- 10 コロイド溶液
- 11 化学反応と核化学反応
- 12 化学反応が起こる，起こらない。
- 13 化学反応式
- 14 化学反応と触媒
- 15 化学平衡

授業方法：

教科書「化学入門」を中心にして、授業計画に示した内容について講述する。さらに、適宜、小テストや演習問題を行なう。

達成目標：

- 1 気体・液体・固体の三態変化や、それぞれの特性について理解させる。
- 2 コロイドやコロイド溶液を理解し、実存する種々の溶液の検証ができるようにする。
- 3 化学反応の量論的關係や、反応の促進に關与する要因について理解させ、化学反応の可否を判断できるようにする。

評価方法：

授業への取り組み（15%）、小テスト（20%）、期末テスト（65%）

教科書：

大野公一ら「化学入門」共立出版，2,000円

参考書

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A03801	基礎化学ⅡA	2・3・4	2	片山幸士

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
有機化学, 天然高分子化合物, 合成高分子化合物	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, グローバルな視野

授業のテーマ：

化学物質の中で、炭素・水素を基本的な構成元素とし、酸素・窒素なども含む物質が有機化学物質に分類されている。この中には、衣食住に関わる物質や、動植物などの生体関連物質が含まれている。有機化学の基礎を学ぶとともに、身近な物質の化学的な理解を深める。

授業の概要：

有機化学物質について、原子・分子の構造に基づいて理解するとともに、身近な衣食住の物質や生体物質と化学との関連について学習する。

授業の計画

- 1 有機化学とは
- 2 脂肪族炭化水素（飽和炭化水素）
- 3 脂肪族炭化水素（不飽和炭化水素）
- 4 酸素を含む脂肪族炭化水素（アルコール）
- 5 酸素を含む脂肪族炭化水素（アルデヒド・脂肪酸）
- 6 芳香族炭化水素
- 7 フェノールと芳香族アミン
- 8 芳香族カルボン酸
- 9 高分子化合物とは
- 10 天然高分子化合物（糖類）
- 11 天然高分子化合物（タンパク質）
- 12 合成高分子化合物（繊維）
- 13 合成高分子化合物（樹脂）
- 14 合成高分子化合物（ゴム）
- 15 まとめ

授業方法：

教科書「化学入門」を中心にし、授業計画に示した内容について講述する。さらに、小テストを行なう。

達成目標：

- 1 有機化学の基礎事項を理解する。
- 2 生体関連物質や合成化学物質の性質や機能を理解する。

評価の方法

授業への取り組み（15%）、小テスト（15%）、期末テスト（70%）

教科書：

大野公一ら「化学入門」共立出版、2,000円

参考書

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A03901	基礎化学ⅡB	2・3・4	2	片山幸士

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
環境, 生命, 生活物質	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, グローバルな視野

授業のテーマ：

人類を取り巻く環境, エネルギー, 食料などの問題を日々の生活の中から取り上げ, 有機化学, 生化学的な観点から考察する.

授業の概要：

生物を構成する物質についての基本的な知識を習得させる. それらの物質と環境, エネルギー, 食料などの諸問題との関連について考察する.

授業の計画：

- 1 有機化学の基礎 (1)
- 2 有機化学の基礎 (2)
- 3 生化学の基礎 (1)
- 4 生化学の基礎 (2)
- 5 糖類の化学 (1)
- 6 糖類の化学 (2)
- 7 糖類の化学 (3)
- 8 糖類の化学 (4)
- 9 糖類の化学 (5)
- 10 アミノ酸とタンパク質 (1)
- 11 アミノ酸とタンパク質 (2)
- 12 アミノ酸とタンパク質 (3)
- 13 脂質の化学 (1)
- 14 脂質の化学 (2)
- 15 脂質の化学 (3)

授業方法：

教科書「化学入門」を中心にし, 授業計画に示した内容について講述する. さらに, 小テストを行なう.

達成目標：

物質や動植物の生命現象を化学の目を通して理解させる. さらに循環型社会への移行との関係についても, 授業計画に挙げた個々の課題の中で検討させる.

評価方法：

授業への取り組み (15%), 小テスト (15%), 期末テスト (70%)

教科書：

大野公一ら「化学入門」共立出版, 2,000円

参考書

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A04001	基礎化学実験 I	2・3・4	2	長井・林

期間	曜日	時限	備考：2 時限連続 履修抽選対象科目
前期	金	3・4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
化学実験 データ処理 レポート作成	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

化学分析の基本である容量分析の技術と知識を習得する。ホールピペット、ビュレット、メスフラスコなどの測容器の使用法、洗浄法を修得するとともに、これらの器具の検定を電子天秤と秤量瓶を用いて行う。その後、中和滴定と酸化還元滴定を行い、技術に加えて、化学量論的な考え方やデータの統計処理の手法を修得する。また、レポート指導を通じて科学論文の書き方を学ぶ。なお後期に行われる基礎化学実験Ⅱを同時に履修すること。

授業の概要：

ガラス器具の検定、中和滴定、酸化還元滴定を行う。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 実験を行うにあたっての諸注意
3. 電子天秤の使用法、ホールピペットの使用法と検定
4. データの統計処理
5. レポート指導
6. ビュレットの使用法と1滴の体積
7. メスフラスコの使用法、シュウ酸標準溶液の調製
8. レポート指導
9. 中和滴定
10. 酸塩基反応の解説、レポート指導
11. 酸化還元滴定
12. 酸化還元反応の解説、レポート指導
13. EDTA 標準溶液の標定
14. キレート滴定を利用したミネラルウォーターの硬度測定
15. キレート滴定の解説、レポート指導

授業方法：

教科書と配布プリントに従って行う。毎回の予習とレポートの提出が必須である。

達成目標：

化学実験の基本的な手法とレポート作成法を習得する。

評価方法：

出席、実験に対する取り組み方とレポートにより評価する。

教科書：

実験書を配布する。

参考文献：

実験・実習・教材費：

実験試薬および消耗品代として 30,000 円の実習費が必要である。
白衣（約 3,000 円）は別途購入が必要。

授業コード	授 業 科 目 名		対象学年	単位数	担当教員名
A04201	基礎化学実験Ⅱ		2・3・4	2	長井・林
期間	曜日	時限	備考 ：2 時限連続 履修抽選対象科目		
後期	金	3・4			
授業のキーワード			人間環境大学が育む八つの能力		
野外観測 水質測定 レポート作成			コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力		

授業のテーマ：

基礎化学実験Ⅰで修得した技術・知識の応用として、環境試料を採取し、その化学分析を行う。測定項目は pH、電気伝導度、溶存酸素量、化学的酸素要求量である。このうち、溶存酸素量と化学的酸素要求量は水質の指標の一つであり、特に時間をかけて実験を行う。
なお、この実験は基礎化学実験Ⅰを履修したことを前提に行う。

授業の概要：

大学近隣のため池で水を採取し、水質測定を行う。

授業の計画：

1. ガイダンス・安全ピペッターの使い方
2. 溶存酸素 (DO) 測定①：DO の固定 (実験室)
3. DO 測定②：DO の測定
4. DO 測定③：レポート指導
5. DO 測定④：採水・DO の固定 (猿田池)
6. DO 測定⑤：DO の測定
7. DO 測定⑥：レポート指導
8. 化学的酸素要求量 (COD) 測定①：シュウ酸ナトリウム標準溶液の調製
9. COD 測定②：過マンガン酸カリウムの標定
10. COD 測定③：猿田池の COD 測定
11. COD 測定④：レポート指導
12. Fe^{3+} の分離と確認
13. Al^{3+} の分離と確認
14. Fe^{3+} と Al^{3+} の分離と確認
15. アルミホイル中に含まれる Fe^{3+} と Al^{3+} の定性分析

授業方法：

教科書と配布プリントに従って行う。毎回の予習とレポートの提出が必須である。

達成目標：

野外観測と水質測定の基本的手法を習得する。

評価方法：

出席、実験に対する取り組み方とレポートにより評価する。

教科書：

実験書を配布する。

参考文献：

実験・実習・教材費：

実験試薬および消耗品代として 30,000 円の実習費が必要である。
白衣着用のこと。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A04401	西洋史概説A	2・3・4	2	大橋真砂子

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
宗教、キリスト教、政治、文化	グローバルな視野

授業のテーマ：

西洋の歴史といっても、時代や国、地域によってその内容は様々です。また、政治史のみならず、社会史や文化史など、多様な角度から過去を検討することも可能です。この授業では、現代に至るヨーロッパ文化の根底に流れている宗教が、どのような経緯を辿ったかを探っていきます。

授業の概要：

古代から近世にかけてのヨーロッパの歴史を概観しながら、宗教（特にキリスト教）が政治や社会にどのような影響を及ぼしたかを考察します。

授業の計画：

1. イントロダクション
2. 古代における多神教（1）
3. 古代における多神教（2）
4. ユダヤ教
5. キリスト教の成立
6. キリスト教の迫害
7. ローマ帝国におけるキリスト教公認とその影響
8. キリスト教と聖書
9. 中世初期におけるキリスト教の拡大
10. 中世カトリック教会（1）
11. 中世カトリック教会（2）
12. 宗教改革とその影響（1）
13. 宗教改革とその影響（2）
14. 近代における科学と宗教
15. まとめ

授業方法：

適宜プリント等を利用しながら講義形式で行います。

達成目標：

ヨーロッパの歴史の流れ、および宗教についての基本的な知識を獲得することを目標とします。

評価方法：

レポート（20%）と期末試験（80%）で評価します。

教科書：

使用しません。

参考文献：

授業中に適宜紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A04501	西洋史概説B	2・3・4	2	大橋真砂子

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
医学、病い、癒し、社会	グローバルな視野

授業のテーマ：

西洋の歴史といっても、時代や国、地域によってその内容は様々です。また、政治史のみならず、社会史や文化史など、多様な角度から過去を検討することも可能です。この授業では、過去のヨーロッパ社会における病いや癒しのあり方に焦点を当てながら、西洋医学の変遷をたどります。

授業の概要：

古代から近代にかけてのヨーロッパの歴史を概観しながら、病気とその治療の文化がどのように変化したかを考察します。

授業の計画：

1. イントロダクション
2. 古代ギリシアの医学（1）
3. 古代ギリシアの医学（2）
4. 古代ローマの社会と医術
5. キリスト教と治癒奇跡
6. 「病い」としての罪
7. 中世初期の社会と医術
8. 中世盛期におけるアラビア医学の影響
9. 医学校から大学医学部へ
10. 中世における貧者と病者
11. 黒死病の大流行
12. 近代医学（1）
13. 近代医学（2）
14. 現代社会におけるクオリティ・オブ・ライフと医学
15. まとめ

授業方法：

適宜プリント等を利用しながら講義形式で行います。

達成目標：

ヨーロッパの歴史の流れ、および治療文化についての基本的な知識を獲得し、現代医学の問題点についても自分なりに考えることを目標とします。

評価方法：

レポート（20%）と期末試験（80%）で評価します。

教科書：

使用しません。

参考文献：

授業中に適宜紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A04601	基礎生物学A	2・3・4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
細胞、呼吸、光合成、生殖、遺伝子	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

基本的な生命活動の体系的理解。

授業の概要：

細胞内のミクロなレベルで行われている生命活動の基本的なメカニズムについて学ぶ。

授業の計画：

- 1～2. 細胞の作りと働き
- 3～5. 呼吸
- 6～8. 光合成
- 9～10. 生殖と世代交代
- 11～13. 遺伝子
- 14～15. 様々な生命活動

授業方法：

板書を中心とした講義。資料を適宜配布。

達成目標：

代謝活動や自己複製といった基本的な生命現象の科学的機構についての理解を深める。

評価方法：

試験（100％）による。

教科書：

鈴木孝仁（監修）、「視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録改訂版」、数研出版、880円（税別、各自で購入のこと）。

参考文献：

- 1) 石川統, 「生物学入門」, 東京化学同人, 2,200円.

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A04701	基礎生物学B	2・3・4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：この科目の履修を希望する者は、Aを履修していることが望ましい。
後期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
気候と植生、遷移、生態系、個体群	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

生態系の体系的理解。

授業の概要：

生態系における物質循環、群集構造、生物間相互作用、個体群動態について学ぶ。

授業の計画：

- 1～2. 遷移と森林類型
- 3～5. 気候と植生
- 6～8. 物質生産と生態ピラミッド
- 9～10. 適応度
- 11～13. 共進化と送粉共生系
- 14～15. 個体群増加モデル

授業方法：

板書を中心とした講義。資料を適宜配布。

達成目標：

生物間の相互作用を基軸に、生態系の成り立ちについての理解を深める。

評価方法：

試験（100％）による。

教科書：

鈴木孝仁（監修）、「視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録改訂版」、数研出版、880円（税別、各自で購入のこと）。

参考文献：

- 1) 日本生態学会（編）、「生態学入門」、東京化学同人、2,800円（税別）。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A05601	キャリアデザイン I (基礎編)	2・3・4	2	樋口・三井

期間	曜日	時限	備考:
前期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
キャリア形成、自己理解、仕事理解、将来設計、キャリア選択	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力 (意思決定力)、グローバルな視野

授業のテーマ:

キャリアデザインとは、将来の働き方をデザインすることであり、これからの生き方をデザインすることでもあります。社会が大きく転換している今、就職・進学を問わず、その環境は目まぐるしく変化しています。本授業では、さまざまな演習を通じて、社会や自分を取り巻く環境をしっかりと見つめ、「自分らしさ」「自分の強みや課題」「自分の理想とする将来像」などを発見することを目標とします。

授業の概要:

キャリアデザインの基礎編として、低学年の早期段階からキャリアデザインを描くために必要な考え方や方策を学びます。具体的には、社会経済の動向をふまえた「仕事理解」と、自分の個性、興味・関心、欲求・動機、価値観、適性といった「自己理解」の両方を推し進め、将来のキャリア選択に備えます。

授業の計画:

1回	21世紀に求められる人材像	9回	自己理解⑤「職業興味と適性」
2回	キャリア形成に必要な基本的資質	10回	仕事理解①「業界・企業・職種の研究」
3回	社会経済動向とキャリア形成の必要性	11回	仕事理解②「さまざまな働き方」
4回	キャリア形成の体系とそのプロセス	12回	仕事理解③「ビジネス基礎能力」
5回	自己理解①「キャリア形成と発達課題」	13回	目標設定①「自分のキャリアモデル」
6回	自己理解②「自分史作り: ライフ・ライン・チャート」	14回	目標設定②「目指すキャリアビジョン」
7回	自己理解③「未来予想図: ライフ・キャリアの虹」	15回	目標設定③「意思決定のあり方」
8回	自己理解④「ライフ・キャリアの価値観」		

授業方法:

講義と演習を交えて展開します。講義は、基本的にテキストを使って進めます。演習は、個人ワークとグループセッションの二本立てで進めます。まずは、個人ワークで自分なりの考えをまとめます。つぎに、グループセッションで各自の考えを交換し、互いに学び合います。

達成目標:

『キャリア関連の理論を理解したうえで、自らのキャリアデザインを描く』こと。

評価方法:

授業の取り組み: 50%、課題・演習: 50%

キャリア関連の理論を駆使して、完成度の高いキャリアデザインができる・・・S

キャリア関連の理論を部分的に活用して、キャリアデザインができる・・・A

キャリア関連の理論を使いながら、キャリアデザインの一部ができる・・・B

キャリア関連の理論や学術用語を説明できる・・・C

Cのレベルに達していない・・・D

教科書:

樋口貴子著 『キャリアの形成』 (株)キャリアデザイン (1,500円) ※最初の授業内で販売します。

参考文献:

授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費:

なし。 ※教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布します。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A05801	キャリアデザインⅡ（応用編）	3・4	2	樋口・三井

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
キャリア開発、職業人意識、社会人常識、ビジネスマナー、仕事の基本	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力（意思決定力）、効果的な社会参加

授業のテーマ：

間近に迫る「卒業・就職」という節目を前に、将来の自分の活躍する姿を見据えながら、自分にとって働く意義・働く意味とは何かを考え、社会人・職業人としての意識を醸成します。また、ビジネスパーソンとして仕事を円滑に進めるために必要な常識や仕事の基本について理解を深めます。さらに、さまざまな演習を通じて、ビジネスマナーの習得を目指します。

授業の概要：

キャリアデザインの応用編として、実践的なキャリア開発を進めます。まずは、社会人・職業人として求められる基本姿勢や、仕事の進め方についてケーススタディを交えて学びます。また、ビジネスパーソンとしての予備知識やマナーを身に付けます。就職希望者はぜひ受講してください。

授業の計画：

1回	職業観・勤労観	9回	立居振舞い、挨拶
2回	職業人（プロフェッショナル）意識	10回	言葉遣い（敬語）、話し方
3回	組織で必要とされる基本姿勢	11回	電話応対
4回	キャリア展望を考える①	12回	ビジネスメール、手紙の書き方
5回	キャリア展望を考える②	13回	訪問のマナー
6回	適職探索と職業研究	14回	指示の受け方、報告・連絡・相談
7回	ライフイベントを考える	15回	仕事の進め方（PDCAサイクル）
8回	身だしなみ、勤怠のマナー		

授業方法：

講義と演習を交えて展開します。講義は、基本的にテキストを使って進めます。演習は、個人ワークとグループセッションの二本立てで進めます。まずは、個人ワークで自分なりの考えをまとめます。つぎに、グループセッションで各自の考えを交換し、互いに学び合います。

達成目標：

『ビジネスパーソンとしての基本的なキャリア開発と、自らのキャリアデザインができる』こと。

評価方法：

授業の取り組み：50%、課題・演習：50%
 完成度の高いキャリア開発と自らのキャリアデザインができる・・・S
 部分的なキャリア開発とキャリアデザインができる・・・A
 一部のキャリア開発とキャリアデザインができる・・・B
 基本的なキャリア開発を理解している・・・C
 Cのレベルに達していない・・・D

教科書：

樋口貴子著 『就職スキル・マインド準備』、『就職スキル・ビジネスマナー』（有）キャリアサポーター（2冊セットで1,500円） ※最初の授業内で販売します。

参考文献：

授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

なし。 ※教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布します。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A06001	キャリアデザインⅢ（実践編・インターンシップ）	2・3・4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：この科目は、事前にガイダンスを実施したうえで履修登録を確定させます。後日、別途期間を定めて追加履修登録を受付けます。
前期	集中	8～9月	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション能力、協調性、責任感	コミュニケーション力、問題解決力、社交性

授業のテーマ：

就労体験を通して、仕事に関する知識・理解を深め、自己の適性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力・態度を養成します。

授業の概要：

この授業では、自らのキャリアデザインの一環として、企業や団体で将来のキャリアに関する就業体験（約2週間）を行い、事後にレポート提出と報告会を実施します。なお、希望者多数の場合は、希望する企業や団体でのインターンシップができない場合があります。また、この授業の受講を希望する場合は「キャリアデザインⅡ（応用編）」を受講することが望まれます。

授業の計画：

（スケジュール予定）

- 5月 事前ガイダンス
- 8, 9月 インターンシップ実習
- 9月 レポート提出
- 10月 報告会

（インターンシップ実施予定企業・団体）

伊良湖ガーデンホテル、カリモク、物語コーポレーション、ラグーナ蒲郡、中部日本広告、ネットヨタ東名古屋、岡崎市役所、岡崎商工会議所

授業方法：

企業や団体ごとに方法は異なりますが、それぞれの実習先で就業体験します。

達成目標：

職場の人と適切なコミュニケーションがとれ、主体的に仕事をこなす。

評価方法：

受け入れ企業・団体からの評価、レポートなどから総合的に判断します。

- 職場の人と適切なコミュニケーションがとれ、主体的に仕事ができ、事後報告もきちんとできる……………S
- あまり主体的には仕事ができなかったが、職場の人と適切なコミュニケーションがとれ、事後報告もきちんとできる……………A
- 職場の人と適切なコミュニケーションがとれたが、事後報告があまりできていない……………B
- 適切なコミュニケーションがとれず、事後報告もあまりできない……………C
- 上記のレベルに達していない……………D

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A06101	ビジネスコミュニケーション	2・3・4	2	樋口・三井

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション能力、情報伝達、意見主張、意見集約、プレゼンテーション	コミュニケーション力、社交性（社会的相互関係力）、効果的な社会参加

授業のテーマ：

将来、ビジネスパーソンとして社会で活躍するためには、専門知識や業務処理能力だけでなく、ビジネスを円滑に進めたりするうえで必要不可欠な「相手の話を正しく理解し、自分の意思を正しく伝達し表現する」といった意思疎通をはかるコミュニケーション能力が必要です。本授業では、ビジネスコミュニケーション能力の基本から実際までを理解したうえで、実践的なスキルの習得を目標とします。

授業の概要：

就職（採用選考）にあたって最も重視される「コミュニケーション能力」とは何かを理解したうえで、ビジネスシーンを想定したケーススタディやロールプレイングを通じて、実際の場面で活用できるビジネスコミュニケーションを身に付けます。就職希望者はぜひ受講してください。

授業の計画：

1回	ビジネスコミュニケーションとは	9回	アサーショントレーニング
2回	話し方と聞き方の基本「他者紹介に挑戦」	10回	意見集約のスキル
3回	ノンバーバルスキルとバーバルスキル	11回	コンセンサストレーニング
4回	効果的な話し方トレーニング	12回	相手の尊重、人間関係の常識、チームワーク
5回	質問のスキル	13回	プレゼンテーションの企画、設計
6回	効果的な聞き方トレーニング	14回	プレゼンテーションのコンテンツ制作
7回	情報伝達のスキル	15回	プレゼンテーションの実施
8回	意見主張のスキル		

授業方法：

講義と演習を交えて展開します。講義は、基本的にテキストを使って進めます。演習は、個人ワークとロールプレイを中心としたグループワークの二本立てで進めます。

達成目標：

『ビジネスコミュニケーションスキルを身に付け、実際の場面に活用できる』こと。

評価方法：

授業の取り組み：50%、課題・演習：50%
 さまざまな場面で、完成度の高いビジネスコミュニケーションスキルが活用できる・・・S
 限定された場面で、ビジネスコミュニケーションスキルが活用できる・・・A
 一部のビジネスコミュニケーションスキルが使える・・・B
 ビジネスコミュニケーションの基本を理解している・・・C
 Cのレベルに達していない・・・D

教科書：

樋口貴子著 『就職スキル・コミュニケーションスキル』 (有)キャリアサポーター (1,000円)
 ※最初の授業内で販売します。

参考文献：

授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

なし。 ※教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布します。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A06601	基礎ゼミナールA	2・3・4	1	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
前期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
スタディ・スキルズ、基礎学力、コミュニケーション、	分析・総合の思考力と判断力、コミュニケーション力、社交性

授業のテーマ：

基礎ゼミナールは必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な基礎的な技能や、知的探求心を鍛錬することを目的としています。このクラスは、1年次に何らかの理由で単位修得ができなかった者を対象にしています。1年次生は履修できません。

授業の概要：

- ①基礎ゼミナールは、A（前期）とB（後期）に区分され、両科目は必修科目です。
- ②この授業は、1年次に基礎ゼミナールAの単位修得ができなかった者を対象にしています。すでに基礎ゼミナールAの単位を修得した者は基礎ゼミナールBから履修します。
- ③基礎ゼミナールAは、共通テキスト『知へのステップ』を使用して、ノート・テイキング、文献調査、レポート作成、プレゼンテーションなど大学で必要な基礎的技法を学びます。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. スタディ・スキルズとは
3. ノート・テイキング
4. 概要・要点を読みとる
5. 要約文を作る
6. 要約から感想・意見を書く
7. 文献調査の基礎①
8. 文献調査の基礎②（図書館の利用の仕方）
9. レポートを書くために
10. レポートをわかりやすくする ①
11. レポートをわかりやすくする ②
12. プレゼンテーションの準備をする
13. わかりやすいプレゼンテーションのために①
14. わかりやすいプレゼンテーションのために②
15. まとめ

授業方法：

講義形式と演習形式で進めます。必要に応じてスライド・プリント等の資料を用いて解説します。

達成目標：

大学の勉強に必要な基礎学力、基礎的スキルを修得し、学習意欲と知的探求心を養う。

評価方法：

授業の取り組み（ワークシートの作成、討議参加など）を総合的に評価します。

教科書：

『知へのステップ』（くろしお出版）

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A06701	基礎ゼミナールB	2・3・4	1	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
問題意識、知的探求心、テーマの発見、ディスカッション	分析・総合の思考力と判断力、コミュニケーション力、社交性

授業のテーマ：

基礎ゼミナールは必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な基礎的な技能や、知的探求心を鍛錬することを目的としています。このクラスは、1年次に何らかの理由で単位修得ができなかった者を対象にしています。1年次生は履修できません。

授業の概要：

- ①この授業は、1年次に基礎ゼミナールBの単位修得ができなかった者を対象にしています。
- ②基礎ゼミナールBは、現代的な教養や社会問題、問題の発見と解決、創造と発想、調査研究の方法など幅広い分野を取り上げ、基礎ゼミナールAで学んだ技法等を応用しながら、学問に対する知的探求心を養います。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 問題の発見と解決の方法①
3. 問題の発見と解決の方法②
4. 自主テーマ設定
5. プレゼンテーション①
6. プレゼンテーション②
7. KJ法①
8. KJ法②
9. 自主調査の中間報告①
10. 自主調査の中間報告②
11. 特性要因図法①
12. 特性要因図法②
13. 特性要因図法③
14. 自主調査の最終報告①
15. 自主調査の最終報告②

授業方法：

講義形式と演習形式で進めます。必要に応じてスライド・プリント等の資料を用いて解説します。

達成目標：

大学に必要な基礎学力、基礎的技能を修得し、学習意欲と知的探求心を養う。

評価方法：

授業の取り組み（作図の作成、討議参加、自主調査の取り組みなど）を総合的に評価します。

教科書：

特に指定なし。

参考文献：

川喜田二郎『発想法』（中公新書）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A07001	法律学	2・3・4	2	松村修平

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
法、責任、解釈	コミュニケーション力、問題解決力、価値判断力

授業のテーマ：

私たちの市民生活は法律と密接に関係しています。この授業では、法律を初めて学ぶ人を対象に、民法、刑法など、法律の基礎的な知識を習得するとともに、法的な考え方を身につけることにより、皆さんが生活を送る上で直面するであろう様々な問題に対し、自ら考え対処する能力を養っていただきたいと思ひます。

授業の概要：

民法、刑法など、基本的な法律について、具体的な事例を用いながら平易に説明します。

授業の計画：

- 1 インTRODダクシヨN
- 2 刑事法総論
- 3～6 刑事法各論
- 7 民事法総論
- 8～11 財産法各論
- 12～13 家族法各論
- 14 公法概論
- 15 前期の復習

※なお、刑事法各論の講義の一環として、名古屋地方裁判所岡崎支部にて刑事裁判見学（傍聴）を実施する予定です。スケジュールがあれば裁判員裁判を傍聴の対象とします。刑事裁判見学は、講義の曜日・時間とは異なる日時で実施することになるので、日時については事前に連絡をします。

授業方法：

講義が中心ですが、なるべく具体的な事例を用いて、受講生にわかりやすく、親しみやすい授業内容を目指します。

達成目標：

法律の基礎的な知識の習得を目指します。

評価方法：

期末試験の成績と授業への取り組みを 1:1 として評価します。

教科書：

「はじめての法律学 HとJの物語」（第3版）有斐閣
六法（何でもよいが、憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法が掲載されているもの）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A07101	日本国憲法	2・3・4	2	松村修平

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
個人の尊厳、人権、民主主義	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、効果的な社会参加

授業のテーマ：

憲法は、すべての法律の基礎となり、わが国の社会の基盤を支える重要な法律ですが、堅苦しいイメージがあるため、自分には関係がないと思っている方も少なくないかもしれません。しかし、実際には、我々の生活は憲法と密接に関わっています。そこで、この講義を通じて、少しでも憲法や人権を身近なものとして感じてもらいたいと考えています。

授業の概要：

憲法について、具体的な事例を用いながら平易に説明します。

授業の計画：

- 1 イン트로ダクション
- 2 憲法の基本原理
- 3～10 人権各論
- 11 統治機構概論
- 12 権力分立
- 13 国会、内閣
- 14 裁判所
- 15 後期の復習

授業方法：

講義が中心ですが、なるべく具体的な事例を用いて、受講生に親しみやすい授業内容を目指します。

達成目標：

憲法の基礎的な知識の習得を目指します。

評価方法：

期末試験の成績と授業への取り組みを 1:1 として評価します。

教科書：

「立憲主義と日本国憲法」(第2版) 高橋 和之(著) 有斐閣

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A07301	日本史概説	2・3・4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
歴史観、日本史知識	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、グローバルな視点

授業のテーマ：

高校時代までに学んだ歴史知識の確認を第一として、古代から現在までの我が国の歴史を広い視点から学ぶ。また、周辺諸国や世界の動向との関係も意識し、我が国が如何なる発展をしてきたかを考え、現在の我が国がどのような理由で形成されているのかを理解する。

授業の概要：

日本史の基本的知識、その関連知識、また、やや専門的な知識を習得し、プリント等でそれぞれを確認する。そして、日本史全体を理解できるようにする。

授業の計画：

- 1 日本のあけぼの
- 2 大和政権の成立
- 3 東アジア情勢と古代国家の成立
- 4 律令国家の変質と摂関政治
- 5 武家社会の形成
- 6 蒙古襲来と武家社会の転換
- 7 下克上と戦国大名
- 8 幕藩体制の確立
- 9 幕政の安定と町人の活動
- 10 幕藩体制の動揺
- 11 幕末の動乱と明治維新
- 12 近代国家の成立と明治立憲制の形成
- 13 日清・日露戦争と帝国主義的發展
- 14 日本をめぐる内外情勢
- 15 「大東亜戦争」と戦後日本

授業方法：

講義形式を中心とする。同じ時間内に、プリント等により、講義内容の確認作業を行う。

達成目標：

日本史に関する基本的かつやや専門的知識を獲得し、バランスのとれた歴史観の確立をめざす。

評価方法：

期末試験（100％）による。

教科書：

『もういちど読む山川日本史』山川出版社、2009年

参考文献：

講義の中で折々に紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A07401	アジアの歴史	2・3・4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
理解、尊重、読み書き	グローバルな視野

授業のテーマ：

グローバルな視野の育成をテーマとして、アジアの歴史を取り上げる。

授業の概要：

基本的な知識とそれに関連するやや専門的な知識を習得する。

授業の計画：

以下の予定だが、進度・内容は変更することがある。

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. 文明の起源 | 2. 古代アジア (1) ヘレニズム・インド |
| 3. 古代アジア (2) 中国・内陸アジア | 4. 中世東アジア (1) 中国貴族社会 |
| 5. 中世東アジア (2) 中華帝国の繁栄 | 6. イスラーム (1) イスラーム世界の成立 |
| 7. イスラーム (2) イスラーム文化の発展 | 8. 近代アジアの変動 (1) 西アジア諸国 |
| 9. 近代アジアの変動 (2) インド・東アジア | 10. 帝国主義の時代 |
| 11. 世界大戦とアジア (1) 民族運動 | 12. 世界大戦とアジア (2) 各国の情勢 |
| 13. 現代のアジア (1) 冷戦 | 14. 現代のアジア (2) 多元化 |
| 15. まとめ | |

授業方法：

講義形式。

達成目標：

グローバルな視野のうち、特に基礎的知識の理解・尊重の能力を習得する。

評価方法：

試験 (80%) と授業への取り組み (20%) により行う。

- S…理論を駆使して完成度の高い独自のグローバルな視野を持つことができる
- A…理論を部分的に活用してグローバルな視野を持つことができる
- B…理論を使いながら出来事の分析ができる
- C…理論や用語を説明できる
- D…Cのレベルに達していない

教科書：

特に定めない。

参考文献：

高校で使用した「世界史」の教科書、図録など資料集。

実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09101	海外大学単位互換科目B	2・3・4	2	文野・花井

期間	曜日	時限	備考
前期	集中	8～9月	準備期間 H24年4月下旬～研修期間直前 研修期間 H24年8月下旬～9月初旬(予定) ※この授業については、履修登録期間中には登録は行わず、事前説明会を行った上で、別途期間を定め履修登録を行います。

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学生主体、協働学習、異文化間交流、リーダーシップ	コミュニケーション力、問題解決力、グローバルな視野

授業のテーマ：

1. 「獲得型」学習。学生各自が、主体的かつ積極的に活動に参加し、知識・能力を獲得する。
2. 価値観や母語の異なる他者と共に学び合う活動を通して、他者理解だけでなく自己理解を深める。

授業の概要：

この科目は、本学と海外の大学が結んだ単位互換協定にもとづいて実施されるものです。本学の学生が当該科目を履修した場合、修得した科目の単位は2科目（2単位×2ヵ年＝4単位）まで本学の『全学共通基礎科目』の科目として卒業要件単位に算入できます。

授業の計画：

＜研修内容＞

台湾の大学から教員と学生が研修に参加する予定です。テーマ等は、先方の大学と話し合いの上決定します。過去のテーマは、「まちづくり」、「コミュニティづくりと言語管理」、「現代の世相に見る日本の社会」などです。各チームは、台湾の学生と本学の学生で混成グループを作ります。グループ編成は、事前のインターネット上のやりとりを通じて台湾の学生の来日前に行われます。

使用言語は、日本語を基本とします。台湾の学生は外国語である日本語でコミュニケーションをしなければなりません。日本人の学生には、語学面からの支援や意思疎通が円滑に進むよう気を配るなどの役割が求められます。グループの研究課題決定から活動計画、研究発表に至るまで学生が主体となる行いう実習・演習タイプの科目であり、来日した学生との協働の研修であるので、台湾の学生が活動している間日本人学生は全ての過程においてリーダーとして参加することが期待されます。

＜研修前の活動＞

- 1) インターネットを通して台湾の学生とやりとりを行います。
- 2) インターネット上の議論に参加します。

週一回程度 日本人側の勉強会、受け入れ準備のための話し合いを行います。

＜研修期間中の活動＞

合宿、あるいはホームステイの形態で宿泊をし、台湾の学生と24時間寝食を共にします。日中は、グループごとにフィールドに行き、必要な調査を行ったり調査結果をまとめたりします。夜は、全体会議でその日の報告をします。最後に、成果を公開で発表します。

＜本学学生の応募条件＞

1. 責任ある態度で主体的かつ積極的な参加ができること。
2. 異文化交流に関心がある者。
3. インターネットでの交信が可能なこと。（学内PC利用も含む）

＜募集定員＞ 30名

授業方法：

学外のフィールドに出て、調査研究を行う。

達成目標：

主体的に活動に参加することを通して、広い視野、責任感、自主性、コミュニケーション力、リーダーシップ等社会人に求められる能力を身につける。

評価方法：

準備期間および研修期間中の参加状況、グループへの貢献度、発表などを総合的に評価する。

準備期間の貢献度	10%
グループ演習（グループでの討論、フィールドでの協働作業）	25%
講義・活動報告（講義・フィールドの報告会）	25%
口頭発表（グループ毎にPPTを用いて発表）	30%
報告書作成	10%

教科書：

なし

参考文献：

実験・実習・教材費：

なし

※なお、海外からの学生が来日しないなど交流行事そのものが実施されない場合、本科目は不開講となります。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09301	異文化間コミュニケーション	2・3・4	2	岡良和

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
言語、社会、文化	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

人間と言語や文化は密接な関係にある。この授業では受講生に人間と言語とのかかわりを考え、それがどのように文化に反映されているのかを探ってもらう。このように言語を通して人間の思考や文化を考えるための研究方法を紹介し、言語とは何かを考えてもらい、言語研究が人間や文化の研究につながることを理解してもらう。

授業の概要：

世界の多様な言語と文化を比較する視点の紹介。言語や文化をグループに分けることの可能性。社会方言、人種方言、地方方言、などの言語のバリエーションと文化の関係。ことばの習得は文化の影響を受けるのか。ことばによらないコミュニケーションと文化。などの話題を扱う。

授業の計画：

1～3回	世界の言語と文化 世界の言語と文化の多様性 比較言語学と比較文化学 言語類型論と文化類型論	10～12回	ことばによらないコミュニケーションと文化 非言語コミュニケーションの研究分野 非言語コミュニケーションと文化 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
4～6回	ことばと社会と文化 ことばと文化の多様性 ことばの社会的変種と文化 ことばの場面的変種と文化	13～14回	ことばの意味と運用 意味論と語用論 語の意味 意味の広がり
7～9回	ことばとことばと文化 ことばの習得と文化 ことばと脳と文化 ことばと認識と文化	15回	まとめ

授業方法：

テキストを利用して解説した後、受講生に資料を分析してもらい、これを講評する。理解度を高めるため、各回の授業終了時に10分程度の課題に取り組んでもらう。

達成目標：

言語の体系を自ら分析することで、人間と言語や文化の関係を理解し、説明できること。

評価方法：

前期末の試験（70％程度）と授業への取り組み（30％程度）により行う。

- 理論を駆使して完成度の高い独自の分析ができる…S
- 理論を部分的に活用して分析ができる……………A
- 不十分ながら理論を使い分析ができる……………B
- 理論や学術用語を説明できる……………C
- Cのレベルに達していない……………D

教科書：

石黒昭博他『現代の言語学』金星堂 3,675円

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09401	政治学	2・3・4	2	岡田宏太郎

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
自民党、民主党、政治改革、財政危機、官僚、構造改革、政権交代	分析・総合の思考力と判断力、美的感受性

授業のテーマ：

日本の政治は、長期にわたる自民党一党優位の時代が終り、連立政権の時代を迎え、09年には、民主党を中心とする新政権が誕生した。このような流れを概観しながら、日本の政治の基本的仕組みと問題点、改革の課題等について理解していく。

授業の概要：

まず、そもそも政治の仕組みをとらえるとはどのようなことかを論じ、これに基づき、自民党政権時代の仕組みと問題点、どのように政権交代が実現したのかを解説し、さらに、現在の日本の政治と行政の改革の課題等に言及していく。なお、政治情勢の変動により、内容の一部を変更する場合がある。

授業の計画：

1. ビデオを使ったイントロダクション (1)
2. ビデオを使ったイントロダクション (2)
3. 自民党の内部構造
4. 選挙制度と自民党
5. 族議員と「鉄の三角形」
6. 保守本流路線と日本の経済成長
7. 政治における「右」と「左」
8. 旧社会党(社民党)の衰退と今日の民主党
9. 国会の機能の問題点
10. 国家財政の危機
11. 1990年代の「政治改革」
12. 官僚制の諸問題
13. 小泉内閣の「構造改革」
14. 民主党政権の成立
15. 予備日・まとめ

授業方法：

講義ですが、最初の二回はビデオも使用し、日本の政治をテーマにした映画を参考にしながら授業をすすめていきます。

達成目標：

大学で学ぶ政治学について、基礎的レベルの理解を得る。
日本の政治に関する新聞、テレビ等の報道を、自分なりに理解し、考えていけるようになる。

評価方法：

期末に行う試験により評価します。欠席が多いと失格になる場合があります。

教科書：

使用しません(授業中にノートをとることが必須です)。

参考文献：

授業の中で適宜指示します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A40101	現代人のこころ	2	2	芳賀・三後

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
現代社会 こころ 心理学	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

われわれは日常生活において心に関係するさまざまな現象や問題に遭遇している。この授業では、それらの現象や問題を扱った心理学の代表的な研究を紹介し、心理学という学問がいかなる方法を用いて心にアプローチしていくのかについて考えていく。

授業の概要：

前半は、主に実験心理学の立場から、知覚、認知、生理、心の進化といった問題を扱った研究を紹介し、心に対する科学的アプローチの実際を理解する。後半は、発達、社会、動機づけ、臨床、キャリア発達などの分野におけるさまざまな研究を概観し、代表的な心理学研究法について理解を深める。

授業の計画：

前半

- 1) ガイダンス・心とは何か？
- 2) 眼は心の窓にすぎない
- 3) 考えることの不思議
- 4) 心と身体の関係
- 5) ヒトの心と動物の心（1）
- 6) ヒトの心と動物の心（2）
- 7) ロボットは心をもつことができるか？（1）
- 8) ロボットは心をもつことができるか？（2）

後半

- 9) ガイダンス・私たちの心の成長とは
- 10) 「出会い」と「かかわりあい」の心理学
- 11) 「迷惑」と「共感」の心理学
- 12) 「やる気」の心理学
- 13) 「心の健康」と心理学
- 14) 「キャリア」をデザインする心理学
- 15) 心理学の学びを活かすには

授業方法：

各回のテーマについてプリント資料や映像資料を用いながら説明し、その後に意見発表や討論を行う。そしてそれらの内容をもとにしてレポートを作成・提出してもらう。

達成目標：

大学で心理学を専門的に学ぶために必要な問題意識と基礎知識、専門的な立場から心の問題に取り組むための実践力の基礎を身につける。

評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、レポートの成績（約70%）と意見発表や討論の内容を含む授業態度（約30%）により評価する。

教科書：

なし

参考文献：

海保博之著 『心理学ってどんなもの』 岩波ジュニア新書 427 740円
 藤本忠明・東正訓 編著 『ワークショップ大学生生活の心理学』 ナカニシヤ出版 2,000円＋税

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A10801	スポーツ実習 (1) A	2・3・4	1	菅原太

期間	曜日	時限	備考：10月6日、7日および11月3日、4日に授業が行われます。
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
奈良 長谷 室生 当尾	社交性 効果的な社会参加 美的感受性

授業のテーマ：

文化財や風土を観照しつつトレッキングをおこない、地域の自然環境と伝統文化にふれる。

授業の概要：

集中授業として、10月6日(土)7日(日)に奈良公園周辺・当尾(とうの)、11月3日(土)4日(日)に山辺の道・長谷・室生の計2回、1泊2日の日程でトレッキングしながら寺社を巡る。

授業の計画：

秋の集中授業であるが、準備の為前期授業の内、前期第1回授業日(4月)に授業の概要説明を行う。さらに、前期13～15回目の授業日(7月)に説明会を開き、宿泊施設の予約とその部屋割りなどを決める。詳細な行程は最終授業日に配布する。

*これらの授業に事前連絡無く欠席した者は集中授業には参加できない。

授業の計画(集中授業)：

第1回：奈良公園・当尾

1日目：近鉄奈良駅集合後、奈良公園周辺をトレッキング(東大寺戒壇堂→法華堂→春日大社→新薬師寺→白毫寺→奈良町)。奈良市で宿泊。

2日目：バスで岩船寺口へ。当尾をトレッキング(浄瑠璃寺、岩船寺を含む石仏巡り)。近鉄奈良駅解散。

第2回：山辺の道・室生・長谷

1日目：近鉄長谷寺駅集合。山辺の道をトレッキング(近鉄天理駅→石上神宮→長岳寺→近鉄柳本駅)。長谷の旅館で宿泊。

2日目：長谷寺周辺と室生寺周辺のトレッキング。近鉄長谷寺駅解散。

*コースと日程は、24年度の授業日、受講者の都合・人数、天候その他の理由で3泊4日の一回に変更する可能性あり。

授業方法：

寺社・史跡を徒歩で巡り(1日10kmくらい)、レポートを作成。

達成目標：

地域文化と自然に親しみながら、都市生活で鈍化しがちな身体と感覚器官を活性化させ、健康増進を図る。

評価方法：

授業への取組み80%、レポート20%。

教科書：

石井亜矢子『仏像の見方ハンドブック』池田書店 998円

参考文献：

田中英道『法隆寺とパルテノン』祥伝社 1,800円

実習費：

宿泊費は1人1泊4～6千円くらい。現地集合・解散の為、交通費は乗車駅や交通機関などで異なる(家からの往復その他で8～9千円くらい)。その他、寺社拝観料(1社寺につき300～500円)が必要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A10901	スポーツ実習 (1) B	2・3・4	1	菅原太

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
三十三所観音 法蔵寺 山林 石仏	分析・総合の思考力と判断力 社交性 美的感受性

授業のテーマ：

文化財や自然の風土を観照しつつトレッキングをおこない、自然環境と地域文化に触れる。

授業の概要：

本宿旧街道沿いにある法蔵寺の裏山の石仏を、トレッキングしながら調査。

授業の計画：

1. 日本の仏教美術についての講義。
2. 三十三所観音の成り立ちについての講義。
3. 仏像の見分け方の講義。
- 4～14. 法蔵寺三十三所観音のフィールド調査。
15. まとめ

*天候により変更あり。

授業方法：

法蔵寺裏山のフィールド調査をおこない、そこにある三十三体の観音像の図像的特徴を観察し、観音名を当てるゲーム形式。

達成目標：

地域文化と自然に親しみながら、都市生活で鈍化しがちな身体と感覚器官を活性化させ、健康増進を図る。

評価方法：

授業への取組み 70%、三十三ヶ所観音調査レポート提出 30%。

教科書：

石井亜矢子『仏像の見方ハンドブック』池田書店 998 円

参考文献：

実験・実習・教材費

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A11401	スポーツ実習 (4) A	2・3・4	1	永田恵理

期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
前期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
スポーツを楽しむ、体力づくり、基本技術の習得、仲間作り	コミュニケーション力、社交性 (社会的相互関係力)

授業のテーマ：

卓球を行うことで、運動不足解消や体力向上を目指す。さらに、基礎練習やゲームを通じて体を動かす爽快感や新しい仲間を作り活動するなど、スポーツをする楽しさを実感できると良い。

授業の概要：

卓球は誰もが気軽に行えるスポーツであるので、更に技術を身に付けることで、体力差や男女差に関係なくゲームを楽しめると良い。また、基礎練習やゲームを行う中で、他の受講生とコミュニケーションをとり、親交を深める場になると良い。

授業の計画：

- (1) 基礎練習 (フォアハンド、バックハンド、ドライブ、ツッツキ、スマッシュ、サーブ)
- (2) 応用練習 (基礎練習を複合させた練習)
- (3) シングルスゲーム (ルール、ゲームの流れの学習)
- (4) ダブルスゲーム (ルール、ゲームの流れの学習)
- (5) ゲーム (リーグ戦、団体戦など)

授業方法：

一回の授業の流れは、ウォーミングアップ、技術練習、ゲーム、クーリングダウンとする。技術練習の内容を徐々にレベルアップさせることにより、ゲームの内容を向上できると良い。

達成目標：

卓球の技術を高めることや、ゲームに勝つことも大事であるが、最も大切なのは、積極的に参加し、真面目に取り組むことである。つまり、運動能力云々より、技術向上の為に努力できるかが大事であり、また周囲と協力し、皆が楽しく円滑に活動できるよう、率先して行動できるようになることが目標となる。

評価方法：

出席状況と授業への積極性の評価を 60～70%、ゲームへの貢献度や技術力 20%程度、ルール、ゲームの流れの理解度など 10%程度とする。

- ・大変積極的に参加し、技術が高い、もしくは技術向上の為に努力が見られる。
ルールやゲームの流れをよく理解できており、また周囲と協力し円滑に活動できている…S
- ・積極的に参加し、ルールやゲームの流れを理解し、周囲と円滑に活動できる。……………A
- ・授業に参加し、ルールやゲームの流れを理解し、活動できている。……………B
- ・積極性にやや欠けるが、授業中の活動はほぼできている。……………C
- ・Cのレベルに達していない。……………D

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

備考：

運動できる服装と体育館シューズが必要

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A11501	スポーツ実習 (4) B	2・3・4	1	永田恵理

期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
後期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
スポーツを楽しむ、体力づくり、基本技術の習得、仲間作り	コミュニケーション力、社交性 (社会的相互関係力)

授業のテーマ：

バドミントンを行うことで、運動不足解消や体力向上を目指す。また、ゲームやその運営をすることにより、仲間作りや互いに協力して活動する能力を身に付けることをテーマとする。さらに、スポーツの楽しさを実感し、生涯を通じてスポーツをする大切さや、その意義について学習する。

授業の概要：

バドミントンは運動量が多く、様々な動きを必要とするため、授業を通して運動不足を実感したり、運動習慣の必要性を感じる場になると良い。また、リーグ戦などを円滑に進めるために周囲と協力して活動し、他の受講生とコミュニケーションをとることで、親交を深める場になると良い。

授業の計画：

- (1) 基礎練習 (クリアー、ドロップ、ヘアピン、スマッシュなど)
- (2) 応用練習 (基礎練習を複合させた練習)
- (3) シングルスゲーム (ルール、ゲームの流れの学習)
- (4) ダブルスゲーム (ルール、ゲームの流れの学習)
- (5) ゲームやその運営 (リーグ戦、団体戦など)

授業方法：

一回の授業の流れは、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム、クーリングダウンとする。基礎練習、チーム練習の内容を徐々にレベルアップさせることにより、ゲームの内容を向上できると良い。

達成目標：

バドミントンの技術を高めることやゲームに勝つことも大事であるが、最も大切なのは、積極的に参加し、真面目に取り組むことである。つまり、運動能力云々より、技術向上の為に努力できるかが大事であり、また周囲と協力し、皆が楽しく円滑に活動できるよう、率先して行動できるようになることが目標となる。

評価方法：

出席状況と授業への積極性の評価を 60～70%、ゲームへの貢献度や技術力 20%程度、ルール、ゲームの流れの理解度など 10%程度とする。

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

備考：

運動できる服装と体育館シューズが必要

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A20101	情報実習 (1)	2・3・4	2	広田建一

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コンピュータの活用、IT リテラシ、情報技術	コミュニケーション力、グローバルな視野

授業のテーマ：

情報技術を正確に効率よく活用するための基礎知識と、実習を通してワープロソフトによる文書作成の基本、表計算ソフトの利用技術として集計・グラフ表現・データベース機能、またプレゼンテーションソフトの基礎、およびネットワークの利用として電子メールの送受信・インターネットの基礎知識など、パソコン検定3級程度の知識・技術の習得を目指す。

授業の概要：

インターネットの使い方、メールの送受信、またその際に必要となるセキュリティやマナーなど、情報技術を活用する上で必須となる知識を学ぶ。ワード・エクセル・パワーポイントの操作を、実習を通して身に付ける。

授業の計画：

前期	後期
1回 パソコン・Windowsの基礎	1回 エクセル：基礎
2回 日本語入力	2回 エクセル：基本的な表計算
3回 インターネット基礎	3回 エクセル：絶対参照
4回 メール活用・データのコピー	4回 エクセル：IF関数
5回 インターネットの活用	5回 エクセル：グラフ1
6回 ワード：基礎	6回 エクセル：グラフ2
7回 ワード：書式設定と編集	7回 エクセル：データベースの活用
8回 ワード：表の作成	8回 エクセル：応用関数
9回 ワード：オブジェクトの作成	9回 エクセル：関数復習
10回 ワード：図形描画とスマートアート	10回 エクセル：ワードとの連携
11回 ワード：差し込み印刷	11回 エクセル：分析・考察
12回 ワード：オブジェクトを効果的に使った文書	12回 パワーポイント：基本操作・ITリテラシ
13回 ワード：ドロー実習	13回 パワーポイント：実践・ITリテラシ
14回 ワード：ドロー実習	14回 パワーポイント：自由制作・ITリテラシ
15回 ワード：総合演習	15回 パワーポイント：自由制作・ITリテラシ

授業方法：

テキストに沿って、講義を交えながらパソコンを操作して実習する。
評価項目ごとに演習課題の作成に取り組む。

達成目標：

コンピュータ・インターネットを活用してレポート、論文の作成を効率よくできる能力を身につける。

評価方法：

評価項目ごとに演習課題に取り組み、その達成度と普段の出席状況・受講態度などから総合評価する。
評価の内訳は、出席点15%、テスト（演習問題）60%、課題と受講態度25%である。

教科書：

- 『Windows 7対応 30時間でマスター Word2010』（実教出版株式会社／950円税込）
- 『Windows 7対応 30時間でマスター Excel2010』（実教出版株式会社／900円税込）
- 『キーワードで理解する最新情報リテラシー 第4版』（日経BP社／1,260円税込）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A20201	情報実習 (2)	2・3・4	2	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
通年	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
オフィスソフトの活用, Web ページ作成, マルチメディア制作	コミュニケーション力 問題解決力 グローバルな視野

授業のテーマ：

情報実習 (1) で習得した基礎知識を基に、さらに応用的な知識・技術を習得し、レポートや論文、社会人になってからの業務上の文書の作成や表計算を行える能力を身につける。さらに基本的な写真画像処理、グラフィックデザイン、動画編集、3D モデル作成などのマルチメディア処理や、Web ページの制作などを行うスキルを身につけることで、IT リテラシーの向上を目指す。

授業の概要：

前半は Word、Excel のビジネス問題集から実務に即した問題を解きながら操作方法を習得する。後半は様々なフリーウェアを用いたマルチメディア処理や、Google サイトを用いた簡単な Web ページ作成などを体験する。

授業の計画：

(前半)

1. Word：一般的な連絡文書の作成
2. Word：文書の書式
3. Word：表の文書への組み込み
4. Word：総合的な文書の作成
5. Word：情報伝達の手段としての文書
6. Word：要件を満たす文書の作成
7. Word：要件を満たす文書の作成
8. Excel：作表と基本的な計算
9. Excel：グラフと集計
10. Excel：関数・データベース
11. Excel：マクロ
12. Excel：クロス集計
13. Excel：要件を満たす表の作成
14. Excel：要件を満たす表の作成
15. Excel：要件を満たす表の作成

(後半)

1. Word と Excel の連携
2. GIMP によるデジカメ画像処理
3. GIMP によるデジカメ画像処理
4. Inkscape によるグラフィックデザイン
5. Inkscape によるグラフィックデザイン
6. Inkscape によるグラフィックデザイン
7. Inkscape によるグラフィックデザイン
8. ムービーメーカーによる動画編集
9. Google SketchUp による 3D モデル作成
10. Google SketchUp による 3D モデル作成
11. インターネットの活用とルール、著作権
12. Google サイトを用いた Web ページ作成
13. Google サイトを用いた Web ページ作成
14. Google サイトを用いた Web ページ作成
15. Google Apps の活用と情報共有

授業方法：

授業はテキストに沿って自主的に実習を進める形式とし、作成に必要な操作を随時解説する。各学生の習熟度になるべく配慮した授業進行を心がける。

達成目標：

レポート・論文の作成、資料の作成や表計算ができる能力を修得し、コンピュータグラフィックスを用いたヴィジュアルな表現や Web ページによる情報発信ができる基礎的なスキルを修得する。既存技術を教わるだけでなく、新規技術にも自ら対応できる素養を得ることを目標とする。

評価方法：

テスト (演習問題) や課題制作 (60%)、および授業への取り組み (40%) で評価する。

教科書：

(前半)

『スキルアップ Microsoft Word ビジネス問題集』、日経 BP 社、1,050 円

『スキルアップ Microsoft Excel ビジネス問題集』、日経 BP 社、1,050 円

(後半)

教材を適宜配布する。

参考文献：

『キーワードで理解する最新情報リテラシー 第4版』、日経 BP 社、1,260 円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30101	英語(1)	2・3・4	2	白井恵三
期間	曜日/時限	備考：週2回開講 再履修者指定クラス		
前期	月/2・水/3			
授業のキーワード		人間環境大学が育む八つの能力		
基礎英文法、読解力		コミュニケーション能力		

授業のテーマ：

高校までに学習した英文法の復習をしながら語彙力を増強し、読解力を強化します。

授業の概要：

各 Chapter を2回程度で進め、プリントや復習で補強しながら理解度を深めます。

授業の計画：

1. Names
2. You
3. Loanwords in English
4. Jokes
5. Review
6. English as a Foreign Language
7. Spelling in English
8. American and British English
9. Men and Women
10. Review
11. Japanese English
12. Slang
13. The Haiku in English
14. Intercultural Communication
15. Review

授業方法：

毎時予習を前提とし、英文の音読と翻訳、また、基本的文法を確認しながら練習問題を解いて内容の一層の理解を深めます。

達成目標：

基本的な英文法力、語彙力を身につけ、中レベルの英文章を読解できるようになることを目標とします。

評価方法：

授業への取り組み 50% テスト 50%

教科書：

Shoko Kojima, Daniel H. Lowit 著

「A Journey into English」朝日出版社 (1,700円＋税)

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30201	英語(2)	2・3・4	2	白井恵三
期間	曜日/時限	備考：週2回開講 再履修者指定クラス		
後期	月/2・水/3			
授業のキーワード		人間環境大学が育む八つの能力		
基礎英文法		コミュニケーション能力		

授業のテーマ：

文型を基に文法を確認しながら、英文読解力を身につけます。

授業の概要：

各 Unit を2回程度で進め、プリントで補強しながら理解度を深めます。

授業の計画：

- Unit 1 文の要素
- Unit 2 基本5文型
- Unit 3 第1文型、be 動詞・一般動詞
- Unit 4 動詞の種類
- Unit 5 第2文型、名詞 [1]
- Unit 6 名詞 [2]
- Unit 7 第3文型、代名詞 [1]
- Unit 8 代名詞 [2]
- Unit 9 第4文型、形容詞
- Unit 10 第5文型、副詞
- Unit 11 冠詞
- Unit 12 前置詞
- Unit 13 接続詞
- Unit 14 関係詞
- Unit 15 助動詞

授業方法：

毎時予習を前提とし、例文を基に基本文法を確認しながら練習問題を解いて内容の一層の理解を深めます。

達成目標：

基本的な英文法力を身につけ、中レベルの英文章を読解できるようになることを目標とします。

評価方法：

授業への取り組み 50% テスト 50%

教科書：

田中保、日高正司、三幣友行、國府方麗夏 編著
「Make it Clear -Grammar Learning for Beginners and Intermediates-」
朝日出版社 (1,600円+税)

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30301	英語(3)	2・3・4	2	白井恵三

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
基礎英文法	コミュニケーション力

授業のテーマ：

基本的文法を確認しながら、読解力を身につけます。

授業の概要：

Unit ごとに授業を進め、プリントや復習で補強しながら理解度を深めます。

授業の計画：

Unit 1 Verbs 1	Unit 12 Phrasal Verbs
Unit 2 Verbs 2	Review
Unit 3 Verbs 3	Unit 13 Conjunctions 1
Unit 4 Nouns 1	Unit 14 Conjunctions 2
Unit 5 Nouns 2	Unit 15 Compositions
Extra 1 Using a Dictionary	Extra 3 Paragraphs
Review	Review
Unit 6 Adjectives	Unit 16 Tense 1
Unit 7 Articles	Unit 17 Present Perfect & Future
Unit 8 Adverbs	Unit 18 Active Voice & Passive Voice
Unit 9 Prepositions 1	Unit 19 Tense 2
Unit 10 Prepositions 2	Review
Extra 2 Word Formation	Unit 20 Conditionals & Subjunctives
Review	Extra 4 Pronunciation and Stress
Unit 11 Auxiliary Verbs	Review

授業方法：

毎時予習を前提とし、英文の音読と翻訳、また、基本的文法を確認しながら練習問題を解いて内容の一層の理解を深めます。

達成目標：

基本的な英文法力、語彙力を身につけ、中レベルの英文章を読解できるようになることを目標とします。

評価方法：

授業への取り組み 50% テスト 50%

教科書：

竹前文夫、山岸信義、菊地圭子、笹島茂 田中レベッカ 著
「Basic College English Seminar」南雲堂 (2,000 円+税)

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30401	英語(4)	2・3・4	2	白井恵三

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
会話表現	コミュニケーション能力

授業のテーマ：

会話表現と基礎文法を確認しながら、会話力を身につけます。

授業の概要：

各 Unit を 2 回程度で進め、プリントで補強しながら理解度を深めます。

授業の計画：

- Unit 1 会話の英語 1
- Unit 2 会話の英語 2
- Unit 3 語句や文をつなぐ
- Unit 4 過去を語る英語
- Unit 5 これからのことを語る英語
- Unit 6 自分を語る英語
- Unit 7 人を動かす英語
- Unit 8 人の言葉を伝える英語
- Unit 9 数量を表す英語
- Unit 10 位置・移動を表す英語
- Unit 11 気持ち・形状を表す英語
- Unit 12 動きのある英語
- Unit 13 英語の「は」と「が」
- Unit 14 話の流れと語順
- Unit 15 情報を詰め込む

授業方法：

毎時予習を前提とし、リスニングにより英語を聞く耳を、そして例文を基に会話表現と基本文法を確認しながら練習問題を解いて内容の一層の理解を深めます。

達成目標：

基本的な会話表現、基礎文法をみにつけ、基本的な英会話ができるようになることを目標とします。

評価方法：

授業への取り組み 50% テスト 50%

教科書：

鳥飼慎一郎 著

「伝えるための英文法・英作文」朝日出版社 (1,700 円+税)

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30501	海外英語実習 I	2・3・4	2	岡良和

期間	曜日	時限	備考：この科目は事前にガイダンスを実施したうえで履修登録を確定させます。後日、別途期間を定めて追加履修登録を受付けます。
前期	集中	8月頃	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
英語運用力、異文化理解	コミュニケーション力、グローバルな視野

授業のテーマ：

授業で学んだ英語力やその運用能力をより高めること、また、実生活を通して英語圏の文化や生活・風俗・歴史にじかに触れ、人々と英語でコミュニケーションすることにより、国際人としての視野を広げる。なお、このプログラムにおいては、滞在中に起こる諸問題を自ら解決する能力を身につけることも目的とするので、原則として教員は同行しない。

授業の概要：

研修先で実施されるテストにより習熟度別のクラスに配属された上で、1週当たり20時間で構成される集中コースを4週間受講し、日常的な英語を学ぶ。

授業の計画：

研修校のプログラムに準ずる。

授業方法：

研修校のプログラムに準ずる。

達成目標：

英語圏で生活するのに不自由しない程度の語学力と文化理解力を身につける。

評価方法：

研修校で発行される成績に基づいて行う。

教科書：

研修校で与えられる。

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

研修にかかる費用（概算）：

50万円程度（航空券代20万円程度、レッスン代（テキスト代含む）滞在費30万円程度、その他）
いったん納入された費用は返還されない。

登録方法：

4月下旬に説明会を行い適性に関する審査のうえ、別途履修登録を行う。

危機管理について：

旅行者損害保険には必ず加入してもらうが、病気、事故、犯罪被害などの諸問題に関しては、自己責任を基本とする。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30601	時事英語	2・3・4	2	石上文正

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
マスコミの英語を読む、社会・世界の動きを知る、英語を精読する	コミュニケーション力、グローバルな視野

授業のテーマ：

この授業の目的は、英字新聞や英語の雑誌を読む力を身につけることを目的としています。さらに、授業に準拠したテープも聴いてもらい、ある程度海外の英語ニュースを聴き取れる力を身につけることも目指します。また、時事英語はたんなる英語の学習ではなく、ニュース英語を通して、現代の社会、内外の政治、経済、環境、軍事等についての理解を深めることも重要な目的です。

授業の概要：

毎回、異なったテーマの英文を声をだして読み、読解し、重要な箇所については、翻訳もすることになります。また、英語の授業ですので、重要な単語や構文を暗唱します。

授業の計画：

前期

1. Chapter 1 国内政治
2. Chapter 1 国内政治
3. Chapter 1 国内政治
4. Chapter 2 ビジネス
5. Chapter 2 ビジネス
6. Chapter 2 ビジネス
7. Chapter 3 外交・国際会議
8. Chapter 3 外交・国際会議
9. Chapter 3 外交・国際会議軍事
10. Chapter 4 海外政治情勢軍事
11. Chapter 4 海外政治情勢事故・災害
12. Chapter 4 海外政治情勢事故・災害
13. Chapter 7 犯罪・司法
14. Chapter 7 犯罪・司法
15. まとめ

後期

1. Chapter 8 環境・公害
2. Chapter 8 環境・公害
3. Chapter 8 環境・公害
4. 自作プリント
5. 自作プリント
6. 自作プリント
7. Chapter 9 文化・科学
8. Chapter 9 文化・科学
9. Chapter 10 スポーツ
10. Chapter 10 スポーツ
11. 自作プリント
12. 自作プリント
13. 自作プリント
14. 自作プリント
15. まとめ

授業方法：

授業は、下記教材を用いて行い、次のような学習を中心におこないます。

- ①基礎的な英文の精読（文法的にも語彙的にも英文を理解する）
- ②英文のリスニング
- ③英文の音読
- ④英文の暗唱
- ⑤基礎的な英文法の確認
- ⑥英文の翻訳

達成目標：

社会の動きに興味をもち、理解するとともに、人前で声を出して読んだり、暗唱したりする訓練を通じて、コミュニケーション力を高めることの二つが目標です。

評価方法：

定期試験（筆記）（60%）および授業への取り組み（40%）によって評価する。

教科書：

『時事英語の総合演習 2012年度版』 朝日出版社 1,500円＋税
授業に、英和辞典を持参すること

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30701	英会話 (1)	2・3・4	2	ジェラルド・マクレラン

期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
通年	金	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
Speaking, Listening, Communicating	コミュニケーション力

授業のテーマ：

In this class students will be required to be able to communicate in English at a basic level. This class will concentrate on reinforcing the language learned at junior high school. As the level is low, students will be expected to master it and to do well in tests. We will do easy tasks in English and there are many structured questions to build confidence.

授業の概要：

We will cover all the basic grammar points. Students should be prepared to speak in class and to contribute to the lessons. Students who assume a passive role will fail this class.

授業の計画：

- | | |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 Unit 1: Exchange students | 16 Unit 8: Weather |
| 2 Unit 1 | 17 Unit 8 |
| 3 Unit 2: Eating out | 18 Unit 9: Vacations |
| 4 Unit 2 | 19 Unit 9: |
| 5 Unit 3: Music | 20 Unit 10: Buying Gifts |
| 6 Unit 3: | 21 Unit 10 |
| 7 Unit 4: Activities | 22 Unit 11: Rules |
| 8 Unit 4: | 23 Unit 11: |
| 9 Unit 5: Physical Appearance | 24 Unit 12: Fun and Fitness |
| 10 Unit 5 | 25 Unit 12: |
| 11 Unit 6: Jobs | 26 Unit 13: Health |
| 12: Unit 6 | 27 Unit 14: Summer Plans |
| 13 Unit 7: Personality | 28 Unit 14 |
| 14: Unit 7 | 29 Unit 15: Getting Around |
| 15: Review | 30: review |

授業方法：

We will use the textbook to discuss the various topics. Each unit should take two class periods.

達成目標：

The aim is to allow students to use language that they should already know in a natural way. Emphasis will be given to listening and speaking in this class. Students will be required to study.

評価方法：

Effort/ Participation: 30% . Class Tests: 70% . Students who DO NOT attend this class will fail. There will be two short class tests each semester. They will last about one hour.
 Participates in class, speaks fluently, and gets over 80% in class tests S
 Participates in class, speaks fluently, and gets over 70% in class tests A
 Participates in class, communicates with difficulty, and gets over 60% in class tests ... B
 Participates in class, communicates with help, and gets over 60% in class tests C
 Fails to show, doesn't participate in class, gets below 60% in class tests..... D

教科書：

David Nunan, Go For it! Thomson,

参考文献：

実験・実習・教材費：

None

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30801	英会話 (2)	2・3・4	2	ジェラルド・マクレラン

期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
通年	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
Speaking, Listening, Communicating	コミュニケーション力

授業のテーマ：

In this class students will be required to be able to communicate in English at a basic level. This class will concentrate on reinforcing the language learned at junior high school. As the level is low, students will be expected to master it and to do well in tests. We will do easy tasks in English and there are many structured questions to build confidence. Students will also be expected to make a final 2 minute presentation.

授業の概要：

We will cover all the basic grammar points. Students should be prepared to speak in class and to contribute to the lessons. Students who assume a passive role will fail this class.

授業の計画：

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 Unit 1: What's in a name? | 16 Unit 8: Plans? |
| 2 Unit 1 | 17 Unit 8 |
| 3 Unit 2: Where do you live? | 18 Unit 9: Directions? |
| 4 Unit 2 | 19 Unit 9: |
| 5 Unit 3: When is your birthday? | 20 Unit 10: How do you make that? |
| 6 Unit 3: | 21 Unit Presentation (How to ……) |
| 7 Unit 4: Free Time | 22 Unit 11: Marriage |
| 8 Unit 4: Presentation (Free time activities) | 23 Unit 11: |
| 9 Unit 5: Can you dance? | 24 Unit 12: Future? |
| 10 Unit 5 | 25 Unit 12: |
| 11 Unit 6: Free Time | 26 Unit 13: What's your father like? |
| 12: Unit 6 | 27 Unit 14: Tall, taller, tallest |
| 13 Unit 7: Holidays? | 28 Unit 14 |
| 14: Unit Presentation (Holidays) | 29 Unit 15: A good restaurant |
| 15: Review | 30: review |

授業方法：

We will use the textbook to discuss the various topics. Each unit should take two class periods. In addition, students will be required to make short presentations in English

達成目標：

The aim is to allow students to use language that they should already know in a natural way. Emphasis will be given to listening and speaking in this class. Students will be required to study. Students will be expected to speak out in class.

評価方法：

Effort/ Participation: 20 % . Class Tests: 80 % . Students who DO NOT attend this class will fail. There will be two short class tests each semester. They will last about one hour.
 Participates in class, speaks fluently, and gets over 80% in class testsS
 Participates in class, speaks fluently, and gets over 70% in class tests A
 Participates in class, communicates with difficulty, and gets over 60% in class tests ...B
 Participates in class, communicates with help, and gets over 60% in class testsC
 Fails to show, doesn't participate in class, gets below 60% in class tests.....D

教科書：

Gerry Mclellan. Everyday English. MGS publications (¥2,000)

参考文献：

None

実験・実習・教材費：

None

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A33101	中国語 (1)	2・3・4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
通年	木	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション、読み書き、異文化理解	コミュニケーション力

授業のテーマ：

中国語入門。初めて中国語を学ぶ人を対象とする。

授業の概要：

- ・ピンインと簡体字を習得する。
- ・基礎的な文法事項を学び、それらを用いた表現を練習する。

授業の計画：

前期

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 発音 3. 「的」の用法、名前について 5. 副詞「也」 7. 形容詞述語文、量詞 9. 時間詞と時刻 11. 選択疑問文 13. 反復疑問文、意志表示 15. まとめ (1) | <ul style="list-style-type: none"> 2. 人称代名詞、「是」の用法 4. 動詞述語文、疑問詞「誰」など 6. 場所を示す指示代名詞、 8. 連動文、指示代名詞 10. アスペクト助詞 12. 副詞「都」、助動詞「想」 14. 前置詞「在」、助動詞「能」「会」 |
|--|---|

後期

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 年月日・曜日、時間量 3. 動作の回数・順番 5. アスペクト助詞「着」、動詞の重ね型 7. 結果補語、方向補語 9. 禁止の表現 11. 「是～的」構文 13. 使役文 15. まとめ (2) | <ul style="list-style-type: none"> 2. 助動詞「打算」「要」 4. 二重目的語文 6. 程度副詞 8. 「比」を用いた比較構文 10. 方位詞、変化の「了」 12. 接続詞の用法 14. 「把」構文 |
|---|--|

授業方法：

- ・教科書にしたがって進める。
- ・随時、小テストを実施する。

達成目標：

- ・ピンインを正しく発音できる。
- ・教科書収録の重要な表現が読み書きできる。

評価方法：

- 試験 (80%) と授業への取り組み (20%) により行う。
- S…正しい発音ができ、基礎的な文法事項を活用した表現ができる
 - A…正しい発音ができ、基礎的な文法事項に基づいた表現ができる
 - B…正しい発音ができ、基礎的な文法事項を用いた表現ができる
 - C…ピンインを読むことができ、基礎的な文法事項を理解できる
 - D…Cのレベルに達していない

教科書：

木村裕章ほか著『中国語初級テキスト どんどん吸収中国語』光生館、2,300円 (税別)

参考文献：

辞書などは授業時に紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A33501	ドイツ語 (1)	2・3・4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ドイツ語、基礎、ドリル	コミュニケーション力、問題解決力、分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

ドイツ語文法の基礎を学び、基本的な単語・表現を記憶する。

授業の概要：

会話調の短い簡明な文章でドイツ語への入門を導く教科書（全9課）に即し、ドイツ語文法の基礎知識の獲得を目指す。目安として、1年後にBeethovenの第9交響曲のAn die Freude「歓喜に寄す」の歌詞を文法的に完全に理解しドイツ語的に歌えるように指導したい。

授業の計画（大体の予定）

前期 内容	後期 内容
第1回 概論：ドイツ語の特徴と学習方法など	第1回 第5課-1
第2回 発音1	第2回 第5課-2
第3回 発音2	第3回 第5課-3
第4回 第1課-1	第4回 第6課-1
第5回 第1課-2	第5回 第6課-2
第6回 第1課-3	第6回 第6課-3
第7回 第2課-1	第7回 第7課-1
第8回 第2課-2	第8回 第7課-2
第9回 第2課-3	第9回 第7課-3
第10回 第3課-1	第10回 第8課-1
第11回 第3課-2	第11回 第8課-2
第12回 第3課-3	第12回 第8課-3
第13回 第4課-1	第13回 第9課-1
第14回 第4課-2	第14回 第9課-2
第15回 第4課-3	第15回 第9課-3

授業方法：

受講者は、必ず予習をして出席すること。この作業なしで出席しても実力は上がらないし、評価も出来ない。

達成目標：

ドイツ語の基礎文法と基本語彙の習得。

評価方法：

- ① 授業への参加態度（間違っても良いからあらかじめ見当をつけておく）。単に出席するだけで授業準備が無ければ平常点の加算は行わない。必ず予習して出席すること。欠席10回で単位認定不可。
- ② ミニテスト（各課終了毎）や宿題を課す。
- ③ 上記の幾つかの平常点の合計で行い定期試験は行わない。

教科書

『はじめようドイツ語』（郁文堂）ISBN 978-4-261-01217-0 ¥2,500+ 税

参考文献：

<参考書>：（一応次のものを挙げておく）
 常木実『標準ドイツ語』（郁文堂）¥2,500
 <推薦辞書>：（このほかにもあるが、一応次のものを推薦する。学習意欲に応じて選択のこと）
 a) 中級以上のドイツ語までやる気のある人には、『郁文堂独和辞典』第2版（郁文堂）¥4,200 [語彙数11万語]
 b) 入門・初級程度で終わるつもりの人には、『新キャンパス独和辞典』（郁文堂）¥3,000 [語彙数2万3千語]
 c) どちらか迷っている人には、『クラウン独和辞典』第3版（三省堂）¥4,100 [語彙数6万4000語] や『アクセス独和辞典』第3版（三修社）¥4,100 [語彙数7万3500語] や『フロイデ独和辞典』（白水社）¥4,000 [語彙数7万5千語] など
 担当者ホームページ（<http://www1.uhe.ac.jp>）参照。連絡先 ito@uhe.ac.jp

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A33601	ドイツ語 (2)	2・3・4	2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
文構造の把握、読解力、語彙力	分析・総合の思考力、価値判断力、美的感受性

授業科目のテーマ：

単なる単位取得の手段としてではなく、ドイツ語能力の向上という目的をもつ学生が対象であり、初級程度のドイツ語文法はしっかり身につけていることを条件とする。前期では、ドイツ語の文章の構造が把握できて、ドイツ語の文章が読めるようになる力をつけるための下地を養い、後期では、辞書を引きながらではあっても、学生が自分でドイツ語の文章が読めるようになることを目指す。

授業の概要：

前期では、テキストを使用して、ドイツ語のさまざまな文章について、疑問の余地の残らないような徹底的な構造説明を行なう。それによって、後期以降は、学生自身が自分でドイツ語の文の構造を明確に把握できるようになり、読解できるようになってゆく。また、語彙力をふやす為に、重要な熟語等の含まれた独作文小テストを毎回行なう。

授業の計画：

前期

①今年度の授業の Einfuehrung。ドイツ語文章の読解能力を身につけることができるようになるための具体的方法の説明。ドイツ語学習意欲を喚起するための導入講話。

②～⑨テキストの第1課の文章について、学生自身に説明させた後、それぞれの文章について、徹底的な構造分析を行ない、ドイツ語の文章が疑問の余地なく解るとはどういうことか、学生に実感させる。また、必要に応じて文法の説明。文法については、単に丸暗記ではなく、なぜそうなるのか理由が説明できる事項については詳しい説明を行なうことにより、理解した上で記憶する作業に進みやすいような説明を行なう。文法についての練習問題も行なう。毎回、独作文小テストの実施。

⑩～⑫第2課について、上記と同様、徹底的な構造分析、中級以上の文法の説明、練習、独作文小テストの実施。

⑬⑭第3課について、徹底的な構造分析、中級以上の文法の説明、練習、独作文小テスト。

⑮第4課について、徹底的な構造分析、中級以上の文法の説明、練習、独作文小テスト。

後期

①～③夏期休暇課題として出したドイツ語の文章について、和訳させ、文の構造や文法等について、こちらの出した問いに答えさせる。同じく課題としておいた中級以上のレベルの文法の問題に答えさせる。

④～⑧テキスト後半の課の文章に即して、引き続き文の構造説明を学生自身に行なわせ、学生の理解に不十分なところがあれば、質し補う。より難度の高いレベル以上のドイツ語を読むために必要なドイツ語文法やこれまでに学んだ表現を応用した文を、独作文小テストに加える。

⑨より難度の高いレベルのテキストを新たに使用し、この新しいテキストについて、予習の仕方等を説明する。

⑩～⑬新しいテキストの講読。一段落すべてを正確に和訳させる。やや難解なドイツ語の文章については、文の構造について説明させ、こちらの問いに答えさせる。必要に応じて、上級レベルのドイツ語文法の説明。独作文小テストはやや高レベルのもの。

⑭⑮学生に未見のテキストを配布し、語彙についての援助を与えつつ、その場で和訳と説明を行なわせる。但し、学生の到達度によっては、13回までのテキストを続行する場合もある。

授業方法：

単に和訳させて了りというような単調な授業方法はとらない。ドイツ語の読解能力が身につくようなテキストを選び、ドイツ語文法力や語彙力も強化しつつ、それぞれの文について徹底的な構造分析を繰り返し行なう。

達成目標：

上記のような方法によって、履修者自身が自力で文の構造が把握できるなることを第一の目標として、文法力もより確実で充実したものとし、語彙もふやすことを目指す。

評価方法：

毎回必ず当たるので、予告された箇所の予習をしてもらうことが評価の前提条件である。その上で、授業時の応答や小テストの結果等の平常点や、学期末試験の成績等から総合的に評価する。

ドイツ語の文の構造が正確に把握でき、文法問題や独作文小テストの結果も良好…S

ドイツ語の文の構造がほぼ把握でき、文法問題や独作文小テストの結果もほぼ良好…A

ドイツ語の文の構造は説明されれば解り、文法問題や独作文小テストも3分の2程度はできる…B

ドイツ語の文の構造は説明されれば解り、文法問題や独作文小テストにも努力はしている…C

Cのレベルに達していない…D

教科書：

前期：最初の授業時に知らせる（最初の数回はコピー配布）。後期後半：プリント配布。

参考文献：

最初の授業時に、日本におけるドイツ語研究史のみならず、ドイツ語学習史とでもいべきものに言及するが、その折りに参考書等も紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A33701	海外ドイツ語実習 I	2・3・4	2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：この科目は事前にガイダンスを実施したうえで履修登録を確定させます。後日、別途期間を定めて追加履修登録を受付けます。
前期	集中	8月頃	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
会話力、ドイツ文化、体験	分析、総合の思考力、価値判断力、美的感受性

授業のテーマ：

実際にドイツに滞在してドイツ語会話能力を向上させ、ドイツ文化を体感すること。

授業の概要：

実際にドイツに滞在して、ドイツ文化とドイツ語に囲まれる生活をし、ドイツ語会話学校に在籍して、そこで学ぶ。

授業の計画：

8月に、ドイツの語学学校ゲーテ・インスティテュート（Goethe-Institut）で、4週間の語学研修 Intensivkurs（vier Woche）を受ける。一日の授業時間は、午前中の4時間である。午後や週末には、任意参加の文化プログラムや小旅行が多数準備されているほか、晩には簡単な飲食会も随時開かれる。これらに積極的に参加し、各国からの参加者とコミュニケーションをとることが不可欠である。

授業方法：

履修希望者は、4月25日（水曜日）までに、担当教員（吉田）に個別に相談すること。その際、ドイツ語のみによる面接を行なって、参加の可否を決定する。その後、参加者を対象として数回のオリエンテーションを実施する（日程と場所は別途指示）。帰国後レポートの提出を求めるが、まった参加者がある場合には、報告会を開催する。

達成目標：

ドイツで少なくともある程度のドイツ語会話能力を養うこと。

評価方法：

履修した語学学校で発行される修了証明書を提出してもらい、これによって評価する。オリエンテーションへの参加、帰国後のレポート等も評価対象とする。さらに、現地での履修態度について、担当教員が直接語学学校に問い合わせることもある。

教科書：

事前にはなし。現地では現地の指示に従うこと。

参考文献：

履修が決定した時点で、準備に役立つ参考書などを紹介する。

実験・実習・教材費：

研修費用は、二人部屋での滞在費用を含めて、およそ1,500ユーロ前後（大都市ほど高い）である。これ以外に、往復の航空運賃、現地での旅行費、食費、研修期間以外に旅行する場合は、その旅費、宿泊費等。

特記：

担当教員は、研修の申し込みに関わる支援は或る程度行なうが、現地での滞在、研修、旅行等については一切支援しない。また、現地におけるリスク（事故、病気、犯罪被害等）もすべて参加者が自分で負わなくてはならず、担当教員は一切責任を負うことができない。履修は、以上の点を十分理解した上で行なうこと。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A34001	フランス語 (1)	2・3・4	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション、読み書き、対話、異文化理解	コミュニケーション力 グローバルな視野

授業のテーマ：

現在フランス語が使われている地域とその歴史的経緯について概観し、フランス語を学ぶ意味について考える。フランス語を使ってコミュニケーションをとるとはどのようなことかについて考えを進め、コミュニケーションに必要な基礎知識（文法・語彙・表現）を学ぶ。

授業の概要：

フランス語の基礎を学びながら、フランス語とフランス文化の理解を深める。日常的に使われるきわめて簡単な表現を理解し、簡単な内容であればフランス語でやり取りができるところまで到達できるようにする。

授業の計画：

- | | |
|----------------------------|----------------------------------|
| (1) ヨーロッパの中のフランス、フランスの文化 | (16) 前期の復習とチェック |
| (2) フランスとフランス語、つづり字と発音のしくみ | (17) 病気 |
| (3) 到着、あいさつ | (18) 過去の表現 (1) |
| (4) 名詞と基本表現 | (19) 電話 |
| (5) カフェで | (20) 目的語の代名詞 |
| (6) 動詞の基礎 (1) | (21) 秋の万聖節 |
| (7) マルシェで | (22) 過去の表現 (2) |
| (8) フランスの食事 | (23) オペラ座で |
| (9) 夕食 | (24) 未来の表現 |
| (10) 動詞の基礎 (2) | (25) 遊園地で (1) |
| (11) 友人に会いに | (26) 遊園地で (2) |
| (12) 代名詞・形容詞 | (27) 別れ (1) |
| (13) 花火・革命記念日 | (28) 別れ (2) |
| (14) 代名動詞 | (29) フランス語の手紙 |
| (15) 前期のまとめとチェック | (30) 後期のまとめとチェック、フランス語のステップアップには |

授業方法：

音声教材を利用して発音練習をし、基本的な表現をもとに練習問題をやります。予習は必要ありませんが必ず復習をしてください。

達成目標：

「言語に関するヨーロッパ共通基準 (CEF)」の A 1 (基礎レベル入門：くだけた言い回しや日常的な語句、および具体的な用件をすませるためによく使われる簡単な表現を理解し用いることができる)

評価方法：

授業への取り組み (20%) と課題およびプレゼンテーション評価 (80%) による総合評価

S：A 1 レベルをほぼ完全にできる

A：上記項目について、やや問題はあるがほぼ完全にできる

B：やや問題はあるが、ほぼコミュニケーションが可能である。

C：表現に問題はあるが、コミュニケーションはどうか可能である。

D：C のレベルに到達していない

教科書：

ボムルー、高橋 共著 『サン・ファッソン』 朝日出版社、2,500 円

参考文献：

『ロベール・クレ仏和辞典』(駿河台出版社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『プログレッシブ仏和辞典』(小学館)、『ディコ仏和辞典』(白水社)、『クラウン仏和辞典』(三省堂)

実験・実習・教材費

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A34101	フランス語 (2)	2・3・4	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考:
通年	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション、読み書き、対話	コミュニケーション力 グローバルな視野

授業のテーマ:

フランス語の文章を主として文法的側面から勉強し、コミュニケーションに必要なフランス語の基礎を身につける。

授業の概要:

フランス語の文法の基本を学び、簡単な会話を使って表現に慣れ、文章を読む練習をする。

授業の計画:

- | | |
|------------------|---------------------------|
| (1) フランス語の読み方 | (16) フランス語の動詞と語順について (復習) |
| (2) あいさつのフランス語 | (17) 名詞と形容詞について (復習) |
| (3) 名詞と冠詞 | (18) どう思いますか? |
| (4) 動詞 (1)、形容詞 | (19) 過去の表現 (1) |
| (5) 食事に行こう | (20) 代名詞について |
| (6) 動詞 (2) | (21) 思い出 |
| (7) 家族の紹介 | (22) 過去の表現 (2) |
| (8) 教会で | (23) 次の週末 |
| (9) 動詞 (3)、所有形容詞 | (24) 未来の表現 |
| (10) 時間の表現 | (25) 非人称構文について |
| (11) 地下鉄で | (26) もし歌手だったら |
| (12) 目的語の代名詞 | (27) 仮定の表現 |
| (13) 代名動詞 | (28) フランス語で読んでみよう |
| (14) フランス語の語順 | (29) 関係代名詞 |
| (15) 前期のまとめとチェック | (30) まとめとチェック |

授業方法:

教科書にしたがって基本的な文法事項を説明し、それに関連する練習問題をおこなう。耳から聞き取る力を高めるために音声を取り取る練習もおこなう。

達成目標:

「言語に関するヨーロッパ共通基準 (CEF)」の A 2 (基礎レベル初級: きわめて身近な領域に関する文や表現を理解でき、簡単に直接的なコミュニケーションをはかることができる)

評価方法:

授業への取り組み (20%) と課題およびプレゼンテーション評価 (80%) による総合評価

S: A2 レベルをほぼ完全にできる

A: 上記項目について、やや問題はあるがほぼ完全にできる

B: やや問題はあるが、ほぼコミュニケーションが可能である。

C: 表現に問題はあるが、コミュニケーションはどうか可能である。

D: C のレベルに到達していない

教科書:

北山 研二 著『アロン・アンサンブル』、早美出版社、2,000 円

参考文献:

『ロベール・クレ仏和辞典』(駿河台出版社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『プログレッシブ仏和辞典』(小学館)、『ディコ仏和辞典』(白水社)、『クラウン仏和辞典』(三省堂)

実験・実習・教材費

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A34201	海外フランス語実習 I	2・3・4	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：この科目は事前にガイダンスを実施したうえで履修登録を確定させます。後日、別途期間を定めて追加履修登録を受付けます。
前期	集中	8月頃	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション、読み書き、対話、異文化理解	コミュニケーション力 グローバルな視野

授業のテーマ：

フランス語が実際に使われている地域で学び、生活することによって、フランス語の運用能力をさらに高めること、同時にフランスの生活を直接体験することによって、机上の学修では学ぶことのできない生の文化に触れることを目標とする。

授業の概要：

8月の3週間をフランスの語学学校でフランス語研修を受ける。

授業の計画：

予定されている研修はフランス北西部の都市ルーアンにあるアリアンス・フランセーズでの夏期集中レッスン。詳細は別途。

授業方法：

現地のアリアンス・フランセーズでクラス分けテストを受けてグループレッスンを受ける。

達成目標：

評価方法：

アリアンス・フランセーズでの評価を受け、本学の評価基準にそって評価する。

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A41101	ライティング I	2	1	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス（留学生）
前期	水	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
漢字、書き言葉、報告文、意見文	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

漢字仮名交じり文を書く

授業の概要：

書き言葉と話し言葉の区別を知り、書き言葉で文を書き、推敲する練習を行う。

授業時間は、ペア（グループ）で作文推敲・検討作業を行うため、各自の作文作業は授業時間外（宿題）となる。具体的には、以下に示す＜授業計画＞に沿って作業を進める。

授業の計画：

*漢字学習：毎時間 20 分程度、簡単な論説文・報告文の中の漢字を学習する。
(学習した漢字は翌週小テスト)

1. クラスメートにインタビューをする。→ 結果を報告文にする。書き言葉と話し言葉の区別
2. 報告文の推敲（わかりやすい報告文の構成—モデル文と比較）
3. 報告文の推敲（話し言葉と書き言葉。文体）
4. クラスメートにインタビューをする。→ 結果を報告文にする。
5. 報告文の推敲（わかりやすい報告文の構成—モデル文と比較）
6. わかりやすい文章の構成 800 字程度の論説文を分析
7. わかりやすい文章の構成 800 字程度の論説文を分析
8. 意見文と事実文
9. 意見文を書く（1）アウトラインを書く。要旨を 60 字で書く。
10. 意見文を書く（2）アウトラインに基づき、300 字程度の意見文を書く）
11. 意見文を書く（3）評価基準を学ぶ—推敲する 修正版作成
12. 意見文を書く（4）アウトラインを書く。要旨を 60 字で書く。
13. 意見文を書く（5）500 字程度
14. 意見文を書く（6）推敲する 修正版作成
15. 意見文を書く（7）修正版を推敲し、最終版を書く。

授業方法：

参加型の授業形態を採る。知識を授けるタイプ（講義型）ではない。

授業では、学生一人一人が活動の主体となり、目標とする知識・技能・能力を獲得するための作業および活動を行う。

達成目標：

500 字程度の長さの文章を、書き言葉で、漢字仮名交じり文で書くことができるようになる。漢 1000 語が、文章の中で読める、書けるようになる。

評価方法：

* 2 回以上の欠席者は B 以下の成績とする。3 回以上無断で欠席したものは、単位取得はできない。
なお、やむを得ない理由がある場合は、この限りではない。

小テストおよび課題提出	40%
授業中の議論への参加・貢献度	40%
最終課題	20%

教科書：

授業時に指示

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A41201	ライティングⅡ	1	1	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス（留学生）【履修条件】ライティングⅠ（文章表現Ⅰ）を修了した者、またはそれと同等の能力を有すると認められた者。
後期	水	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
アカデミック・ライティング、レジюме、レポート、報告文、文の構成	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

アカデミック・ライティング（わかりやすく、趣旨が明瞭に伝わる文を書く）

授業の概要：

意見の混入しない事実文を読み手にわかりやすい構成で書く練習をする。授業時間は、ペア（グループ）で作文推敲・検討作業を行うため、各自の作文作業は授業時間外（宿題）となる。具体的には、以下に示す＜授業計画＞に沿って作業を進める。

授業の計画：

*漢字学習：毎時間 20 分程度、さまざまな長さの報告文・レポート等の中の漢字を学習（学習した漢字は翌週小テスト）

1. 長すぎる文（1）を修正し、明確に趣旨が伝わる文にする。
2. 長すぎる文（2）を修正し、明確に趣旨が伝わる文にする。
3. ねじれ文を修正し、明確に趣旨が伝わる文にする。
4. 報告文の構成を学ぶ（1）アウトライン作成
5. 報告文の構成を学ぶ（2）アウトライン作成
6. レジюмеを書くー推敲する（1）レポート・報告文を元にレジюмеを書く
7. レジюмеを書くー推敲する（2）レポート・報告文を元にレジюмеを書く
8. レジюмеを書くー推敲する（3）与えられたテーマで調査した結果報告のためのレジюмеを作る
9. レジюмеを書くー推敲する（4）与えられたテーマで調査した結果報告のためのレジюмеを作る
10. 報告文・レポートを書くー推敲する（1）レジюмеに基づき 600 字程度の報告文を書く。
11. 報告文・レポートを書くー推敲する（2）600 字程度
12. 報告文・レポートを書くー推敲する（3）800 字程度
13. 報告文・レポートを書くー推敲する（4）800 字程度
14. 報告文・レポートを書くー推敲する（3）1000 字程度
15. 報告文・レポートを書くー推敲する（3）1000 字程度

授業方法：

参加型の授業形態を採る。知識を授けるタイプ（講義型）ではない。

授業では、学生一人一人が活動の主体となり、目標とする知識・技能・能力を獲得するための作業および活動を行う。

達成目標：

1000 文字程度のレポート・報告文を、構成を考えて書くことができる。

評価方法：

小テストおよび課題提出	40%
授業中の議論への参加・貢献度	40%
最終課題	20%

教科書：

授業時に指示

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A41701	聴読解 I	2	1	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス（留学生）
前期	水	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
要点を聴きとる，ノートをとる，視聴覚教材，類推する	分析・総合の思考力と判断力，問題解決力

授業のテーマ：

まとまった話を聞き，要点を聞き取る。ノートをとる。

授業の概要：

大学で日本語による学習を円滑に行うために必要な基礎能力を養う訓練をする。日本語教育用聴解教材，日本語能力試験問題，報道番組，ニュース解説などの視聴覚教材を「見て，聞いて」，内容を把握する，ノートをとる練習をする。

授業の計画：

1. 日本語的な文末表現「じゃない」「～かねない」などを含む説明を聞いて理解する。(1)
2. 日本語的な文末表現「じゃない」「～かねない」などを含む説明を聞いて意図や指示を聞き取る(2)
3. 雑音の入った駅のアナウンス，地方訛の発話などを聞き取り理解する。
4. 長めの説明を聞いて重要なポイントを聞き取る。
5. 音声のみの説明を聞き，キーワードから内容を類推する。(1)
6. 音声のみの講義や解説を聞き，キーワードから内容を類推する。(2)
7. 画面の文字情報から内容を類推する → 音声と共に視聴し内容を理解する (1)
8. 画面の文字情報から内容を類推する → 音声と共に視聴し内容を理解する (2)
9. メモをとりながら聞く (1) (1～6の教材を利用) → メモをもとに要旨をまとめ報告
10. メモをとりながら聞く (2) (1～6の教材を利用) → メモをもとに要旨をまとめ報告
11. メモをとりながら聞く (3) (ニュース) → メモをもとに要旨をまとめ報告
12. メモをとりながら聞く (4) (ニュース) → メモをもとに要旨をまとめ報告
13. メモをとりながら聞く (5) (報道番組・視点論点など) → メモをもとに要旨をまとめ報告
14. メモをとりながら聞く (6) (報道番組・視点論点など) → メモをもとに要旨をまとめ報告
15. メモをとりながら聞く (7) (報道番組・視点論点など) → メモをもとに要旨をまとめ報告

授業方法：

参加型授業（学生が主体的に活動をすることによって学習が成立する授業）の形態を採る。

達成目標：

日本語の講義を聞いて理解できる。講義を聞きながらノートをとることができる。

評価方法：

授業時の課題	40%
授業参加・貢献度	40%
最終課題	20%

教科書：

授業時に指示

参考文献：

授業時に指示

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A41801	聴読解Ⅱ	2	1	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス（留学生）
後期	水	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ニュース, 論説文, 論旨把握, 背景理解, 意見述べ	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, 価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

ニュースや新聞などの身近なメディアを通じ得た情報で社会を考える。

授業の概要：

授業では、テレビの報道番組を聞く、新聞の論説文を読む→内容を簡潔にまとめる→他者に報告する、などの練習を行う。

授業の計画：

1. テレビの報道番組・ドキュメンタリーを視聴 →まとめ→報告（1）
2. テレビの報道番組・ドキュメンタリーを視聴 →まとめ→報告（2）
3. テレビの報道番組・ドキュメンタリーを視聴 →まとめ→報告（3）
4. テレビの報道番組・ドキュメンタリーを視聴 →まとめ→報告（4）
5. テレビの報道番組・ドキュメンタリーを視聴 →まとめ→報告（5）
6. 論説文を読む →要旨を書く（1）
7. 論説文を読む →要旨を書く（2）
8. 論説文を読む →要旨を書く（3）
9. 論説文を読む →要旨を書く（4）
10. 論説文を読む →要旨を書く（5）
11. 論説文を読む →要旨をまとめる→意見を述べる（1）
12. 論説文を読む →要旨をまとめる→意見を述べる（2）
13. 論説文を読む →要旨をまとめる→意見を述べる（3）
14. 論説文を読む →要旨をまとめる→意見を述べる（4）
15. 論説文を読む →要旨をまとめる→意見を述べる（5）

授業方法：

参加型授業（学生が主体的に活動することによって学習が成立する授業）の形態を採る。
授業では、学生一人一人が活動の主体となり、目標とする知識・技能・能力を獲得するための作業および活動を行う。

達成目標：

TVのニュース解説、報道番組、新聞（論説文を含む）などから、社会人に必要な情報収集（聞き取り、読み取り）が短時間にできる。

評価方法：

授業時の課題	40%
授業参加・貢献度	40%
最終課題	20%

教科書：

池上彰「よくわかるニュース」参考？

参考文献：

授業時に指示。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A41301	ライティングⅢ	2	1	文野峯子
A34501	日本語 (1)	3	(2)	

期間	曜日	時限	備考
前期	火	3	備考：日本語 (1) は通年科目 履修条件 (留学生)：ライティングⅡの成績がA以上の者 (日本人・ライティングⅡ未履修の留学生)：初回授業における日本語能力試験において、上記と同等の日本語能力を有すると担当教員が判断したもの *就職を考える2,3年生に履修を勧めます。

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
アカデミック・ライティング、意見文と事実文、論拠、論理的、わかりやすい文	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

事実と意見を区別して、論理的でわかりやすい文章を書く。

授業の概要：

書き方を学ぶ→文章を書く→推敲・修正をするという一連の作業を授業の主たる活動とする。

授業計画：

1. 印象的な自己紹介・自己PR文を書く
2. 自己PR文の検討
3. 紹介する、説明する (例：新入生に向けて、大学の食堂の案内文を書く)
4. 紹介文・説明文の検討
5. 事実文と意見文 報告文の検討
6. 事実文と意見文を区別してレポートを書く－1
7. レポートの検討
8. 事実文と意見文を区別してレポートを書く－2
9. レポートの検討
10. 説得力ある意見文を書く (意見、論拠、反対意見への反駁、結論)－1
11. 意見文の検討
12. 説得力ある意見文を書く (意見、論拠、反対意見への反駁、結論)－2
13. 意見文の検討
14. 説得力ある意見文を書く (意見、論拠、反対意見への反駁、結論)－3
15. 意見文の検討

授業方法：

文章を書く作業は宿題とする。宿題提出は、教員に電子メールで送付することもある。文章の検討は、ピア・レスポンス (仲間同士で添削・修正) で行う。

達成目標：

「書き言葉」で文章が書ける。事実と意見を区別して、論理的でわかりやすい文章が書ける。構成を考えて、説得力ある意見文が書ける。

評価方法：

課題提出 30%
授業参加度 40%
期末テスト 30%

教科書：

授業時に提示

参考文献：

授業時に提示

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A41901	聴読解Ⅲ	2	1	文野峯子
A34501	日本語 (1)	3	(2)	

期間	曜日	時限	備考：日本語 (1) は通年科目。
後期	火	3	履修条件 (留学生)：聴読解Ⅱの成績がA以上の者 (日本人・聴読解Ⅱ未履修の留学生)：初回授業における日本語能力試験において、上記と同等の日本語能力を有すると担当教員が判断したもの *就職を考える日本人学生に履修を勧めます。

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
語彙力、読解力、速読、日本語能力試験 N 1	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

論説文に限られた時間内に正確に読み取る力を養成する。書き言葉やアカデミックな文章表現に慣れる。語彙を増やす。分析的・批判的な読み方を学ぶ。

授業の概要：

主として読解に焦点を当てる。新聞や日本語能力試験に出題された論説文等を制限時間内に読む→内容を簡潔にまとめる→報告するという一連の作業を繰り返し行う。後半では、単なる記述内容把握に留まらず、文章の構成・論理展開・主張内容などの観点で批判的・分析的に読む練習をする。

授業計画：

- 履修資格判定テスト
- 文章の構成を学ぶ (中心文を探す)
- 速読練習 (1)
- 速読練習 (2)
- 速読練習 (3)
- 論説文の要旨把握練習 (1) キーワードで論旨をまとめる (段落)
- 論説文の要旨把握練習 (2) キーワードで段落の論旨をまとめる (段落)
- 論説文の要旨把握練習 (3) キーワードで論旨をまとめる (60字)
- 論説文の要旨把握練習 (4) キーワードで論旨をまとめる (60字)
- 論説文の要旨把握練習 (5) キーワードで論旨をまとめる (60字)
- 批判的に読む (1)
- 批判的に読む (2)
- 批判的に読む (3)
- 批判的に読む (4)
- まとめ

授業方法：

速読練習以外の読み作業は宿題とする。授業は、講義型ではなく、学生参加型で行う。具体的には、担当者が読みとった要旨を発表し、その後、発表内容の適否をクラスで評価し修正案を考えるという手順で授業を進める。

達成目標：

社会人に必要とされる日本語理解力、語彙力 (留学生は、日本語能力試験 N1 レベルの語彙力、読解力) を身につける。筆者の主張を的確に把握する。

評価方法：

課題提出	30%
授業内発表	40%
期末テスト	30%

教科書：

授業時に提示

参考文献：

授業時に提示

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B00101	環境保全論講義A	2・3・4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
自然環境、気候帯、モンスーン、植生、生態系、生物濃縮	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

植生と生態系からみた自然環境の成り立ち。

授業の概要：

気候帯形成のメカニズム、植生の類型、気候と植生、モンスーン、日本の気候と森林植生、生態系の成り立ちといった自然環境についての基礎的な知識を学ぶ。

授業の計画：

- 1回：科学的思考と環境問題
- 2～3回：生物的環境と非生物的環境
- 4～6回：気候と植生
- 7～8回：モンスーン
- 9～11回：日本の気候と森林植生
- 12～14回：生態系と生態ピラミッド
- 15回：生物濃縮

授業方法：

板書を中心とした講義。資料を適宜配布。

達成目標：

気候と植生および生態系を例に、自然環境の成り立ちについての基礎的な知識を身につけ、環境保全のための科学的理解と科学的価値観の基盤形成を目指す。

評価方法：

試験（100％）による。

教科書：

なし。

参考文献：

- 1) 鈴木孝仁（監修）、視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録、数研出版、880円（税別）。
- 2) 日本生態学会（編）、「生態学入門」、東京化学同人、2,800円（税別）。
- 3) 倉嶋厚、日本の気候、古今書院、1,900円（税別）。
- 4) 山中二男、「日本の森林植生（増補版）」、築地書館、1,900円（税別）。
- 5) 沼田真・岩瀬徹、「図説日本の植生」、講談社学術文庫、1,155円。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B00201	環境保全論講義B	2・3・4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
物質生産、生態系サービス、指標種、レッドデータブック、環境アセスメント、ビオトープ	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力（意思決定力）、グローバルな視野

授業のテーマ：

生物保全における科学的価値観と科学的指標。

授業の概要：

物質生産からみた環境評価、生態系サービスの概念とその現状、指標種の意義、絶滅危惧種の評価方法、レッドデータブックの役割、環境アセスメントなどをおして、生物保全における価値観形成のための基礎知識を学ぶ。

授業の計画：

- 1～2回：バイオマスと物質生産
- 3～4回：生態系サービスと資源枯渇
- 5～6回：生物保全の価値観
- 7～9回：指標種
- 10～11回：絶滅危惧種とレッドデータブック
- 12～13回：環境アセスメント
- 14～15回：生物保全とビオトープ

授業方法：

板書を中心とした講義。資料を適宜配布。

達成目標：

生物多様性に関する各種の指標を例に生物保全の評価基準の多様性を学ぶことで、保全への科学的価値観の基盤形成を目指す。

評価方法：

試験（100％）による。

教科書：

なし。

参考文献：

- 1) 日本生態学会（編）、「生態学入門」、東京化学同人、2,800円（税別）。
- 2) B. プリマック・小堀洋美、「保全生物学のすすめ」、文一総合出版、3,800円（税別）。
- 3) 横浜国立大学 21世紀 COE 翻訳委員会（訳）、「生態系サービスと人類の将来」、オーム社、2,800円（税別）。
- 4) 加藤辰己・太田英利、「エコロジーガイド日本の絶滅危惧生物」、保育社、2,000円（税別）。
- 5) 松田裕之、「なぜ生態系を守るのか?」、NTT出版、1,900円（税別）。

実験・実習・教材費：

その他：

「環境保全論講義 A」を履修済みであることが望まれる。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B00501	環境保全論特殊講義ⅡA	2・3・4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：
前期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
適応進化、生物種、種分化、非生物的環境、生物的環境	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力（意思決定力）、グローバルな視野

授業のテーマ：

生物多様性の創出メカニズムとしての進化

授業の概要：

生物多様性について、進化生物学的な視点からの包括的理解を目指す。多様な環境への適応進化を基軸とした種分化の具体例を通して、生物多様性の進化的・歴史的価値を学ぶ。

授業の計画：

- 1～2. 生物の多様性と分類
- 3～5. 非生物的環境と生物多様性
- 6～8. 生物的環境と生物多様性
- 9～10. 種分化
- 11～12. 適応放散
- 13～15. 系統進化と分類

授業方法：

板書を中心とした講義。資料を適宜配布。

達成目標：

生物多様性を生み出す原動力としての生物進化を理解することにより、生物多様性の意義を生物学の視点から捉えなおし、生物多様性への科学的思考力を養成する。

評価方法：

試験（100％）による。

教科書：

なし。

参考文献：

- 1) 八杉 竜一他, 「岩波生物学辞典第4版」, 岩波書店, 10,500 円.
- 2) 河野昭一監修, 「植物の世界」草本編上, 草本編下, 樹木編」, ニュートンプレス, 各1,800～2,040 円.
- 3) 岩槻邦男・馬渡峻輔, 「生物の種多様性」, 裳華房, 4,725 円.
- 4) 岩槻邦男・加藤雅啓, 「多様性の植物学1 植物の世界」, 東京大学出版会, 3,465 円.
- 5) 岩槻邦男・加藤雅啓, 「多様性の植物学3 植物の種」, 東京大学出版会, 4,830 円.
- 6) 馬渡峻輔, 「動物分類学の論理」, 東京大学出版会, 4,830 円.

実験・実習・教材費：

その他：

「環境保全論」、「基礎生物学」、「基礎化学Ⅱ」が履修済みであることが望まれる。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B00601	環境保全論特殊講義ⅡB	2・3・4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
分布、固有種、生物地理、多様性比較、学名	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力（意思決定力）、グローバルな視野

授業のテーマ：

生物分布の科学、生物多様性の科学的評価、生物多様性の体系的理解

授業の概要：

生物多様性について、生物地理学的視点からの包括的な理解を目指す。生物分布、種数に関する理論と比較法、生物名などの具体例を通して、生物多様性の歴史的・生態的価値を学ぶ。

授業の計画：

- 1～3. 生物多様性の現状
- 4～5. 分布と環境
- 6～7. 固有生物
- 8～10. 生物地理
- 11～12. 多様性の比較法
- 13～14. 学名と命名法
15. ホットスポット

授業方法：

板書を中心とした講義。資料を適宜配布。

達成目標：

生物多様性を大きく規定する生物分布について理解を深めるとともに、種数の比較法と生物名の体系化に関する科学的な考えを学ぶことで、生物多様性への科学的思考力を養成する。

評価方法：

試験（100％）による。

教科書：

なし。

参考文献：

- 1) 八杉 竜一他, 「岩波生物学辞典第4版」, 岩波書店, 10,500 円.
- 2) 鷲谷いづみ・矢原徹一, 「保全生態学入門－遺伝子から景観まで」, 文一総合出版, 3,150 円.
- 3) 「生態学入門」, 東京化学同人, 2,940 円.
- 4) 平嶋義宏, 「生物学名概論」, 東京大学出版会, 4,830 円.
- 5) マッカーサー, 「地理生態学」, 蒼樹書房, (絶版).

実験・実習・教材費：

その他：

「環境保全論特殊講義Ⅱ（生物多様性論）A」、「環境保全論」、「基礎化学Ⅱ」、「基礎生物学」が履修済みであることが望まれる。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B00701	環境保全論プロゼミナール	2・3・4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
読解力、整理能力、再構成力、口頭発表	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

読解力、情報整理力、再構成力、発表技能を養う。

授業の概要：

「エコロジー講座3 なぜ地球の生き物を守るのか」と「エコロジー講座 森の不思議を解き明かす」を材料に、各自が数頁程度を分担して口頭発表形式の輪読を行う。

授業の計画：

初回時に各自の発表担当日程を決めるので、必ず出席すること。

前期の予定

- ・海草
- ・湖沼
- ・里山
- ・シカ
- ・生物多様性

後期の予定

- ・森林動態
- ・森林の物質循環
- ・土壌と熱帯林
- ・樹形と生活史
- ・森林の保全
- ・被食・捕食の個体群動態
- ・化学防衛と微生物共生
- ・生物の共生系

授業方法：

各回につき、数名のレポーターによる発表形式。

達成目標：

口頭発表に必要な素養・技能としての読解力、整理能力、再構成力、発表技能の習得。

評価方法：

発表（60%）とレポート（40%）による。なお、出席率7割未満の者には単位を認めない。

教科書：

1. 日本生態学会、「エコロジー講座3 なぜ地球の生き物を守るのか」、文一総合出版、1,600円（税別、各自で購入のこと）。
2. 日本生態学会、「エコロジー講座 森の不思議を解き明かす」、文一総合出版、1,890円（税別、各自で購入のこと）。

参考文献：

実験・実習・教材費：

その他：

環境保全論 A および環境保全論 B が履修済みであることが望まれる。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B00801	環境保全論演習及び実習	3・4	4	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：2 時限連続
後期	金	1・2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
データ解析、発表技能、論理性、客観性	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

卒業研究に必要な実験計画の構築、データの解析技術、口頭発表技能の習得および科学的論理性。

授業の概要：

研究レポートの発表とデータ解析実習を平行して行う。

授業の計画：

初回時にガイダンス（発表順および実習の計画についての調整と決定）を行うため、必ず出席すること。

授業方法：

研究レポート発表（3年生）または卒業研究の中間発表（4年生）とそれに対する議論形式で行う。また、データの収集と解析についての実習もあわせて行う。

達成目標：

卒業研究に必要な実験計画の構築能力、科学的客観性、科学的論理性、発表技術の習得。

評価方法：

発表およびレポートによって評価する。15分以上の遅刻は欠席とみなす。4回以上欠席の場合は単位を認めない。

教科書：

山田作太郎・北田修一、「生物統計学入門」、成山堂書店、3,800円（税別、各自で購入のこと）。

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

受講にあたっては、上記教科書の他に実習費（データ解析消耗品費、パソコン・プリンタ消耗品費）7,000円が必要。

その他：

本実習を受講するにあたり、「基礎数学」と「計量管理概論」を履修済みであることが望ましい。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B02101	環境倫理学講義A	2・3・4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
環境問題、批判的思考、論理的思考、社会問題への関心	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、効果的な社会参加

授業のテーマ：

今、資源、食料、環境、人口の大きな問題が同時に深刻化しつつある。私たちの人生、未来に生きる人々の命はかけがえのないものである。これらをまもるために人間は変わることができるのか？本講義では、今人間に求められている生き方・倫理を明らかにし、これを実現するために、新しい環境倫理学を構想する。

授業の概要：

「自然」「環境」「倫理」といった語を疑い、反省していくことで、私たちの偏った自然観、人間観を把握することからはじめる。こうして、現代文明と私たちの生き方の問題を捉え、さらに学問の問題と使命について考えていく。

授業の計画：

1. まもるべき「環境」とは何か？
- 2・3. 「自然」とは何を指すのか？（「自然」の概念について）①②
- 4・5. 人間の生き方としての「倫理」とその現状 ①②
- 6・7・8. 公害と地球規模の自然破壊の違い。環境倫理学の使命。①②
- 9・10・11・12. 「学問」への批判。真剣な取り組みの必要性。①②③④
- 13・14. 環境倫理学の既存の諸説の批判。環境倫理学の条件とは。①②
15. まとめ

授業方法：

講義を中心に、レポートなどを課し、試験を行う。

達成目標：

環境問題の現状を理解し、本質にある倫理の問題を考える。

評価方法：

- 試験 90%、レポート、取り組み 10%。
- S. 環境問題の本質を適切に論じることができる。
 - A. 環境問題の本質を批判的に論じることができる。
 - B. 環境問題の本質について論じることができる。
 - C. 環境倫理について論じることができる。
 - D. 環境倫理について論じることができない。

教科書：

増田昭一『満州の星くずと散った子供たちの遺書』（夢書房）

参考文献：

授業中に指示。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B02201	環境倫理学講義B	2・3・4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
批判的思考、社会的問題への関心、異文化理解	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、効果的な社会参加

授業のテーマ：

環境問題を解決する前に、私たちはモラルが崩壊してしまった現状を変えなければならない。地球規模の環境破壊の由来を近代以来のヨーロッパ思想、さらに古代ギリシアの哲学までさかのぼり、今日の人間の生き方の謎、文明の謎を解き明かす。また、東洋思想に人間の別の生き方の可能性を探る。そして、自分自身を変える、生きた倫理思想の条件を明らかにする。

授業の概要：

自然に対する倫理が欠如した現状の本質を西洋思想の問題と捉え、過去にその原因をさぐってさかのぼっていく。又、次世代への責任を自覚した倫理の可能性を非西洋の倫理の伝統に求め、考察する。

授業の計画：

1. 破壊されたモラルの現状。人間と人間をつなぐものは何か？
2. 人間と環境の対立。現代文明における倫理の欠如の由来について。
- 3・4・5・6. 現代文明の自然観の由来。ヨーロッパ思想の歴史。①②③④
- 7・8. 科学技術文明に対する哲学的考察。①②
- 9・10. 別の生き方の可能性。文化の多様性と可能性。①②
- 11・12. 人間の生きるべき価値・意味。人類存続の意味とは。①②
- 13・14. 環境倫理学、環境学、そして学問の現代における使命。①②
15. まとめ

授業方法：

講義を中心に適宜レポートを課し、試験を行う。

達成目標：

環境問題の本質と原因、次世代への責任を自覚した倫理の必要性を理解する。

評価方法：

- 試験 90%、取り組み 10%。
- S. 環境問題の本質と課題を適切に論じることができる。
 - A. 環境問題の課題と本質とを論じることができる。
 - B. 環境問題の本質を論じることができる。
 - C. 環境倫理について論じることができる。
 - D. 環境倫理について論じることができない。

教科書：

増田昭一『約束』（夢書房）

参考文献：

授業中に指示

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B02501	環境倫理学特殊講義ⅡA（環境行動論）	2・3・4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
科学技術批判、社会システム、批判的思考、文明論	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

人類文明を崩壊させかねない環境問題はなぜ生じたのか。これは単なる個人のモラルの問題ではなく、社会のシステムやこれを作り出した思想の問題である。私たちはこのシステムの中で否応なく環境を破壊させられている。この問題を考えるため、まず科学技術を経済や社会のシステムの問題として分析し、その中に生きる私たちのあり方を追究する。

授業の概要：

今日直面する環境問題を総覧し、核心的な問題について考察する。その問題をハーバマスやガダマーの議論の観点から分析していく。

授業の計画：

1. 2. 今現在、人類の直面する問題の状況。自然、資源、食料、人口。①②
3. 4. 人類文明の未来の可能性。未来予測の諸説。①②
5. 6. 人類文明の本質に関する諸説。①②
7. 8. 現代文明の本質とは何か。文明と現代。①②
9. 近代思想と科学技術。
- 10.11.12. ハーバマスによる科学技術批判。イデオロギーとしての科学技術。①②③
- 13.14. ガダマーによる科学技術批判。科学技術と伝統・文化・哲学。①②
15. まとめ

授業方法：

講義を中心として、適宜レポートを課す。

達成目標：

現代社会の問題の本質を理解する。

評価方法：

試験90%、授業への取り組み10%。

- S. 環境問題の文明論的本質と課題について適切に論じることができる。
- A. 環境問題の文明論的本質と課題について論じることができる。
- B. 環境問題の文明論的本質について論じることができる。
- C. 環境問題の本質を文明論的に論じることができる。
- D. 環境問題の本質を文明論的に論じることができない。

教科書：

無し

参考文献：

授業中に指示。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B02601	環境倫理学特殊講義ⅡB（環境行動論）	2・3・4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
現代文明批判、批判的思考、自然観・人間観	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

地球環境問題は、結局は食糧問題となって経済社会システムの破綻を招くことになる。しかし、自ら自身を破壊する現代文明の問題的な本質を明らかにすることができるならば、この危機を回避する可能性はある。本講は、科学技術文明の背景の思想・自然観・人間観の本質を批判し、これからの社会のあり方、人間の全く新しい生き方を探っていく。

授業の概要：

科学技術文明の本質について確認し、倫理の問題と不可分の人間観・自然観について考察する。又、現代に特有の「死」の隠蔽の問題を分析し、さらに文明論的問題としての環境問題の核心へ迫っていく。

授業の計画：

1. 2. 科学技術批判の議論について。①②
3. 4. 5. 科学技術文明における自然観と人間観。①②③
6. 7. 人間存在の意味・価値。現代文明による死の隠蔽。①②
8. 9. 現代社会のシステムとモラル。エンロン事件とコンプライアンスの意味。①②
- 10.11.12. 今人間は如何に生き、行動すべきか。①②③
- 13.14. システムの転換と人間の可能性。①②
15. まとめ。

授業方法：

講義を中心として、適宜レポートを課す。

達成目標：

環境問題の文明論的本質を把握する。

評価方法：

試験 90%、授業への取り組み 10%。

- S. 環境問題の文明論的本質と課題について適切に論じることができる。
- A. 環境問題の文明論的本質と課題について論じることができる。
- B. 環境問題の文明論的本質について論じることができる。
- C. 環境問題の本質を文明論的に論じることができる。
- D. 環境問題の本質を文明論的に論じることができない。

教科書：

無し

参考文献：

授業中に指示。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B02701	環境倫理学プロゼミナール	2・3・4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
批判的思考、議論、プレゼンテーション、倫理	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

身近な問題、報道される地球規模の問題など、私たちが直面している環境の様々な問題を取り上げ、発表とその議論によって、その問題の本質を明らかにすること試みる。この議論の中で、社会のあり方、私たち自身のあり方、考え方を考える仕方を身につけ、環境倫理学への問題意識を養う。

授業の概要：

人間の生き方、倫理を考える視点をまず身につけることから始める。命の価値や死の問題、時代や文化による考え方の違い、そして、人間の生きる意味や目的など倫理の基本的な考え方を討論し、倫理・哲学の考え方に親しみ、最終的には自分自身で問題を見つけて発表、討論する。

授業の計画：

1. 環境倫理学の考え方について。倫理的な考え方。
2. 自然の価値や動物の生命の意味、人間の生きる意味など、基本的な問題を議論。
3. 問題の見つけ方、問いの立て方、発表のためのレジユメの制作などについて。
- 4～13. 発表と議論。
14. 発表・議論の総括。
15. まとめ

授業方法：

講義と発表を組み合わせ、発表や議論への参加の仕方を学んでいく。

達成目標：

環境問題や関係する現代社会の諸問題の本質を考察する観点を身につける。ゼミにおける発表やレジユメの作成、議論の仕方について習得する。

評価方法：

- 発表 50%、議論への参加 30%、授業への取り組み 20%。
- S. 発表、議論に積極的に参加、確かな思考を身につける。
 - A. 発表、議論の中で、環境問題に対する批判的思考を身につける。
 - B. 発表をし、議論に参加できる。
 - C. 発表をする。
 - D. 発表することができない。

教科書：

なし

参考文献：

授業中に指示。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B02801	環境倫理学演習	3・4	4	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
批判的思考、論理的思考、社会問題への関心、倫理的判断	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

現代の環境倫理学の諸文献を批判的に検討することを通じ、今日、人間の生き方の何が問題となっているのか考えていく。又、自らテーマを見つけ、考察し、批判的思考を以って環境問題に取り組んでいく。

授業の概要：

本科目においては、環境倫理の諸論文を取り上げ、そこで為される議論を検討することを通じて、環境倫理学の可能性を求める。また、それらの論文の背景にあるヨーロッパの古典的な思想についても議論していく。その後、個別に発表、議論を行っていく。

授業の計画：

前期 1～5 倫理学・哲学の基本となる文献を講読する。
 前期 6～15 発表、討論
 後期 1～15 発表、討論

授業方法：

倫理学・哲学の基本的な文献の講読を通じ、現今の環境をめぐる諸問題から哲学・倫理的な本質へと探る力を身につけることを目指し、発表の中でその成果を問う

達成目標：

自ら関心を持ち、調べ、分析し、議論を構成していく力を身につける。

評価方法：

発表 70%、授業への取り組み 30%。
 S. 問題の本質へ近づく考察を行った発表をし、積極的に議論に参加する。
 A. 十分な調査、考察を行った発表をし、議論に参加する。
 B. 発表と議論とにおいて積極的に意見を述べる。
 C. 自ら調べ考察する。
 D. 自ら調べ考察できない。

教科書：

プリントなど。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B03101	景観生態学講義A	2	2	守村敦郎
D22101	景観文化論講義A	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
景観、造園、庭園、公園、緑化	問題解決力 グローバルな視野 美的感受性

授業のテーマ：

地域における自然環境の役割は、単に地形学や地質学、生態学の見地からのみ考えられるのではなく、社会的文化的価値をもった景観（ランドスケープ）の意味をえて、これまでにない重要性を増しつつある。本講義では、身のまわりの景観や人間性の発露というべき庭園や公園、そして景観の持つ意味について明らかにし、それを読み解く知識や考え方を身につけることを目標とする。

授業の概要：

本講義では、景観デザイン分野の学問的背景や歴史、そして環境保全における役割などについて論じ、その理論や取り組みの内容について広く紹介する。

授業の計画：

1. 概論
2. 景観デザインの役割
3. 西洋の庭園の歴史（古代～中世の庭）
4. 〃 （ルネッサンス・バロックの庭）
5. 〃 （風景式庭園、現代の庭）
6. 日本の庭園の歴史（古代～中世の庭）
7. 〃 （枯山水の庭、茶庭）
8. 〃 （大名庭園、現代の庭）
9. 公園・広場の歴史
10. 〃
11. 景観デザインの流れ
12. 景観の価値
13. 景観の分析
14. 景観の評価
15. 景観の予測

授業方法：

通常の講義形式をとる。図表やスライド等を多用し、視覚的に理解させることを心がける。

達成目標：

景観デザインの役割や歴史、理論を理解し、具体的な身のまわりの事例からそれらの意義について自ら考える能力を身につけることを目標とする。

評価方法：

定期試験（60%）と授業への取り組み（40%）で評価する。

教科書：

特に指定しない。教材は適宜配布する。

参考文献：

森山雅幸編、『ランドスケープアーキテクチャーの起点』、ぎょうせい、2,800円
「造園がわかる」研究会、『造園がわかる本』、彰国社、3,150円
ランドスケープのしごと刊行委員会、『ランドスケープのしごと一人と自然があやなす風景づくりの現場』、彰国社、2,520円
美しい国づくりRLA展記念出版編集委員会、『ランドスケープアーキテクト100の仕事』、東京農業大学出版会、1,680円
篠原修、『景観用語事典 増補改訂版』、彰国社、3,780円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B03201	景観生態学講義B	2	2	守村敦郎
D22201	景観文化論講義B	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
景観、造園、庭園、公園、緑化	問題解決力 グローバルな視野 美的感受性

授業のテーマ：

生活環境において快適性や個性の追求が広くなされるなか、目に見える構造物や風景を美しく印象深くし、社会的な価値を高めようとする景観デザインの役割はより重要度を増しつつある。本講義では、地域や都市を舞台とした今後あるべき景観とは何かについて、その利用と保全の拮抗する要求を考慮した問題性の中で考察し、さらには地域のデザインへと発展させる理論と手法について理解する。

授業の概要：

本講義では、景観のデザインから施工、そして活用までの範囲について、その考え方や技術、手法などについて広く紹介する。

授業の計画：

1. 景観デザインにおける緑の役割
2. 緑化材料（植物の形態・分類）
3. 〃（植物の生理・生態）
4. 緑化技術（緑化基盤の整備）
5. 〃（人工地盤緑化）
6. 〃（自然再生緑化）
7. 〃（施工と管理、モニタリング）
8. 都市景観のデザイン
9. 道路のデザイン
10. 水辺のデザイン
11. 農村景観のデザイン（その1）
12. 〃（その2）
13. 自然公園のデザイン
14. 文化的景観と世界遺産
15. 景観デザインの実践

授業方法：

通常の講義形式をとる。図表やスライド等を多用し、視覚的に理解させることを心がける。

達成目標：

景観デザインの具体的な事例から、それらの意義について自ら考える能力を身につける。緑化技術についての基本的知識を習得し、その環境問題に対処する役割について理解する。

評価方法：

定期試験（60%）と授業への取り組み（40%）で評価する。

教科書：

特に指定しない。教材は適宜配布する。

参考文献：

森山雅幸編、『ランドスケープアーキテクチャーの起点』、ぎょうせい、2,800円
「造園がわかる」研究会、『造園がわかる本』、彰国社、3,150円
ランドスケープのしごと刊行委員会、『ランドスケープのしごと一人と自然があやなす風景づくりの現場』、彰国社、2,520円
美しい国づくりRLA展記念出版編集委員会、『ランドスケープアーキテクト100の仕事』、東京農業大学出版会、1,680円
篠原修、『景観用語事典 増補改訂版』、彰国社、3,780円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B03501	景観生態学特殊講義ⅡA（地域・都市緑化論）	2	2	守村敦郎
D22501	景観文化論特殊講義ⅡA（地域・都市緑化論）	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
緑化、自然再生、生態系評価、生物多様性	問題解決力、グローバルな視野

授業のテーマ：

自然と人間との関係が問われる現在において、「みどり」の役割はより重要性を増しつつあり、それとともに緑化への期待も大きなものとなっている。本講義ではこれまでの緑化の歴史や植物の生理・生態への理解をふまえ、緑化技術の基礎的理論や役割などについて概説し、それへの理解を深めることを目標とする。

授業の概要：

本講義では、まず緑化の意義や背景となる基礎的理論について概説し、それに続き、緑地のもつ重要な環境機能やその評価法などについて紹介する。

授業の計画：

1. 環境緑化の計画
2. 〃 (生態系管理)
3. 環境緑化の基礎 (生物多様性)
4. 〃 (植物群落)
5. 〃 (地形と土壌環境)
6. 緑地の環境機能 (植物群落の物理的機能)
7. 〃 (植物群落の生物的機能)
8. 〃 (温暖化と緑地機能)
9. 〃 (斜面防災と緑地機能)
10. 〃 (緑の癒し機能)
11. 緑化と自然再生の評価法 (生態系評価)
12. 〃 (数理モデルによる評価)
13. 〃 (樹木医学の診断)
14. 〃 (リモートセンシング)
15. 〃 (地理情報システム)

授業方法：

通常の講義形式をとる。教科書をもとにした進行を行うが、適宜図表やスライド等を使用し、視覚的に理解させることを心がける。

達成目標：

緑化技術についての幅広い知識を習得し、その環境問題に対処する役割について理解する。

評価方法：

定期試験（60%）と授業への取り組み（40%）で評価する。

教科書：

森本幸裕・小林達明編、『最新 環境緑化学』、朝倉書店、4,095 円

参考文献：

日本緑化工学会編、『環境緑化の事典』、朝倉書店、21,000 円

吉川賢・山中典和・大手信人編著、『乾燥地の自然と緑化』、共立出版、3,990 円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B03601	景観生態学特殊講義ⅡB（地域・都市緑化論）	2	2	守村敦郎
D22601	景観文化論特殊講義ⅡB（地域・都市緑化論）	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
緑化、自然再生、生態系評価、生物多様性、乾燥地	問題解決力、グローバルな視野

授業のテーマ：

本講義では、様々な場面で発展し続ける緑化・自然再生技術の各論を展開する。緑化技術の実際面に対する理解を深め、人と自然との共存のあり方を具体的に考えるための知識や方法などを身につけていく。

授業の概要：

本講義では、特殊講義Ⅱの前期の内容をふまえ、近年とくに注目される都市緑化、乾燥地緑化、生態系の管理・修復、モニタリングなどの技術動向について解説する。

授業の計画：

1. 植栽基盤と林の造成（植栽基盤整備と緑の循環）
2. 〃 （環境林の造成と管理）
3. 斜面緑化（法面緑化）
4. 〃 （治山緑化）
5. 都市緑化（芝生と地被）
6. 〃 （屋上緑化）
7. 〃 （壁面緑化）
8. 〃 （室内緑化）
9. 生態系の再生と管理（里山）
10. 〃 （草地）
11. 〃 （河川）
12. 〃 （水田・溜池）
13. 乾燥地緑化（砂漠化防止のための緑化技術）
14. 〃 （緑化目標と成果の評価）
15. まとめ

授業方法：

通常の講義形式をとる。教科書をもとにした進行を行うが、適宜図表やスライド等を使用し、視覚的に理解させることを心がける。

達成目標：

緑化技術についての幅広い知識を習得し、その環境問題に対処する役割について理解する。

評価方法：

定期試験（60%）と授業への取り組み（40%）で評価する。

教科書：

森本幸裕・小林達明編、『最新 環境緑化学』、朝倉書店、4,095 円

参考文献：

日本緑化工学会編、『環境緑化の事典』、朝倉書店、21,000 円
吉川賢・山中典和・大手信人編著、『乾燥地の自然と緑化』、共立出版、3,990 円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B03701	景観生態学プロゼミナール	2	2	守村敦郎
D22701	景観文化論プロゼミナール	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
造園、緑地、ガーデニング、設計、景観情報	コミュニケーション力 問題解決力 美的感受性

授業のテーマ：

本科目では、広い方面での活動が期待される現代の造園や環境・緑地デザインの分野に携わる上で必要な、基礎的な知識と技術の修得を目標とする。

授業の概要：

植物に関する基礎知識から空間の設計、景観情報の分析等について、おもに実習を通じ理解を深める。

授業の計画：

1. 概説（空間のとらえ方、造園にかかわる植物の基本的知識、分類、生理生態など）
2. ガーデニング実習（園芸技術の基礎の修得）
3. 緑地計画・設計実習（製図の基礎の修得、庭園・公園等の設計、プレゼンテーション）
4. 野外調査実習（各種測器の使用とデータ分析）
5. 数値情報の解析の基礎（国土数値情報、数値地図の加工と分析）
6. 景観情報の公開（デジタルカメラ、Web技術を用いたインタラクティブマップ作成）
7. 文献購読 など

授業方法：

ガーデニング実習は実習農場で行い、その他は実習室や演習室、PC教室等で行う。実習の性格上、汚れても良いような服装での参加を求められることがある。

達成目標：

造園や環境・緑地デザインの分野に関する基礎的な知識と技術を身につけるとともに、3年次以降の実習に取り組む上での心構えを養う。

評価方法：

成果物（レポートや制作物、60%）と授業への取り組み（40%）で評価する。

教科書：

特に指定しない。教材は適宜配布する。

参考文献：

八木健一『はじめてのランドスケープデザイン』（学芸出版社）
その他適宜指示する。

実験・実習・教材費：

3,000円（ガーデニング実習材料費（種、苗木、肥料など）、製図消耗品費として使用）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B09101	森林環境・水環境化学講義A	2・3・4	2	長井・片山

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
光合成, 樹木, 土壌, 大気, 気候	分析・総合の思考力と判断力, グローバルな視野

授業のテーマ：

森林を構成しているのは、樹木を始めとする植物、土壌、大気などである。これらの要素が相互に関連しあって森林環境を形成している。したがって、森林の立地条件によっても森林の環境は異なってくる。森林環境についての理解を深めるため、個々の要素と相互作用について講述する。

授業の概要：

光合成によって草本・木本植物が生育することによって森林が成立する。森林生態系での大気、土壌、水、物質循環との関わりでその環境が決定される。この生態系での各要素の静的・動的な挙動について考える。

授業の計画：

1. 光合成 (1) 光合成の機構 (1)
2. 光合成 (2) 光合成の機構 (2)
3. 光合成 (3) 光合成産物
4. 光合成 (4) 光合成産物の貯留と消費
5. 樹木 (1) 樹木の構成化学成分
6. 樹木 (2) 樹木の組織
7. 土壌 (1) 土壌概論
8. 土壌 (2) 森林土壌
9. 大気 (1) 気象条件の緩和
10. 大気 (2) 樹木からの発散物質
11. 物質循環 (1) 森林での水の流れ
12. 物質循環 (2) 有機物の分解, リターフォール
13. 浄化作用 環境汚染物質の浄化
14. 環境保全 (1) 温暖化と森林
15. 環境保全 (2) 災害防止と森林

授業方法：

板書と配布するプリントで行なう。

達成目標：

森林環境についての基礎的項目について理解し、環境保全や浄化作用について検討できるようにする。

評価方法：

授業への取り組み (25%程度), 小テスト (15%程度), 定期試験 (60%程度)

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B09201	森林環境・水環境化学講義B	2・3・4	2	長井・片山

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
物質、原子、濃度	分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

水・土壌・森林・農地などの自然環境や生物に配慮した人間活動を行うためには、こうした環境中での物質のふるまいに関する知識を習得することが必要である。そして、その習得には、物質の最小単位である原子に関する知識が前提になる。

本講義は、将来、自然環境保全に関わることを希望する学生を対象に、原子に関する基礎知識を習得させることを目標にしている。

授業の概要：

本講義では、科学的思考の基礎となる原子に関する知識を、(1) 元素との関係、(2) 大きさ・質量、(3) 内部構造、(4) 原子間の結合、(5) 物質質量 (モル) に整理して説明する。さらに、化学の基礎知識である (6) 物質の濃度の表し方と計算方法を説明する。また、周辺知識として (7) 宇宙での原子の誕生過程、自然環境中の元素存在度についても紹介する。

授業の計画：

1. 元素と原子、原子の大きさ
2. 周期表から得られる情報
3. 原子の構造 (1) 原子オービタル
4. 原子の構造 (2) 殻という考え方
5. 原子の数え方 (1) 原子量と物質質量
6. 原子の誕生、元素の宇宙存在度
7. 原子と原子の結合 (1) 共有結合
8. イオン化ポテンシャル、電子親和力
9. 原子と原子の結合 (2) イオン結合、金属結合
10. 原子の数え方 (2) 分子量・式量と物質質量
11. 物質の分類、物質の三態
12. 溶液濃度 (1) 重量分率
13. 溶液濃度 (2) モル濃度
14. 溶液濃度 (3) 濃度の変換
15. 元素の岩石圏・水圏・気圏における存在度

授業方法：

教科書と配布資料に基づいて、板書を中心に講義を進める。

講義の最初に前回の講義の内容確認のための小テストをする。解答と解説の後に、当日の講義を始める。

達成目標：

原子に関する基礎知識を習得する。
濃度計算ができる。

評価方法：

試験 (80%) と授業への取り組み (20%) により行う。

試験では、原子に関する基礎的事項を説明し、物質質量および濃度に関する計算を行うことができるかを問う。

教科書：

大野公一ら「化学入門」共立出版, 2,000 円

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B09501	森林環境・水環境化学特殊講義ⅡA	2・3・4	2	長井・片山

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
化学平衡 酸と塩基 酸化還元 分配平衡	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, グローバルな視野

授業のテーマ：

化学平衡論の基礎を学び、pH、温度、酸化還元電位などの物理化学的変数が与えられれば、水溶液中の元素の存在形態が予想できる力を習得する。
また、逆にある物質の水溶液中の温度を変化させたときに、pH、酸化還元電位などの値が予測できるようにする。

授業の概要：

水溶液中の化学反応のうち、酸塩基反応、酸化還元反応、二相間での分配平衡を題材に、これらの基礎から天然水での実例を紹介、解説する。
授業においては、平衡定数を常に参照し、この値と実試料水中の成分濃度の関連について考察する。

授業の計画：

1. SI 単位系と濃度
2. 化学平衡の基礎：エントロピー、自由エネルギー、化学ポテンシャル
3. 化学平衡の法則と熱力学
4. 分配平衡 (1) 気 - 液分配
5. 分配平衡 (2) 固 - 液分配
6. 酸塩基反応 (1) 酸塩基の定義
7. 酸塩基反応 (2) 強酸水溶液の pH
8. 酸塩基反応 (3) 弱酸水溶液の pH
9. 酸塩基反応 (4) 塩の水溶液の pH
10. 酸塩基反応 (5) 大気と平衡にある水溶液の pH
11. 酸塩基反応 (6) pH と弱酸・弱塩基の存在形態
12. 酸化還元反応 (1) 酸化数、半反応式
13. 酸化還元反応 (2) 酸化還元電位
14. 酸化還元反応 (3) ギブスの自由エネルギーと酸化還元電位、ネルンストの式
15. 酸化還元反応 (4) 酸素の枯渇と有機物の分解

授業方法：

平衡定数表と水質データを参考に、講義形式で行う。毎回、作図や計算演習を課題に出す。

達成目標：

溶液の濃度、pH、酸化還元電位を化学平衡論的に理解し、これを実試料の水質の実例に即して説明することができる。

評価方法：

授業への取り組み (20%)、試験 (80%) により行う。化学平衡論を理解し、水質データへ適用する力を評価する。

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B09601	森林環境・水環境化学特殊講義ⅡB	2・3・4	2	長井・片山

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
森林, 水循環, 水質変化, 森林水文学, 森林管理	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, グローバルな視野

授業のテーマ：

日本の国土の約70%は森林である。ここに流入した降水が量的・質的にどのような変化を受けるかは、下流の河川にとって重要な課題である。講義ではこのメカニズムに言及するとともに森林管理のあり方についても考察する。

授業の概要：

森林水文学の基礎的理論を学び、水循環と森林との関係や、水源涵養機能、水質浄化機能などについて考える。

授業の計画：

- 1 森林とは
- 2 森林と水循環
- 3 森林土壌の形成と特徴
- 4 森林斜面における水循環
- 5 森林での蒸発と蒸散
- 6 山地流域における雨水の流出 (1)
- 7 山地流域における雨水の流出 (2)
- 8 山地における積雪、融雪と流出
- 9 森林流域における渓流水質の形成 (1)
- 10 森林流域における渓流水質の形成 (2)
- 11 森林の変化と水循環 (1)
- 12 森林の変化と水循環 (2)
- 13 森林の変化と水質 (1)
- 14 森林の変化と水質 (2)
- 15 森林水文学と森林管理

授業方法：

教科書はなし。資料は適宜配布する。

達成目標：

- 1 森林水文学の基礎知識を習得し、森林生態系での降水の量的・質的变化を理解すること。
- 2 森林水文学と森林管理の関係について理解すること。

評価方法：

授業への取り組み (15%)、小テスト (15%)、期末テスト (70%)

教科書：

なし

参考書

塚本良則編「森林水文学」、文永堂出版、4,429円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B09701	森林環境・水環境化学プロゼミナール	2・3・4	2	長井・片山

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
水環境 森林環境 水質 学術論文 精読	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

水環境化学、森林環境に関する基本的な学術論文を精読し、これらの分野の研究例に親しむ。また、英文読解力を養う。

授業の概要：

前期は日本語の文献を、後期は英語の文献を読み進める。

授業の計画：

1. 文献配布，論文の構成
2. 文献収集の方法
- 3～15. 文献を読む
16. 文献配布
- 17～30. 文献を読む

授業方法：

和文・英文の論文を配布し分担を決めて読み進める。

達成目標：

科学論文の基本的な構成がわかる。文献収集を行うことができる。

評価方法：

授業への取り組みとレポートで行う。

教科書：

特になし

参考文献：

特になし

実験・実習・教材費：

特になし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B09801	森林環境・水環境化学演習及び実習	3・4	4	長井・片山

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
文献講読 野外調査 データ処理	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

自分の研究テーマに必要なデータを集め、データに基づいて考え、考えを他人に伝える力を修得する。

授業の概要：

卒業研究の進捗状況、機器の使用状況、野外観測の実施などについて、報告してもらい、議論を行う。

授業の計画：

1. テーマの決定 1
2. テーマの決定 2
3. テーマの決定 3
4. 研究計画 1
5. 研究計画 2
6. 研究計画 3
7. データ報告 1
8. データ報告 2
9. データ報告 3
10. 中間発表 1
11. 中間発表 2
12. 中間発表 3
13. 卒業研究発表 1
14. 卒業研究発表 2
15. 卒業研究発表 3

授業方法：

毎週、研究の進捗状況、野外観測の計画、分析機器の使用状況などを研究グループと個人毎に報告してもらおう。報告内容に応じて、議論やアドバイスをを行う。

研究テーマに関する文献を読み、その内容の紹介も行ってもらおう。

卒業研究の中間報告を数回行ってもらおう。

達成目標：

一つのテーマに沿って、文献調査、野外観測、データ処理、報告書の作成ができる。

評価方法：

出席と発表内容、さらに機器管理への貢献度などで評価する。

教科書：

特になし

参考文献：

特になし

実験・実習・教材費：

特になし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B12501	人文地理学	2・3・4	2	伊藤貴啓

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
地理的見方・考え方 環境と人間 空間認知 地域イメージ 地域	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、グローバルな視野

授業のテーマ：

地理学とは問われたら、どう答えるだろうか？地理学は文字通り、地の理（ことわり）を学ぶ学問である。高校時代の地理 A・B や中学校社会科の地理的分野とこの点で異なる。では、地のことわりを学ぶとはどういうことだろうか？人文地理学は人文現象を対象に、それを地域から究明していく学問である。本講義では環境と人間の関わりを軸に、地の理を明らかにする視点としての地理的見方・考え方の獲得を目的とする。

授業の概要：

まずは、地理学がいかに生まれてきたのかを概観してみよう。その後、人間と環境の関わりを地理学がどのようにとらえてきたのか。すなわち、地理学における環境論の変遷をみた後、地理学が対象とする地域を私たちがいかに認識し、地域イメージを形成していくのかを捉えていきたい。その際、地域イメージと文学やマスメディアの関係などに視点を置いて考えることにしよう。

授業の計画：

- 第1回 地理学とは：時間と空間、そして地理学
- 第2回 地理的見方・考え方 (1) 地域と地域の関係：名古屋大都市圏の拡がり
- 第3回 " (2) 自然と自然の関係：自然が織りなす地形
- 第4回 " (3) 自然と人間の関係：オランダを事例に
- 第5回 " (4) 地域的特色の把握：東日本と西日本
- 第6回 地理学における環境論の変遷 (1) 環境決定論
- 第7回 " (2) 環境可能論
- 第8回 " (3) 環境認知論
- 第9回 心象風景と地域 (1) 原風景の形成：新美南吉の場合
- 第10回 " (2) 文学と地理空間：夏目漱石の場合
- 第11回 " (3) 軽井沢のイメージはいかにつくられたのか
- 第12回 地域イメージの形成と地域 (1) 農村という神話
- 第13回 " (2) アニメと地域
- 第14回 " (3) マスメディアと地域
- 第15回 地理学と地域－前期まとめ

授業方法：

教科書は利用せず、各回に資料を配付しながら、パワーポイントで講義を行う。参考文献は適宜、提示する。第9回の新美南吉では『ごんぎつね』、第10回の夏目漱石では『門』を取り扱うので、事前に読んでおくこと。なお、各回に疑問点などを提出してもらう。

達成目標：

地域の諸現象を地理的見方・考え方から認識する能力を培う

評価方法：

評価は平常点(30%)、試験(70%)で行う。なお、平常点は各回の疑問点などの記入内容を基に判断する。また、遅刻は基本的に減点の対象とする。
 S：授業で取り扱わなかった地域の諸現象を地理的見方・考え方をを用いて自ら考察できる水準に達したもの
 A：授業で取り扱った地域の諸現象を4つの地理的見方・考え方をを用いて適切に考察できる水準に達したもの
 B：授業で取り扱った地域の現象を地理的見方・考え方の一つを用いて考察できる水準に達したもの
 C：授業で取り扱った地域の現象と地理的見方・考え方の関係を考察できる水準に達したもの
 D：授業で取り扱った地域の現象と地理的見方・考え方の関係を考察できる水準に達していないもの

教科書：

利用せず

参考文献：

各回に適宜明示

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B12601	地誌学	2・3・4	2	伊藤貴啓

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
地域と地域性 日本の地域構造 人口移動 都市システム 産業と地域	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、グローバルな視野

授業のテーマ：

地誌学は地理学において、系統地理学とともに二大分野をなす。それは地域を対象に、地域の仕組み・構造を明らかにするものである。社会科では小学校中学年から5年生にかけて、地域教材や日本の産業などさまざまなことを学ぶ。また、中学校地理的分野では学指導要領の改訂によって、日本の各地方や世界に関する地誌的内容を学ぶ場面が増えることとなった。では、地誌的に地域を把握するとはどのようなことであろうか。本講義では、日本を題材に現代日本の地域的仕組みからこの点に迫り、地域を地誌的に考えることができるようになることを目的とする。

授業の概要：

まずは地誌学とはどのようなことを究明しようとするのかをみてみよう。その後、社会科における地誌の取扱いをみた後、具体的題材としての現代日本の地域的仕組みを人口・都市・産業の側面から明らかにしていく。

授業の計画：

- 1回 地誌学とは
- 2回 地域と地誌
- 3回 人口からみた日本の地域構造（1）：人口推移と人口学方程式
- 4回 “（2）：人口動態の変化
- 5回 “（3）：人口移動の地域性
- 6回 “（4）：高齢化の地域性
- 7回 “（5）：日本の将来人口と外国人集住
- 8回 都市からみた日本の地域構造（1）：都市の形成と都市化
- 9回 “（2）：都市の階層性とその変化
- 10回 “（3）：都市システムからみた日本
- 11回 産業からみた日本の地域構造（1）：産業構造の変化と地域
- 12回 “（2）：工業都市とその変化
- 13回 “（3）：工業の地域構造
- 14回 “（4）：サービス経済化と地域
- 15回 後期のまとめ－地誌学と日本の地域構造

授業方法：

教科書は利用せず、各回に資料を配付しながら、パワーポイントで講義を行う。参考文献は適宜、提示する。なお、各回に疑問点などを提出してもらう。

達成目標：

地域の特徴を考察できる能力を培う

評価方法：

評価は平常点（30%）、試験（70%）で行う。なお、平常点は各回の疑問点などの記入内容を基に判断する。また、遅刻は基本的に減点の対象とする。

- S：授業で取り扱わなかった地域の諸現象を用いて地域的特色を自ら考察できる水準に達したもの
A：授業で取り扱った地域の諸現象を用いて地域的特色を適切に考察できる水準に達したもの
B：授業で取り扱った地域の諸現象のうち、一つの側面から地域的特色との関係を考察できる水準に達したもの
C：授業で取り扱った地域の現象と地域的特色の関係を考察できる水準に達したもの
D：授業で取り扱った地域の現象と地域的特色の関係を考察できる水準に達していないもの

教科書：

利用せず

参考文献：

各回に適宜明示

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B13101	森林管理学A	2・3・4	2	北川勝弘

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
森林管理の理念、環境倫理、生態系重視、持続可能な森林経営	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野、効果的な社会参加

授業のテーマ：

森林と人間が共生しうるような望ましい森林管理のあり方を、環境倫理の視点に立って、日本における森林利用の歴史などを辿ることによって検討し、森林生態系を重視した森林管理が重要であることを述べる。さらに、森林のもつ環境保全と木材生産の両機能を両立させうるように、森林管理の方法を改善する取り組みについて、技術的な面からも具体的に考究する。

授業の概要：

森林と人間が共生しうる望ましい森林管理の理念について、環境倫理の考え方に基いて検討した後、森林のもつ環境保全機能を維持しながら木材生産を経営的に成り立たせる森林管理を実現させる手法について、森林のゾーニングや路網整備など、技術的な面からも講述する。

授業の計画：

1回	森林管理の理念(1) - 従来の問題点	9回	森林のゾーニング
2回	<現地見学①：里山整備>	10回	森林管理の基盤整備 - 路網整備と機械化
3回	森林管理の理念(2) - 生態系の重視	11回	<現地見学④：機械化林業>
4回	森林管理の理念(3) - 自然との共生	12回	森林管理作業の実行
5回	<現地見学②：人工林整備>	13回	モンテリオールプロセスと森林認証
6回	森林管理の理念(4) - 持続可能性	14回	<現地見学⑤：森林ボランティア育成>
7回	わが国における森林利用の歴史	15回	森林技術者養成
8回	<現地見学③：東海道松並木の保全>		

授業方法：

主として教科書に基づく解説の他、適宜、配布資料により内容を補う。なお、「森林管理学B」(4時限目)と組み合わせて、近在の民有林等をマイクロバスで訪問し、森林管理状況などを現地見学する(5回予定)ので、「森林管理学B」との同時受講者のみを、マイクロバスの乗車定員(20名)まで、受け付ける。

達成目標：

「望ましい森林管理のあり方」を考えるうえで、「環境倫理」の視点に立ち、森林生態系を重視する必要があることを理解する。

評価方法：

期末試験(50%)と学期途中で出題するレポート(1回;20%)、および授業への取り組み(30%)により行う。

教科書：

山田容三：『森林管理の理念と技術』。昭和堂、p.225、2009年、(3,000円+税)

参考文献：

実験・実習・教材費：

現地見学に5回(予定)出かけるためのマイクロバス・チャーター代(1人1,000円/回)を教務課に前納のこと。「森林管理学B」と併せての見学行事。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B13201	森林管理学B	2・3・4	2	北川勝弘

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
森林整備、森林の健全性、森林バイオマス利用、持続可能な森林経営、森林保全の国際協調	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野、効果的な社会参加

授業のテーマ：

森林と人間が共生しうるような、今日的な視点に立った森林管理のあり方に関わる、個別の重要課題を取り上げて、それらの今日的な意義と問題点、および、問題解決への方策について考究する。

授業の概要：

里山整備、人工林整備など、森林管理に関わる典型的なトピックスを取り上げて、現地見学とも関連させながら、国際的な視野と地域的な視野の両面から、各課題についての理解を深められるよう、講述する。

授業の計画：

- | | | | |
|----|---------------------|-----|--------------------|
| 1回 | 里山整備－COP10と里山イニシアチブ | 9回 | 森林バイオマス利用と木材の地産地消 |
| 2回 | <現地見学①：里山整備> | 10回 | 持続可能な森林経営 |
| 3回 | 人工林整備－森林作業のあり方 | 11回 | <現地見学④：機械化林業> |
| 4回 | 森の健康診断－間伐作業の必要度判定 | 12回 | 森林と文明 |
| 5回 | <現地見学②：人工林整備> | 13回 | 森林保全の国際協調 |
| 6回 | 都市林の造成－明治神宮の森 | 14回 | <現地見学⑤：森林ボランティア育成> |
| 7回 | 世界の森林利用の歴史 | 15回 | 岡崎市の百年後の森林ビジョン |
| 8回 | <現地見学③：東海道松並木の保全> | | |

授業方法：

毎回、資料を配布して解説する。場合により、テーマと関連したビデオを放映する。なお、「森林管理学A」（3時限目）と組み合わせて、近在の民有林等をマイクロバスで訪問し、森林管理状況などを現地見学する（5回予定）ので、「森林管理学A」との同時受講者のみを、マイクロバスの乗車定員（20名）まで、受け付ける。

達成目標：

各トピックスを通じて、「望ましい森林管理のあり方」を考えるうえで基本となる、今日的な視点について理解する。

評価方法：

期末試験（50％）と学期途中で出題するレポート（1回；20％）、および授業への取り組み（30％）により行う。

教科書：

なし

参考文献：

各回の授業の際に紹介する。

実験・実習・教材費：

現地見学に5回（予定）出かけるためのマイクロバス・チャーター代（1人1,000円／回）を教務課に前納のこと。「森林管理学A」と併せての見学行事。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B13301	森林生態学	2・3・4	2	北川勝弘

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
生物多様性、生態系／生態系サービス、森林環境、生態系の保全修復	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、グローバルな視野

授業のテーマ：

地球上の植物生態系の中で最大のバイオマスを持つ森林の生態系について、構造、機能、動態などの面から考究し、生態系の保全・修復に関する基本的な考え方についても述べる。最後に、以上の森林生態学の基礎的な知識を踏まえて、今日の世界的な大きな関心事のひとつである、持続可能な森林経営に至る道筋について考える。

授業の概要：

森林生態系の構造、機能、動態を概観し、森林と樹木の生活史を詳細に分析することにより、生物多様性、生態系／生態系サービス、森林環境、生態系の保全・修復についての基本的な理解を深められるよう、講述する。

授業の計画：

1回	生物多様性と生態系	9回	森林と樹木の生活史(2) - 有性繁殖
2回	森林生態系の特徴と生態系サービス	10回	森林と樹木の生活史(3) - 有無性繁殖
3回	森林と環境(1) - 気候と森林群系	11回	森林の生態的保全(1) - 天然林と二次林
4回	森林と環境(2) - 環境と森林植生	12回	森林の生態的保全(2) - 自然撓乱と管理
5回	森林の遷移(1) - 生態遷移	13回	生態系修復(1) - やせ地の緑化
6回	森林の遷移(2) - 極相論	14回	生態系修復(2) - 共生菌類の修復への利用
7回	森林の遷移(3) - 二次遷移	15回	森林・樹木の健全性 - 持続可能な森林経営
8回	森林と樹木の生活史(1) - 展葉		

授業方法：

毎回、資料を配布して、解説する。場合により、テーマと関連したビデオを放映する。

達成目標：

望ましい地球環境を保全するうえで不可欠な、森林と人間が共生しうる社会を考えるうえでの出発点となる、森林についての基礎的知識を習得する。

評価方法：

期末試験(50%)と学期途中で出題するレポート(1回;20%)、および授業への取り組み(30%)により行う。

教科書：

なし

参考文献：

堤 利夫 編：『森林生態学』. 朝倉書店, p.166、1989年、(2,987円)
 小池孝良 編：『樹木生理生態学』. 朝倉書店, p.264、2004年、(5,040円)
 佐々木恵彦・木平勇吉・鈴木和夫 編著：『森林科学』. 文永堂出版、p.294、2007年、(5,040円)

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B13701	地球環境問題概説	2・3・4	2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
地球環境、温暖化、海洋汚染、生物多様性、森林の減少	グローバルな視野、問題解決能力

授業のテーマ：

温暖化、砂漠化、森林破壊、海洋汚染、生物多様性の減少など地球規模の環境問題が深刻化しつつあり、人類の存続さえ脅かされています。その主要な要因は急激に膨張した人類活動が、46億年をかけて形成してきた地球の恒常的なメカニズムを攪乱していることにあります。この地球環境問題の解決は人類の喫緊の課題であり、高度な国際的取り組みだけでなく、私たち一人一人の自覚と行動が求められています。この授業では地球環境問題全般を概説し、基本的な知識の修得と環境マインドを醸成し、より専門的な学修のための知的土台を形成することにあります。

授業の概要：

地球環境問題に対する基本的な見方、考え方を説明したうえで、温暖化、酸性雨、砂漠化など代表的な個別テーマを毎回取り上げて、その現象と構造、影響と要因、国際的取り組みと日本の対策などを概説する。最後に地球環境問題の文明的な位置づけと今後の展望について検討する。

授業の計画：

1. 地球環境問題の見取り図 (1)
2. 地球環境問題の見取り図 (2)
3. 地球の温暖化 (1)
4. 地球の温暖化 (2)
5. オゾン層の破壊
6. 酸性雨
7. 海洋汚染
8. 有害廃棄物の越境移動
9. 生物の多様性の減少
10. 森林の減少
11. 砂漠化
12. 開発途上国等における環境問題
13. その他 (南極、世界遺産、黄砂、漂流・漂着ゴミ)
14. その他 (食糧問題、水問題)
15. まとめ (地球環境問題と文明)

授業方法：

教科書を基本にスライドと配布資料を活用した講義形式とする。

達成目標：

1. 地球環境問題に関する時事報道を容易に理解できる知識レベルと、それを正しく読み解く環境リテラシーを身につける。
2. 地球環境問題へ高い関心を持ち、環境に配慮した日常行動を心掛ける環境マインドを身につける。

評価方法：

授業の取り組み 40%、テスト 60%として評価する。

教科書：

地球環境研究会編『地球環境キーワード辞典』中央法規 1,575円

参考文献：

「気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第4次評価報告書統合報告書要約」
http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4th/syr_spm.pdf

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B13801	日本低炭素社会のシナリオ	2・3・4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
気候変動、京都議定書、国内対策、京都議定書以降のシナリオ、経済成長、人間の欲望	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

まず科学編として、現状では温室効果ガスがどれくらい排出されているのか、気候変動を急激なものとしなすためには地球全体でどれだけ排出を削減する必要があるのかなどについて、IPCCや国立環境研究所などの見解に基づき講義する。次に対策編として、排出削減義務を各国・各部門がどれだけ負うのか、どのような方法で排出削減するのかなどについて、京都議定書に基づく現状の取り組みについて講義した後、京都議定書以降（2013年以降）のシナリオ（例として、国立環境研究所と京都大学を中心とする「2050日本低炭素社会シナリオ」研究）を紹介する。

授業の概要：

急激な気候変動を防止するための国際的取り決めや各国・各部門の対策について紹介し、その実態と問題点についても考える。

授業の計画：

- (1) イントロダクション
- (2) 気候変動に関する基礎知識
- (3) 京都議定書（2012年までの国際的取り決め）
- (4) 京都議定書の運用ルール（京都メカニズム・森林吸収源・遵守制度など）
- (5) 日本国内の政策の現状
- (6) 環境税・排出権取引、詳論
- (7) EU（特にイギリス）の政策の現状
- (8) イギリス気候変動税
- (9) 2013年以降のシナリオ（「2050日本低炭素社会シナリオ」研究）
- (10) 産業部門における対策
- (11) 交通部門における対策
- (12) 業務部門における対策
- (13) グリーン・ニューディールの可能性と限界
- (14) 再生可能エネルギーの可能性と限界
- (15) まとめ

授業方法：

教科書や資料をもとにした講義形式で進行する。

達成目標：

気候変動問題の現状を理解し、適切な対策について考える。

評価方法：

期末試験（90%）および授業への取り組み（10%）

教科書：

西岡秀三編『日本低炭素社会のシナリオ』日刊工業新聞社。2,520円

参考文献：

気候ネットワーク編『よくわかる地球温暖化問題』中央法規、2009年。 など
その他適宜紹介する

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B13901	地球環境科学概論	2・3・4	2	藤井芳一

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
地球環境・科学・多角的視点・熟慮	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力（意思決定力）、グローバルな視野

授業のテーマ：

地球環境問題は、性急で一面的な対症療法で解決できるものではなく、多様な知識の統合と国際的な協力による総合的な対策が図られなければならない。地球環境に関する科学的知見は日々進展しており、私たちは、その最新の知見を素早く学ぶ一方で、それらの知見を用いて当面する具体的な問題に合理的で柔軟な解釈とその解決策を自ら見出す能力を身につける能力が求められる。すなわち、表面的な知識だけではなく、このような志向性、態度、感性からなる環境マインドを養成することが本講義の目的である。

授業の概要：

地球環境問題と言われる個別テーマについては、別途開講科目である『地球環境問題概説』で取り上げる。本講義では、それらの個別の知識を統合化することによって初めて“現場での”環境問題に対処できることを、実例及び考え方から紹介するとともに、参加学生との議論を踏まえてその理解をより深める。

授業の計画：

1. 概論（本講義の進め方及び評価方法について）
2. 地球環境問題とは？～問題提起として
3. 科学的なものの捉え方、考え方
4. リスクという考え方～概要
5. リスクという考え方～実例1
6. リスクという考え方～実例2
7. あなたの考える地球環境問題とは？～その1
8. 環境の基盤である土壌の機能1
9. 環境の基盤である土壌の機能2
10. 土壌に異変が起きるということ1
11. 土壌に異変が起きるということ2
12. あなたの考える地球環境問題とは？～その2
13. 人口問題と食料問題とエネルギー問題と水問題と…
14. 環境問題から何を学ぶのか？
15. 地球環境問題とは？～本講義の結論として

授業方法：

基本的にはスライドを用いた講義形式で行なう。
参加者との議論、学生による発表も実施する。

達成目標：

環境問題の現場のみならず、日常生活における多角的な物の見方を身につける。
提示されたデータについて、その検証能力を養う。

評価方法：

講義への取り組み（出席及び講義中における発表や発言）60%、レポート40%

教科書：

4 大学連携共通テキスト『環境マインド養成講座』（必要に応じて講義時に無料配布）

参考文献：

講義中にその都度提示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B14001	自然地理学	2	2	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
気候、地形、植生、自然災害、環境問題	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

授業のテーマ：

世界や日本各地の文化や社会の多様性は、その場所ごとの自然環境のありように大きく依拠している。その理解は異文化や異なる社会システムの理解へとつながり、さらには私たちの日常生活そのものの理解へとつながる。本講義では、私たちを取り巻く気候、地形、植生、土壌、水環境などをとりあげ、さらには各自が身につけるべき防災についての知識と実際について学ぶことを目的とする。

授業の概要：

本講義が教職科目として位置づけられていること、初学者が多いことなどに配慮し、中学校や高校で取り扱っている内容を中心に授業を進めるが、一部発展的な要素も盛り込む。

授業の計画：

1. はじめに
2. 世界の気候区分と日本の気候
3. 地域スケールの気候
4. 世界と日本の大地形
5. 山地・丘陵地の地形
6. 平野の地形
7. 海岸の地形
8. 世界と日本の植生分布
9. 植生の分布と地形
10. 土壌の形成と分布
11. 海洋と陸水
12. 自然災害（地震災害）
13. 自然災害（気象災害）
14. 自然災害（火山・山地災害）
15. 地形・地域のモニタリング手法

授業方法：

通常の講義形式をとる。図表やスライド等を多用し、視覚的に理解させることを心がける。

達成目標：

自然環境の姿や成因を正しく自然科学的に理解し、日常生活に役立てられるようになる。
自然災害や地球的規模の環境問題について、自分の意見が述べられるようになる。

評価方法：

レポート（60%）と授業への取り組み（40%）で評価する。

教科書：

特に指定しない。教材は適宜配布する。

参考文献：

高橋日出男・小泉武栄、『自然地理学概論（地理学基礎シリーズ）』、朝倉書店、3,465円
松原彰子、『自然地理学—自然環境の過去・現在・未来』、慶応義塾大学出版、2,100円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09701	植物学実習	2・3・4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：2 時限連続
前期	金	1・2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
植物、解剖、同定、植生調査	分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

種子植物の花構造と同定。

授業の概要：

植物の繁殖器官を材料に、双眼実体顕微鏡を用いた解剖実習を行う。各器官の観察とスケッチを行い、植物図鑑の具体的な活用方法を訓練する。さらに、植物標本の作製実習、野外での植生調査の実習を行う。

授業の計画：

- 1～2回：両性花の解剖
- 3回：キク科の花解剖
- 4回：単性花の解剖
- 5回：イネ科の花解剖
- 6～7回：同定
- 7～8回：標本作製
- 9回：標本同定
- 10～11回：落葉性二次林植生調査
- 12回：データ解析
- 13～14回：常緑性二次林植生調査
- 15回：データ解析

授業方法：

実験室での実習と野外での実習の両方を行う。

達成目標：

植物図鑑を使った植物種の同定技能を身につけるとともに、植生調査の方法を習得する。

評価方法：

レポート(100%)による。15分以上の遅刻は欠席とみなす。4回以上欠席の場合は単位を認めない。

教科書：

岩瀬徹・大野啓一、「写真で見る植物用語」、全国農村教育協会。2,200円(税別、各自で購入のこと)。

参考文献：

- 1) 佐竹義輔他、「フィールド版日本の野生植物－草本」、平凡社、7,800円(税別)。
- 2) 佐竹義輔他、「フィールド版日本の野生植物－木本」、平凡社、6,602円(税別)。
- 3) 谷城勝弘、「カヤツリグサ科入門図鑑」、全国農村教育協会、2,800円(税別)。

実験・実習・教材費：

受講にあたっては、上記教科書の他に実習費(顕微鏡観察消耗品費、標本作製消耗品費)7,000円が必要。

その他：

環境保全論を主専攻学科目を選択する学生は必ず受講すること。受講にあたっては、「基礎生物学」と「環境保全論講義」が履修済みであることが望まれる。「生物分類技能検定」資格の取得を目指す人に受講を薦める。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09801	環境化学実験 I	3・4	2	長井・林

期間	曜日	時限	備考：2 時限連続
前期	火	3・4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
化学実験 水質測定 野外観測 レポート作成	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

実験計画を立て、これに基づき、器具の準備、試薬調製、試料水の採取、そして成分分析の一連の操作が行える力を養成する。

本演習では水質汚濁指標の生物化学的酸素要求量の測定を行う。この成分の測定は基礎化学実験で修得した技術を応用して行うことができる。

授業の概要：

大学近隣の河川で水を採取し、BOD の測定を行う。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. BOD について
3. 試薬の濃度確認
4. フローチャートの書き方、試薬の調製
5. 試薬の調製：A 液、B 液、C 液、グルコース-グルタミン酸混合標準液
6. 試薬の調製：硫酸マンガン(Ⅱ)溶液、アルカリ性ヨウ化カリウム溶液、1/120 M ヨウ素酸カリウム溶液
7. 試薬の調製：デンプン溶液、0.025 M チオ硫酸ナトリウム溶液、硫酸(1+2)
8. チオ硫酸ナトリウム溶液の標定
9. BOD 標準物質を用いた試験操作の確認(DO0)
10. BOD 標準物質を用いた試験操作の確認(DO7)
11. データの検討
12. 乙川における BOD の測定(DO0)：終日実験
13. レポートの書き方
14. 乙川における BOD の測定(DO8)、データの検討
15. レポート指導授業方法

授業方法：

教科書と配布プリントに従って行う。毎回の予習とレポートの提出が必須である。

達成目標：

実験書を参考にして、実験を行うことができる。

評価方法：

出席、実験に対する取り組み方とレポートにより評価する。

教科書：

実験書（基礎化学実験と同じもの）を使用する。

参考文献：

実験・実習・教材費：

30,000 円（実験試薬及び消耗品）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09901	環境化学実験Ⅱ	3・4	2	長井・林

期間	曜日	時限	備考：2 時限連続
後期	火	3・4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
機器分析 水質調査 データ処理 レポート作成	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

機器分析に必要な基礎的な知識と技術を修得する。

測定の対象物質であるリン酸は、演習及び実験Ⅰで扱った生物化学的酸素要求量と同様、水質汚濁の指標の一つである。この物質を、分光光度計を用いて、モリブデン青法により分析する

授業の概要：

分光光度計を使用して、環境水中のリン酸濃度を測定する。

授業の計画：

1. ガイダンス，モリブデン青法のデモンストレーション
2. リンについて①（富栄養化とリン、水中のリンの形態）
3. リンについて②（生体内でのリンの形態と役割）
4. 試薬調製
5. 試薬調製
6. モリブデン青の吸収スペクトルの測定
7. データ整理
8. モリブデン青の吸光度の時間変化
9. 検量線の作成
10. データ整理
11. 環境水中のリン酸態リンの定量
12. データ整理
13. レポート指導
14. データ整理
15. レポート指導

授業方法：

教科書と配布プリントに従って行う。毎回の予習とレポートの提出が必須である。

達成目標：

分析機器の基本的な扱いについて習得する。

評価方法：

出席，実験に対する取り組み方とレポートにより評価する。

教科書：

実験書（基礎化学実験と同じもの）を使用する。

参考文献：

実験・実習・教材費：

30,000 円（実験試薬及び消耗品）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B22101	地域経済論講義A	2・3・4	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
政策統合（ポリシー・ミックス）、ビジネス／法／ルール／マネジメント、コミュニティ	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野、効果的な社会参加

授業のテーマ：

政策、法制、経済、ビジネスの政策統合（ポリシー・ミックス）の観点から、環境保全と公共政策と地域産業をとらえなおす。

授業の概要：

資源・エネルギーの浪費と地方経済の衰退が社会の持続可能性を脅かしている。街を環境と人間（とくに福祉）にやさしいものにつくりかえ、同時にそのことを通じて、環境ビジネス等の市場経済を活性化していく道を考える。ABあわせて履修することが望ましい。

授業の計画：

1. タウンをマネジメントする
 - ①マネジメントの重要性、②環境志向でマネジメントする
2. タウンをマネジメントする
 - ③共生志向でマネジメントする、④サステイナブルにマネジメントする
3. 景観のマネジメント
 - ①京都市景観条例のビデオを見て考える
4. 景観のマネジメント
 - ②環境志向の景観整備 ③地域社会共生の景観整備 ④持続可能な景観整備
5. 景観のマネジメント
 - ⑥3つの景観訴訟のケーススタディ（法律、条例、ルール）
6. 中間まとめと意見交換
7. 交通のマネジメント
 - ①京都市中心部の自動車規制のビデオをみて考える
8. 交通のマネジメント
 - ②環境志向の交通整備 ③地域社会共生の交通整備
9. 交通のマネジメント
 - ④都市の交通、地方の交通 ⑤地域社会と交通
10. 交通のマネジメント
 - ⑥持続可能な交通整備 ⑦交通基本法
11. 産業と交通とIT技術
 - 自動車と交通
12. 住宅のマネジメント
 - ①住宅計画の概要（岡崎市をケーススタディとして）
13. 住宅のマネジメント
 - ②環境志向の住宅デザイン ③地域社会共生の住宅デザイン
14. 住宅のマネジメント
 - ④ルーム・シェア、コーポラティブ・ハウス
15. まとめ

授業方法：

毎回、新聞記事を編集したプリントを配布する。テーマに即しつつ、日本経済の現状に関連した産業関係のDVD（ビデオ）を活用するので、上手に就職活動にも役立ててほしい。

達成目標：

都市を支える様々な構成要素やインフラ、商品・サービスへのニーズの変化と課題について理解する。同時に、それらをめぐる行政、企業、市民の役割と特性について考える。

評価方法：

試験（レポートを含む）60%、積極的・主体的な授業参加態度40%

教科書：

未定

参考文献：

「環境・共生型タウンマネジメント」（加藤敏文編著、学文社、2,500円）
授業の中で、テーマごとに紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B22201	地域経済論講義B	2・3・4	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
政策統合（ポリシー・ミックス）、ビジネス／法／ルール／マネジメント、コミュニティ	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野、効果的な社会参加

授業のテーマ：

政策、法制、経済、ビジネスの政策統合（ポリシー・ミックス）の観点から、環境保全と公共政策と地域産業をとらえなおす。

授業の概要：

資源・エネルギーの浪費と地方経済の衰退が社会の持続可能性を脅かしている。街を環境と人間（とくに福祉）にやさしいものにつくりかえ、同時にそのことを通じて、環境ビジネス等の市場経済を活性化していく道を考える。ABあわせて履修することが望ましい。

授業の計画：

1. 東日本大震災後の被災地を想う
究極のタウンマネジメント
2. 電力のマネジメント
①日本の電力問題の特徴 ②原子力発電
3. 電力のマネジメント
③水力発電・ダム問題
4. 電力のマネジメント
④自然エネルギー
5. 小売業のマネジメント
①コンビニ ②Web販売
6. 小売業のマネジメント
③ショッピングセンター（SC）
7. 小売業のマネジメント
④デパート
8. 中間まとめと意見交換
9. 小売業のマネジメント
⑤商店街
10. 小売業のマネジメント
⑥中心市街地活性化問題 ⑦買い物弱者問題
11. 様々な都市施設のマネジメント
①都市施設の概要 ②環境志向の都市施設 ③地域社会共生の都市施設
12. 産業観光のマネジメント
①観光とは ②産業観光の背景
13. 産業観光のマネジメント
③産業観光の展開
14. 産業観光のマネジメント
④ケーススタディ～「道の駅：藤川の宿」
15. まとめ

授業方法：

毎回、新聞記事を編集したプリントを配布する。テーマに即しつつ、日本経済の現状に関連した産業関係のDVD（ビデオ）を活用するので、上手に就職活動にも役立ててほしい。

達成目標：

都市を支える様々な構成要素やインフラ、商品・サービスへのニーズの変化と課題について理解する。同時に、それらをめぐる行政、企業、市民の役割と特性について考える。

評価方法：

試験（レポートを含む）60％、積極的・主体的な授業参加態度40％

教科書：

未定

参考文献：

「環境・共生型タウンマネジメント」（加藤敏文編著、学文社、2,500円）
授業の中で、テーマごとに紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B22501	地域経済論特殊講義ⅡA（公共経済学）	2・3・4	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
持続可能な地域社会、グローバル／ナショナル／リージョナル／ローカル、	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野、効果的な社会参加

授業のテーマ：

グローバル化のもとで苦悩する日本の産業と地域経済の姿を、岡崎市を含む西三河自動車産業集積地（ニッポンのものづくりの中心地）を通じて理解する。講義A Bはあわせて履修することが望ましい。

授業の概要：

岡崎市をケーススタディとして、グローバル経済の進展のもとで様々な地域産業がリストラクチュアリングのただなかにあり、そのことにより東海大都市圏の構造も大きく変化しつつあることを解説する。

授業の計画：

1. 人口動向、世帯構成
2. 派遣労働者、外国人労働者、限界集落
3. 岡崎市の地域構造～三河の中心地（歴史）
4. 同 ～伸びきった街と空洞化する中心地（現状）
5. 岡崎市の住宅開発～卒論を素材に
6. 同 ～地域間格差
7. 中間まとめと意見交流
8. 岡崎市の「飯のタネ」～豊かで多彩な地域産業
9. ものづくりのメッカ～自動車部品産業
10. 同 ～電気自動車競争
11. 同 ～激変する系列構造
12. 城下町の匠たち～歴史都市
13. 豊かな地域資源～農業、林業
14. 空洞化する中心市街地～商店街
15. まとめ

授業方法：

毎回、新聞記事を編集したプリントを配布する。テーマに即しつつ、日本経済の現状に関連した産業関係のDVD（ビデオ）を活用するので、上手に就職活動にも役立ててほしい。

達成目標：

基礎的な経済統計を理解する。自分のまち、家計に関心を持つ。

評価方法：

試験（レポートを含む）60%、積極的・主体的な授業参加態度40%

教科書：

『コミュニティを問いなおす』（広井良典、ちくま新書、2009年）860円＋税

参考文献：

『実測－ニッポンの地域力』（藻谷浩介、日本経済新聞社、2007年）1800円＋税

* その他、授業の中で紹介する

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B22601	地域経済論特殊講義ⅡB（公共経済学）	2・3・4	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
持続可能な地域社会、グローバル／ナショナル／リージョナル／ローカル、	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野、効果的な社会参加

授業のテーマ：

グローバル化のもとで苦悩する日本の産業と地域経済の姿を、岡崎市を含む西三河自動車産業集積地（ニッポンの「ものづくりのメッカ」）を通じて理解する。講義A Bはあわせて履修することが望ましい。

授業の概要：

岡崎市をケーススタディとして、グローバル経済の進展のもとで様々な地域産業がリストラクチュアリングのただなかにあり、そのことにより東海大都市圏の構造も大きく変化しつつあることを解説する。

授業の計画：

1. オリエンテーション～グローバル、リージョナル、ローカルな地域経済
2. 転機に立つ「ニッポンのものづくり」
3. ものづくりのメッカ：西三河自動車産業集積地
4. 歴史的転換期の中の自動車産業
5. ものづくりの系譜～多様な地場産業の水脈
6. 多彩で豊かな地場産業地域
7. 名古屋&豊田～二眼レフ構造化する東海圏
7. 「元気な名古屋」の地域内格差、産業間格差
8. 中間まとめ
9. 企業城下町の光と影
10. 西三河地域の自治体財政
 11. 変わりゆく系列～ピラミッドからクリスタル構造へ
 12. 企業の「命がけの飛躍」～海外移転
 13. 新興国
 14. 先進国
 15. 日本産業の針路は？

授業方法：

毎回、新聞記事を編集したプリントを配布する。テーマに即しつつ、日本経済の現状に関連した産業関係のDVD（ビデオ）を活用するので、上手に就職活動にも役立ててほしい。

達成目標：

グローバル経済の意味を理解する。世界の変動と産業の関係について考える。

評価方法：

試験（レポートを含む）60%、積極的・主体的な授業参加態度40%

教科書：

『コミュニティを問いなおす』（広井良典、ちくま新書、2009年）860円＋税

参考文献：

『実測－ニッポンの地域力』（藻谷浩介、日本経済新聞社、2007年）1,800円＋税
* その他、授業の中で紹介する

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B22701	地域経済論プロゼミナール	2・3・4	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
自己啓発、集団学習、自己表現、リサーチ	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野、効果的な社会参加

授業のテーマ：

個人と集団の力を連動させることで、視野が広がり、効率的に学べる集団学習の利点を体験する。

授業の概要：

新聞・TVの報道記事からテーマを決めて継続的にウォッチングする。そこから得た知識と考察を総合して、発表する。

授業の計画：

＜前期＞

1. オリエンテーション
2. 3. 4 「2012年：日本の課題NO. 1」についてのビデオと討論
5. 6. 7 「日本社会の課題」についてのビデオと討論
8. 9. 10 各自が選んだテーマについてのレポート及びパワーポイントの作成
12. 13. 14. 15. パワーポイントを使っての個人発表

＜後期＞

1. 前期のレビュー
2. 3. 4 「2012年：日本の課題NO. 2」についてのビデオと討論
5. 6. 7 「日本経済の課題」についてのビデオと討論
8. 9. 10 各自が選んだテーマについてのレポート及びパワーポイントの作成
11. 12. 13. 14. パワーポイントを使っての個人発表
15. 後期のまとめ

授業方法：

- ①新聞記事、および報道番組を編集した自作のDVDを活用して、基礎的な社会事項を開設するので、受講生は自分のテーマを選び、継続的にウォッチングする。
- ②①について、専門書や専門家のコメントと合わせて自分の意見をまとめる。
- ③②について、論理整合的（筋道立てて）に意見を述べる訓練をする。

達成目標：

授業内容に関連するTVの解説・討論番組（30分～1時間程度）を視聴して、その内容をA4用紙2枚程度にまとめ、発表できるようになること。

評価方法：

積極的・主体的な授業参加態度100%

教科書：

未定

参考文献：

「日経業界地図 2012年版」日本経済新聞社 予価1,050円（税込み）
授業の中で、テーマごとに紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B22801	地域経済論演習	3・4	4	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ジャパン・シンドローム、西三河自動車産業集積地、ニッポンのものづくり、産業政策	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野、コミュニケーション力

授業のテーマ：

日本経済あるいは日本社会の課題を、西三河経済圏等リージョナルな地域単位で分析する。関連するテキストを輪読しつつ、グローバルな視野で地域発展の条件を探る。

授業の概要：

テキストの輪読と検討。卒業論文の進捗にあわせた発表と相互の検討。
卒業論文作成（資料分析、論文作成の技法の指導を含む）。プレゼンテーションの練習。

授業の計画：

前期	後期
1. オリエンテーション～テキストの解説	1. 前期のレビュー
2. 東海地域経済の概観 NO. 1	2. 震災後の日本経済・東海経済の動向と課題 NO. 1
3. 東海地域経済の概観 NO. 2	3. 震災後の日本経済・東海経済の動向と課題 NO. 2
4. 個人研究テーマ（企業・産業研究）案（複数）の発表	4. 個人研究の中間発表
5. ポスト万博の中部経済の課題 NO. 1	5. 東海地域の小売業 NO. 1
6. ポスト万博の中部経済の課題 NO. 2	6. 東海地域の小売業 NO. 2
7. 個人研究テーマの決定	7. 小売業態の構造転換
8. 中間まとめ	8. 中間まとめ
9. トヨタグループのグローバル展開 NO. 1	9. トヨタグループのグローバル展開 NO. 1
10. トヨタグループのグローバル展開 NO. 2	10. トヨタグループのグローバル展開 NO. 2
11. 個人研究の構想発表	11. 個人研究の発表
12. 東海地域の産業集積と産業クラスター NO. 1	12. 産業クラスターとグローバルシティ NO. 1
13. 東海地域の産業集積と産業クラスター NO. 2	13. 産業クラスターとグローバルシティ NO. 2
14. 東海地域の企業群	14. 東海地域の企業群
15. 前期のまとめ	15. 後期のまとめ

授業方法：

自主的なゼミ運営を軸にする。司会や報告など議論における役割を分担し、自分の意見を述べ、相互に批評・コメントする。卒論の中間発表、テキストの検討を交互に繰り返す。

達成目標：

国勢調査等各種統計の概要を知り、分析する方法を学ぶ。その前提として、地域社会と日本経済に関する知識や情報が必須であることを知る。卒論作成を通して卒業後、自学自習の生涯学習を継続するノウハウを習得する。

評価方法：

積極的・主体的な授業参加態度70%、発表の独創性20%、演習への貢献10%

教科書：

『東海地域と日本経済の再編成』（関下稔・有賀敏之、同文館出版）2,200円
『「エコタウン」が地域ブランドになる時代』（関満博編、新評論、2011年）2,500円

参考文献：

『ガラパゴス化する日本の製造業』（宮崎智彦、東洋経済新報社、2009年）
他、適宜、紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B41101	現代文明論講義A	2・3・4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資本主義、マルクス、豊かな社会、必要と需要、持続可能な発展	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

現代社会がこれからどうなるのか、その中で人はどんな風に生きることになるのか、それを改善するにはどうしたらいいか、そのようなことを自らの問題として考えること。講義では、現代社会の特徴の一つである資本主義の発展とその課題について考える。

授業の概要：

資本主義の性質についてのアダム・スミスの発見から始まり、マルクスの分析を経て現代の市場主義の課題に至るまでを概観する。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 経済成長の要因
3. 市場の発見
4. マルクスの分析：資本家と利潤
5. マルクスの分析：労働者と格差
6. 大量生産
7. 豊かな社会
8. 必要と需要の乖離
9. 冷戦の終結と資本主義
10. 経済のグローバル化
11. 資本主義の宿命
12. 経済成長の限界
13. 停止状態
14. 持続可能な発展
15. まとめ

授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

達成目標：

現代文明の大きな特徴である資本主義について正しく理解するとともに、その内包する課題について身近な問題として捉えられるようになること。

評価方法：

授業への取組（30%）に試験の結果（70%）を加味して判定する。

教科書：

なし。

参考文献：

その都度プリントを配布したり参考文献を指示したりする。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B41201	現代文明論講義B	2・3・4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
株式会社、株主、経営者、大企業、日本的経営	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

現代社会において、さまざまな生産活動は、企業が中心となって行われている。そこで、企業とは何か、その役割を遂行していくためのさまざまな仕組みや働きなど、現代企業の全体像を、最新のデータや事例を用いて多面的に理解する。

授業の概要：

企業とは何か、その仕組みと働き、企業を取り巻く環境など、現代社会における企業について概観する。とくに株式会社の役割と仕組み、大企業の現実、そして日本型経営について解説する。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 企業の役割
3. 株式会社とは何か
4. 株式会社の仕組み
5. 株主と利益
6. 上場企業と株式市場
7. 株式公開と創業者利益
8. 大企業
9. 大企業は誰のもの
10. 大企業の経営者
11. コーポレートガバナンス
12. 日本の会社
13. 日本社会と企業
14. 揺らぐ日本型経営
15. まとめ

授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

達成目標：

現代社会において重要な組織である企業について、その役割を正しく捉え、その基本的な仕組みを理解する。

評価方法：

授業への取組（30％）に試験の結果（70％）を加味して判定する。

教科書：

参考文献：

その都度プリントを配布したり参考文献を指示したりする。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B41501	現代文明論特殊講義ⅡA（現代文明の未来）	2・3・4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資本主義、世界市場、グローバル化の課題	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

この講義のテーマは、「現代文明はどのような未来を持っているであろうか」である。現代文明は多くの資源を消費しながら成立しており、その限界が言われて久しい。しかし、相変わらずアメリカ、中国、インドなどの国々は、資源を大量に消尽しながら経済成長を維持しようと必死になっている。特殊講義Aでは、そうした活動の先に待っているものについて考察を進める。

授業の概要：

資本主義の本質は、経済成長にあることを理解することからはじめて、資本主義ひいては現代文明の将来の姿を考察する。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 『共産党宣言』の衝撃
3. マルクスの「資本主義」分析
4. ロシア革命とソヴィエト連邦の出現
5. 豊かな社会
6. 東西冷戦
7. 冷戦下の資本主義
8. 冷戦の終結と資本主義
9. 世界市場の出現
10. 世界規模の生産活動
11. 露骨になった資本主義
12. グローバル化の分析
13. グローバル化への懸念
14. これからの経済社会
15. まとめ

授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

達成目標：

露骨になった資本主義と世界市場の出現をキーワードにして、現代日本のおかれている歴史的状況を理解し、その将来について自分の意見を持てるようになること。

評価方法：

授業への取組（30%）に試験の結果（70%）を加味して判定する。

教科書：

参考文献：

その都度プリントを配布したり参考文献を指示したりする。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B41601	現代文明論特殊講義ⅡB（現代文明の未来）	2・3・4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資源、エネルギー、食糧、技術革新	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

この講義のテーマは、「現代文明はどのような未来を持っているであろうか」である。現代文明は、さまざまな豊かさを作り出してきたけれども、そのために膨大な資源を消費してきた。特殊講義Bでは、現代文明を取り巻く資源・エネルギー問題と食糧問題を取り上げ、その各々についてその解決の可能性と限界について考える。

授業の概要：

前半を資源・エネルギー問題に充て、後半を食糧問題に充てる。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 原子力の課題：その原理
3. 原子力の課題：事故
4. 原子力の課題：廃棄物
5. 地球温暖化：その原理
6. 地球温暖化：対処
7. 低炭素社会への道
8. 技術革新
9. 人口爆発
10. 農業技術の発展
11. 水資源問題
12. ヴァーチャル・ウォーター
13. 遺伝子組み換え食品
14. 遺伝子汚染
15. まとめ

授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

達成目標：

現代文明の限界を示唆するさまざまな課題について理解し、文明の将来について自分の意見を持つようになること。

評価方法：

授業への取組（30%）に試験の結果（70%）を加味して判定する。

教科書：

参考文献：

そのつど指示するか、プリントを配布する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B41701	現代文明論プロゼミナール	2・3・4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
マイケル・サンデル、正義論、読む、まとめる、発表する	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、価値判断力

授業のテーマ：

今回取り上げるのは、ハーバード白熱講義としてNHKで放映され評判となったマイケル・サンデルの『これからの「正義」の話しよう』である。一冊のテキストを時間をかけて批判的に読むことによって、テキストに書かれていることを正しく読み、理解し、解釈し、その内容を批判的に吟味する力を養う。

授業の概要：

教科書を中心にスロー・リーディングの手法によって、問題の所在やその理解、解決の可能性などを考える。一章を読み終わるごとに、そのテーマに関係するマイケル・サンデルの講義のビデオを見て理解を深める。

授業の計画：

一冊のテキストについて、

1. 朗読することによって、個々の漢字の読み方を知る
 2. 分からない言葉を調べ、辞書だけでは意味が分からない場合があることを知る
 3. 書いてあることを自分の言葉で言い換えてみる
 4. 書いてあることを長く引き伸ばして表現してみる
 5. 段落ごとに、何がテーマとなっているかをまとめる
 6. 節や章が終わるごとに、筆者が何を言いたかったのかをまとめる
 7. 節や章が終わるごとにそこに書かれていることを批判的に吟味するにはどのようなことを行えばよいかを学ぶ
- 以上の作業を通して、調べ、討論し、疑問を見出し、その答えを見つけ、自分の考えを発表する能力を養う。

授業方法：

教科書を中心とした演習形式による。

達成目標：

一冊の本を読み通し、そこに書かれていることを自分の言葉でまとめ、その内容を批判的に吟味して発表できるようになること。

評価方法：

授業への取組（40％）に章毎のまとめ（60％）を加味して判定する。

教科書：

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）945円

参考文献：

マイケル・サンデル出演『ハーバード白熱教室』（NHK）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B41801	現代文明論演習	3・4	4	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
批判的吟味、問題発見、問題解決、プレゼンテーション	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

各人がそれぞれに興味を持った話題について発表し、その発表に基づいて討論を行う。テーマについての制限は設けず、出来るだけ広範な問題を取り上げて、批判的に考察する能力と態度を養う。

授業の概要：

授業の参加者は、まず自分が興味を持てる分野が何かを明確にする。その分野についての参考となるテキストがあるかないかを調べ、見つかったときには、その内容を批判的に吟味する。見つからなかった場合には、テーマにかかわる資料を収集し、その資料の適切さなどをも含めて批判的に吟味する。

授業の計画：

3年次生

各人が興味を持った著作を読み、その内容について報告を行い、その報告に基づいて議論する。

4年次生

前期

(1) 各自の興味に応じて、課題を設定する。

(2) 課題を探求する上で必要な資料を収集する。

(3) 収集した資料の分析を行う。

後期

(4) 作成中の卒業論文の内容について発表し、他のゼミ生からの批判を受ける。

(5) 卒業論文を完成させる。

授業方法：

各人の選択したテキストや資料の講読とそれに基づく議論を中心に、質疑応答を行う演習形式

達成目標：

3年次生にあっては、各人が興味を持った著作を批判的に解読できるようになること。4年次生にとっては卒業論文を完成させることが目標である。

評価方法：

授業への取組によって判定する。

教科書：

参考文献：

各人がテキストを選定し、それにもとづいて発表し、議論する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B42101	資源循環型経済社会論講義A	2・3・4	2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
循環型社会、廃棄物、再生資源（循環資源）、一般廃棄物、産業廃棄物	分析・総合の思考力と判断力、問題解決能力、グローバルな視野

授業のテーマ：

わが国は2000年に循環型社会形成推進基本法を制定し、20世紀の大量生産・大量消費・大量廃棄の一方通行型経済社会から循環型経済社会へ向かって大きく舵を切りました。本講義では循環型経済社会の理解にとって最も基礎的な廃棄物と再生資源（循環資源）の諸過程の実態について理解します。

授業の概要：

廃棄物は資源であるという立場から、廃棄物と循環資源などの静脈過程の基本的カテゴリーの理解、廃棄物処理過程や再資源化過程の実際、統計的な全体像、及びその歴史的過程等について学び、循環型社会形成のための諸課題を考察します。

授業の計画：

1. 授業の概要
2. 廃棄物と循環資源 (1) 廃棄物の定義と分類
3. 廃棄物と循環資源 (2) 廃棄物の処理主体
4. 廃棄物と循環資源 (3) 循環資源（再生資源）の定義
5. 廃棄物と再生資源 (4) 廃棄物と循環資源の区別と比較
6. 廃棄物処理過程の実際 (1) 収集運搬過程
7. 廃棄物処理過程の実際 (2) 中間処理・再生処理過程
8. 廃棄物処理過程の実際 (3) 最終処分過程
9. 廃棄物処理と再資源化の統計 (1) 一般廃棄物
10. 廃棄物処理と再資源化の統計 (2) 産業廃棄物
11. 静脈過程と静脈産業 (1)
12. 静脈過程と静脈産業 (2)
13. 廃棄物処理の歴史 (1) 江戸時代まで
14. 廃棄物処理の歴史 (2) 明治から第二次大戦まで
15. 廃棄物処理の歴史 (3) 第二次大戦以後

授業方法：

講義形式で進めますが、必要に応じてビデオ・スライド・プリント等の資料を用いて解説します。

達成目標：

循環型社会に関する基礎的知識を修得するだけでなく、私たちの生活過程と結びつけて問題意識を掘り起こす能力を身につけます。

評価方法：

授業の取り組み 40%、テスト 60%として評価します。

教科書：

吉野敏行『資源循環型社会の経済理論』（東海大学出版会／3,045円）

参考文献：

寄本勝美『リサイクル社会への道』（岩波新書）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B42201	資源循環型経済社会論講義B	2・3・4	2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
循環型社会、最終処分場、不法投棄、容器包装リサイクル、家電リサイクル	分析・総合の思考力と判断力、問題解決能力、グローバルな視野

授業のテーマ：

20世紀の高度な経済成長は、資源の無尽蔵な存在と環境の無限な浄化・同化能力を前提とした大量生産・大量消費・大量廃棄の一方通行型経済社会システムによって実現されました。しかし、各種の環境汚染や地球環境問題等に直面し、この経済社会システムは限界に達しています。本講義は循環型社会形成の背景と現状、今後の展望について明らかにします。

授業の概要：

循環型社会の形成促進という立場から、今日の廃棄物問題の特性やその社会経済的背景、住民・業界の減量・リサイクル活動の現況、循環型社会の概念、行政の政策手法やリサイクル諸制度などについて概説します。

授業の計画：

1. 授業の概要
2. 現代の廃棄物問題 (1) 廃棄物処理施設の逼迫
3. 現代の廃棄物問題 (2) 市町村のごみ処理費用の増大、
4. 現代の廃棄物問題 (3) 不法投棄・不適正処理
5. 現代の廃棄物問題 (4) 廃棄物による環境汚染
6. 現代の廃棄物問題 (5) 資源の枯渇問題・その他の諸問題
7. 循環型社会の概念と原則 (1)
8. 循環型社会の概念と原則 (2)
9. 循環型社会構築の政策手法 (1) 政策手法の概要・直接規制
10. 循環型社会構築の政策手法 (2) 経済的手法
11. 循環型社会構築の諸制度 (1) デポジット制度
12. 循環型社会構築の諸制度 (2) 欧州の容器包装リサイクル制度
13. 循環型社会構築の諸制度 (3) 日本の容器包装リサイクル制度
14. 循環型社会構築の諸制度 (4) 家電リサイクル制度
15. 循環型社会構築の諸制度 (5) その他の諸制度・拡大生産者責任制度

授業方法：

講義形式で進めますが、必要に応じてビデオ・スライド・プリント等の資料を用いて解説します。

達成目標：

循環型社会形成の背景となる廃棄物問題や対策、諸制度等の知識を修得するとともに、それを通じて問題の発見と政策形成能力を身につけます。

評価方法：

授業の取り組み 40%、テスト 60%として評価します。

教科書：

吉野敏行『資源循環型社会の経済理論』（東海大学出版会／3,045円）

参考文献：

吉田文和『循環型社会』（中公新書／860円）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B42501	資源循環型経済社会論特殊講義ⅡA（ゼロエミッション産業論）	2・3・4	2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
環境革命、持続可能な開発、ゼロエミッション、拡大生産者責任、	分析・総合の思考力と判断力、問題解決能力、グローバルな視野

授業のテーマ：

現在、進行している環境革命は、企業経営や産業構造にどのような影響を及ぼしつつあるのか、そして、企業・産業はこの環境革命にどのように対応し、適応しようとしているのか。さらに、企業はこの環境革命の主体的担い手になりうるのか、を明らかにします。

授業の概要：

環境革命の定義、主要な環境革命の思想、さらに、企業や産業界に直接影響を及ぼしている環境市場革命の具体的な現れについて分析します。

授業の計画：

1. 授業の概要
2. 環境革命とは何か
3. 環境革命の思想 (1) 環境思想の源流
4. 環境革命の思想 (2) 「人口論」「沈黙の春」
5. 環境革命の思想 (3) 「宇宙船地球号」「成長の限界」
6. 環境革命の思想 (4) 「人間環境宣言」「持続可能な開発」「アジェンダ 21」
7. 環境革命の思想 (5) 「ファクター 4」「ファクター 10」
8. 環境革命の思想 (6) 「ゼロエミッション」
8. 環境市場革命の現れ (1) 汚染者負担の原則、
9. 環境市場革命の現れ (2) 排出者責任と拡大生産者責任
10. 環境市場革命の現れ (3) 強制リサイクル法
11. 環境市場革命の現れ (4) 国際環境規格化 (ISO 14000 シリーズ)
12. 環境市場革命の現れ (5) 環境ラベル
13. 環境市場革命の現れ (6) グリーンコンシューマとグリーン購入
14. 環境市場革命の現れ (7) エコファンドと環境格付け
15. まとめ

授業方法：

講義形式で進めますが、必要に応じてプリント・スライド等の資料を用いて解説します。

達成目標：

環境革命や企業を取り巻く環境市場革命の具体的な姿を理解するとともに、現在進行している変革を人類史の大きな流れの中で位置づける歴史観を身につけます。

評価方法：

授業の取り組み 30%、テスト 70%として評価します。

教科書：

指定しません。

参考文献：

三橋規宏『日本経済・グリーン国富論』（東洋経済）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B42601	資源循環型経済社会論特殊講義ⅡB（ゼロエミッション産業論）	2・3・4	2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
環境市場革命、廃棄物ゼロ工場、インバース・マニュファクチャリング、環境経営	分析・総合の思考力と判断力、問題解決能力、グローバルな視野

授業のテーマ：

環境革命を背景に創出されつつある環境共生型の新産業の動向を分析し、その歴史的意義と今後の展望を明らかにする中で、企業は環境革命の主體的担い手になりうるのかという最終課題の解を見出すことにあります。

授業の概要：

わが国の環境経営の歴史的発展をたどり、さらに近年、活発化している廃棄物ゼロ工場やゼロエミッション工業団地、エコタウン事業など環境共生型の新産業を取り上げて分析します。

授業の計画：

1. 環境市場革命の現れ (8) グリーン税制
2. 環境市場革命の現れ (9) 化学物質の管理規制
3. 環境市場革命の現れ (10) 京都議定書とわが国の温暖化対策
4. 環境市場革命の現れ (11) 再生可能エネルギー法
5. 環境経営の形成と発展 (1) 環境経営とその類型
6. 環境経営の形成と発展 (2) 戦前から高度経済成長期の環境敵視型経営
7. 環境経営の形成と発展 (3) オイルショック以後の環境回避型経営
8. 環境経営の形成と発展 (4) バブル経済以後の環境遵守型経営
9. 環境経営の形成と発展 (5) 90年代後半の環境ボランティア型経営
10. ゼロエミッション産業の事例 (1) 廃棄物ゼロ工場
11. ゼロエミッション産業の事例 (2) インバース・マニュファクチャリング
12. ゼロエミッション産業の事例 (3) ゼロエミッション工業団地
13. ゼロエミッション産業の事例 (4) ローカルゼロエミッション
14. ゼロエミッション産業の歴史的位置づけ
15. ゼロエミッション産業の課題と展望

授業方法：

講義形式で進めますが、必要に応じてプリント・スライド等の資料を用いて解説します。

達成目標：

わが国の環境経営と環境共生型の新産業の動向を理解しながら、企業のみならず各人が環境革命の主體的な担い手であることの自覚を醸成します。

評価方法：

授業の取り組み 30%、テスト 70%として評価します。

教科書：

指定しません。

参考文献：

山口民雄『環境経営への軌跡』（日刊工業新聞社）
吉村元男『地域発ゼロエミッション』（学芸出版社）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B42701	資源循環型経済社会論プロゼミナール	2・3・4	2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
基本的文献、レポート報告、自主調査	分析・総合の思考力と判断力、問題解決能力、コミュニケーション力

授業のテーマ：

資源循環型経済社会のあり方を考えていくための予備的学習として、基本的文献の理解と自主調査を通じて参加者の問題意識を掘り起こします。

授業の概要：

基本的文献を輪読して学問的な理解と読解力を高めるとともに、参加者の問題意識に基づく自主調査の発表と討議によって広く問題意識と基礎知識を共有します。

授業の計画：

＜前期＞

1. ガイダンス
2. テキストの読解（環境問題のアプローチ）
3. テキストの読解（農業と人間）
4. テキストの読解（技術と環境）
5. テキストの読解（消えるアラル海）
6. テキストの読解（化石燃料革命）
7. テキストの読解（日本文明と環境）
8. テキストの読解（貧困と豊かさ）
9. テキストの読解（資本主義と共産主義）
10. テキストの読解（持続可能な資源利用）
11. テキストの読解（成熟社会）
12. 自主調査のテーマ設定
13. 自主調査のテーマ設定
14. 自主調査のテーマ設定
15. 自主調査のテーマ設定

＜後期＞

1. ガイダンス
2. 自主調査の中間発表
3. 自主調査の中間発表
4. 自主調査の中間発表
5. 自主調査の中間発表
6. 自主調査の中間発表
7. 自主調査の中間発表
8. 自主調査の中間発表
9. 自主調査の最終報告
10. 自主調査の最終報告
11. 自主調査の最終報告
12. 自主調査の最終報告
13. 自主調査の最終報告
14. 自主調査の最終報告
15. まとめ

授業方法：

1. テキストの読解については、要約レポートの作成と発表を行い、討議しながら内容の理解を深め、読解力、文書作成力、プレゼンテーション能力を高めます。
2. 自主調査については、事前に自分の問題意識に基づく課題を設定し、資料収集と調査、分析、レポート作成等を通じて、調査研究の基本的手法を修得します。

達成目標：

自分の問題意識を掘り起こし、調査研究のスキルを身につけて演習参加の準備を整えます。

評価方法：

テキスト報告 30%、自主調査発表 30%、討議参加 40%で評価します。

教科書：

細田衛士『環境と経済の文明史』（NTT 出版／1,800 円＋税）

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B42801	資源循環型経済社会論演習	3・4	4	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
研究テーマ、研究計画書、政策形成能力、プレゼンテーション能力	分析・総合の思考力と判断力、問題解決能力、コミュニケーション力

授業のテーマ：

本演習の目標は、環境分野における政策形成能力とプレゼンテーション能力の向上にあります。活発な討議を通じて問題意識の共有化と知識の深化を図っていきます。

授業の概要：

参加者へは問題意識の形成、調査研究のテーマ設定、研究計画書の作成、フィールドワークの実施、中間報告、最終報告と段階的な作業を課し、課題抽出や解決策の提案などの訓練を通じて、分析手法や応用理論を身につけます。

授業の計画：

<前期>

1. ガイダンス
2. 調査研究テーマの設定
3. 調査研究テーマの設定
4. 調査研究テーマの設定
5. 調査研究テーマの設定
6. 研究計画書の作成
7. 研究計画書の作成
8. 研究計画書の作成
9. 研究計画書の作成
10. 中間報告 (1)
11. 中間報告 (1)
12. 中間報告 (1)
13. 中間報告 (1)
14. 中間報告 (1)
15. 中間報告 (1)

<後期>

1. ガイダンス
2. 中間報告 (2)
3. 中間報告 (2)
4. 中間報告 (2)
5. 中間報告 (2)
6. 中間報告 (2)
7. 中間報告 (2)
8. 最終報告
9. 最終報告
10. 最終報告
11. 最終報告
12. 最終報告
13. 最終報告
14. 最終報告
15. まとめと反省

授業方法：

1. 参加者は順番に、①研究テーマの設定、②研究計画書の作成、③中間報告 (1)、④中間報告 (2) ⑤最終報告を発表します。
2. 発表に当たっては、パワーポイントで作成したスライド発表を行います。

達成目標：

自分の問題意識から学術的研究テーマを設定し、研究スキルを用いて分析と課題の解決策を提案し、効果的なプレゼンテーションができるようになる。

評価方法：

調査研究の発表 60%、討議参加 40%で評価します。

教科書：

特に指定なし。

参考文献：

- 吉田文和『循環型社会』（中公新書）
 山谷修作編著『循環型社会の公共政策』（中央経済社）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B44201	環境経済学講義 B	2・3・4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
環境税、排出権取引、人間の欲望、自然の商品化	グローバルな視野、価値判断力、分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

環境経済学の理論と環境政策（環境税、排出権取引、環境評価）について学ぶ。また、現状の環境経済学の有効性を認めつつも、この学問が対処できない問題領域（人間の無制限の欲望、自然の商品化など）についても検討する。

授業の概要：

環境経済学の理論を学んだ後で、その応用である環境税や排出権取引、環境評価などについて説明する。また、それらが政策として国内外でどのように実施されているかも紹介する。後半では、環境経済学の前提について批判を加え、この学問をどう改革していくべきかについても検討する。

授業の計画：

- (1) 環境経済学とは
- (2) 戦後初期の環境問題（公害）と環境経済学
- (3) 法による規制、環境税、排出権取引
- (4) 環境税の理論
- (5) 環境税の実際（ドイツ排水課徴金）
- (6) 排出権取引の理論
- (7) 排出権取引の実際（アメリカ酸性雨プログラム）
- (8) 環境評価理論
- (9) 環境評価の実際（公共事業の費用便益分析）
- (10) 物理学者から見た経済学の欠点
- (11) お金の価値と環境の価値
- (12) 農業の衰退と市場原理
- (13) 自然の商品化と環境破壊
- (14) 無制限の欲望と環境破壊
- (15) まとめ

授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

達成目標：

環境経済学の知識を身につける。また、環境経済学とその政策的応用について批判的に検討する能力を身につける。

評価方法：

期末試験 60%、授業への取り組み 10% 小テスト 30%。
 環境経済学の有効性と限界をよく理解している……………S
 環境経済学を知っている……………A
 環境経済学を知っているがあまり説明力がない……………B
 ところどころ間違っ理解している……………C
 上記のレベルに達していない……………D

教科書：

特に指定しない。

参考文献：

次を挙げておくが、その他はそのつど紹介していく。
 植田和弘 [1996] 『環境経済学』 岩波書店。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B44101	環境経済学講義 A	2・3・4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
国内総生産（GDP）、金融・財政政策、経済活動と豊かさとの関係	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力

授業のテーマ：

経済全体のモノとお金の流れについて学び、景気をコントロールするための金融政策・財政政策について理解する。また、「景気が良くなれば幸福である」という考え方を当然のこととして受け入れず、その考え方の有効性と限界について論じる。

授業の概要：

国内総生産（GDP）について解説した後、①現代経済のしくみはどうなっているのか、②なぜ生産や所得を増大させることがよいと言われているのか、③生産や所得はどのように生み出されるのか、④それらを増やすためにはどのような政策が必要か、などについて検討する。

授業の計画：

- (1) 経済とは（社会的分業とお金の役割）
- (2) 経済循環（経済全体のお金の流れ）
- (3) 国内総生産（GDP）とは
- (4) 国内総生産（GDP）と景気
- (5) 財政政策による景気対策
- (6) 財政政策と公共事業
- (7) 財政政策と財政赤字問題
- (8) 景気回復と財政健全化の両立
- (9) 中央銀行と民間銀行によるお金の発行
- (10) 金融政策による景気対策
- (11) 直接金融（証券市場）の役割
- (12) 日本におけるバブルの形成とバブル崩壊
- (13) サブプライムローン問題
- (14) リーマンショックと金融恐慌
- (15) まとめ

授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。所々で意見・質問を受け付ける。

達成目標：

経済ニュースの内容が理解でき、経済政策を評価できるほどの経済学の知識を身につける。

評価方法：

期末試験 60%、授業への取り組み 10% 小テスト 30%。
 経済学の有効性と限界をよく理解している……………S
 経済学を知っている……………A
 経済学を知っているがあまり説明力がない……………B
 ところどころ間違っ理解している……………C
 上記のレベルに達していない……………D

教科書：

特に指定しない。

参考文献：

次を挙げておくが、その他はそのつど紹介していく。
 L. サロー、R. ハイブローナー、J. ガルブレイス [1990] 『現代経済学（上・下）』 中村達也訳、TBSブリタニカ。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B44501	環境経済学特殊講義ⅡA（経済倫理と環境）	2・3・4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
貨幣（お金） 資源の枯渇 仮想的な富（バーチャル・ウェルス） バブル経済 大量生産・大量消費	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

自然環境と貨幣経済との間の矛盾、社会と貨幣経済との間の矛盾を指摘した経済学者たちの業績を紹介しながら、経済と自然環境・社会とのつながりについて考える。

授業の概要：

近代的な貨幣経済のしくみが資源を枯渇させる原因であると説いた化学者 F. ソディや、お金の暴走がバブルの形成・崩壊や資源の枯渇を招くと説いた経済学者 T.B. ヴェブレンなどの業績を紹介していく。

授業の計画：

- (1) 生態系の循環と経済
- (2) 貨幣（お金）と銀行
- (3) 中央銀行と民間銀行による貨幣（お金）の発行
- (4) 化学者 F. ソディの経済学批判
- (5) 自然法則に逆らおうとする貨幣経済
- (6) 本物の富と仮想的な富（お金）
- (7) T.B. ヴェブレンの経済学批判
- (8) 産業（インダストリー）と営利（ビジネス）の間の矛盾
- (9) 企業の価値とは何か
- (10) 現代経済における不況の慢性化
- (11) K. ガルブレイスの経済学批判
- (12) 大量生産・大量消費を強えられる現代社会
- (13) 現代の大企業体制
- (14) 大企業体制における矛盾
- (15) まとめ

授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

達成目標：

お金のしくみを理解する。お金が生み出す矛盾（資源枯渇、バブル経済、大量生産・大量消費）について理解する。

評価方法：

期末試験 80%、小テスト 20%。
貨幣経済の有効性と限界をよく理解している……………S
貨幣経済について知っている……………A
貨幣経済について知っているがあまり説明力がない…B
ところどころ間違っ理解している……………C
上記のレベルに達していない……………D

教科書：

特に指定しない。

参考文献：

F. ソディ『富、仮想的富、負債』
（第7章までが数回にわたって『新潟大学経済論集』で訳されており、この『論集』は新潟大学経済学部 HP で無料で公開されている）
その他適宜授業中に紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B44601	環境経済学特殊講義ⅡB（経済倫理と環境）	2・3・4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
有限の自然 人間の欲望 足るを知る	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

経済学を他の学問領域と接合することによって、総合的な経済倫理の構築を目指す。

授業の概要：

前半では、経済学には自然が枯渇しないという暗黙の前提があることを確認する。後半では、現代経済学の経済倫理を紹介した後で、そこには「無制限の欲望」という暗黙の前提があることを確認する。これらのことをふまえ、有限の自然を少しずつ利用しながらもお幸福でいられるにはどうすればよいかを考える。

授業の計画：

- (1) 農業におけるエネルギー収支
- (2) 熱力学第二法則と生命
- (3) 経済学で想定されている「無限の自然」
- (4) 貿易と環境問題①
- (5) 貿易と環境問題②
- (6) 有限の自然か？無限の自然か？
- (7) 「量」だけでなく「質」を問う経済学
- (8) 経済学における経済倫理、「功利主義」
- (9) 費用便益分析と環境政策
- (10) E. フロムの人間科学と倫理
- (11) 自己破壊的な人間の欲望
- (12) E. フロムの功利主義批判①
- (13) E. フロムの功利主義批判②
- (14) 「足るを知る」、『スモール・イズ・ビューティフル』
- (15) まとめ

授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

達成目標：

「無限の自然」「無制限の欲望」という経済学の前提を理解する。

評価方法：

期末試験 80%、小テスト 20%。
 経済学の有効性と限界をよく理解している……………S
 経済学について知っている……………A
 経済学について知っているがあまり説明力がない…B
 ところどころ間違っ理解している……………C
 上記のレベルに達していない……………D

教科書：

特に指定しない。

参考文献：

中村修 [1995] 『なぜ経済学は自然を無限ととらえたか』 日本経済評論社。
 その他適宜授業中に紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B44701	環境経済学プロゼミナール	2・3・4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
国内総生産（GDP）、エコロジカルフットプリント（EF）、人間開発指数（HDI）、国民総福祉量（GNH）、貨幣の引き起こす矛盾	グローバルな視野、価値判断力、分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

人間が作り出した制度（例えば貨幣制度）や指標（例えば国内総生産：GDP）が自然環境やわれわれの生活に与える影響について学ぶ。

授業の概要：

前期では、国内総生産（GDP）、エコロジカルフットプリント（EF）、人間開発指数（HDI）、国民総福祉量（GNH）などの諸指標を比較しながら、経済と豊かさの関係について議論する。後期では、お金について考えた経済学者や思想家について学び、お金が生み出すさまざまな矛盾について理解を深める。

授業の計画：

- | | |
|---|--|
| <p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) GDP（国内総生産）とは (2) GDP は豊かさを反映する指標か？ (3) エコロジカルフットプリント（EF）という環境指標 (4) EF の計算方法 (5) EF の応用可能性 (6) EF の計測事例 (7) A. センの経済学批判（GDP 批判） (8) A. センらによる人間開発指数（HDI）の提唱 (9) HDI の計算方法 (10) 「国連開発計画」年次報告書における HDI (11) HDI の改良型（ジェンダー開発指数など） (12) 「世界自然保護基金」年次報告書における EF と HDI (13) ブータンと仏教文化 (14) ブータンの国民総福祉量（GNH） (15) まとめ | <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間と貨幣の関係 (2) 国家の富の創出 W. ペティ (3) 「自然の秩序」と貨幣 F. ケネー (4) 使用価値と交換価値 J. ロック (5) 経済秩序 A. スミス (6) 経済学の形式化 D. リカード (7) 貨幣経済の矛盾 J.S. ミル (8) 貨幣廃絶論 M. ヘス (9) 人間の尊厳と貨幣 W. ヴァイトリング (10) 観念支配としての貨幣 M. シュティルナー (11) 社会主義と労働時間 K. マルクス (12) 貨幣と不況 J.M. ケインズ (13) 貨幣の精神史 (14) 貨幣と虚しさ (15) まとめ |
|---|--|

授業方法：

教科書を受講生全員で読む → 疑問が生じたら立ち止まって議論する → 興味の湧いたテーマについて調べたり原典を読んだりする → 調べたものを報告する。

達成目標：

前期では、それぞれの指標の意味を理解し、その限界について論じることができるようにする。後期では、お金のしくみを理解し、人間・環境とお金との間に生じる矛盾について論じることができるようにする。

評価方法：

授業への取り組み（発言、報告内容）（100%）で評価する
 環境経済学についてよく理解している……………S
 環境経済学について知っている……………A
 環境経済学について知っているがあまり説明力がない…B
 ところどころ間違っていて理解している……………C
 上記のレベルに達していない……………D

教科書：

（前期）特に指定しない
 （後期）内山節 [1997] 『貨幣の思想史—お金について考えた人びと』新潮選書。1,100 円

参考文献：

適宜授業中に紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B44801	環境経済学演習	3・4	4	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
市場経済 環境 豊かさ	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

- ①経済学的な思考がどのような形でわれわれの生活と関わっているかを学ぶ。②経済的思考の有効性と限界について理解する。③環境経済学の分析手法を習得する。

授業の概要：

- ①卒論やその他各自が興味を持ったテーマについて調査し、報告する。
②卒論に関する文献、その他各自が興味を持ったテーマに沿った文献を輪読する。

授業の計画：

(前期)

- (1)～(12) 文献輪読、合間に4年生報告
(13)～(15) 4年生中間報告
その他適宜卒論の書き方について解説する。

(後期)

- (1)～(12) 文献輪読、合間に4年生報告
(13)～(15) 4年生最終報告
その他適宜卒論の書き方について解説する。

授業方法：

卒論のテーマに沿った文献を輪読する。また、各自で選択したテーマについて調べ、報告する。

達成目標：

各自で選択したテーマについて詳細に調べ、理解し、報告できるようになる。

評価方法：

授業への取り組み(発言、報告内容)(100%)で評価する。
各自のテーマについてよく調べ、よく理解し、報告できる…S
各自のテーマについてよく調べ、よく理解している…A
各自のテーマについてよく調べている…B
各自のテーマについてあまり調べていない…C
全くやる気がない…D

教科書：

受講者で話し合っ決めて、今のところ以下のものを予定。予定であるので、決定するまでは買わなくともよい。

都留重人『制度派経済学の再検討』岩波書店、1999年(事前^に買わなくともよい)

五島茂 編集『ラスキン・モリス』中央公論社、1979年(事前^に買わなくともよい)

参考文献：

戸田山和久 [2002]『論文の教室』NHK ブックス。
適宜授業中に紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B45101	企業会計論講義A	2・3・4	2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資格、日商簿記検定3級、情報処理能力、ビジネススキル、経済知識	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

企業が営利を迫及していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ簿記は会計学を学習するうえでの基本となるものである。本講義では、簿記を初めて学ぶ学生が日商簿記検定3級の合格水準に達することを目的としている。

授業の概要：

日商簿記検定3級合格を目指した講義を行う。簿記をはじめて学ぶ学生にもわかりやすいよう、初歩的な内容から解説を始めていく。日商簿記検定3級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。なお、この講義は企業会計論講義AとBをあわせて2時限連続授業として開講されるため必ず2時限連続受講すること。なお、すでに企業会計論講義Bを履修済みの受講生は、後期の前半（第15回まで）で修了となる。

授業の計画：

1. 会計の機能と分類
2. 企業会計システムと利害関係者
3. 取引
4. 簿記の基本（勘定・用語説明）
5. 資産・負債・純資産・費用・収益
6. 財政状態と経営成績
7. 仕訳（解説）
8. 仕訳（演習問題）
9. 元帳
10. 試算表
11. 精算表
12. 貸借対照表と損益計算書
13. 商品売買に関する3つの方法
14. 現金・預金（1）
15. 現金・預金（2）

授業方法：

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、例題を用いて問題の解法を説明する。また、理解を深めるために、テキストの演習問題・ワークブックを使って実際に問題を解いていく。

達成目標：

日商簿記検定3級取得

評価方法：

定期試験70%、授業への取り組み30%

教科書：

渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記講義 平成24年度版 3級商業簿記』中央経済社 ¥735
 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記ワークブック 3級商業簿記（第6版）』中央経済社 ¥735

参考文献：

開講時および必要に応じて適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B45201	企業会計論講義B	2・3・4	2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資格、日商簿記検定3級、情報処理能力、ビジネススキル、経済知識	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

企業が営利を追求していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。**将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。**とりわけ簿記は会計学を学習するうえでの基本となるものである。本講義は、すでに「企業会計論講義A」を履修した学生を対象にしており、日商簿記検定3級の合格水準に達することを目的としている。

授業の概要：

日商簿記検定3級合格を目指した講義を行う。簿記をはじめて学ぶ学生にもわかりやすいよう、初歩的な内容から解説を始めていく。日商簿記検定3級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。なお、この講義は企業会計論講義AとBをあわせて2時限連続授業として開講されるため必ず2時限連続受講すること。すでに企業会計論講義Aを履修済みの受講生は、後期の後半（第16回以降）から受講すること。

授業の計画：

16. 小切手の処理
17. 当座借越・現金過不足・小口現金
18. 伝票
19. 資本金と引出金
20. 手形（約束手形・為替手形）
21. 手形（裏書手形・割引手形）
22. その他の債権・債務
23. 商品有高帳の管理
24. 有形固定資産と減価償却
25. 有価証券
26. 貸倒の処理
27. 費用・収益の見越し・繰延べ（1）
28. 費用・収益の見越し・繰延べ（2）
29. 決算整理・精算表（1）
30. 決算整理・精算表（2）

授業方法：

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、例題を用いて問題の解法を説明する。また、理解を深めるために、テキストの演習問題・ワークブックを使って実際に問題を解いていく。

達成目標：

日商簿記検定3級取得

評価方法：

定期試験70%、授業への取り組み30%

教科書：

渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記講義 平成24年度版 3級商業簿記』中央経済社 ¥735
 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記ワークブック 3級商業簿記（第6版）』中央経済社 ¥735

参考文献：

開講時および必要に応じて適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B45501	企業会計論特殊講義ⅡA（企業簿記論）	2・3・4	2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資格取得、日商簿記検定2級、情報処理能力、経済知識	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

企業が営利を追求していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。**将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。**とりわけ簿記は、会計学の学習において基本となるものであり、企業情報を分析するうえでも重要となる。本講義は「企業会計論講義」を履修した学生を対象として、経営分析の基礎となる高度な簿記技術を習得することを目的としており、**日商簿記検定2級合格**を目指していく。

授業の概要：

日商簿記検定2級合格を目指した講義を行う。今年度は商業簿記について解説し、日商簿記検定2級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。必要に応じて最近の経済・経営関連の話題や実例を提供していく。

授業の計画：

1. オリエンテーション
2. 簿記一巡の手続きと財務諸表
3. 現金預金取引
4. 有価証券取引
5. 債権・債務取引
6. 手形取引（1）
7. 手形取引（2）
8. 引当金取引
9. 商品売買取引（1）
10. 商品売買取引（2）
11. 特殊商品売買取引（1）
12. 特殊商品売買取引（2）
13. 固定資産取引
14. 損益取引（1）
15. 損益取引（2）

授業方法：

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、例題を用いて問題の解法を説明する。また、理解を深めるために、テキストの演習問題・ワークブックを使って実際に問題を解いていく。

達成目標：

日商簿記検定2級取得

評価方法：

定期試験または小テスト70%、授業への取り組み30%

教科書：

渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記講義 平成24年度版 2級商業簿記』中央経済社 ¥735
 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記ワークブック 2級商業簿記（第8版）』中央経済社 ¥735

参考文献：

開講時および必要に応じて適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B45601	企業会計論特殊講義ⅡB（企業簿記論）	2・3・4	2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資格取得、日商簿記検定2級、情報処理能力、経済知識	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

企業が営利を追求していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。**将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。**とりわけ簿記は、会計学の学習において基本となるものであり、企業情報を分析するうえでも重要となる。本講義は「企業会計論講義」および「企業会計論特殊講義ⅡA」を履修した学生を対象として、経営分析の基礎となる高度な簿記技術を習得することを目的としており、**日商簿記検定2級合格**を目指していく。

授業の概要：

日商簿記検定2級合格を目指した講義を行う。今年度は商業簿記について解説し、日商簿記検定2級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。必要に応じて最近の経済・経営関連の話題や実例を提供していく。

授業の計画：

1. 株式会社会計（1）
2. 株式会社会計（2）
3. 株式会社会計（3）
4. 株式会社会計（4）
5. 税金
6. 決算（1）
7. 決算（2）
8. 決算（3）
9. 本支店会計（1）
10. 本支店会計（2）
11. 本支店会計（3）
12. 帳簿組織（1）
13. 帳簿組織（2）
14. 帳簿組織（3）
15. 日商簿記検定試験の出題傾向分析と問題の解法

授業方法：

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、例題を用いて問題の解法を説明する。また、理解を深めるために、適宜、テキストの演習問題・ワークブックを使って実際に問題を解いていく。

達成目標：

日商簿記検定2級取得

評価方法：

定期試験または小テスト70%、授業への取り組み30%

教科書：

渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記講義 平成24年度版 2級商業簿記』中央経済社 ¥735
 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記ワークブック 2級商業簿記（第8版）』中央経済社 ¥735

参考文献：

開講時および必要に応じて適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B45701	企業会計論プロゼミナール	2・3・4	2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
企業研究、情報処理能力、ビジネススキル、経済知識	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

企業には必ず会計が存在しており、将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ「企業を見る目」は、消費者としても必要とされるものであり、さらには、**就職活動においても大変強力なツールとなる**ことであろう。

このプロゼミでは、現実の企業のデータによって財務内容を中心にした分析・報告を行い、企業情報を分析する能力を習得し、「企業を見る目」を養うことを目的とする。企業分析の知識は就職活動において、企業の選択や面接時に大いに役立つと思われる。

授業の概要：

企業の経営分析の方法を解説し、実際に各自が分析を行う。分析対象とする企業を選択する際には、就職を希望する業種などを選択し、選択した企業や業種についての詳細な知識を習得する。

また、受講生の経済への興味・関心を喚起するため、必要に応じて最近の経済・経営関連の話題や実例を提供していく。

授業の計画：

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. オリエンテーション | 16. キャッシュフロー計算書分析 (1) |
| 2. 会計制度と情報開示 | 17. キャッシュフロー計算書分析 (2) |
| 3. 有価証券報告書の概要 | 18. 株価と会計情報 (1) |
| 4. 概況・沿革の分析 | 19. 株価と会計情報 (2) |
| 5. 役員・大株主・従業員の状況 | 20. ケーススタディ |
| 6. 連結財務諸表と個別財務諸表 | 21. ケーススタディ |
| 7. 企業集団の分析 | 22. 発表 (1) |
| 8. 財務諸表分析の概要と情報入手 | 23. 発表 (2) |
| 9. 財務諸表分析の実践 | 24. 発表 (3) |
| 10. 収益性分析 (1) | 25. 発表 (4) |
| 11. 収益性分析 (2) | 26. 発表 (5) |
| 12. 収益性分析 (3) | 27. 発表 (6) |
| 13. 安全性分析 (1) | 28. 発表 (7) |
| 14. 安全性分析 (2) | 29. 発表 (8) |
| 15. 安全性分析 (3) | 30. レポート指導 |

授業方法：

企業の経営分析に関する技法の解説を行った後、各自が選択した企業のデータを用いて、実際に分析を行う。その後、分析結果を発表し、相互の分析結果を比較していく。

達成目標：

企業分析・財務諸表分析手法の習得、就職希望企業・業種の情報収集、経済知識の習得

評価方法：

レポート 50%、授業への取り組み 50%

教科書：

政岡光宏編著 『初めて学ぶ財務諸表分析 (改訂版)』 同文館出版 2010年、¥1,890
 受講生が選択した企業の有価証券報告書 (EDINET より無料でダウンロード・印刷)
 配布プリント

参考文献：

開講時および必要に応じて適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B45801	企業会計論演習	3・4	4	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
企業研究、情報処理能力、ビジネススキル、意思決定力	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

企業が営利を追求していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。わが国の会計制度は、会計ビッグバンという会計制度の変革に始まり、会社法の制定や国際的な会計基準への統一化（コンバージェンス）など、会計をとりまく環境の変化によって、その姿は大きく変貌してきている。本演習は、こうした会計制度の変革についてその内容を深く考察しようとするものである。また、企業会計の知識を用いた企業研究能力を養い、就職活動に活用していくことも目的としている。

授業の概要：

4年生については卒論発表、3年生は各自の設定したテーマ発表を行なう。
発表スケジュールについては開講時に受講生と相談の上、決定する。
必要に応じて企業や施設の見学を行う予定である。
なお、簿記検定前には問題の解法についての指導を行う。

授業の計画：

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. オリエンテーション | 16. 4年生（卒論中間発表） |
| 2. 4年生（卒論題目と概要） | 17. 4年生（卒論中間発表） |
| 3. 4年生（卒論題目と概要） | 18. 4年生（卒論中間発表） |
| 4. 3年生（テーマ発表） | 19. 3年生（テーマ発表） |
| 5. 3年生（テーマ発表） | 20. 3年生（テーマ発表） |
| 6. 3年生（テーマ発表） | 21. 3年生（テーマ発表） |
| 7. 簿記演習問題 | 22. 簿記演習問題 |
| 8. 簿記検定傾向と対策 | 23. 簿記検定傾向と対策 |
| 9. 4年生（卒論構成発表） | 24. 4年生（卒論討論） |
| 10. 4年生（卒論構成発表） | 25. 4年生（卒論討論） |
| 11. 4年生（卒論構成発表） | 26. 4年生（卒論討論） |
| 12. 3年生（テーマ発表） | 27. 3年生（卒論計画） |
| 13. 3年生（テーマ発表） | 28. 3年生（卒論計画） |
| 14. 3年生（テーマ発表） | 29. 4年生（卒論発表） |
| 15. 夏季休業中の研究計画発表 | 30. 4年生（卒論発表） |

授業方法：

配布プリントや受講生が各自で選択したテーマについて発表を行い、その後活発な討議を行いながら理解を深めていく。また、卒論指導や簿記検定対策指導では、進捗状況や習得状況に応じた指導を行うほか、受講生間で互いに助言・意見交換を行い、効果的な論文作成・資格取得対策を行っていく。

達成目標：

基本的な企業会計に関する知識の習得、積極的な意見発表、正確なレジュメ・資料作成、日商簿記検定2級取得、企業研究能力の習得

評価方法：

発表50%、授業への取り組み50%。
なお、演習時において出席に関して注意すべき点を詳細に指示する。

教科書：

輪読文献については開講時に受講生と相談の上、決定する。
配布プリント（企業会計論に関する外国文献および基準・指針・レポート等）

参考文献：

必要に応じて参考書を適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B46801	環境法制・政策論演習	3・4	4	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
環境ガバナンス、経済・政策・法制の政策統合、理論と実際	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野、コミュニケーション力

授業のテーマ：

具体的なテーマに即して、環境経済、環境政策、環境法制各々の意義と限界を検討し政策統合の必要性を解説する。

授業の概要：

テキストの輪読と検討。卒業論文の進捗にあわせた発表と相互の検討。
卒業論文作成（資料分析、論文作成の技法の指導を含む）。プレゼンテーションの練習。

授業の計画：

前期	後期
1. オリエンテーション～テキストの解説	1. 前期のレビュー
2. 東海地域経済の概観 NO. 1～地域経済論共通	2. エコタウンの事例研究 ～帯広市
3. 東海地域経済の概観 NO. 2～地域経済論共通	3. エコタウンの事例研究 ～長井市
4. 卒業研究テーマ案（複数）の発表	4. 卒業研究の第1次発表
5. 循環型社会に向かう地域	5. エコタウンの事例研究 ～飯田市
6. 条件不利地域の取り組み ～クリーンエネルギー	6. エコタウンの事例研究 ～豊田市
7. 卒業研究テーマの決定	7. エコタウンの形成に向けて
8. 中間まとめ	8. 中間まとめ
9. 条件不利地域の取り組み ～バイオマスタウン	9. 卒業研究の第2次発表
10. 条件不利地域の取り組み ～エコアイランド	10. 「環境法入門」抜粋の検討NO, 1
11. 卒業研究の構想発表	11. 卒業研究の第3次発表
12. エコタウンの事例研究 ～北九州市	12. 「環境法入門」抜粋の検討NO, 1
13. エコタウンの事例研究 ～岐阜市	13. 「環境法入門」抜粋の検討NO, 2
14. エコタウンの事例研究 ～川崎市	14. 卒業研究の最終発表
15. 前期のまとめ	15. 後期のまとめ

授業方法：

自主的なゼミ運営を軸にする。司会や報告など議論における役割を分担し、自分の意見を述べ、相互に批評・コメントする。卒論の中間発表、テキストの検討を交互に繰り返す。

達成目標：

環境問題の主だった分野における課題を知る。環境法の構造を理解する。環境政策と環境理論の基礎的知識を習得する。環境にビジネスに関心をもつ。
卒論作成を通して卒業後、自学自習の生涯学習を継続するノウハウを習得する。

評価方法：

積極的・主体的な授業参加態度70%、発表の独創性20%、演習への貢献10%

教科書：

- ・『「エコタウン」が地域ブランドになる時代』関満博編、新評論（2,500円）
- ・「環境法入門：補訂版」交告尚史他、有斐閣アルマ（1,700円）

参考文献：

- 「エコロジストのための経済学」（小島寛之、東洋経済新報社、2006年）1,700円
- 「環境保全と公共政策」（講座環境経済・政策学第4巻、岩波書店、2002年）3,200円
- 他、適宜、紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B51001	ミクロ経済学	2・3・4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
市場メカニズム、効率性、市場への政府介入	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

政府の政策担当者が政策を行うときに実際に頭に描いている経済理論がどんなものであるかを知り、その理論が本当に現実の問題に対処できるかどうかを評価する能力を養う。

授業の概要：

市場理論を学び、市場で価格や取引数量がどのように決定されるかを見る。また、市場メカニズムの限界を指摘し、なぜ政府が経済に介入しなければならないかを理解する。

授業の計画：

- (1) ミクロ経済学とは
- (2) 資源配分と市場メカニズム
- (3) 需要と供給
- (4) 限界分析（家計・企業の意思決定について）
- (5) 需要曲線
- (6) 供給曲線
- (7) 市場均衡（価格と取引数量の決定）
- (8) 厚生経済学と政府介入の効果
- (9) 市場の失敗（公害問題、公共財）
- (10) 不完全競争の分析（独占市場）
- (11) 不完全競争の分析（寡占市場）
- (12) 不確実性の経済学（保険の役割）
- (13) ゲーム理論とは
- (14) ゲームの理論の応用（企業戦略の分析）
- (15) まとめ

授業方法：

教科書の流れに従って講義形式で進める。各章が終わったら演習問題を行う。

達成目標：

ミクロ経済学の演習問題を解くことができる。経済現象や経済政策の意味を理解できる。

評価方法：

- 期末試験 80%、小テスト 20%。
- 教科書の内容をほぼ完璧に理解している…S
 - 教科書の内容を理解している…A
 - 教科書の内容を理解しているが問題を解けない…B
 - ところどころ間違っ理解している…C
 - 上記のレベルに達していない…D

教科書：

賀川昭夫・戸田学・浜野忠司 [1998] 『First Step ミクロ経済学』有斐閣ブックス、2,200 円

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B51101	マクロ経済学	2・3・4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
経済学的思考、GDP、IS-LMモデル	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

マクロ経済学は、一国の経済全体を扱う経済学である。一国の経済を理解するために必要な国内総生産、消費、投資などの経済変数について学び、その変数がどのように決まるのか、どのように変動するのか、どうすれば思うように変動させることができるのかなどについて学ぶ。

授業の概要：

マクロ経済学はどのような学問であるかから始まって、IS-LMモデルの理解にまで到達することを旨とする。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. マクロ経済学とはどのような学問か
3. 国内総生産（GDP）とは何か
4. 消費と貯蓄
5. 企業の投資
6. 政府の支出
7. 総需要の経済学（1）
8. 総需要の経済学（2）
9. 金融市場の分析（1）
10. 金融市場の分析（2）
11. IS-LMモデル（1）
12. IS-LMモデル（2）
13. IS-LMモデルを使った分析
14. 日本のIS-LM曲線
15. まとめ

授業方法：

教科書を中心とした講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

達成目標：

日常の経済記事や、テレビの経済番組を見ることが楽しみになるような、マクロ経済の基礎を身につけることが目標である。

評価方法：

授業への取組（40%）に定期試験の結果（60%）を加味して判定する。

教科書：

家森信善『基礎から分かるマクロ経済学』（中央経済）2,000円。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B51201	経営学総論	2・3・4	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本型経営、グローバルスタンダード、モチベーション、コミュニケーション	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野、効果的な社会参加

授業のテーマ：

企業経営に関心がある学生だけでなく、新入生レベルでのキャリア教育の基礎、大学生の必須教養として、会社及び企業経営の初歩的理解と労働観、仕事観を深める。

授業の概要：

経営学の入門編として、(1) 組織論 (2) マーケティング論を取り上げる。経済・経営の最新情報をDVDや資料として編集し、リアルなイメージを提供したい。

授業の計画：

1. そもそも会社って何？経営学ってどんな学問？
2. 経営管理の誕生～それは組織の検証から始まり、フォード・システムとして発展した
3. 労働者から人材へ、人材から人財へ～伸びる会社は社員が元気
4. 社員を伸ばす管理者・経営者～ものづくりはひとつづくり、ひとつづくりともものづくりは会社づくり
5. 今こそ求む！日本のリーダー
6. 中間まとめ
7. あらためて会社とは？～会社の仕組み
8. あらためて会社とは？～会社のカタチ
9. 有効な組織をつくりだす～処理から創造へ
10. 中間まとめ
11. マーケティング論によるこそ～「何でもある」けど、この違い！コンビニとスーパー
12. マーケティングって何ですか？～販促だけじゃないよ、マーケティング
13. 今、企業が最もめざす取り組み！～ブランドの構築
14. 現代マーケティング論の新展開～経営学は飛翔する
15. 総まとめ

授業方法：

毎回、新聞記事を編集したプリントを配布する。テーマに即しつつ、経済・経営情報を編集したDVDを活用する。就職・雇用に関する最新情報も扱う。

達成目標：

日本や地域の産業、経済・経営に関する日常的な報道を、受講生自身の、身近な問題にひきつけて、興味・関心がもてるようになる。企業や経営を見る（評価する）目を養う。
(詳細な到達目標・履修水準の一覧表を別途、配布する。)

評価方法：

試験（レポートを含む）60%、積極的・主体的な授業参加態度40%

教科書：

未定

参考文献：

授業の中で、テーマごとに紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60401	基礎心理学A	2	2	芳賀康朗
C00101	基礎心理学講義A	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
感覚・知覚, 学習・記憶, 動機づけ, 情動	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

「心理学は心と行動を研究する科学である」という立場から、心理現象を理解するとともに、心理学の基礎的な知識を身につける。

授業の概要：

心理学の歴史と研究方法について概観し、実験心理学の立場から人間の基本的な心的機能である、感覚・知覚、学習・記憶、動機づけ、情動について解説する。

授業の計画：

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1) ガイダンス | 9) 学習・記憶 (行動の分類) |
| 2) 心理学の歴史と研究方法 (1) | 10) 学習・記憶 (条件づけによる学習) |
| 3) 心理学の歴史と研究方法 (2) | 11) 学習・記憶 (社会的学習と技能学習) |
| 4) 心的機能の生理学的基礎 | 12) 学習・記憶 (記憶の分類) |
| 5) 感覚・知覚 (感覚の種類・感覚の限界) | 13) 学習・記憶 (記憶の忘却) |
| 6) 感覚・知覚 (知覚の体制化) | 14) 動機づけ (動因と誘因・欲求の階層) |
| 7) 感覚・知覚 (空間知覚と運動知覚) | 15) 情動 (情動の種類・フラストレーション) |
| 8) 感覚・知覚 (知覚の恒常性) | |

授業方法：

プリントや映像資料を使いながら進めていく。授業内容と関連した課題の提出を求めることもある。授業の進行を妨げる行為、および授業開始 20 分以降の遅刻は厳禁とする。

達成目標：

心理学の基礎知識を身につけ、科学的視点から心理現象を考察できる力を身につける。

評価方法：

出席回数基準をクリアしていることを前提とし、提出課題 (約 20%) と定期試験の結果 (約 80%) によって評価する。遅刻や私語などの授業態度も評価の対象とする。

教科書：

梅本ら共著 『コンパクト新心理学ライブラリ 1 心理学』 サイエンス社 1,418 円

参考文献：

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60501	基礎心理学B	2	2	芳賀康朗
C00201	基礎心理学講義B	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
意識, 発達, パーソナリティ, 対人関係	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

「心理学は心と行動を研究する科学である」という立場から、心理現象を理解するとともに、心理学の基礎的な知識を身につける。

授業の概要：

意識, 思考, 発達, パーソナリティ, 対人関係の5つのテーマについて、実験心理学を中心とした研究を例示しながら解説する。

授業の計画：

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1) ガイダンス | 9) 発達 (遺伝と環境) |
| 2) 意識 (覚醒と睡眠) | 10) 発達 (発達理論) |
| 3) 意識 (REM 睡眠と NREM 睡眠) | 11) パーソナリティ (類型論と特性論) |
| 4) 思考 (問題解決の方略) | 12) パーソナリティ (性格検査) |
| 5) 思考 (概念とイメージ) | 13) 対人関係 (リーダーシップ・説得) |
| 6) 発達 (刻印づけと臨界期) | 14) 対人関係 (社会的促進と社会的手抜き) |
| 7) 発達 (マザリングと母性剥奪) | 15) まとめ |
| 8) 発達 (言語習得と認知発達) | |

授業方法：

プリントや映像資料を使いながら進めていく。授業内容と関連した課題の提出を求めることもある。授業の進行を妨げる行為、および授業開始 20 分以降の遅刻は厳禁とする。

達成目標：

心理学の基礎知識を身につけ、科学的視点から心理現象を考察できる力を身につける。

評価方法：

出席回数 of 基準をクリアしていることを前提とし、提出課題 (約 20%) と定期試験の結果 (約 80%) によって評価する。遅刻や私語などの授業態度も評価の対象とする。

教科書：

梅本ら共著 『コンパクト新心理学ライブラリ 1 心理学』 サイエンス社 1,418 円

参考文献：

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61101	心理学実験法	2	2	芳賀康朗
C00501	基礎心理学特殊講義ⅡA（心理学研究法）	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
記述統計と推測統計，データの尺度，代表値と散布度，t検定，分散分析	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

心理学研究において重要なことは，日常的な認識を超えて客観的な視点から心理現象を記述・分析することである。この講義では心理学研究における測定とデータ解析について理解し，その技法を修得することを目的とする。心理学基礎実習と併せて受講すること。

授業の概要：

前半では，実験によって測定されたデータの特徴を記述・表現するための手法（図表化と代表値の計算）について解説する。後半は，平均値の差の検定（t検定と分散分析）の方法について解説する。

授業の計画：

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1) ガイダンス 心理学研究の目的 | 9) 有意差検定とは？ |
| 2) 記述統計と推測統計 | 10) 2つの平均値の差の検定（1） |
| 3) データの尺度 | 11) 2つの平均値の差の検定（2） |
| 4) データの図表化 | 12) 2つの平均値の差の検定（3） |
| 5) 母集団と標本 | 13) 実験計画法と分散分析（1） |
| 6) 代表値と散布度（1） | 14) 実験計画法と分散分析（2） |
| 7) 代表値と散布度（2） | 15) 実験計画法と分散分析（3） |
| 8) 代表値と散布度（3） | |

授業方法：

教科書に沿った解説と計算課題を中心に進めていく。毎時間関数電卓を携行すること。また授業以外にも課題（宿題）を課すこともある。授業開始20分以降の遅刻は厳禁とする。

達成目標：

心理学基礎実習や卒業研究におけるデータ解析や論文作成に必要な心理統計の基礎知識と計算技能の修得を目標とする。授業時間内の学習のみでなく，復習を中心とした自主的な学習が要求される。また表計算ソフトを使ったデータ処理法の習熟も目指してほしい。

評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし，提出課題と小テスト（約20%）と定期試験の結果（約80%）によって評価する。遅刻や私語などの授業態度も評価の対象とする。

教科書：

田中・山際共著 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』 教育出版 3,045円

参考文献：

鵜沼・長谷川共著 『はじめての心理統計法』 東京図書 2,625円
大山ら共著 『コンパクト新心理学ライブラリ12 心理学研究法』 サイエンス社 2,310円

実験・実習・教材費：

なし

準備物：

関数電卓（カシオ製で統計計算ができるもの）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61201	心理学調査法	2	2	芳賀康朗
C00601	基礎心理学特殊講義ⅡB（心理学研究法）	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
相関係数, カイ2乗検定, 質問紙調査	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

心理学研究において重要なことは、日常的な認識を超えて客観的な視点から心理現象を記述・分析することである。この講義では心理学研究における測定とデータ解析について理解し、その技法を修得することを目的とする。心理学基礎実習と併せて受講すること。

授業の概要：

調査研究を行うために必要な基礎的統計技能について説明する。前半は相関係数の算出および有意性検定、集計表の分析および度数検定について解説し、後半はより実践的な質問紙調査の作成方法と分析方法について因子分析の概要とあわせて解説する。

授業の計画：

- 1) 2変数の相関（1）
- 2) 2変数の相関（2）
- 3) 2変数の相関（3）
- 4) 相関係数の有意性検定（1）
- 5) 相関係数の有意性検定（2）
- 6) 度数についての検定（1）
- 7) 度数についての検定（2）
- 8) 度数についての検定（3）
- 9) 順位についての検定
- 10) 質問紙調査の実施と分析（1）
- 11) 質問紙調査の実施と分析（2）
- 12) 質問紙調査の実施と分析（3）
- 13) 因子分析（1）
- 14) 因子分析（2）
- 15) 行動観察法の基礎

授業方法：

教科書に沿った解説と計算課題を中心に進めていく。毎時間関数電卓を携行すること。また授業以外にも課題（宿題）を課すこともある。授業開始20分以降の遅刻は厳禁とする。

達成目標：

心理学基礎実習や卒業研究におけるデータ解析や論文作成に必要な心理統計の基礎知識と計算技能の修得を目標とする。授業時間内の学習のみでなく、復習を中心とした自主的な学習が要求される。また表計算ソフトを使ったデータ処理法の習熟も目指してほしい。

評価方法：

出席回数基準をクリアしていることを前提とし、提出課題と小テスト（約20%）と定期試験の結果（約80%）によって評価する。遅刻や私語などの授業態度も評価の対象とする。

教科書：

田中・山際共著 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』 教育出版 3,045円

参考文献：

鶴沼・長谷川共著 『はじめての心理統計法』 東京図書 2,625円
 大山ら共著 『コンパクト新心理学ライブラリ 12 心理学研究法』 サイエンス社 2,310円

実験・実習・教材費：

なし

準備物：

関数電卓（カシオ製で統計計算ができるもの）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C00701	基礎心理学プロゼミナール	3・4	2	高橋・芳賀・三後

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理学, 人間理解	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力

授業のテーマ：

心理学の様々な分野の研究について先行研究や関連文献を読み進めながら理解を深めるとともに、授業参加者各自の関心のあるテーマについて討論を行うことで、3・4年次の心理学の専門的な学びにつなげていく。

授業の概要：

人間関係論・教育心理学（第2回から第10回）、臨床心理学（第11回から第20回）、基礎心理学（第21回から第30回）の各領域の基礎的な研究について研究論文や関連図書を読み進め、その内容を発表してもらい、参加者全員でディスカッションを行う。またこちらが指定したテーマについてレポートを作成してもらい、その内容について討論する。

授業の計画：

- 1) オリエンテーション
- 2) ~ 3) 心理学的研究の実際
- 4) ~ 10) 論文紹介と討論
- 11) 臨床心理学的なものの方
- 12) ~ 13) 現実の中の事象
- 14) ~ 15) 臨床心理学の論文について
- 16) ~ 20) 調査発表と討論
- 21) ~ 25) 実験研究を行う意義
- 26) ~ 30) 先行研究の紹介と討論

授業方法：

教員の講義と学生の発表を組み合わせで行う。教員が指定したテーマ、または学生各自が関心をもったテーマについて発表をし、参加者全員でディスカッションを行う。積極的に授業に参加することが望まれる。

達成目標：

心理学の基礎知識を深めることはもちろん、他者に自分の意見を伝達するためのコミュニケーション・スキル（レジュメ作成を含む）を身につけてもらうことを目標とする。

評価方法：

発表内容（40%）とディスカッションでの発言内容（30%）およびレポート内容（30%）に基づいて総合的に評価する。遅刻・欠席、および発表取り消しは減点対象とする。

教科書：

なし

参考文献：

授業中に紹介する

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C00801	基礎心理学演習及び実習	3・4	4	芳賀康朗

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
基礎心理学, 心理学実験, 実験計画法, データ解析, 卒業研究	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

卒業研究を最終目的として、1) 研究テーマの選定, 2) 研究計画の立案, 3) 実験の実施, 4) データ解析, 5) 報告書作成の一連の作業を進める。実験計画法や統計分析法についての解説も行い、コンピュータを用いて実験やデータ解析を行うための技能を身につける。基礎心理学講義, 基礎心理学プロゼミナール, 心理学基礎実習を受講していることを前提とする。

授業の概要：

各自の関心に基づき、基礎心理学や実験心理学の教科書や雑誌論文を紹介しながらディスカッションを行い、具体的な実験・調査計画を立案していく。後期には、その計画に基づいて実験を行ない、研究発表および報告書の提出を求める。

授業の計画：

前期	後期
1) ガイダンス	1) ガイダンス
2) ~ 5) 前年度の研究の発表	2) ~ 4) 第1回研究計画発表
6) ~ 10) 今年度の研究テーマの検討	5) ~ 7) 第2回研究計画発表
11) ~ 14) 関連文献の紹介	8) ~ 10) 研究準備作業・実験の実施
15) 研究テーマの確定	11) 中間報告
	12) ~ 14) 実験の実施
	15) 研究発表・報告書作成について

授業方法：

1回の演習につき2名の発表を基本にして進めていく。発表の準備を十分にした上で、積極的な態度で臨んでほしい。

達成目標：

研究を独力で行うことができる基礎技能を身につけ、卒業研究に必要な準備を進めていく。

評価方法：

発表内容(30%)と研究の進捗状況(70%)に基づいて総合的に評価する。

教科書：

なし

参考文献：

大山ら共著 『コンパクト新心理学ライブラリ 12 心理学研究法』サイエンス社 2,310円
 大山正編著 『コンパクト新心理学ライブラリ 16 実験心理学』サイエンス社 1,943円
 小川嗣夫著 『卒論・修論のための心理学実験』ブレーン出版 1,680円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60101	臨床心理学A	2	2	高橋昇
C01101	臨床心理学講義A	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心の構造、パーソナリティー、発達段階	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力

授業のテーマ：

臨床心理学は人の心を扱う学問であり、人の心のありさまや、人と人が出会い、かかわり、何かを生み出していくことに注意を向けています。その応用としての技法はカウンセリングや心理療法などとして生かされていますが、その基礎は誰でもが持っている「心」を理解するところから始まるでしょう。そしてその「心」は、心病んだクライアントを知ることに関わっていて、幅広い人の心に対する、より広くて深い理解を得ることを目的とします。

授業の概要：

この授業では、まず臨床心理学とは何かについて学び、心の構造について無意識を含んだ考え方について概説します。そこからパーソナリティーや心の発達など、様々な側面に光を当てて基礎的な知識や理解を促し、臨床心理学的な見方について学んでいきます。

授業の計画：

1. オリエンテーション
- 2～3. 臨床心理学とは何か
- 4～5. 臨床心理学を作った人々
6. 人の心を感じる
- 7～9. 心の構造
10. 疑問への応答
- 11～12. パーソナリティー
- 13～14. 社会と臨床心理学
15. まとめ

授業方法：

テキストに基づいて、購読しながらそれに沿って進めていく。資料を配付したり、DVDを見ていただき、感想を書いてもらうこともあります。そしてその時々々のテーマについて、身近な例を考えながら体得できるように考えていきます。

達成目標：

臨床心理学の基本的な概念と用語を学び、その概略をつかむこと。

評価方法：

出席状況および受講態度（30%）とテスト（70%）によって総合的に評価します。

教科書：

「はじめての臨床心理学」 森谷寛之・竹松志乃編著 北樹出版 2,500円＋税

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60201	臨床心理学B	2	2	高橋昇
C01201	臨床心理学講義B	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理アセスメント、心理療法、社会とのかかわり	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力

授業のテーマ：

臨床心理学の概論を学んでいきます。今期は人の心に対する接近法として、まずその基礎となる心の発達段階の問題を考え、人間に対する理解を深めながら心理アセスメントの問題に足を踏み入れます。健常人の心のあり方を土台として、心病む人に対するかかわりは精神病理や心理的防衛機制に対する専門的な知識や技法が必要であり、その初歩段階としての多種多様な技法の概略を学んでいくことを目的とします。

授業の概要：

この授業では、まず前期に続いて発達段階のまとめから、臨床アセスメントとは何かについて学び、心理検査の概説を行っていきます。そして次に「カウンセリングや心理療法についての理解をテキストに沿って概説します。そこからパーソナリティや心のあり方についての接近法を学び、基礎的な知識や理解を促し、臨床心理学的な見方を考えていきます。

授業の計画：

1. オリエンテーション
- 2～6. エリクソンの発達段階
7. 障害者の問題
8. 心理アセスメントとは何か
- 9～10. 心理テストについて
11. 疑問への応答
- 12～14. 具体的な心理検査から心理療法へ
15. まとめ

授業方法：

テキストに基づいて、購読しながらそれに沿って進めていきます。資料を配付したり、DVDを見ていただいて、感想を書いてもらうこともあります。そしてその時々テーマについて、身近な例を考えながら体得できるように考えていきます。

達成目標：

心理アセスメントと心理療法についての基本的な概念と用語を学び、その概略をつかむこと。

評価方法：

出席状況および受講態度（30%）とテスト（70%）によって総合的に評価します。

教科書：

「はじめての臨床心理学」 森谷寛之・竹松志乃編著 北樹出版 2,500円＋税

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C01501	臨床心理学特殊講義ⅡA（ユング心理学）	3・4	2	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ユング心理学、普遍的無意識、個性化、イメージ	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、美的感受性

授業のテーマ：

心理療法の立場は様々であり、一人ですべてを身につけることは不可能でしょう。人間に対する考え方や技法など、それぞれ各自が自ら一番ぴったりくる洋服を身につけるような心構えが必要になります。その中で、ユングが提唱した分析心理学は「無意識」と「個性化」を重視する心理学であり、人の生き方が問われる学問であるといえます。一個の人間として臨床心理学を考えていくこと、さらにそれを心理療法に生かすことについて分析心理学の視点から学んでいくことを目的とします。

授業の概要：

ユングの様々な基本的な考え方について「ユング心理学入門」（河合隼雄著）をテキストにして学習していきます。性格のタイプ、無意識に対する考え方、コンプレックスとは何か、イメージとシンボルなどについて概説し、身近な例を考えたり、また自分自身に置き換えて体験的に納得できることを重視しながら進めていく予定です。

授業の計画：

1. オリエンテーション
- 2～3. 心の現象学
- 4～5. フロイトとアドラーに比較して
- 6～7. 人格のタイプ論
- 8～9. コンプレックスについて
10. 疑問への応答
- 11～12. 無意識に対する考え方
- 13～14. イメージとシンボルの作用
15. まとめ

授業方法：

テキストに基づいて、購読しながらそれに沿って進めていきます。そしてその時々の問題について、身近な例を考えながら体得できるように考えていきます。

達成目標：

分析心理学の基本的な概念と用語を知的、了解的に理解すること。

評価方法：

出席状況および受講態度（30%）とテスト（70%）によって総合的に評価します。

教科書：

「ユング心理学入門」河合隼雄著 培風館 1,300円＋税

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C01601	臨床心理学特殊講義ⅡB（ユング心理学）	3・4	2	高橋昇
期間	曜日	時限	備考：	
後期	火	3		
授業のキーワード		人間環境大学が育む八つの能力		
ユング心理学、夢分析、自己実現、元型		分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、美的感受性		

授業のテーマ：

前期からの継続であり、分析心理学の基礎について概説していきます。テーマは無意識の重要な概念である「元型」についてより具体的に話を進め、通常あまり人が意識していないにもかかわらず、より身近な問題としてあることを明らかにします。さらに「夢」としてどのように表れるのか、またそれが「夢分析」としてどのように扱われるのかを学んでいきます。そしてさらに広く、ユング派の心理療法の実践的な技法について考え、全体としてユングの考え方の概略を把握します。

授業の概要：

ユングの様々な基本的な概念や考え方についてテキストをもとに学習していきます。アニマ、アニムスなど「元型」のシンボルや布置について学んだあと、「夢」の中での表れに注意し、身近な例を考えたり、また自分自身に置き換えて体験的に納得できることを重視しながら進めていく予定です。

授業の計画：

1. オリエンテーション
2. 「夢」とは何か？
- 3～6. 夢の分析
- 7～8. アニマ・アニムスについて
9. 疑問への応答
- 10～11. 「自己」とその実現
12. 心理療法の実際
13. 他学派との比較
14. 東洋と西洋
15. まとめ

授業方法：

河合隼雄著の「ユング心理学入門」をテキストとして用い、購読しながらそれに沿って進めていきます。そしてその時々の問題について、身近な例や自己の体験と照らし合わせて考えていきます。

達成目標：

分析心理学の基本的な概念と用語を理解し、それに加えて実践的な技法についての理解を深めていきます。

評価方法：

出席状況および受講態度（30%）とテスト（70%）によって総合的に評価します。

教科書：

「ユング心理学入門」河合隼雄著 培風館 1,300円＋税

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C01701	臨床心理学プロゼミナール	3・4	2	高橋・芳賀・三後

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理学, 人間理解	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力

授業のテーマ：

心理学の様々な分野の研究について先行研究や関連文献を読み進めながら理解を深めるとともに、授業参加者各自の関心のあるテーマについて討論を行うことで、3・4年次の心理学の専門的な学びにつなげていく。

授業の概要：

人間関係論・教育心理学（第2回から第10回）、臨床心理学（第11回から第20回）、基礎心理学（第21回から第30回）の各領域の基礎的な研究について研究論文や関連図書を読み進め、その内容を発表してもらい、参加者全員でディスカッションを行う。またこちらが指定したテーマについてレポートを作成してもらい、その内容について討論する。

授業の計画：

- 1) オリエンテーション
- 2)～3) 心理学的研究の実際
- 4)～10) 論文紹介と討論
- 11) 臨床心理学的なものの方
- 12)～13) 現実の中の事象
- 14)～15) 臨床心理学の論文について
- 16)～20) 調査発表と討論
- 21)～25) 実験研究を行う意義
- 26)～30) 先行研究の紹介と討論

授業方法：

教員の講義と学生の発表を組み合わせで行う。教員が指定したテーマ、または学生各自が関心をもったテーマについて発表をし、参加者全員でディスカッションを行う。積極的に授業に参加することが望まれる。

達成目標：

心理学の基礎知識を深めることはもちろん、他者に自分の意見を伝達するためのコミュニケーション・スキル（レジュメ作成を含む）を身につけてもらうことを目標とする。

評価方法：

発表内容（40%）とディスカッションでの発言内容（30%）およびレポート内容（30%）に基づいて総合的に評価する。遅刻・欠席、および発表取り消しは減点対象とする。

教科書：

なし

参考文献：

授業中に紹介する

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C01801	臨床心理学演習及び実習	3	4	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：3年次生用
通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理臨床学、心理アセスメント、表現療法、夢分析	問題解決力、コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

臨床の現場は近年大きく広がっており、医療、教育、産業、司法、開業分野でもさらに細分化して発展してきています。しかし、根本的な心理臨床に対する「構え」は共通するものがあり、個々の技法を越える人とのかかわり方は、非常に重要なものであるといえましょう。それらをもとに、心理アセスメントとそれに繋がる技法として表現療法と夢の分析に歩を進めていきましょう。そして後期には、自分で考えてまとめる力を身につけるために問題意識を持ち、関心のある臨床心理学のテーマに臨んでいただこうと考えています。

授業の概要：

前期は人が生きることから始め、病を抱えている者にどのようにかかわることができるのか考えていきます。そのような人を理解する手段として心理アセスメントの概説と体験をし、かかわるための技法として表現療法を紹介していきます。後期にはテーマを各自考えてもらい、討論しながら卒業論文に繋がるようなレポートにまとめることを目標にします。

授業の計画：

<前期>	<後期>
1. オリエンテーション	1. オリエンテーション
2～3. 「病」を抱えた人について	2. テーマの決定と方向性
4. かかわる構えについて	3～6. レポートによる経過報告
5～8. 心理アセスメントについて	7. 報告書作成について
9～11. 表現療法について	8～11. プレゼンテーション
12～14. 夢分析について	12～14. 卒論に向けてのテーマ選択
15. まとめ	15. まとめ

授業方法：

前期は講義形式から始め、その時々のテーマについて討論していきます。資料はその都度担当教員が用意します。アセスメントについては実習形式になるでしょう。後期は研究テーマを考え、文献探索や調査をしたり、グループ討議をすることが中心になります。

達成目標：

心理的な課題を抱えた人に対する態度から技法を学び、卒業論文に向けて問題意識絵を持つこと、思考力を身につけて言語表現することを学び、創造性を養うことを目標とします。

評価方法：

出席状況（50%）および受講態度（30%）とレポート（20%）によって総合的に評価します。

教科書：

なし

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

1,000円（コピー、配布資料代）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C01802	臨床心理学演習及び実習	4	4	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：卒業年次生用
通年	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理臨床学、心理アセスメント、入力と出力	問題解決力、コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

頭の中に入力することと出力することが、思考能力や分析力、判断力を高めます。自分で考えてまとめる力を身につけるために問題意識を持ち、関心のある臨床心理学のテーマに臨んでいただこうと考えています。そして自分の出力したものを鍛えることで、より一層人に伝わる思考が形作られます。それを最終的に卒業論文という形にまとめることが目標となります。

授業の概要：

前年までに自分の研究テーマを絞り込むように進めてきているので、前進させるために研究計画を練っていきます。それぞれのテーマは違いますが、一緒に考えることで、思考の幅が広がられます。また、話す力を伸ばすために、与えられたテーマについて議論し、ディベートしていく場も設けます。

授業の計画：

<前期>	<後期>
1. オリエンテーション	1. オリエンテーション
2～3. 計画、思考をまとめること	2～14. 卒業論文の経過発表
4～14. 研究計画についてのプレゼンテーション (いくつかのテーマについての討論)	(いくつかのテーマについての討論)
15. まとめ	15. まとめ

授業方法：

卒業論文のテーマについて、入力を各自で行い、出力として授業でプレゼンテーションしていただきます。出力は書くことと、話すこととあり、討論しながらさらに深めていきます。

達成目標：

卒業論文に向けて問題意識を持つこと、思考力を身につけて言語表現することを学び、臨床心理学についての理解を深めながら、創造性を養うことを目標とし、論文の完成を目指します。

評価方法：

出席状況（50%）および受講態度（30%）とレポート（20%）によって総合的に評価します。

教科書：

なし

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60601	教育心理学A	2	2	坪井裕子
C02101	教育心理学講義A	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教育 学校 学習 発達	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, 価値判断力

授業のテーマ：

教育の営みに含まれる要因は、対象としての幼児・児童・生徒、働きかけるものとしての教師、両者の関係を通して起こってくる成長、学習、教授等の事象です。これらを理解するための教育心理学の基礎的な事柄について学びます。

授業の概要：

教育心理学における学習や発達など基礎的な事柄について学びます。

授業の計画：

1. オリエンテーション・教育心理学の概要
2. 学習（1）
3. 学習（2）
4. 学習（3）
5. 個人差（1）
6. 個人差（2）
7. 動機づけ（1）
8. 動機づけ（2）
9. 学習過程
10. 教育と発達
11. 発達（1）乳幼児期
12. 発達（2）児童期
13. 発達（3）青年期
14. 発達（4）まとめ
15. 前期のまとめ

授業方法：

基本的には講義を中心に行います。必要に応じて、視聴覚教材を用います。教育に関するトピックスがあれば、発表することが求められる場合もあります。

達成目標：

教育現場で起こるさまざまな問題を検討することによって、教育についての考えを深め、基本的な知識を習得することを目標とします。

評価方法：

期末試験（80%）と授業へのとりくみ（20%）によって総合的に評価します。なお、6回以上欠席した場合は、受講放棄とみなし、期末試験の受験資格を失いますので注意してください。

教科書：

西村純一・井森澄江編「教育心理学エッセンシャルズ」第2版
（ナカニシヤ出版／2,200円＋税）

参考文献：

授業の中で提示します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60701	教育心理学B	2	2	坪井裕子
C02201	教育心理学講義B	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教育 学校 学習 発達	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, 価値判断力

授業のテーマ：

教育の営みに含まれる要因は、対象としての幼児・児童・生徒、働きかけるものとしての教師、両者の関係を通して起こってくる成長、学習、教授等の事象です。これらを理解するための教育心理学の基礎的な事柄について学びます。

授業の概要：

学校における適応の問題や発達障害などの基礎的な事柄について学びます。

授業の計画：

1. オリエンテーション・教育心理学の概要
2. 教師と児童・生徒
3. 学校適応（1）
4. 学校適応（2）
5. 学校適応（3）
6. 発達障害（1）概要
7. 発達障害（2）知的障害
8. 発達障害（3）広汎性発達障害
9. 発達障害（4）学習障害・AD/HD
10. 発達障害児への支援（1）
11. 発達障害児への支援（2）
12. 教育評価（1）
13. 教育評価（2）
14. 教育評価（3）
15. 後期のまとめ

授業方法：

基本的には講義を中心に行います。必要に応じて、視聴覚教材を用います。教育に関するトピックスがあれば、発表することが求められる場合もあります。

達成目標：

教育現場で起こるさまざまな問題を検討することによって、教育についての考えを深め、基本的な知識を習得することを目標とします。

評価方法：

期末試験（80%）と授業へのとりくみ（20%）によって総合的に評価します。なお、6回以上欠席した場合は、受講放棄とみなし、期末試験の受験資格を失いますので注意してください。

教科書：

西村純一・井森澄江編「教育心理学エッセンシャルズ」第2版
（ナカニシヤ出版／2,200円＋税）

参考文献：

授業の中で提示します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61601	発達心理学	2	2	坪井裕子
C02501	教育心理学特殊講義ⅡA（発達心理学）	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
発達 子ども 乳児期 幼児期 学童期	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, 価値判断力

授業のテーマ：

発達心理学では、人間の一生を通じて心のはたらきや内容がいかに変化していくのかを学びます。さらに、心理臨床の事例を提示して、発達に必要な援助についても学習していきます。

授業の概要：

前期は乳幼児期から思春期・青年期にいたる発達の基礎的な事柄を学びます。

授業の計画：

- 1 オリエンテーション；発達心理学とは
- 2 発達の基礎（1）ヒトの発達・発達の特徴
- 3 発達の基礎（2）初期経験・発達段階
- 4 乳児期の特徴（1）身体と運動の発達
- 5 乳児期の特徴（2）認知・思考の発達
- 6 幼児期の特徴（1）人格の発達
- 7 幼児期の特徴（2）愛着とは
- 8 幼児期の課題（3）子どもの虐待
- 9 学童期の特徴（1）身体と運動の発達
- 10 学童期の特徴（2）認知・思考の発達
- 11 学童期の特徴（3）人格の発達
- 12 乳児期の心理臨床
- 13 学童期の心理臨床
- 14 子どものセラピー
- 15 まとめ

授業方法：

基本的には講義を中心に行います。必要に応じて、視聴覚教材を用います。

達成目標：

発達上の変化の大きい幼児期・児童期から青年期に至る年齢段階を中心として、様々な角度から発達についての基本的な知識を習得し理解を深めることを目標とします。

評価方法：

期末試験（80％）に出席状況や小レポートなどを含めた授業への取り組み（20％）を加味して総合的に評価します。

教科書：

岩川 淳他著「子どもの発達臨床心理」（昭和堂／2,400円＋税）

参考文献：

授業の中で提示します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C02601	教育心理学特殊講義ⅡB（発達心理学）	3・4	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
発達 子ども 思春期 青年期 発達障害	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, 価値判断力

授業のテーマ：

発達心理学では、人間の一生を通じて心のはたらきや内容がいかに変化していくのかを学びます。さらに、心理臨床の事例を提示して、発達に必要な援助についても学習していきます。

授業の概要：

後期は成人期以降の発達の基礎的事項と、乳幼児期から思春期・青年期における発達上の諸問題について基礎的な事柄を学びます。

授業の計画：

- 1 後期のオリエンテーション：生涯発達心理学とは
- 2 思春期の特徴
- 3 思春期の発達課題
- 4 思春期の心理的問題
- 5 青年期の特徴
- 6 青年期の発達課題
- 7 青年期の心理的問題
- 8 思春期・青年期の心理臨床
- 9 成人期の発達課題
- 10 中年期の発達課題
- 11 老年期の発達課題
- 12 成人期以降の心理臨床
- 13 発達障害とは
- 14 発達障害への対応
- 15 まとめ

授業方法：

基本的には講義を中心に行います。必要に応じて、視聴覚教材を用います。

達成目標：

各発達段階について様々な角度から基本的な知識を習得し理解を深めることを目標とします。

評価方法：

期末試験（80％）に出席状況や小レポートなどを含めた授業への取り組み（20％）を加味して総合的に評価します。

教科書：

岩川 淳他著「子どもの発達臨床心理」（昭和堂／2,400円＋税）

参考文献：

授業の中で提示します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C02701	教育心理学プロゼミナール	3・4	2	高橋・芳賀・三後

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理学, 人間理解	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力

授業のテーマ：

心理学の様々な分野の研究について先行研究や関連文献を読み進めながら理解を深めるとともに、授業参加者各自の関心のあるテーマについて討論を行うことで、3・4年次の心理学の専門的な学びにつなげていく。

授業の概要：

人間関係論・教育心理学（第2回から第10回）、臨床心理学（第11回から第20回）、基礎心理学（第21回から第30回）の各領域の基礎的な研究について研究論文や関連図書を読み進め、その内容を発表してもらい、参加者全員でディスカッションを行う。またこちらが指定したテーマについてレポートを作成してもらい、その内容について討論する。

授業の計画：

- 1) オリエンテーション
- 2)～3) 心理学的研究の実際
- 4)～10) 論文紹介と討論
- 11) 臨床心理学的なものの方
- 12)～13) 現実の中の事象
- 14)～15) 臨床心理学の論文について
- 16)～20) 調査発表と討論
- 21)～25) 実験研究を行う意義
- 26)～30) 先行研究の紹介と討論

授業方法：

教員の講義と学生の発表を組み合わせで行う。教員が指定したテーマ、または学生各自が関心をもったテーマについて発表をし、参加者全員でディスカッションを行う。積極的に授業に参加することが望まれる。

達成目標：

心理学の基礎知識を深めることはもちろん、他者に自分の意見を伝達するためのコミュニケーション・スキル（レジюме作成を含む）を身につけてもらうことを目標とする。

評価方法：

発表内容（40%）とディスカッションでの発言内容（30%）およびレポート内容（30%）に基づいて総合的に評価する。遅刻・欠席、および発表取り消しは減点対象とする。

教科書：

なし

参考文献：

授業中に紹介する

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C02801	教育心理学演習及び実習	3	4	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：3年次生用
通年	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教育 心理 質問紙 箱庭	分析・総合の思考力, 問題解決力, 社交性

授業のテーマ：

教育や子どもの問題に関する興味のあるテーマを選択し、論文検索と講読、簡単な質問紙調査を行うことにより、学習を深めるとともに、研究方法を体得することを目的とします。また順次、発表と討議を行い、自分の考えを言語化して伝え、他者の考えを理解する力を養うことをねらいとします。

授業の概要：

前半は興味のあるテーマを選択して、質問紙調査の実際を学びます。質問紙実習終了後は、箱庭実習と各自の卒業論文に向けた準備を始めます。

授業の計画：

<前期>

- 1 オリエンテーション・演習計画とグループ分け
- 2～5 調査テーマの決定・文献の収集・講読
- 6～8 調査目的の明確化・研究仮説の設定
- 9 調査目的についてグループごとの発表と検討
- 10～13 質問紙の作成（調査項目・尺度の作成）
- 14～15 調査の実施

<後期>

- 1～2 データの整理と分析
 - (a) データのコーディングと入力
 - (b) データの集計と分析
 - (c) 分析結果の整理・考察
- 3～4 調査報告書の作成（研究のまとめ方・報告書作成の仕方）
- 5 研究成果のプレゼンテーション（グループごとの発表・討論）
- 6～8 箱庭実習
- 9～15 卒論に向けて（各自が興味のあるテーマをとりあげ、文献検索・論文講読・レジュメ作成を行い、順番に発表・討議します）

授業方法：

演習および実習方式で行います。質問紙調査はグループで行います。なお、授業内容によっては、日程を変更する場合があります。

達成目標：

教育や子どもに関する問題を心理学の研究方法により理解し、文章化していく作業を体験的に学ぶことを目標とします。

評価方法：

受講態度（50％）にレポート（50％）を加味して総合的に判断します。

教科書：

小塩真司・西口利文編「質問紙調査の手順」 ナカニシヤ出版（2,200円＋税）

参考文献：

授業の中で提示します。

実験・実習・教材費：

1,000円 資料代およびコピー代

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C02802	教育心理学演習及び実習	4	4	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：卒業年次生用
通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教育 心理 発達 アイデンティティ 関係性	分析・総合の思考力, 問題解決力, 価値判断力

授業科目のキーワード：

教育 心理 卒業論文

授業のテーマ：

3年次ゼミにおける学習を基礎にして、各自が持っている問題意識を明確にし、卒業論文の執筆を行います。また逐次、発表と討議を行うことで、自分の考えを言語化して伝え、他者の考えを理解する力を養うことをねらいとします。

授業の概要：

前期は各自の課題を明確化し、論文を具体化するための作業を行います。後期は、各自の課題を論文の形に纏め上げる作業を中心に行います。

授業の計画：

<前期>

- 1 オリエンテーション
- 2～5 卒論テーマについての発表（問題と目的の明確化）
- 6～10 卒論に関する文献講読と発表（方法の検討）
- 11～15 卒論中間発表

<後期>

- 1～2 卒論についての経過発表（結果の整理）
- 3～10 卒論についての経過発表（考察・まとめ）
- 11～15 卒論完成にむけての作業

授業方法：

各自がレジユメを作成し、発表・討議する演習方式で行います。

達成目標：

教育や子どもに関する問題を心理学の研究方法により理解し、文章化していく作業を体験的に学ぶことを目標とします。

評価方法：

受講態度（50％）にレポート（50％）を加味して総合的に判断します。

教科書：

使用しません。

参考文献：

授業の中で提示します。

実験・実習・教材費：

1,000円 資料代およびコピー代

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
C04801	精神病理学演習及び実習	3・4	4	三後美紀

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理 精神病理 研究法	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

個人を取り巻く社会の変化により、人は成長することもありますし、心身に不調をきたすこともあります。このような社会と個人の相互作用から生じているさまざまな心の現象に着目しながら、各自の学問的関心をより明確にしていき、心理学研究に高めます。

授業の概要：

前期は心理学的研究法について理解を深め、同時に文献講読やディスカッションを通して各自の研究テーマを明確にしていきます。後期は各自の研究計画に従って研究を進め、論文にまとめます。

授業の計画：

＜前期＞

- 第1回 オリエンテーション（精神病理学と臨床心理学）
- 第2回～第5回 心理学の研究方法（質問紙法、面接法を中心に）
- 第6回～第10回 文献講読とディスカッション
- 第12回～第15回 研究計画のプレゼンテーション

＜後期＞

- 第16回 オリエンテーション（心理学的研究の実際）
- 第17回～第20回 研究経過報告（結果を中心に）
- 第21回～第25回 研究経過報告（考察を中心に）
- 第26回～第30回 最終報告

授業方法：

人の心の状態について、各自が関心を持っている事象をとりあげて発表し、受講生との議論を通して幅広い観点から心理学研究に高めるための検討を行います。

達成目標：

各自の問題意識を心理学的な視点から捉え直し、その問題を追求するための具体的な研究法を身につけて、卒業論文を作成していきます。

評価方法：

授業への取り組み（およそ70%）と発表内容（およそ30%）により総合的に評価します。

教科書：

なし

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

1,000円（資料代および配布資料複写代）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61001	人間関係論	2	2	三後美紀
C08101	人間関係論講義A	3		

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
パーソナリティ、発達と成長、社会と対人関係、適応と臨床	分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

心理学の基礎知識を身につけ、さらに、日常生活におけるさまざまな事象を心理学的な視点で捉えようとする思考力を獲得することを目的とします。

授業の概要：

人と人のかかわりに着目しながら、性格心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学における心理学の知見を紹介します。

授業の計画：

- 1) ガイダンス
- 2) パーソナリティ（心のなりたち）
- 3) パーソナリティ（類型論と特性論）
- 4) パーソナリティ（無意識・防衛機制）
- 5) 発達と成長（発達の原理）
- 6) 発達と成長（思考の発達）
- 7) 発達と成長（ライフサイクル）
- 8) 社会と対人関係（自己の形成・自己開示）
- 9) 社会と対人関係（対人認知）
- 10) 社会と対人関係（態度変容）
- 11) 社会と対人関係（集団のダイナミクス）
- 12) 社会と対人関係（リーダーシップ）
- 13) 適応と臨床（ストレスと対処）
- 14) 適応と臨床（さまざまな心理療法）
- 15) まとめ

授業方法：

講義を中心に、適宜、プリントや映像資料を使いながら進めます。受講生の内容理解の確認と知的関心の共有のため、講義中に小レポートの提出を求めることがあります。

達成目標：

われわれの身近にある事象を心理学的に捉えた知見を学ぶことで、分析・総合の思考力と判断力の基礎を学生自身が身につけます。

評価方法：

期末試験（およそ70%）と授業への取り組み（およそ30%）により総合的に評価します。
 心理学的な視点から身近な事象の説明ができる、かつその問題点を論ずることができる・・・S
 心理学的な視点から身近な事象の説明ができる・・・A
 心理学的な基礎知識を身につけており、身近な事象との関連性が理解できる・・・B
 心理学的な基礎知識が身につけている・・・C
 Cのレベルに達していない・・・D

教科書：

なし

参考文献：

齊藤 勇 『イラストレート心理学入門』 誠信書房 1,575 円
 大坊郁夫・安藤清志 『社会の中の人間理解』 ナカニシヤ出版 1,995 円
 その他、授業中に紹介します

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C08201	人間関係論講義B	3	2	三後美紀
C10401	産業・組織心理学	4		

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ワーク・モチベーション、リーダーシップ、ストレス・マネジメント、キャリア発達	分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

われわれ人間は、人や社会との関係を持ちながら生きている社会的存在です。そして人生の多くの時間を学校や企業などの組織で過ごしています。ここでは、個と組織の関係について産業・組織心理学の見地から再考し、組織における人間の成長について客観的に捉え直す思考力と、生き生きとした組織での生活を創造していく判断力を身につけることを目的とします。

授業の概要：

企業や学校、家庭などの集団における人間の行動や心の動きについて学びます。集団における個人の行動を「個人の集団内での発達」という視点を加えながら理解していきます。

授業の計画：

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 組織における人間観
- 第3回 ワーク・モチベーション（1）
- 第4回 ワーク・モチベーション（2）
- 第5回 職務満足
- 第6回 集団の影響力
- 第7回 リーダーシップ（1）
- 第8回 リーダーシップ（2）
- 第9回 職場のストレス（1）
- 第10回 職場のストレス（2）
- 第11回 ストレス・マネジメント
- 第12回 キャリア発達
- 第13回 人とのかかわり方（1）
- 第14回 人とのかかわり方（2）
- 第15回 まとめ

授業方法：

基本的には講義形式で行いますが、必要に応じて配布資料や映像資料などを用いて理解を深めます。

達成目標：

組織における人間の行動を心理学的に捉えた知見を学ぶことで、分析・総合の思考力と判断力の基礎を学生自身が身につけます。

評価方法：

期末試験（およそ70%）と授業への取り組み（およそ30%）により総合的に評価します。
 心理学的な視点から組織における事象の説明ができ、かつその問題点を論ずることができる・・・S
 心理学的な視点から組織における事象の説明ができる・・・A
 心理学的な基礎知識を身につけており、組織における事象との関連性が理解できる・・・B
 心理学的な基礎知識が身につけている・・・C Cのレベルに達していない・・・D

教科書：

なし

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C08501	人間関係論特殊講義ⅡA（ヨコ社会の人間関係）	3	2	三後美紀

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
親子関係、きょうだい関係、家族関係、友人関係、ソーシャル・ネットワーク	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

人が社会や文化の中に生きている限り、人間関係はわれわれの生活に密接にかかわることになります。人間関係のあり方は幸福感や自己や他者への信頼感につながる一方、人間関係が重荷になることもあるのはよく知られているところです。この授業では人が生まれてから経験するさまざまな人間関係についての心理学的な知見を紹介し、現代社会における人間関係の課題を検討します。

授業の概要：

心理学の基礎知識を身につけながら人とのかかわりの中での個人の成長についての理論を学び、同時にその課題や問題点を論じていきます。

授業の計画：

第1回	イントロダクション
第2回～第4回	人間関係の始まりと仕組み
第5回～第6回	乳幼児期の人間関係
第7回～第8回	児童期の人間関係
第9回～第11回	思春期・青年期の人間関係
第12回～第14回	成人・高齢者の人間関係
第15回	まとめ

授業方法：

基本的には講義形式で行いますが、必要に応じて配布資料や映像資料などを用いて理解を深めます。

達成目標：

重要な人物との関係や、身近な人間関係について心理学的に捉えることで、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力を学生自身が身につけます。

評価方法：

期末試験（およそ70%）と授業への取り組み（およそ30%）により総合的に評価します。
 人間関係の問題について心理学的に説明でき、かつその問題点を論ずることができる・・・S
 人間関係の問題について心理学的に説明ができる・・・A
 心理学的な基礎知識を身につけており、人間関係の問題との関連性が理解できる・・・B
 心理学的な基礎知識が身につけている・・・C Cのレベルに達していない・・・D

教科書：

なし

参考文献：

平石賢二 編著 『思春期・青年期のこころ』 北樹出版（2,000円＋税）
 他、授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C08601	人間関係論特殊講義ⅡB（ヨコ社会の人間関係）	3	2	三後美紀

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
家族、適応、ストレス、社会的スキルトレーニング、チームワーク	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

人が社会や文化の中に生きている限り、人間関係はわれわれの生活に密接にかかわることになります。人間関係のあり方は幸福感や自己や他者への信頼感につながる一方、人間関係が重荷になることもあるのはよく知られているところです。この授業ではおもに家族や組織における人間関係に関する心理学的な知見を概観し、より健康的に人間関係を経験するための課題を検討します。

授業の概要：

心理学の基礎知識を身につけながら人とかかわりの中での個人の成長についての理論を学び、同時にその課題や問題点を論じていきます。

授業の計画：

第1回	イントロダクション
第2回～第4回	人間関係の基礎
第5回～第7回	人間関係の歪みと適応
第8回～第9回	ストレスと支援関係
第10回～第11回	集団の成長
第12回～第14回	社会的スキルトレーニング
第15回	まとめ

授業方法：

基本的には講義形式で行いますが、適宜、配布資料、映像資料、ワークなどを用いて理解を深めます。

達成目標：

人間関係について心理学的に捉えることで、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力を学生自身が身につけます。

評価方法：

期末試験（およそ70%）と授業への取り組み（およそ30%）により総合的に評価します。
 人間関係の問題について心理学的に説明でき、かつその問題点を論ずることができる・・・S
 人間関係の問題について心理学的に説明ができる・・・A
 心理学的な基礎知識を身につけており、人間関係の問題との関連性が理解できる・・・B
 心理学的な基礎知識が身につけている・・・C Cのレベルに達していない・・・D

教科書：

なし

参考文献：

安東末廣・佐伯榮三 編 『人間関係を学ぶ』 ナカニシヤ出版（2,000円＋税）
 他、授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C08701	人間関係論プロゼミナール	3	2	高橋・芳賀・三後

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理学, 人間理解	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力

授業のテーマ：

心理学の様々な分野の研究について先行研究や関連文献を読み進めながら理解を深めるとともに、授業参加者各自の関心のあるテーマについて討論を行うことで、3・4年次の心理学の専門的な学びにつなげていく。

授業の概要：

人間関係論・教育心理学（第2回から第10回）、臨床心理学（第11回から第20回）、基礎心理学（第21回から第30回）の各領域の基礎的な研究について研究論文や関連図書を読み進め、その内容を発表してもらい、参加者全員でディスカッションを行う。またこちらが指定したテーマについてレポートを作成してもらい、その内容について討論する。

授業の計画：

- 1) オリエンテーション
- 2) ~ 3) 心理学的研究の実際
- 4) ~ 10) 論文紹介と討論
- 11) 臨床心理学的なものの方
- 12) ~ 13) 現実の中の事象
- 14) ~ 15) 臨床心理学の論文について
- 16) ~ 20) 調査発表と討論
- 21) ~ 25) 実験研究を行う意義
- 26) ~ 30) 先行研究の紹介と討論

授業方法：

教員の講義と学生の発表を組み合わせで行う。教員が指定したテーマ、または学生各自が関心をもったテーマについて発表をし、参加者全員でディスカッションを行う。積極的に授業に参加することが望まれる。

達成目標：

心理学の基礎知識を深めることはもちろん、他者に自分の意見を伝達するためのコミュニケーション・スキル（レジュメ作成を含む）を身につけてもらうことを目標とする。

評価方法：

発表内容（40%）とディスカッションでの発言内容（30%）およびレポート内容（30%）に基づいて総合的に評価する。遅刻・欠席、および発表取り消しは減点対象とする。

教科書：

なし

参考文献：

授業中に紹介する

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C08801	人間関係論演習	3	4	三後美紀

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理 人間関係 研究法	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

社会と個人の相互作用から生じているさまざまな心の現象に着目しながら、各自の学問的関心をより明確にしていき、心理学研究に高めます。

授業の概要：

前期は心理学的研究法について理解を深め、同時に文献講読やディスカッションを通して各自の研究テーマを明確にしていきます。後期は質問紙調査による研究を実践形式で学び、卒業論文作成のための基礎力を身につけます。（基礎心理学特殊講義Ⅱ A を並行して履修することが望ましい。）

授業の計画：

<前期>

第1回 オリエンテーション

第2回～第5回 心理学の研究方法（質問紙法、面接法を中心に）

第6回～第11回 文献講読とディスカッション

第12回～第15回 研究計画のプレゼンテーション

<後期>

第16回 オリエンテーション（心理学的研究の実際）

第17回～第19回 質問紙調査の手順と留意点

第20回～第27回 質問紙調査の実施と分析

第28回～第30回 考察と調査結果の発表

授業方法：

人の心の状態について各自が関心を持っている事象をとりあげて発表し、受講生との議論を通して幅広い観点から心理学研究に高めるための検討を行います。後半は質問紙調査を実践的に学びます。

達成目標：

各自の問題意識を心理学的な視点から捉え直し、その問題を追求するための具体的な研究法を身につけて、卒業論文を作成するための準備をします。

評価方法：

授業への取り組み（およそ70%）と発表内容（およそ30%）により総合的に評価します。

教科書：

小塩真司・西口利文 編 『質問紙調査の手順』 ナカニシヤ出版（2,200円＋税）

参考文献：

小塩真司 『研究事例で学ぶSPSSとAmosによる心理・調査データ解析』 東京図書（2,800円＋税）

実験・実習・教材費：

1,000円（資料代および配布資料複写代）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C10301	認知心理学	2・3・4	2	増井透

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	D	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
人間の情報処理 心理 意識と無意識	潜在的認知 記憶 色彩 分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

世界を理解し適応するためには、まず世界や人間関係を認知するというプロセスが必要になる。何でもない日常行動の背景にはじつは複雑な認知の働きが存在する。認知のプロセス、すなわち、知覚、記憶、理解、判断といった心的活動を、情報処理の観点から考察する。

授業の概要：

情報がどのように内的に変換され表象され処理されるか、感覚情報の処理から記憶、思考に至る心的過程のプロセスをたどり、とくにそうした過程の大半が自覚できない潜在的プロセスであることを、実験データとそれにもとづくモデル構成によって考察する。

授業の計画：

- 1回 認知心理学とは何か：世界を表象する
- 2回、3回 知覚から認知へ：モノが見えるしくみ
- 4回、6回 色彩の心理：色には意味がある
- 7回、8回 記憶の世界：注意とイメージ
- 9回、10回 記憶の世界：記憶は嘘をつく
- 11回、12回 無意識の認知：サブリミナル認知
- 13回 認知神経心理学：認知が崩壊するとき
- 14回 思考の歪み：行動経済学
- 15回 まとめと試験

授業方法：

スライドを使った講義が中心で、ビデオなどのAV教材を用いる。必要に応じて関連資料を配布する。随時、簡単な実験などを行って、体験的な理解を図る。

達成目標：

人間の認知過程を情報処理の観点から理解し、実験的アプローチによる検討を通して理解し、人間について考察する視点を得ることをめざす。

評価方法：

毎回の出席と授業への取り組み（25%）、随時の実験や小レポートへの参加状況（25%）を含めて、最終回に試験（50%）を行い、総合的に評価する。

教科書：

授業内で指示する。

参考文献：

授業内で指示する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C10501	学校心理学	2・3・4	2	花井正樹

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	D	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
スクールカウンセリング、発達課題、アセスメント	コミュニケーション力、問題解決力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

現在、学校教育は重大な岐路にさしかかっています。子どもたちに対する理解の不足から適切な対応がなされていないために、さまざまな問題が生じています。社会の変化と照らし合わせながら、これからの学校教育のあり方を、心理学的な観点から皆さんと一緒に再検討していきましょう。

授業の概要：

学校を取り巻く社会の変化と子どもの発達段階を念頭に置きながら、子どもたちの心の理解とそれに基づく具体的な援助のあり方についての理解を深めてもらう。

授業の計画：

1. 社会の変化の中で学校はどう変わったか
 - 1回 戦前の状況
 - 2回 戦後の状況
 - 3回 学校は必要か
 - 4回 学校文化
 - 5回 スクールカウンセラーの役割
2. 演習
 - 6回 グループエンカウンターⅠ
 - 7回 グループエンカウンターⅡ
3. 発達段階に応じた教育
 - 8回 乳幼児期
 - 9回 児童期
 - 10回 思春期
4. スクールカウンセリングの実際
 - 11回 不登校
 - 12回 いじめ
 - 13回 非行
 - 14回 摂食障害
 - 15回 学校教育相談のあり方について

授業方法：

主として講義形式で行いますが、その間に、グループエンカウンター等の実習も行います。そして講義および実習後に毎回簡単なレポートを書いていただきますので、受身的ではなく自主的、積極的な態度で参加してください。

達成目標：

現代社会における学校の置かれている厳しい状況を理解すると同時に、これを乗り越えていくための臨床心理学的な対応についての理解を深める。

評価方法：

講義および実習後のレポート(50%)と最終日のテスト(50%)をもとに総合的に評価します。したがって3日間の集中講義を毎時間欠かさず出席してください。

教科書：

なし

参考文献：

定森恭司編著「教師とカウンセラーのための学校心理臨床」 昭和堂 (2,300円)
高橋史朗編著「ホリスティックな学校教育相談」 学事出版 (2,200円)

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C10601～05	心理学基礎実習	2・3・4	4	芳賀・廣藤・栗野・高橋・渡邊

期間	曜日	時限	備考：2時限連続 履修抽選対象科目 ※どの授業コードで登録するかは初回授業時に決定
通年	金	3・4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理実験, 心理検査, レポート作成	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 効果的な社会参加

授業のテーマ：

心理学実験と心理検査の実施技法，データ分析方法，レポート作成方法を身につけることを目的とする。受講にあたっては，基礎心理学講義，教育心理学講義，臨床心理学講義を受講していることが望ましい。臨床心理コースを主専攻とする者は必ず2年次に受講すること。

授業の概要：

基礎心理学，教育心理学，臨床心理学などの分野で代表的な12テーマを取り上げる。実験や検査等の方法について，実験者（検査者）および研究対象者（実験参加者・被検査者）として参加体験する。そして，得られたデータに基づいてレポートを作成する。

授業の計画：

前期

- 1) ～2) ガイダンス・グループ分け
- 3) ～15) 実習およびレポート講評
 - ・ ミューラー・リヤー錯視
 - ・ エピソード記憶
 - ・ 一対比較による尺度構成法
 - ・ 投映法1（SCT, TAT）
 - ・ 知能検査1（京大NX）
 - ・ 性格検査（性格検査, エゴグラム）

後期

- 1) ガイダンス
- 2) ～15) 実習およびレポート講評
 - ・ 知覚-運動協応学習（鏡映描写）
 - ・ 認知的葛藤（ストループ効果）
 - ・ パーソナル・スペース
 - ・ 投映法2（ロールシャッハ）
 - ・ 知能検査2（WAIS-III）
 - ・ 描画法（バウムテスト, 風景構成法）

授業方法：

参加者を小グループに分割し，2週間で1テーマのペースで実習を行い，レポート提出を求める。年度途中での授業放棄は他の受講生の迷惑となるので避けてほしい。

達成目標：

3年次以降の専門的な心理学研究に必要な基礎知識と実験と検査の実施技能を身につける。

評価方法：

出席とレポート提出の基準をクリアしていることを前提とし，レポートの評点によって評価する。レポートは科学論文の要件を満たすことが求められる。遅刻，無断欠席，レポート提出の遅れは一切認めない。

教科書：

『心理学基礎実習テキスト』 初回授業時に配布

参考文献：

授業中に適宜指示する

実験・実習・教材費：

実習費として30,000円徴収する（テキスト，テスト用紙，実験用具，消耗品費として）

準備品：

必ず関数電卓（カシオ製が望ましい）を準備し，毎時間持参すること。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C11201	社会心理学	2・3・4	2	中島誠

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	D	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
社会心理学、コミュニケーション、グループ・ダイナミックス	コミュニケーション力 社交性 効果的な社会参加

授業のテーマ：

人の幸福を最も強く規定するのは人間関係だといわれている。心理学と聞いて多くの人がイメージする臨床心理学も、信頼できる人間関係を基礎にするものである。講義では社会的影響過程や集団の心理について学習する。それによって、他者との接し方や他者との葛藤について理解を深めることを目指す。

授業の概要：

講義では科学的な視点から、社会的動物としての人間の心理について、対人関係、集団を中心とした応用的な知識を概説する。ただし、講義は理論の紹介にとどまらず、ディスカッション等の実習が行われる。他者との葛藤体験を通じ、より具体的で身近な現象から理論を理解していく。

授業の計画：

- | | | |
|----|-------------|--------------------|
| 1 | イントロダクション 1 | 心理学の考え方 |
| 2 | イントロダクション 2 | 社会心理学とは |
| 3 | 集団 | 社会心理学実験の映像視聴 |
| 4 | 社会的影響 1 | 集団の影響力、社会的促進、抑制 |
| 5 | 社会的影響 2 | 集団アイデンティティ、ステレオタイプ |
| 6 | 社会的影響 3 | 説得ゲーム |
| 7 | 社会的影響 4 | ゲームの振り返り |
| 8 | 社会的影響 5 | 説得の理論と技法 |
| 9 | 社会的影響 6 | 集団討議 |
| 10 | 社会的影響 7 | コミュニケーションの理論 |
| 11 | 集団の心理 1 | リーダーシップに関するゲーム |
| 12 | 集団の心理 2 | リーダーシップの理論 |
| 13 | 集団の心理 3 | 同調と服従 |
| 14 | 集団の心理 4 | 組織における葛藤とその解決 |
| 15 | 集団の心理 5 | まとめ |

授業方法：

講義に加え、演習や映像資料の視聴を行う。

達成目標：

- ・対人認知や社会的影響、葛藤への専門的知識について説明できる。
- ・専門知識を用いて自らの相互作用の体験を省察し、行動様式の改善方法を提案できる。

評価方法：

受講態度、課題への取り組み 40%、筆記試験 60%

教科書：

特になし、適宜授業内で紹介する

参考文献：

特になし

実験・実習・教材費：

特になし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C30101	言語心理学	2・3・4	2	小山正

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	C	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
言語, 象徴機能, 認知, 発達	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

子どもの言語獲得過程に関する最近の研究を紹介しながら、子どもの心理的発達がことばの獲得にどのように影響しているかを明らかにしていくとともに、言語発達学、言語心理学に関する基本的事項を習得することを本講義での到達目標とする。また、人間発達における言語の問題についても考える。

本講義では、自閉症やダウン症等の障害のある子どもの言語・コミュニケーションの問題についても取り上げ、障害のある子どもの言語獲得過程について知り、言語発達支援の基本についても考える。

授業の概要：

象徴機能の発達という観点から言語発達について述べる。その後の言語発達の基礎となる前言語期からの諸発達を述べ、特に他者認識の発達と言語獲得の問題に関して考察していく。

授業の計画：

1. 言語とは
2. 象徴機能, 象徴化能力とは
3. 前言語期における諸発達
4. 象徴化の発達と言語獲得
5. 初期言語獲得期の諸相－語獲得の認知的基盤
6. 文法・統語の発生 - 動詞の獲得
7. 共同注意の発達と言語の獲得
8. 遊びのなかでの心の理解とことばの発達
9. 心的状態語の発達
10. 文字言語の獲得
11. 自閉症・ダウン症の子どもへの言語発達支援をめぐって
12. 音韻の発達
13. 親子関係とことばの発達
14. 人間発達と言語
15. まとめ

授業方法：

教科書にそって、講義形式で進めます。必要に応じて、資料やビデオを用います。

達成目標：

①言語獲得の基礎について知る ②言語と認知発達との関連性について知る。③障害のある子どもの言語獲得過程について知る。

評価方法：

3分の2以上の出席。小レポートと学期末レポートによって評価する。出席・小レポート(50%)、学期末レポート(50%)。

教科書：

小山 正編著 『言語獲得期の発達』 ナカニシヤ出版 ¥2,800

参考文献：

小山 正・神土陽子編著 『自閉症スペクトラムの子どもたちの言語・象徴機能の発達』 ナカニシヤ出版 ¥2,600

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C62401	スポーツ環境論	2	2	白井克佳
C41501	スポーツ環境論特殊講義ⅡA	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
後期	集中	E	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
スポーツ情報、パフォーマンス分析	総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

スポーツ環境について様々な技法を用いながらこれを分析し、現状と課題について学ぶ。

授業の概要：

2011年にスポーツ基本計画が制定された。国はスポーツ施策において責務を有することを明確にし、今後、我が国のスポーツ環境は大きく変貌をとげる可能性がある。本講義では我が国のスポーツ環境の現状を解説すると同時に、その課題と解決策について諸外国のスポーツ施策などと比較しながら学ぶ。また、世界のスポーツに目を向け、オリンピックムーブメントを中心にその課題と解決策についても学ぶ。

授業の計画：

1. 我が国のスポーツ政策（スポーツ基本法、スポーツ基本計画）
2. 世界のスポーツ政策

授業方法：

スポーツ環境に関する各種情報の提供および収集方法に関する知見の提供。グループもしくは個人での分析と考察を通して我が国および世界のスポーツ環境について学ぶ。

達成目標：

我が国および世界各国におけるスポーツ環境、スポーツ政策について理解する。
自らの体験などを振り返り、日本のスポーツ環境のあるべき姿について各種分析手法、グループディスカッションを通して学ぶ。

評価方法：

出席 50%、レポート 50%により評価する。出席が 2/3 に満たないものは自動的に履修放棄となるので注意すること。

教科書：

特に無し

参考文献：

特に無し

実験・実習・教材費：

特に無し

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C41801	スポーツ環境論演習及び実習	3・4	4	芳賀・坂本

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
スポーツ環境, スポーツ科学, スポーツ情報	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, 価値判断力

授業のテーマ：

スポーツ環境にかかわるさまざまな現代社会の問題について考察し、卒業論文の作成を見据えた授業を進める。

授業の概要：

前期は、学生各自の興味・関心についての発表をもとに卒業論文のテーマを決定し、関連文献の収集とともに研究計画を立案する。後期は、各自の卒業研究を進め、進行状況を報告してもらいながら、その内容についてディスカッションを繰り返し、まとめていく。

授業の計画：

前期

- 1) オリエンテーション
- 2)～5) 研究テーマの発表
- 6)～10) 関連文献の紹介
- 11)～15) 研究計画の発表

後期

- 1)～5) 研究計画の確認・修正
- 6)～10) 研究の進行状況の発表 (1)
- 11)～13) 研究の進行状況の発表 (2)
- 14)～15) まとめ

授業方法：

1回の演習につき1名の発表を基本にして進めていく。発表の準備を十分にした上で、積極的な態度で臨んでほしい。

達成目標：

研究を独力で行うことができる基礎技能を身につけ、卒業研究に必要な準備を進めていく。

評価方法：

発表内容 (30%) と研究の進捗状況 (70%) に基づいて総合的に評価する。

教科書：

なし

参考文献：

授業中に紹介する

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
C60301	心理学研究法	2	2	芳賀康朗

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
実験, 調査, 検査, 観察, データ分析, 論文作成	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

授業のテーマ：

直接観察できない心理現象を科学的に研究するには、それ相応の研究方法を理解・習得する必要がある。この授業では、そうした心理学研究法の基本過程を理解し、独力で研究を進める力を身につけることを目的とする。心理学基礎実習とあわせて受講すること。

授業の概要：

心理学研究法の種類を概説し、卒業論文作成を見据えた研究過程を順を追って解説していく。

授業の計画：

- 1) ガイダンス 心理学研究の目的
- 2) 研究方法の種類 (実験法)
- 3) 研究方法の種類 (調査法)
- 4) 研究方法の種類 (検査法)
- 5) 研究方法の種類 (面接法・観察法)
- 6) 先行研究からの情報収集 (文献検索)
- 7) 先行研究からの情報収集 (文献検索)
- 8) 研究計画の立案
- 9) 研究の実施とデータ収集
- 10) データ分析と心理統計
- 11) 論文・報告書の作成 (論文の構成)
- 12) 論文・報告書の作成 (文章表現)
- 13) 論文・報告書の作成 (図表の作成)
- 14) 心理学研究における倫理的配慮
- 15) まとめ

授業方法：

配布プリントに沿った解説と小課題を中心に進めていく。授業外での課題(宿題)を課すこともある。遅刻は厳禁とする。

達成目標：

自らの興味・関心に基づき研究テーマを設定し、その研究遂行に必要な基本的な作業を独力でこなせるようになることを目指す。

評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、授業内での小課題(約50%)と定期試験の結果(約50%)によって評価する。遅刻や私語などの授業態度も評価の対象とする。

教科書：

なし

参考文献：

大山ら共著 『コンパクト新心理学ライブラリ 12 心理学研究法』サイエンス社 2,310 円
 高野・岡共著 『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし』有斐閣 2,205 円
 都筑学著 『心理学論文の書き方 おいしい論文のレシピ』有斐閣 1,890 円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60801	精神病理学 A	2	2	高橋蔵人
C04101	精神病理学講義 A	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心の病、精神病学、精神病理学史	価値判断力（意思決定力）、分析・総合の思考力と判断力、コミュニケーション力

授業のテーマ：

心の失調や不具合といったものが、どのように心の病、精神病、精神障害として概念化されてきたか、歴史的にたどりながら理解する。

授業の概要：

精神障害とはどのようなものかについて概説した後、それらが社会の中でどのようにとらえられ、理解されてきたかを振り返る。そして後半は代表的な精神病理学者の考えについて学ぶ。

授業の計画：

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 精神障害（その1）：精神病
- 第3回 精神障害（その2）：境界例（人格障害）
- 第4回 精神障害（その3）：神経症
- 第5回 精神病的な問題への対応の歴史
- 第6回 神経症的な問題への対応の歴史
- 第7回 ハイデルベルグ学派、チュービンゲン学派
- 第8回 力動学派
- 第9回 来談者中心学派
- 第10回 人間学派、反精神医学
- 第11回 日本の精神病理学
- 第12回 自分が好きな精神病理学者（その1）
- 第13回 自分が好きな精神病理学者（その2）
- 第14回 自分が好きな精神病理学者（その3）
- 第15回 自分が好きな精神病理学者（その4）

授業方法：

基本的には講義形式で、毎回プリントにそって進める。受身的にならないように、感想や意見を随時発表してもらう。後半は自分の好きな精神病理学者とその考えについて発表し、全員で討議する。

達成目標：

心の失調や不具合についての基本的な考えを理解する。

評価方法：

授業への取り組み(40%)、自分が好きな精神病理学者についての発表(60%)。期末試験は行いません。

教科書：

なし

参考文献：

中井久夫・山口直彦「看護のための精神医学」医学書院
松本雅彦「精神病理学とはなんだろうか」星和書店
その他（適宜授業の中で紹介します）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60901	精神病理学B	2	2	高橋蔵人
C04201	精神病理学講義B	3・4		

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
フロイト、精神分析学、神経症、心理療法	価値判断力（意思決定力）、分析・総合の思考力と判断力、コミュニケーション力

授業のテーマ：

フロイトによって創始された精神分析学において、心の失調や不具合といったものが、どのようにとらえられ、理解され、さらに援助の方法が確立されていったかを学ぶ。

授業の概要：

フロイトは、神経症の治療として始めた自らの治療法を発展させ、精神分析学を確立した。それは神経症患者だけでなく、すべての人間の心に対する理解を深めるものだった。本授業では、フロイトが考えを進めていった道筋に沿って学びます。

授業の計画：

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 フロイトの歩み
- 第3回 ヒステリーの治療（症例エリザベート）
- 第4回 心の力動的理解（トラウマと除反応）
- 第5回 フリース体験と精神分析の確立
- 第6回 エディプスコンプレックスの発見
- 第7回 神経症論
- 第8回 夢
- 第9回 隠蔽記憶、錯誤行為、機知
- 第10回 心の構造
- 第11回 性欲論、発達論
- 第12回 （フロイト以降の）発達論・青年期論
- 第13回 精神分析による治療（症例ドラ）
- 第14回 精神分析による治療（転移、エナクトメントと真実性）
- 第15回 まとめ

授業方法：

基本的には講義形式で、毎回プリントにそって進める。受身的にならないように、感想や意見を随時発表してもらいます。

達成目標：

精神分析は人間の心や行動をより深く理解する方法で、それが精神的に病んでしまった人の助けになります。本授業では、精神分析の基本的な考えを理解するだけでなく、人を心理的に援助するときに役立つ人間理解や基本姿勢を身につけることを目指します。

評価方法：

授業への取り組み（20%）、授業の中で行う課題（2回くらいを予定、前もってテーマを示した上で、そのテーマに即した発表、もしくはレポートを書く、80%）。期末試験は行いません。

教科書：

なし

参考文献：

- フロイト『ヒステリー研究』ちくま学芸文庫／人文書院・フロイト著作集7
- フロイト『夢判断』新潮文庫
- その他（適宜授業の中で紹介します）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61701	心理療法学	2	2	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理療法、カウンセリング技法、臨床場面	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

近年、巷にカウンセリングという文字が乱舞するようになり、誰でも簡単に理解し、実施できるような誤解も多々生じていると思われる。しかし、人が人を理解することが心の闇を抱えたり病いを持っている人に役に立つのか、問題は多く課題は重い。

この授業では、心理療法一般からカウンセリングの基礎を学び、人が人を理解することはどのような意味があるのか、なぜそれが有効なのかを考え、臨床的なカウンセリングについて検討していく。

授業の概要：

この授業では、まず心理療法とは何かを学び、言語を中心としたカウンセリング技法について治療構造の側面、様々な臨床場面での相違や特徴など、具体的で実践的な理解と学習を進めていく。

授業の計画：

1. オリエンテーション
- 2～3. カウンセリングとは何か
4. 「治療構造について」
- 5～6. カウンセリングの過程
- 7～8. 心の構造
- 9～10. カウンセラーの態度と理論
- 11～12. ひとつの事例
13. カウンセラーとクライアントの関係
14. 他の心理療法
15. まとめ

授業方法：

テキストに基づいて、購読しながらそれに沿って進めていく。そしてその時々テーマについて、具体的な事例を考えながら理解できるようにしていく。

達成目標：

心理療法とカウンセリングの基本的な概念と用語を学び、臨床実践に対する理解を深めること。

評価方法：

出席状況および受講態度（30%）とテスト（70%）によって総合的に評価します。

教科書：

「カウンセリングの実際問題」 河合隼雄著 誠信書房 2,000円＋税

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C62001	精神分析学	2	2	三宅朝子

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
精神分析、生きている、臨床実践、対象関係	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力

授業のテーマ：

アライブな、生きている営みとしての臨床実践、精神分析の本質に触れることをテーマとする。

授業の概要：

まず9回目までは、現代の精神分析学の根幹を築いた代表的な分析家たちとその理論（特に対象関係論を中心に）を取り上げる。できるだけ平易な日常的な事象、文学作品、アニメなどを通して解説をして、代表的な基礎的理論・概念の理解をめざす。

さらに前半の学習に基づき、具体的な臨床実践の事例に触れ、より深い人間理解の能力を養う。

授業の計画：

1. 精神分析という営み
2. フロイト①私の知らないもう一人の私
3. フロイト②ママは僕のお嫁さん
4. クライン①よいおっばい VS 悪いおっばい
5. クライン②「千と千尋の神隠し」と対象関係
6. ウィニコット：抱っこ（ホールディング）
7. ビオン：中みと包み（コンテイナー）
8. メルツァー：ディナーはトイレの中で？!
9. 「生きている」ことの援助としての精神分析
10. まとめ（1～9）、小テスト
11. 臨床実践①母・乳幼児心理療法
12. 臨床実践②児童分析
13. 臨床実践③思春期、青年期の事例
14. 臨床実践④成人の事例
15. 総まとめ

授業方法：

基本的には講義形式で進める。適宜プリントなどを配布する。様々な概念や理論をできるだけ自分自身に引きつけて熟考できるよう、『自ら考える』ことを促したい。

達成目標：

精神分析への基礎的な理解がなされ、人間理解に役立つ思考能力を育む。

評価方法：

授業の取り組み・発言（20%程度）、小テスト（30%程度）、学期末試験（50%程度）
 理論や概念の基礎的な理解をより深め、熟考された独自の考えを示すことができる…S
 理論や概念の基礎的な理解をより深め、それをもとに自らの考えを示すことができる…A
 理論や概念の基礎的な理解とともに自らの考えを示すことができる…B
 理論や概念の基礎的なアウトラインを理解している…C
 Cのレベルに到達していない…D

教科書：

なし

参考文献：

授業内で適宜紹介する

実習・実験・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D00101	比較日本文化論講義A	2・3・4	2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本文化と自然、歴史と伝統、江戸文明、近代化	分析、総合思考力、価値判断力、美的感受性

授業のテーマ：

自らがその中で生い育った文化は意識しにくいものであるが、特に日本の場合、日本の特殊事情もあって、日本文化についてよく知らない日本人も多くなっている。他方、現代では、「日本」とか「文化」というものの自体、一種の幻想であるとする議論もある。この講義は、こういう状況の中で、学生が自身で日本文化について新たに考え直す手掛かりとなるであろう。そのためにも、前後期を通して通年での受講が望ましい。

授業の概要：

日本文化や日本人のものの考え方の顕著な特徴と思われる事柄を、世界の他の地域の文化や思想との比較を通して考察する。今年度は、特に日本文化についてのいくつかの通念を取り上げ、通念の検討を通して、日本文化の独自性や、現代の世界におけるその意味について論ずる。この講義は、比較日本文化論の入門編と位置づけられているので、問題とすべき基本的な事柄については、例年そう大きな変化はない。ただ、事例については、毎年できるだけ異なった様々な事例を取り上げる。

授業の計画：

- ① 日本文化を考える際、どのような問題が考察されるべきか、またそれは何故かということを中心とする導入講義。大学の講義のノートの取り方等、実際的な問題についてもあらかじめ助言を与えておく。
- ② 視覚教材を、日本文化を考える際の一つの手掛かりとする。
- ③ 通念1「ドイツは森の国で、日本は環境破壊の国？」－日本文化と自然（1）
- ④ 日本文化と自然（2）
- ⑤ 日本文化と自然（3）
- ⑥ 世界の他の地域における自然観と文化（1）
- ⑦ 世界の他の地域における自然観と文化（2）
- ⑧ 世界の他の地域における自然観と文化（3）
- ⑨ 通念2「日本は自然を重んじる文化を築いて来たというのは嘘？」
－近代化という問題（1）
- ⑩ 近代化という問題（2）
- ⑪ 通念3「江戸時代＝ボロボロの着物のお百姓さん？」－江戸文明（1）
- ⑫ 江戸文明（2）
- ⑬ 江戸文明（3）
- ⑭ 日本文化と近代化という問題
- ⑮ 前期のまとめ

授業方法：

講義は基本的に、ドイツ語でいう vorlesen（この意味は、最初の講義時に説明する）の形をとるが、一方通行にならないように、時に履修者に対して質問を投げかけることもある。また、年間を通して資料を度々配布する。それらの資料は、講義の理解に役立つのみならず、履修者が日本文化について自分自身で考える手助けともなるであろう。

達成目標：

他文化との比較を通して日本文化について理解を深める。日本文化に関する通念も考え直す。

評価方法：

- (a) 授業への取り組み、(b) 学期末試験、(c) レポートを同等の比重で重視する。
(a) における真摯な態度を前提とした上で、(b) と (c) において、
講義の理解度が特に優れ、課題についてよく考えられていると認められた場合…S
講義の理解度に問題がないと認められた場合…A
理解度にやや不十分さはあっても、少なくとも要点は理解できていると認められた場合…B
かなりの不十分さはあるにせよ、理解できている問題もいくらかはあると認められた場合…C
Cに達していない場合…D

教科書：

特になし。

参考文献：

参考文献は授業中に適宜紹介する。その中の少なくとも一冊は、レポートの課題図書とする。

実験・実習・教材費：

不要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D00201	比較日本文化論講義B	2・3・4	2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考:
後期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
地政学的視点、歴史環境、技術と身体化、美意識、外来性と固有性	分析、総合の思考力、価値判断力、美的感受性

授業のテーマ:

自らがその中で生い育った文化は意識しにくいものであるが、特に日本の場合、日本の特殊事情もあって、日本文化についてよく知らない日本人も多くなっている。他方現代では、「日本」とか「文化」というものの自体、一種の幻想であるとする議論もある。この講義は、こういう状況の中で、学生が自分で日本文化について新たに考え直す手掛かりとなるであろう。そのためにも通年の受講を勧める。

授業の概要:

日本文化や日本人のものの考え方を、歴史環境や東アジアという地政学的観点もふまえ、世界の他の地域の文化や思想との比較を通して考察する。今年度は、特に日本文化についてのいくつかの通念を取り上げ、通念の検討を通して、日本文化の独自性や、現代の世界におけるその意味について論ずる。

授業の計画:

- ①日本文化を考える際どのような問題が考察されるべきか、前期Aの講義の要点を振り返りつつ、更に問題を展開させていく。
- ②通念4「日本は中華文明圏?」-歴史環境と地政学上の問題(1)
- ③歴史環境と地政学上の問題(2)
- ④歴史環境と地政学上の問題(3)
- ⑤歴史環境と地政学上の問題(4)
- ⑥日本文化三層論
- ⑦日本文化に見る自然感応力
- ⑧身体と技術の問題(1)
- ⑨身体と技術の問題(2)
- ⑩通念5「日本文化は恥の文化?」-日本文化における美意識(1)
- ⑪日本文化における美意識(2)
- ⑫通念6「日本文化は模倣文化?」-模倣と独創(1)
- ⑬模倣と独創(2)
- ⑭まとめ(1)
- ⑮まとめ(2)

授業方法:

講義は基本的に、ドイツ語でいう vorlesen (この意味は、最初の講義時に説明する) の形をとるが、一方通行にならないように、時に履修者に対して質問を投げかけることもある。また、年間を通して資料を度々配布する。それらの資料は、講義の理解に役立つのみならず、履修者が日本文化について自分自身で考える手助けともなるであろう。

達成目標:

他文化との比較を通して日本文化について理解を深める。日本文化に関する通念も考え直す。

評価方法:

- (a) 授業への取り組み、(b) 学期末試験、(c) レポートを同等の比重で重視する。
(a) における真摯な態度を前提とした上で、(b) と (c) において、
講義の理解度が特に優れ、課題についてよく考えられていると認められた場合…S
講義の理解度に問題がないと認められた場合…A
理解度にやや不十分さはあっても、少なくとも要点は理解できていると認められた場合…B
かなりの不十分さはあるにせよ、理解できている問題もいくつかはあると認められた場合…C
Cに達していない場合…D

教科書:

特になし。

参考文献:

参考文献は授業中に適宜紹介する。その中の一冊を、レポートの課題図書とすることもある。

実験・実習・教材費:

不要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D00501	比較日本文化論特殊講義ⅡA（比較日本思想論）	2・3・4	2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
相対主義的文化論、近代化、普遍主義、文化、宗教、伝統、歴史	分析、総合の思考力、価値判断力、美的感受性

授業のテーマ：

文化を論ずることは、伝統や歴史の問題を考えると切り離してはありえない。しかし、こういう考えは、現代の日本では益々理解され難いものとなっている。現代の文化論を再考し、文化、伝統、歴史等について考える。

授業の概要：

現代の日本で依然としてもてはやされている文化論の一つに、相対主義的な文化論があるが、改めていうまでもなく、これは、脱近代論の残滓である。今年度の前期の講義では、主に脱近代論を検討して、脱近代論が、近代主義の一つの帰結であることを明らかにし、後期で考察する問題につなげてゆく。講義の内容は、前期Aと後期Bは連続し、Aの内容を受けてBの講義に進むので、通年でA B両方を受講することをすすめる。また、特殊講義は、講義担当者のその時点での研究成果を最も反映するものなので、下記授業計画に一部変更が生じる場合もある。

授業の計画：

- ① 導入講義
- ② 脱近代論（1）
- ③ 脱近代論（2）
- ④ 脱近代論（3）
- ⑤ 脱近代論（4）
- ⑥ 脱近代論（5）
- ⑦ 日本における相対主義的文化論（1）
- ⑧ 日本における相対主義的文化論（2）
- ⑨ 脱近代論における近代主義（1）
- ⑩ 脱近代論における近代主義（2）
- ⑪ 近代という問題（1）
- ⑫ 近代という問題（2）
- ⑬ 近代という問題（3）
- ⑭ 近代の超克という問題
- ⑮ 前期まとめ

授業方法：

必要に応じて、参考資料をコピーで配布する。それぞれの思想の言葉に実際に触れることを通して、講義の理解を深めるとともに、その思想の言葉を手掛かりとして、受講者が自分自身で考える姿勢を身につけてほしい。

達成目標：

講義で考察される問題がどういう問題であるのかを理解し、それが受講者自身にとって、また現代にとってどういう意味をもつ問題であるか理解する。

評価方法：

- (a) 授業への取り組み、(b) 学期末試験、(c) レポートを同等の比重で重視する。
(a) における真摯な態度を前提とした上で、(b) と (c) おいて、
講義の理解度が特に優れ、課題についてよく考えられていると認められた場合…S
講義の理解度に問題がないと認められた場合…A
理解度にやや不十分さはあっても、少なくとも要点は理解できていると認められた場合…B
かなりの不十分さはあるにせよ、理解できている問題もいくつかはあると認められた場合…C
Cに達していない場合…D

教科書：

特になし。

参考文献：

参考文献は授業中に適宜紹介する。その中の一冊を、レポートの課題図書とすることもある。

実験・実習・教材費：

不要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D00601	比較日本文化論特殊講義ⅡB（比較日本思想論）	2・3・4	2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
相対主義的文化論、近代化、普遍主義、文化、宗教、伝統、歴史、土着性	分析、総合の思考力、価値判断力、美的感受性

授業のテーマ：

文化を論ずることは、伝統や歴史の問題を考えると切り離してはありえない。しかし、こういう考えは、現代の日本では益々理解され難いものとなっている。現代の文化論を再考し、文化、伝統、歴史等について考える。

授業の概要：

前期の講義を受けて、後期では、特に小林秀雄、西谷啓治、保田與重郎その他の文化論、思想論、宗教論、歴史論を取り上げて、現代における日本文化という問題を考察する。講義の内容は、前期Aと後期Bは連続し、Aの内容を受けてBの講義に進むので、通年でA B両方を受講することをすすめる。また、特殊講義は、講義担当者のその時点での研究成果を最も反映するものなので、下記授業計画に一部変更が生じる場合もある。

授業の計画：

- ①導入講義、前期のまとめ
- ②歴史と伝統（1）
- ③歴史と伝統（2）
- ④歴史と伝統（3）
- ⑤歴史と伝統（4）
- ⑥歴史と伝統（5）
- ⑦現代における宗教（1）
- ⑧現代における宗教（2）
- ⑨現代における宗教（3）
- ⑩現代における宗教（4）
- ⑪土着性という問題（1）
- ⑫土着性という問題（2）
- ⑬思想の普遍主義と日本的宗教性及び日本文化（1）
- ⑭思想の普遍主義と日本的宗教性及び日本文化（2）
- ⑮まとめ

授業方法：

必要に応じて、参考資料をコピーで配布する。それぞれの思想の言葉に実際に触れることを通して、講義の理解を深めるとともに、その思想の言葉を手掛かりとして、受講者が自分自身で考える姿勢を身につけてほしい。

達成目標：

日本の思想や日本人が考えて来た問題がどういう問題であるのかを知り、それが受講者自身にとって、また現代にとってどういう意味をもつ問題であるか理解する。

評価方法：

- (a) 授業への取り組み、(b) 学期末試験、(c) レポートを同等の比重で重視する。
(a) における真摯な態度を前提とした上で、(b) と (c) において、
講義の理解度が特に優れ、課題についてよく考えられていると認められた場合… S
講義の理解度に問題がないと認められた場合… A
理解度にやや不十分さはあっても、少なくとも要点は理解できていると認められた場合… B
かなりの不十分さはあるにせよ、理解できている問題もいくつかはあると認められた場合… C
C に達していない場合… D

教科書：

特になし。

参考文献：

参考文献は授業中に適宜紹介する。その中の一冊を、レポートの課題図書とすることもある。

実験・実習・教材費：

不要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D00701	比較日本文化論プロゼミナール	2・3・4	2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
上質の日本文化論、熟読、自分で考える姿勢、興味から研究への発展	分析、総合の思考力、価値判断力、美的感受性

授業のテーマ：

いくつかのすぐれた日本文化論、日本思想論に触れることを通して、履修者が日本の文化や思想をめぐるさまざまな問題について、通念に捕われず、自分自身で考える姿勢を身につける。また、日本の文化や思想に関する履修者の興味を、研究にまで発展させる仕方を学ぶ。

授業の概要：

比較的短い、上質な日本文化論のテキストのコピーを最初の時間に配布し、学年度初めの5時間程度は、これの味読に当てる。その後、文章を熟読し熟考する姿勢を身につけるといふ目的と、研究に必要な論理的思考力を養うというそれぞれの目的に適ったテキストを二つ（仮に「テキストa」、「テキストb」としておく）決め、一週間おきに交替で読み進めて行く。この方法によって、履修者の多岐にわたる関心にも応じることができる。

履修者は、予告された範囲を必ず読んでから、授業に臨む。担当教員による授業中の懇切丁寧な解説を手助けとして、受講者は更に考え、理解をできるだけ深める。その上で、参加者どうし自由な議論を行なう。また、年度の後半に、広く日本の文化や思想に関わる問題について、履修者による研究発表を行なって戴き、それをめぐって議論する。

授業の計画：

前期

- ①導入講義。当初4、5回分程度のテキストのコピー配布。その後読むテキストについて、担当教員の考えを説明し、受講者の関心領域と意見もきく。コピー配布した日本文化論、思想論のテキストの熟読、解説、討議（1）
 - ②日本文化論、思想論のテキストの熟読、解説、討議（2）
 - ③日本文化論、思想論のテキストの熟読、解説、討議（3）
 - ④日本文化論、思想論のテキストの熟読、解説、討議（4）
 - ⑤日本文化論、思想論のテキストの熟読、解説、討議（5）
- 新たなテキストについて解説
- ⑥歴史、伝統、文化を主題とするテキストaの読解、解説、討議（1）
 - ⑦歴史、伝統、文化を主題とするテキストbの読解、解説、討議（1）
 - ⑧歴史、伝統、文化を主題とするテキストaの読解、解説、討議（2）
 - ⑨歴史、伝統、文化を主題とするテキストbの読解、解説、討議（2）
 - ⑩歴史、伝統、文化を主題とするテキストaの読解、解説、討議（3）
 - ⑪歴史、伝統、文化を主題とするテキストbの読解、解説、討議（3）
 - ⑫歴史、伝統、文化を主題とするテキストaの読解、解説、討議（4）
 - ⑬歴史、伝統、文化を主題とするテキストbの読解、解説、討議（4）
 - ⑭歴史、伝統、文化を主題とするテキストaの読解、解説、討議（5）
 - ⑮歴史、伝統、文化を主題とするテキストbの読解、解説、討議（5）
- 後期に行なう各自の研究発表について、研究テーマの発表

後期

- ①歴史、伝統、文化を主題とするテキストaの読解、解説、討議（6）
- ②歴史、伝統、文化を主題とするテキストbの読解、解説、討議（6）
- ③歴史、伝統、文化を主題とするテキストaの読解、解説、討議（7）
- ④歴史、伝統、文化を主題とするテキストbの読解、解説、討議（7）
- ⑤歴史、伝統、文化を主題とするテキストaの読解、解説、討議（8）
- ⑥歴史、伝統、文化を主題とするテキストbの読解、解説、討議（8）
- ⑦歴史、伝統、文化を主題とするテキストaの読解、解説、討議（9）
- ⑧歴史、伝統、文化を主題とするテキストbの読解、解説、討議（9）
- ⑨歴史、伝統、文化を主題とするテキストaの読解、解説、討議（10）
- ⑩歴史、伝統、文化を主題とするテキストbの読解、解説、討議（10）
- ⑪履修者による研究発表
- ⑫履修者による研究発表
- ⑬履修者による研究発表
- ⑭履修者による研究発表
- ⑮履修者による研究発表、総括的討議

授業方法：

履修者に、その時間に読むテキストの内容をまとめさせた上で、主要な問題は何か考えさせ、全員で討議する。担当教員は、それに対して質問を投げかけ、懇切丁寧に説明することにより、履修者の読解力を高めていく。諸分野を専攻する履修者を考慮し、時々使用するテキストを離れて、日本や世界の様々な事象について、文化論的、思想論的な観点から議論する。

達成目標：

上質な日本文化論、あるいは含蓄に富んだ思想について、読解力を深めること。

評価方法：

出席、発表、議論への参加、研究発表をまとめたレポート提出、これらを総合的に判断して、評価を行なう。これら諸点について、
卓抜であると認められた場合…S
優れていると認められた場合…A
やや欠ける部分があっても、良好と認められるところもある場合…B
欠ける点があっても、ある程度努力した姿勢は認められた場合…C
Cに達しない場合…D

教科書：

前期初めに当座のテキストはコピーで配布。その後のテキストについては、前期の初めの授業の際に話し合い、通知。

参考文献：

授業中に適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

不要

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D00801	比較日本文化論演習	3・4	4	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本思想、比較思想的方法、思想の読解	分析、総合の思考力、価値判断力、美的感受性

授業のテーマ：

主に日本の思想を（必要に応じて外国語で書かれた思想も）原書で読むことを通して、日本文化を生み出して来た日本人のものの考え方や思想の特質を、比較思想的手法も駆使しつつ、熟考する。
履修者自身が、自分の関心を研究にまで仕上げる手助けをする。

授業の概要：

上質な日本思想論をテキストとし、熟読含味する作業を行なう。単に知識として知るだけではなく、担当教員の詳しい説明を手掛かりにして、履修者が自分自身で考える力を養う。履修者による研究発表と、それについての討議と指導。

授業の計画：

- | | |
|--|---|
| <p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日本思想論のテキストの解説。卒業論文に関する指導 ②日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（1） ③日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（2） ④日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（3） ⑤日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（4） ⑥日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（5） ⑦卒業予定者による研究発表（1） ⑧卒業予定者による研究発表（2）3年生に対する研究指導 ⑨日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（6） ⑩日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（7） ⑪日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（8） ⑫日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（9） ⑬日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（10） ⑭卒業予定者による研究発表（3） ⑮卒業予定者による研究発表（4） <p>3年生に対する研究指導</p> | <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ①日本思想論のテキストの読解、解説、討議（11） ②日本思想論のテキストの読解、解説、討議（12） ③日本思想論のテキストの読解、解説、討議（13） ④日本思想論のテキストの読解、解説、討議（14） ⑤日本思想論のテキストの読解、解説、討議（15） ⑥日本思想論のテキストの読解、解説、討議（16） ⑦日本思想論のテキストの読解、解説、討議（17） ⑧卒業予定者による研究発表（5） ⑨卒業予定者による研究発表（6） ⑩日本思想論のテキストの読解、解説、討議（18） ⑪日本思想論のテキストの読解、解説、討議（19） ⑫日本思想論のテキストの読解、解説、討議（20） ⑬卒業予定者による研究発表（7） ⑭卒業予定者による研究発表（8）、履修者による研究発表 ⑮日本思想論のテキストの読解、解説、討議（21）とまとめ |
|--|---|

授業方法：

予告された箇所のテキストについて、前以て不明の箇所を調べ熟読した上で、授業に出席することを、履修者に義務づける。担当教員からの履修者に対する問いと、履修者からの応答の後、担当教員が詳しい解説を行なう。また、卒業予定者と履修者に対する研究指導も、随時行なう。

達成目標：

熟読含味理解という作業をおろそかにしないために、進度は遅々としているが、深く考えられた思想が表現された文章をできるかぎり理解するように努める。日本の文化や思想、歴史等に対する履修者の関心を、研究といえる水準にまで高める能力を養う。

評価方法：

下準備した上での出席、発表。討議への積極的な参加。これらを総合的に評価する。これらの諸点のいずれかにおいて、特に卓抜であると認められた場合…S
優れていると認められた場合…A
やや欠けるところはあるが、ある程度の努力はしたと認められた場合…B
やや欠けるところもあり、努力する姿勢がもっと必要な場合…C
Cに達しない場合…D

教科書：

予めこちらで把握できる履修者に関しては、年度初めまでに事前に通知する。新たな参加者に対しては、初回に知らせる。

参考文献：

授業時に適宜紹介する。

実習・実験・教材費：

不要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D01101	日本の言語と文学講義A	2・3・4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
万葉集、和歌、和歌の修辞	コミュニケーション力、美的感受性

授業のテーマ：

日本の文学伝統の形成過程を知ることが目的とする。

授業の概要：

上代から近代にいたるまでの古典作品について、和歌を中心として講義する。前期「日本の言語と文学A」は、上代（平安時代以前）の『万葉集』を中心として講義する。

授業の計画：

- 1 はじめに 授業の進め方・参考文献などの説明
 - 2 『万葉集』についての概説 1
 - 3 『万葉集』についての概説 2
 - 4 『万葉集』第一期の歌人と作品 1
 - 5 『万葉集』第一期の歌人と作品 2
 - 6 『万葉集』第一期の歌人と作品 3
 - 7 『万葉集』の表記 1
 - 8 『万葉集』第二期の歌人と作品 1
 - 9 『万葉集』第二期の歌人と作品 2
 - 10 『万葉集』第二期の歌人と作品 3
 - 11 『万葉集』の表記 2
 - 12 『万葉集』第三期の歌人と作品 1
 - 13 『万葉集』第三期の歌人と作品 2
 - 14 『万葉集』第三期の歌人と作品 3
 - 15 まとめ
- ※ 授業計画は、受講生の興味等により変更を行う場合がある。

授業方法：

講義形式を基本とするが、適宜対話形式を取り入れる。教科書の他プリント資料を配布する。

達成目標：

『万葉集』および古代和歌についての知識を習得する。

評価方法：

テスト（50%）＋授業中の課題（30%）＋受講姿勢（20%）により総合的に評価する。
 レポートなど課題の提出遅延は、減点とする。
 万葉集および古代和歌についてたいへんよく理解している…S
 万葉集および古代和歌についてよく理解している…A
 万葉集および古代和歌について理解している…B
 万葉集および古代和歌についてだいたい理解している…C

教科書：

森淳司 編『訳文 万葉集』笠間書院（税込 1,890円）

参考文献：

坂本信幸 毛利正守 編『万葉事始』和泉書院（税込 720円）
 神野志隆光 編『万葉集観賞事典』講談社学術文庫（税込 1,200円）
 その他は、授業時に適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D01201	日本の言語と文学講義B	2・3・4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
万葉集、和歌、和歌の修辞、国文学史（日本文学史）	コミュニケーション力、美的感受性

授業のテーマ：

日本の文学伝統の形成過程を知る。

授業の概要：

上代から近代にいたるまでの古典作品について、和歌を中心として講義する。

授業の計画：

※ 前期からの継続受講を基本とする。

- 1 概説 1
- 2 概説 2
- 3 『万葉集』 第四期の歌人と作品 1
- 4 『万葉集』 第四期の歌人と作品 2
- 5 『万葉集』 第四期の歌人と作品 3
- 6 『万葉集』 のまとめ
- 7 和歌の修辞
- 8 『古今和歌集』
- 9 『伊勢物語』
- 10 『源氏物語』
- 11 『土佐日記』
- 12 『平家物語』
- 13 『徒然草』
- 14 『奥の細道』
- 15 まとめ

※ 授業計画は、受講生の興味等により変更を行う場合がある。

授業方法：

講義形式を基本とするが、適宜対話形式、発表形式を取り入れる。教科書その他プリント資料を配布する。

達成目標：

『万葉集』 および授業で取り上げた古典文学作品についての基礎的な知識を習得する

評価方法：

授業内の課題作成（30%）＋ 年度末のレポート（30%）＋ 受講姿勢など（40%）により総合的に評価する。

レポート、課題の提出遅延は減点とする。

和歌と日本の文学史についてたいへんよく理解している…S

和歌と日本の文学史についてよく理解している…A

和歌と日本の文学史について理解している…B

和歌と日本の文学史についてだいたい理解している…C

教科書：

森淳司 編『訳文 万葉集』笠間書院（税込 1,890円）

『新総合図説国語』東京書籍（税込 880円）

参考文献：

坂本信幸 毛利正守 編『万葉事始』和泉書院（税込 720円）

神野志隆光 編『万葉集観賞事典』講談社学術文庫（税込 1,200円）

その他は、授業時に適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D01501	日本の言語と文学特殊講義ⅡA（和歌と日本文化）	2・3・4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
文学の味わい、万葉集、和歌	コミュニケーション力、美的感受性

授業のテーマ：

最初の勅撰和歌集『古今和歌集』以来、季節の風物は和歌の中心的な主題とされた。この講義では、その『古今和歌集』に先立つ『万葉集』の歌を丁寧に読むことを通して、日本文化の基底にある季節観を知ること。また、それを通して現代においても実感する季節の移り変わり、風土と環境を大切に「まなざし」を養うことを目指す。

授業の概要：

『万葉集』という歌集についての基礎的な知識を習得する。
『万葉集』の時代の人々の季節把握とその表現の特質を学ぶ。

授業の計画：

- 1 はじめに 授業の進め方・参考文献の紹介など
- 2 『万葉集』についての概説
- 3 『万葉集』の春の歌 1
- 5 『万葉集』の春の歌 2
- 6 『万葉集』の春の歌 3
- 7 『万葉集』の夏の歌 1
- 8 『万葉集』の夏の歌 2
- 9 『万葉集』の秋の歌 1
- 10 『万葉集』の秋の歌 2
- 11 『万葉集』の秋の歌 3
- 12 『万葉集』の冬の歌 1
- 13 『万葉集』の冬の歌 2
- 14 まとめ 1
- 15 まとめ 2

※授業計画は、受講生の理解度などにより適宜変更する場合がある。

授業方法：

講義形式を基本とする。

達成目標：

和歌の表現技法を修得する。
『万葉集』の歌に詠まれる、その時代の季節の把握を知る。

評価方法：

定期試験（70％）＋授業への取り組み（30％）
和歌の表現技法・万葉集歌の特質をたいへんよく理解している…S
和歌の表現技法・万葉集歌の特質をよく理解している…A
和歌の表現技法・万葉集歌の特質の理解ができていない…B
和歌の表現技法・万葉集歌の理解がおおよそできていない…C

教科書：

森淳司 編『訳文 万葉集』笠間書院（税込 1,890円）
過去に「日本の言語と文学講義」を履修した者は、佐竹昭広他著『補訂版 万葉集 本文篇』塙書房でも可。

参考文献：

授業のなかで適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D01601	日本の言語と文学特殊講義ⅡB（和歌と日本文化）	2・3・4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
古今和歌集、和歌、和歌の修辞、漢詩	美的感受性、コミュニケーション力、グローバルな視野

授業のテーマ：

和歌の読解を通して、日本文化の基底にある季節観を知る。『万葉集』の歌を読むことを通して、現代において実感する季節の移り変わり、風土と環境を大切に「まなざし」を養う。

授業の概要：

『古今和歌集』をはじめとする和歌の表現技法および漢詩の知識を学ぶ。
和歌と漢詩における季節の表現を学ぶ。

授業の計画：

※前期からの継続受講が望ましい。

- 1 はじめに 授業の進め方・参考文献の紹介
- 2 概説 1 『古今和歌集』について
- 3 概説 2 和歌の修辞
- 4 『古今和歌集』と四季 1
- 5 『古今和歌集』と四季 2
- 6 『古今和歌集』と四季 3
- 7 『古今和歌集』と四季 4
- 8 『古今和歌集』についてのまとめ
- 9 漢詩
- 10 和歌と漢詩の四季 1
- 11 和歌と漢詩の四季 2
- 12 和歌と漢詩の四季 3
- 13 和歌と漢詩の四季 4
- 14 和歌と漢詩についてのまとめ
- 15 まとめ

※授業計画は、受講生の理解度などにより適宜変更する場合がある。

授業方法：

講義形式を基本とする。

達成目標：

和歌・漢詩の修辞技法、および『古今和歌集』などの文学史的な知識を習得する。

評価方法：

定期試験（70%）＋受講姿勢（30%）
和歌と漢詩についてたいへんよく理解している…S
和歌と漢詩についてよく理解している…A
和歌と漢詩について理解している…B
和歌と漢詩についてだいたい理解している…C

教科書：

森淳司 編『訳文 万葉集』笠間書院（税込 1,890円）
過去に「日本の言語と文学講義」を履修した者は、佐竹昭広他著『補訂版 万葉集 本文篇』塙書房でも可。
授業時にプリント資料を配付する。

参考文献：

朝比奈英夫他 編『古典入門』清文堂出版（1,700円＋税）
その他は、授業のなかで適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D01701	日本の言語と文学プロゼミナール	2・3・4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本文学、問題の発見、問題の解決、批判的思考、プレゼンテーション	コミュニケーション力、美的感受性

授業のテーマ：

日本の文学作品の読解を通して、日本の言語と文学についての基本的な諸問題に広く触れることを目的とする。

授業の概要：

前期は、森鷗外の『山椒大夫』および夏目漱石の『こころ』およびを読むことを中心として、「読書」ではない研究としての読解の方法を会得することをめざす。後期は、前期の読解うえに立って、各個人が選んだ作品の読解について検討する。

授業の計画：

前期

- 1 はじめに 授業の進め方など
 - 2 レポートの書き方
 - 3～10 清水克彦『山椒大夫読例』の読解
 - 11～15 石原千秋『『こころ』大人になれなかった先生』の読解
- 後期 各人の選んだテーマに基づく発表および質疑応答

発表をもとにレポートを作成

※ どの作品を読むかについては、受講生との話し合いで変更する場合がある。

授業方法：

前期：最初の1～2回は講義形式で行う。3回目以後は演習形式。毎回1～2名の発表者が資料を用意して発表し、発表について全員で考え討議する。

後期：演習形式（発表と質疑応答）

達成目標：

文学作品を正確に読むことができる。

そのうえで、その作品対する研究論文を批判的に読み、問題点を見つける。そして、その問題を調査・考察することにより解決し、その結果を口述・記述する力を身につける。

評価方法：

発表（40%）＋聴講姿勢（発表に対する質疑応答）（30%）＋レポート（30%）

教科書：

石原千秋『『こころ』大人になれなかった先生』みすず書房 1,300円＋税

清水克彦『山椒大夫読例』世界思想社 2,300円＋税

参考文献：

石原千秋『大学生の論文執筆法』ちくま新書 740円＋税

その他は、授業中に適宜指示する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D01801	日本の言語と文学演習	3・4	4	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本文学、問題の発見、問題の解決、批判的思考、プレゼンテーション	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

日本の文学作品の読解を通して、日本の言語と文学についての基本的な諸問題に広く触れる。そのうえで、自ら問題点を見つけ、その問題点について調査・考察したことを口述・記述する力を養うことを目指す。

授業の概要：

はじめに、講義形式で発表方法・資料の作成の仕方を学ぶ。以後は、各自の選んだテーマについて発表と質疑応答を行う。あわせて、卒業回生の卒業論文のテーマについての発表と質疑応答を行う。前期末・後期末には、発表内容についてのレポートを提出する。

授業の計画：

(前期)

- 1 はじめに
- 2～3 論文の書き方
- 4～14 先行論文を読む・発表と質疑応答
- 15 まとめ

(後期)

- 1 はじめに
- 2～14 先行論文を読む・発表と質疑応答
- 15 まとめ

授業方法：

前期・後期の最初の数回は、講義形式で行う。その後は演習形式で進める。毎回1～2名の発表者が資料を用意し、発表内容について全員で考え討議する。

達成目標：

文学作品を正確に読むことができる。そのうえで、その作品に対する研究論文を批判的に読み、問題点を見つける。そして、調査・考察により問題を解決し、その結果を口述・記述する力を身につける。

評価方法：

発表 (30%) + 質疑応答 (30%) + レポート (40%)

教科書：

石原千秋『大学生の論文執筆法』ちくま新書 740円+税

参考文献：

授業中に適宜指示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D02101	日本教育史講義A	2・3・4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
人づくり、近世、私塾、寺子屋	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、効果的な社会参加

授業のテーマ：

江戸時代、我が国の教育レベルは質量共に世界一であった。それは、識字率及び明治初期に本格化した欧米諸制度採用の祭の国民的知的レベルの高さ等にうかがうことができる。つまり、明治日本の驚異的発展の基礎は、すでに江戸時代の教育の内に準備されていたのである。

そこで、本講では特に江戸時代の寺子屋、私塾、藩校などで教育に携わった人物、また、そこで育てられた人物を取り上げ、その具体的な「人づくり」を考察する。

授業の概要：

一時間に一人の人物や私塾・寺子屋などを取り上げ、どのような人づくりを行っていたのかを理解させ、人づくりの意味について考えさせる。

授業の計画：

- 1 大蔵永常
- 2 会津教育
- 3 山川捨松
- 4 安東省庵
- 5 西郷隆盛
- 6 薩摩藩の教育
- 7 崎門学
- 8 山崎闇斎
- 9 浅見綱斎
- 10 若林強斎
- 11 横井小楠
- 12 肥後藩の教育
- 13 長州藩の教育
- 14 会津藩の教育
- 15 吉田松陰

授業方法：

講義形式

達成目標：

人が育つというのはどういうことか。また、人を育てるといえるのは何か。これを、近世の人物・教育・寺子屋などを参考に自分で考えられるようにする。

評価方法：

授業の取り組み 30%、テスト70%などによって、評価する。

教科書：

なし

参考文献：

講義の中で折々に紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D02201	日本教育史講義B	2・3・4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
人づくり、近世、私塾、寺子屋	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

一時間に一人の人物や私塾・寺子屋などを取り上げ、どのような人づくりを行っていたのかを理解させ、人づくりの意味について考えさせる。

授業の概要：

江戸時代、我が国の教育レベルは質量共に世界一であった。それは、識字率及び明治初期に本格化した欧米諸制度採用の祭の国民的知的レベルの高さ等にうかがうことができる。つまり、明治日本の驚異的発展の基礎は、すでに江戸時代の教育の内に準備されていたのである。

そこで、本講では特に江戸時代の寺子屋、私塾、藩校などで教育に携わった人物、また、そこで育てられた人物を取り上げ、その具体的な「人づくり」を考察する。

授業の計画：

- 1 林桜園
- 2 神子高たか
- 3 橋本左内
- 4 契沖
- 5 本居宣長
- 6 前田利長
- 7 加賀藩の教育
- 8 小林虎三郎
- 9 坂本竜馬
- 10 土佐の教育的風土
- 11 横井小楠
- 12 小林虎三郎
- 13 郡上藩の教育—凌霜隊を中心として—①
- 14 郡上藩の教育—凌霜隊を中心として—②
- 15 近世の教育

授業方法：

講義形式

達成目標：

人が育つというのはどういうことか。また、人を育てるといのは何か。これを、近世の人物・教育・寺子屋などを参考に自分で考えられるようにする。

評価方法：

授業の取り組み 30%、テスト 70%などによって、評価する。

教科書：

なし

参考文献：

講義の中で折々に紹介する。

実験・実習・教材費

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D02501	日本教育史特殊講義ⅡA（吉田松陰の教育思想）	2・3・4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
吉田松陰、教育思想、人づくり	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意志決定力）

授業のテーマ：

吉田松陰は幕末期の我が国を代表する教育者である。彼が萩の野山獄及び松下村塾で行った教育は、現在の教育学の視点からしても、教育方法や教育目的の中心とされる「自己教育力」を重視するものであった。

本講では、松陰教育の目的、方法、内容などを、彼の残した原文書を中心にして、総合的に考察する。

授業の概要：

それぞれのテーマについて、松陰の残した史料の解説を中心として、その人間観などを理解させ、人づくりについて、具体的に考えられる段階まで到達することを目的とする。

授業の計画：

- 1 松陰教育の現在の意義Ⅰ
- 2 松陰教育の現在の意義Ⅱ
- 3 下田渡海考Ⅰ
- 4 下田渡海考Ⅱ
- 5 下田渡海考Ⅲ
- 6 松下村塾考Ⅰ
- 7 松下村塾考Ⅱ
- 8 松下村塾考Ⅲ
- 9 理想的武士観について－忠概念を中心としてⅠ
- 10 理想的武士観について－忠概念を中心としてⅡ
- 11 理想的武士観について－忠概念を中心としてⅢ
- 12 理想的武士観について－孝概念を中心としてⅠ
- 13 理想的武士観について－孝概念を中心としてⅡ
- 14 理想的武士観について－孝概念を中心としてⅢ
- 15 理想的武士観について－忠孝概念を中心として

授業方法：

講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

達成目標：

松陰の原文書の書き下しが読め、理解できる。また、自分で具体的に松陰教育、ひいては、近世後期の私塾教育を考察することができる。

評価方法：

出席（20%）、試験（80%）などによって、評価する。

教科書：

拙著『吉田松陰』致知出版社、平成21年

参考文献：

なし。史料は適時配布。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D02601	日本教育史特殊講義ⅡB（吉田松陰の教育思想）	2・3・4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
吉田松陰、教育思想、人づくり	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意志決定力）

授業のテーマ：

吉田松陰は幕末期の我が国を代表する教育者である。彼が萩の野山獄及び松下村塾で行った教育は、現在の教育学の視点からしても、教育方法や教育目的の中心とされる「自己教育力」を重視するものであった。

本講では、松陰教育の目的、方法、内容などを、彼の残した原文書を中心にして、総合的に考察する。

授業の概要：

それぞれのテーマについて、松陰の残した史料の解説を中心として、その人間観などを理解させ、人づくりについて、具体的に考えられる段階まで到達することを目的とする。

授業の計画：

- 1 理想的武士観について－諫死論を中心としてⅠ
- 2 理想的武士観について－諫死論を中心としてⅡ
- 3 理想的武士観について－諫死論を中心としてⅢ
- 4 理想的武士観について－生死観を中心としてⅠ
- 5 理想的武士観について－生死観を中心としてⅡ
- 6 理想的武士観について－生死観を中心としてⅢ
- 7 国際感覚についてⅠ
- 8 国際感覚についてⅡ
- 9 理想的武士観について－生活論を中心としてⅠ
- 10 理想的武士観について－生活論を中心としてⅡ
- 11 理想的武士観について－生活論を中心としてⅢ
- 12 武家政権観についてⅠ
- 13 武家政権観についてⅡ
- 14 天皇観についてⅠ
- 15 天皇観についてⅡ

授業方法：

講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

達成目標：

松陰の原文書の書き下しが読め、理解できる。また、自分で具体的に松陰教育、ひいては、近世後期の私塾教育を考察することができる。

評価方法：

出席（20%）、試験（80%）などによって、評価する。

教科書：

拙著『吉田松陰』致知出版社、平成21年

参考文献：

なし。史料は適時配布。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D02701	日本教育史プロゼミナール	2・3・4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本漢文、史料、輪講	コミュニケーション力、問題解決能力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

本ゼミナールは近世史への動機付けを目的とする。そこで、近世日本における何人かの人物、例えば、吉田松陰、徳川光圀、新井白石、前野良沢、坂本龍馬、西郷隆盛などを取り上げ、その人物の残した史料会読などを通して、近世という時代を考察する。

授業の概要：

吉川弘文館の人物叢書から人物を選び、具体的な史料を輪読するとともに、グループ討議を行う。前期は、川口が担当し、日本漢文の読み癖など基本的な事項などを教える。

授業の計画：

- | | |
|------------------|-----------|
| 1 吉田松陰（『講孟余話』）① | 16 西郷隆盛① |
| 2 吉田松陰（『講孟余話』）② | 17 西郷隆盛② |
| 3 吉田松陰（『講孟余話』）③ | 18 横井小楠① |
| 4 吉田松陰（『講孟余話』）④ | 19 横井小楠② |
| 5 吉田松陰（『講孟余話』）⑤ | 20 佐久間象山① |
| 6 吉田松陰（『講孟余話』）⑥ | 21 佐久間象山② |
| 7 吉田松陰（『講孟余話』）⑦ | 22 橋本左内① |
| 8 吉田松陰（『講孟余話』）⑧ | 23 橋本左内② |
| 9 吉田松陰（『講孟余話』）⑨ | 24 勝海舟① |
| 10 吉田松陰（『講孟余話』）⑩ | 25 勝海舟② |
| 11 吉田松陰（『講孟余話』）⑪ | 26 会沢正志斎① |
| 12 吉田松陰（『講孟余話』）⑫ | 27 会沢正志斎② |
| 13 吉田松陰（『講孟余話』）⑬ | 28 山田方谷① |
| 14 吉田松陰（『講孟余話』）⑭ | 29 山田方谷② |
| 15 吉田松陰（『講孟余話』）⑮ | 30 石田梅岩 |

授業方法：

史料を読み進めながら、読み方、意味などを解説する。後期は、学生の担当として、発表を中心とした形で進める。

達成目標：

学生が活字の史料を読み、意味が取れるまで理解できるようにする。

評価方法：

授業の取り組み 100%によって評価する。

教科書：

なし

参考文献：

折々に紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D02801	日本教育史演習	3・4	4	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
古文書、日本漢文、くずし字	コミュニケーション力、問題解決能力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

歴史学研究の基本である日本漢文、古文書解読の基礎的知識を修得し、初歩的な古文書などを読めるようにする。

授業の概要：

基礎的な史料、古文書を輪番で解読し、日本漢文、古文書解読の基礎的な知識を修得する。また、内容について解説し、グループ討議などを行う。

授業の計画：

- | | |
|-----------|-----------------|
| 1 吉田松陰 | 16 『日本外史』① |
| 2 西郷隆盛 | 17 『日本外史』② |
| 3 坂本龍馬 | 18 『日本外史』③ |
| 4 橋本左内 | 19 『日本外史』④ |
| 5 石田梅岩 | 20 『日本外史』⑤ |
| 6 上杉鷹山 | 21 古文書 仮名読みの基礎① |
| 7 会沢正志齋 | 22 古文書 仮名読みの基礎② |
| 8 『旧幕府』① | 23 古文書 仮名読みの基礎③ |
| 9 『旧幕府』② | 24 古文書 候文の基礎① |
| 10 『旧幕府』③ | 25 古文書 候文の基礎② |
| 11 『旧幕府』④ | 26 古文書 候文の基礎③ |
| 12 『旧幕府』⑤ | 27 古文書 基礎史料解読① |
| 13 『旧幕府』⑥ | 28 古文書 基礎史料解読② |
| 14 『旧幕府』⑦ | 29 古文書 基礎史料解読③ |
| 15 『旧幕府』⑧ | 30 古文書 基礎史料解読④ |

授業方法：

最初は講義形式を中心とする。学生の進捗状況に応じて、輪読形式とする。

達成目標：

くずし字辞典を使い、史料が読め、解釈できることを目標とする。

評価方法：

授業の取り組み 100%などで評価する。

教科書：

なし

参考文献：

折々に紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D04101	中国社会文化論講義A	2・3・4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
理解、尊重、読み書き	グローバルな視野

授業のテーマ：

グローバルな視野の育成をテーマとして、中国を取り上げる。その際、近代国家の枠組みにとらわれず、東アジアの伝統的な国際秩序のあり方の独自性に注目し、かつ漢族中心の立場に陥らないことに留意して、前近代中国における文明の流れを見直してみる。

授業の概要：

7世紀以前、前近代中国における文明の流れを見直す。

授業の計画：

以下の予定だが、進度・内容は変更することがある。

1. 伝説と歴史の間 (1)
2. 伝説と歴史の間 (2)
3. 伝説と歴史の間 (3)
4. 文明のかたち (1)
5. 文明のかたち (2)
6. 偉大な皇帝たち (1)
7. 偉大な皇帝たち (2)
8. 偉大な皇帝たち (3)
9. 古代から中世へ (1)
10. 古代から中世へ (2)
11. 古代から中世へ (3)
12. 索虜と島夷と (1)
13. 索虜と島夷と (2)
14. 索虜と島夷と (3)
15. まとめ

授業方法：

講義形式。教科書を読みながら進め、これに加えて資料を適宜配布し、教科書の内容を補う。ただし授業期間内に教科書を終了しません。

達成目標：

グローバルな視野のうち、特に基礎的知識の理解・尊重の能力を習得する。

評価方法：

試験（80％）と授業への取り組み（20％）により行う。

- 理論を駆使して完成度の高い独自のグローバルな視野を持つことができる…S
理論を部分的に活用してグローバルな視野を持つことができる……………A
理論を使いながら出来事の分析ができる……………B
理論や用語を説明できる……………C
Cのレベルに達していない……………D

教科書：

寺田隆信『物語中国の歴史』（中公新書／840円）

参考文献：

なし。

実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D04201	中国社会文化論講義B	2・3・4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
理解、尊重、読み書き	グローバルな視野

授業のテーマ：

グローバルな視野の育成をテーマとして、中国を取り上げる。その際、近代国家の枠組みにとらわれず、東アジアの伝統的な国際秩序のあり方の独自性に注目し、かつ漢族中心の立場に陥らないことに留意して、前近代中国における文明の流れを見直してみる。

授業の概要：

7世紀以前、前近代中国における文明の流れを見直す。

授業の計画：

以下の予定だが、進度・内容は変更することがある。

1. 長安の春夏秋冬 (1)
2. 長安の春夏秋冬 (2)
3. 長安の春夏秋冬 (3)
4. 近世とよぶ時代 (1)
5. 近世とよぶ時代 (2)
6. 近世とよぶ時代 (3)
7. 草原に吹く嵐 (1)
8. 草原に吹く嵐 (2)
9. 草原に吹く嵐 (3)
10. 紫禁城の光と影 (1)
11. 紫禁城の光と影 (2)
12. 紫禁城の光と影 (3)
13. 王朝体制の終焉 (1)
14. 王朝体制の終焉 (2)
15. まとめ

授業方法：

講義形式。教科書を読みながら進め、これに加えて資料を適宜配布し、教科書の内容を補う。ただし授業期間内に教科書を終了しません。

達成目標：

グローバルな視野のうち、特に基礎的知識の理解・尊重の能力を習得する。

評価方法：

試験 (80%) と授業への取り組み (20%) により行う。
 理論を駆使して完成度の高い独自のグローバルな視野を持つことができる…S
 理論を部分的に活用してグローバルな視野を持つことができる……………A
 理論を使いながら出来事の分析ができる……………B
 理論や用語を説明できる……………C
 Cのレベルに達していない……………D

教科書：

寺田隆信『物語中国の歴史』(中公新書/840円)

参考文献：

なし。

実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D04501	中国社会文化論特殊講義ⅡA（中国文化史）	2・3・4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
前期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
理解、尊重、読み書き	グローバルな視野

授業のテーマ：

グローバルな視野の育成をテーマとして、中国を取り上げる。

授業の概要：

かつての中国社会を特徴づけていた制度の一つは科挙であった。この講義では、科挙制度の変遷を振り返った後、それが社会・文化等に及ぼした影響について考えていく。

授業の計画：

以下の予定だが、進度・内容は変更することがある。

1. 科挙史概要
2. 資格と任用（1）
3. 資格と任用（2）
4. 貴族、士大夫
5. 試験科目（1）詩の発展
6. 試験科目（2）儒教の進展
7. 八股文
8. 答案作成
9. 受験カリキュラム
10. 科挙以外の任用
11. モンゴル政権下の科挙
12. 任用後の評価・対立
13. 武科挙の話
14. 科挙以前の官吏任用
15. まとめ

授業方法：

講義形式。

達成目標：

グローバルな視野のうち、特に基礎的知識の理解・尊重の能力を習得する。

評価方法：

試験（80％）と授業への取り組み（20％）により行う。

- S…理論を駆使して完成度の高い独自のグローバルな視野を持つことができる
- A…理論を部分的に活用してグローバルな視野を持つことができる
- B…理論を使いながら出来事の分析ができる
- C…理論や用語を説明できる
- D…Cのレベルに達していない

教科書：

特に定めない。

参考文献：

必要に応じて提示。

実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D04601	中国社会文化論特殊講義ⅡB（中国文化史）	2・3・4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
理解、尊重、読み書き	グローバルな視野

授業のテーマ：

グローバルな視野の育成をテーマとして、中国を取り上げる。

授業の概要：

中国の史書に関する基本的事項にふれた後、「明史日本伝」等に見える日中の文化的交流について論じていく。

授業の計画：

以下の予定だが、進捗・内容は変更することがある。

1. 中国の正史について
2. 明朝の成立（1）
3. 明朝の成立（2）
4. 日明貿易（1）
5. 日明貿易（2）
6. 日明貿易（3）
7. 倭寇（1）
8. 倭寇（2）
9. 倭寇（3）
10. 壬辰・丁酉の乱（1）
11. 壬辰・丁酉の乱（2）
12. 壬辰・丁酉の乱（3）
13. 明清交替（1）
14. 明清交替（2）
15. まとめ

授業方法：

講義形式。諸書の記述に基づいて展開する。

達成目標：

グローバルな視野のうち、特に基礎的知識の理解・尊重の能力を習得する。

評価方法：

試験（80%）と授業への取り組み（20%）により行う。

- S…理論を駆使して完成度の高い独自のグローバルな視野を持つことができる
- A…理論を部分的に活用してグローバルな視野を持つことができる
- B…理論を使いながら出来事の分析ができる
- C…理論や用語を説明できる
- D…Cのレベルに達していない

教科書：

特に定めない。

参考文献：

必要に応じて提示。

実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D04701	中国社会文化論プロゼミナール	2・3・4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
発見、解明、読み書き	問題解決力

授業のテーマ：

問題解決能力の育成をテーマとして中国の社会・文化に対する受講生各人の問題意識を明確にするとともに、資料の読解力を確認する。

授業の概要：

著名な研究者の基本的文献や資料を取り上げ、研究の緻密さとともに中国社会の特色を知り、特殊講義や演習への導入とする。

授業の計画：

今年度は以下の予定だが、受講生の関心によっては英語の文献に変更する。

前期	後期
1. 「明史」鄭和伝 (1)	1. 「史記」伯夷列伝 (1)
2. 「明史」鄭和伝 (2)	2. 「史記」伯夷列伝 (2)
3. 「明史」鄭和伝 (3)	3. 「史記」伯夷列伝 (3)
4. 「明史」金英伝 (1)	4. 「史記」淮陰侯列伝 (1)
5. 「明史」金英伝 (2)	5. 「史記」淮陰侯列伝 (2)
6. 「明史」王振伝 (1)	6. 「史記」淮陰侯列伝 (3)
7. 「明史」王振伝 (2)	7. 「三国志」諸葛亮伝 (1)
8. 「明史」王振伝 (3)	8. 「三国志」諸葛亮伝 (2)
9. 「明史」曹吉祥伝 (1)	9. 「三国志」諸葛亮伝 (3)
10. 「明史」曹吉祥伝 (2)	10. 五柳先生伝
11. 「明史」懷恩伝 (1)	11. 殿中少監馬君墓誌 (1)
12. 「明史」懷恩伝 (2)	12. 殿中少監馬君墓誌 (2)
13. 「明史」汪直 (1)	13. 柳子厚墓誌銘 (1)
14. 「明史」汪直 (2)	14. 柳子厚墓誌銘 (2)
15. まとめ (1)	15. まとめ (2)

授業方法：

演習形式。毎回担当者が報告し、全員で討議する。必要があれば担当者がレジユメを用意する。

達成目標：

問題解決能力のうち、特に問題発見の能力を習得する。

評価方法：

発表 (80%) と授業への取り組み (20%) により行う。

- S…理論を駆使して完成度の高い独自のグローバルな視野を持つことができる
- A…理論を部分的に活用してグローバルな視野を持つことができる
- B…理論を使いながら出来事の分析ができる
- C…理論や用語を説明できる
- D…Cのレベルに達していない

教科書：

特に定めない。

参考文献：

必要に応じて提示。

実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D04801	中国社会文化論演習	3・4	4	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
統合、決定、批判的思考	分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

分析・総合の思考力と判断力の育成をテーマとして、中国を取り上げる。それぞれの時代の社会・文化の特色を考える上で、政治をはじめとする諸制度の内容を把握することは重要である。しかし社会・文化を形づくってきたのは制度ではなく、その中で生きてきた個々人の活動である。そこで、この授業では正史・文集等に収められた列伝などを読み、個々人の生き方からそれらを考えていく。

授業の概要：

正史の列伝を中心に講読を進める予定だが、受講生の関心に応じて関係する文献も取り上げる。

授業の計画：

受講生の関心に応じて教科書を選定する。前年度は『三国志演義』を題材とし、以下の通りであった。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. はじめに | 16. 羅貫中の謎 (1) |
| 2. 『三国志演義』の概要 (1) | 17. 羅貫中の謎 (2) |
| 3. 『三国志演義』の概要 (2) | 18. 人物像の変遷 (1) |
| 4. 『三国志演義』の概要 (3) | 19. 人物像の変遷 (2) |
| 5. 『三国志演義』の概要 (4) | 20. 人物像の変遷 (3) |
| 6. 歴史と小説 (1) | 21. 人物像の変遷 (4) |
| 7. 歴史と小説 (2) | 22. 三国志外伝 (1) |
| 8. 歴史と小説 (3) | 23. 三国志外伝 (2) |
| 9. 歴史と小説 (4) | 24. 三国志外伝 (3) |
| 10. 歴史から小説へ (1) | 25. 『三国志』の思想 (1) |
| 11. 歴史から小説へ (2) | 26. 『三国志』の思想 (2) |
| 12. 歴史から小説へ (3) | 27. 『三国志』の思想 (3) |
| 13. 歴史から小説へ (4) | 28. 『三国志』の思想 (4) |
| 14. 歴史から小説へ (5) | 29. 『三国志』の思想 (5) |
| 15. まとめ (1) | 30. まとめ (2) |

授業方法：

演習形式。毎回担当者が報告し、全員で討議する。必要があれば担当者がレジュメを用意する。

達成目標：

分析・総合の思考力と判断力のうち、特に統合の能力を習得する。

評価方法：

発表 (50%) と授業への取り組み (50%) により行う。
 理論を駆使して完成度の高い独自の統合の能力を持つことができる…S
 理論を部分的に活用して統合の能力を持つことができる……………A
 理論を使いながら批判的に思考することができる……………B
 理論や用語を説明できる……………C
 Cのレベルに達していない……………D

教科書：

未定。

参考文献：

必要に応じて提示。

実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C21101	文学の現在講義A	2・3・4	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
異文化理解、芸術鑑賞、マルチメディア	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 美的感受性

授業のテーマ：

言語をもちいる芸術としての文学は20世紀に大きな変貌をとげた。「小説とは何か」という問題提起に対し、イギリスではジェームス・ジョイスが『ユリシーズ』を、フランスではマルセル・プルーストが『失われし時を求めて』を書くことによってそれまでの写実的な小説概念を根底からくつがえし、一方、詩の世界では言語の自立性を重視し超現実的文学空間を生み出した。20世紀の新しい文学が誕生するきっかけの一つとなった『源氏物語』をもつ日本の文学は今どうなっているのか、様々なジャンルの作品をとおして「文学の今」を考える。

授業の概要：

「文学とは何か」というテーマをジャンルにわけてアプローチする。ジャンルとしては「小説」、「詩」、「演劇」、「映画」、「アニメ」そしてネットを利用した新しいジャンルにもふれてみる。

授業の計画

- 1 文学とは何か
- 2 小説の世界 (1)
- 3 小説の世界 (2)
- 4 詩の世界 (1)
- 5 詩の世界 (2)
- 6 演劇の世界 (1)
- 7 演劇の世界 (2)
- 8 映画の世界 (1)
- 9 映画の世界 (2)
- 10 アニメの世界 (1)
- 11 アニメの世界 (2)
- 12 文学と社会 (1)
- 13 文学と社会 (2)
- 14 IT文化と文学 (1)
- 15 IT文化と文学 (2)

授業方法：

パワーポイントもしくはビデオなどの視聴覚資料を見ながら講義をすすめる。必要に応じてプリントを配布する。

達成目標：

文学について概観できる知識を獲得し、また、それを判断する能力を身につける。

評価方法：

- 授業への取り組み (20%程度) とレポートの内容 (80%) で評価する。
- S 文学作品について理論を駆使して完成度の高い内容のプレゼンテーションができる
 - A 上記内容についてプレゼンテーションができる
 - B 文学作品を鑑賞し、その感想を第三者にわかりやすく表現することができる
 - C 文学作品を鑑賞し、表現することができる
 - D Cのレベルに達していない

教科書：

特に使用しない。

参考文献：

授業時に指示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C21201	文学の現在講義B	2・3・4	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
異文化理解、芸術鑑賞、マルチメディア	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 美的感受性

授業のテーマ：

言語をもちいる芸術としての文学は20世紀に大きな変貌をとげた。「小説とは何か」という問題提起に対し、イギリスではジェームス・ジョイスが『ユリシーズ』を、フランスではマルセル・プルーストが『失われし時を求めて』を書くことによってそれまでの写実的な小説概念を根底からくつがえし、一方、詩の世界では言語の自立性を重視し超現実的文学空間を生み出した。20世紀の新しい文学が誕生するきっかけの一つとなった『源氏物語』をもつ日本の文学は今どうなっているのか、様々なジャンルの作品をとおして「文学の今」を考える。

授業の概要：

「文学とは何か」というテーマを歴史的な側面からアプローチする。古代ギリシャ・ローマの時代から騎士道物語、フランスの心理小説、写真や映画の誕生によって文学がどのように変化してきたか、そしてIT文化が現在の文学の中にどのように反映されているのかを考える。

授業の計画：

- 1 歴史の中で見る文学 (1) 古代ギリシアの演劇
- 2 歴史の中で見る文学 (2) 叙事詩
- 3 歴史の中で見る文学 (3) 騎士道物語
- 4 歴史の中で見る文学 (4) 騎士道物語
- 5 歴史の中で見る文学 (5) ロミオとジュリエット (1)
- 6 歴史の中で見る文学 (6) ロミオとジュリエット (2)
- 7 歴史の中で見る文学 (7) 小説の誕生
- 8 歴史の中で見る文学 (8) 近代社会と文学 (1)
- 9 歴史の中で見る文学 (9) 近代社会と文学 (2)
- 10 歴史の中で見る文学 (10) 20世紀の新しい小説
- 11 歴史の中で見る文学 (11) 『オペラ座の怪人』小説から映画へ
- 12 歴史の中で見る文学 (12) 『オペラ座の怪人』小説から映画へ
- 13 歴史の中で見る文学 (12) 『オペラ座の怪人』小説から映画へ
- 14 文学の現在 (1) アニメと文学
- 15 文学の現在 (2) IT文化の中の文学

授業方法：

パワーポイントもしくはビデオなどの視聴覚資料を見ながら講義をすすめる。必要に応じてプリントを配布する。

達成目標：

文学について概観できる知識を獲得し、また、それを判断する能力を身につける。

評価方法：

- 授業への取り組み (20%程度) とレポートの内容 (80%) で評価する。
- S 文学作品について理論を駆使して完成度の高い内容のプレゼンテーションができる
 - A 上記内容についてプレゼンテーションができる
 - B 文学作品を鑑賞し、その感想を第三者にわかりやすく表現することができる
 - C 文学作品を鑑賞し、表現することができる
 - D Cのレベルに達していない

教科書：

特に使用しない。

参考文献：

授業時に指示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C21501	文学の現在特殊講義ⅡA（フランス古典劇の形成）	2・3・4	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
異文化理解、芸術鑑賞、マルチメディア	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 美的感受性

授業のテーマ：

フランスでは17世紀にアカデミー・フランセーズが設立され、フランス語の規範が作られた。言語や文学が社会に強い影響を与えた時代とその背景をさぐる。

授業の概要：

17世紀を代表する3人の劇作家の中からコルネイユとモリエールに焦点をあてて古典劇の特質を明らかにする。また、演劇を映像化した作品を参考にして、演劇言語と映像言語の違いについても考える。

授業の計画：

- 1 17世紀のフランス社会
- 2 17世紀の演劇をとりまく環境
- 3 劇作法（その1）
- 4 劇作法（その2）
- 5 コルネイユとリシュリユー
- 6 『ル・シッド』（その1）
- 7 『ル・シッド』（その2）
- 8 『ル・シッド』（その3）
- 9 『ル・シッド』（その4）
- 10 『ル・シッド』（その5）
- 11 モリエールとフロンドの乱
- 12 モリエールとイタリア喜劇
- 13 『女房学校』（その1）
- 14 『女房学校』（その2）
- 15 『女房学校』（その3）

授業方法：

パワーポイントもしくはビデオなどの視聴覚資料を見ながら講義をすすめる。必要に応じてプリントを配布する。

達成目標：

文学について概観できる知識を獲得し、また、それを判断する能力を身につける。

評価方法：

授業への取り組み（20%程度）とレポートの内容（80%）で評価する。

- S 文学作品について理論を駆使して完成度の高い内容のプレゼンテーションができる
- A 上記内容についてプレゼンテーションができる
- B 文学作品を鑑賞し、その感想を第三者にわかりやすく表現することができる
- C 文学作品を鑑賞し、表現することができる
- D Cのレベルに達していない

教科書：

プリントを配布

参考文献：

授業時に指示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C21601	文学の現在特殊講義ⅡB（フランス古典劇の形成）	2・3・4	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
異文化理解、芸術鑑賞、マルチメディア	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 美的感受性

授業のテーマ：

フランスでは17世紀にアカデミー・フランセーズが設立され、フランス語の規範が作られた。言語や文学が社会に強い影響を与えた時代とその背景をさぐる。

授業の概要：

17世紀を代表する3人の劇作家の中からモリエールとラシーヌに焦点をあて古典劇の特質を明らかにする。また、演劇を映像化した作品を参考にして、演劇言語と映像言語の違いについても考える。

授業の計画：

- 1 モリエールとスペイン喜劇
- 2 『ドン・ジュアン』（その1）
- 3 『ドン・ジュアン』（その2）
- 4 モリエールと近代個人主義
- 5 『ル・ミザントロープ』（その1）
- 6 『ル・ミザントロープ』（その2）
- 7 『ル・ミザントロープ』（その3）
- 8 ラシーヌとモリエール
- 9 ラシーヌとルイ14世
- 10 『フェードル』（その1）
- 11 『フェードル』（その2）
- 12 『フェードル』（その3）
- 13 『フェードル』（その4）
- 14 『フェードル』（その5）
- 15 まとめ

授業方法：

パワーポイントもしくはビデオなどの視聴覚資料を見ながら講義をすすめる。必要に応じてプリントを配布する。

達成目標：

文学について概観できる知識を獲得し、また、それを判断する能力を身につける。

評価方法：

授業への取り組み（20%程度）とレポートの内容（80%）で評価する。

- S 文学作品について理論を駆使して完成度の高い内容のプレゼンテーションができる
- A 上記内容についてプレゼンテーションができる
- B 文学作品を鑑賞し、その感想を第三者にわかりやすく表現することができる
- C 文学作品を鑑賞し、表現することができる
- D Cのレベルに達していない

教科書：

プリントを配布

参考文献：

授業時に指示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C21701	文学の現在プロゼミナール	2・3・4	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
分析、判断力、プレゼンテーション、文学、マルチメディア	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 美的感受性

授業のテーマ：

文学作品がどのように形成されるのかを古今の作品の歴史から概観する。また、作品を構成する言語表現がジャンルによってどのように異なっているか具体例を見ながら検証する。また、文学研究の基本的な方法を学ぶ。

授業の概要：

取り扱う作品は古典的な小説としてデュマの『三銃士』、演劇としてギリシャ悲劇の『オイディプス王』、詩としてフランスの象徴派詩人の作品、中島みゆきの歌の歌詞、映像表現を代表してヒッチコックの『めまい』、その他、マンガなどを予定。

授業の計画：

1	文学研究の歴史	1 6	映像表現（その1）
2	文学研究の方法（その1）	1 7	映像表現（その2）
3	文学研究の方法（その2）	1 8	文学作品と映像作品（その1）
4	『三銃士』（その1）	1 9	文学作品と映像作品（その2）
5	『三銃士』（その2）	2 0	『オペラ座の怪人』（その1）
6	『オイディプス王』（その1）	2 1	『オペラ座の怪人』（その2）
7	『オイディプス王』（その2）	2 2	『オペラ座の怪人』（その3）
8	詩の研究（その1）	2 3	アニメの世界（その1）
9	詩の研究（その2）	2 4	アニメの世界（その2）
1 0	詩の研究（その3）	2 5	アニメの世界（その3）
1 1	歌と詩（その1）	2 6	I Tと文学（その1）
1 2	歌と詩（その2）	2 7	I Tと文学（その2）
1 3	中島みゆき（その1）	2 8	I Tと文学（その3）
1 4	中島みゆき（その2）	2 9	文学の現在
1 5	前期のまとめ	3 0	まとめ

授業方法：

作品の一部をとりあげ、さまざまな角度から分析していく。題材として使用する作品については、各自の感想や意見をもとに全員で考えながら、文学研究のテクニックを身につける。

達成目標：

文学について概観できる知識を獲得し、また、それを判断する能力を身につける。

評価方法：

授業への取り組み（20%程度）とレポートの内容（80%）で評価する。

- S 文学作品について理論を駆使して完成度の高い内容のプレゼンテーションができる
- A 上記内容についてプレゼンテーションができる
- B 文学作品を鑑賞し、その感想を第三者にわかりやすく表現することができる
- C 文学作品を鑑賞し、表現することができる
- D Cのレベルに達していない

教科書：

プリントを配布

参考文献：

授業時に指示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C21801	文学の現在演習	3・4	4	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
文学、芸術鑑賞、分析、プレゼンテーション	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 美的感受性

授業のテーマ：

文学と社会との関係についての研究、文学作品そのもの研究などをする場合の基本的な方法を学び、論文作成のテクニックを学ぶ。

授業の概要：

文学研究の意味について考え、そのための様々な方法を実際に使いながら文学作品にアプローチします。2年間の演習をとおして卒業論文のテーマ、論文を書くためのテクニック学びます。

授業の計画：

1	文学研究とは？	16	プレゼンテーションの方法（その1）
2	文学とその時代との関係	17	プレゼンテーションの方法（その2）
3	文学テキストを分析するには（その1）	18	プレゼンテーションの方法（その3）
4	文学テキストを分析するには（その2）	19	プレゼンテーションの方法（その4）
5	文学形式について（その1） 小説	20	研究成果の発表（その1）
6	文学形式について（その2） 演劇	21	研究成果の発表（その2）
7	文学形式について（その3） 詩	22	研究成果の発表（その3）
8	文字を使わない文学について（その1）	23	研究成果の発表（その4）
9	文字を使わない文学について（その2）	24	卒業論文にむけて（その1）
10	作家と文学作品の関係（その1）	25	卒業論文にむけて（その2）
11	作家と文学作品の関係（その2）	26	卒業論文にむけて（その3）
12	作品分析の実践（その1）	27	作品分析の実践（その4）
13	作品分析の実践（その2）	28	作品分析の実践（その5）
14	作品分析の実践（その3）	29	作品分析の実践（その6）
15	前期のまとめと中間報告	30	まとめと最終報告

授業方法：

プリントとして配布するテキストを読みながら問題点を取り出し、作品分析を実際に行ってみます。前期はおもに4年生が卒業論文を作成するために、後期は3年生が卒業論文のテーマを決める準備のために役立つ情報を提供しながらすすめます。

達成目標：

文学について概観できる知識を獲得し、また、それを判断する能力を身につける。

評価方法：

授業への取り組み（20%程度）とレポートの内容（80%）で評価する。

- S 文学作品について理論を駆使して完成度の高い内容のプレゼンテーションができる
- A 上記内容についてプレゼンテーションができる
- B 文学作品を鑑賞し、その感想を第三者にわかりやすく表現することができる
- C 文学作品を鑑賞し、表現することができる
- D Cのレベルに達していない

教科書：

プリントを配布

参考文献：

授業時に指示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C26101	英語コミュニケーション論講義A	2・3	2	岡良和
C24101	言語コミュニケーション論講義A	4		

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション、読み書き、対話	コミュニケーション力、グローバルな視野

授業のテーマ：

コミュニケーション能力の育成をテーマとするが、単なるコミュニケーションの技術ではなくその技術を支えている仕組みを考え身につけるために、談話分析の基礎を習得してもらう。談話分析はわれわれが日常やり取りしている話し言葉や文章にどのような仕組みと働きがあるのかを分析の対象とする。この授業では学生が談話分析の平易な入門書を理解し、日本語と英語を比較しながら対人関係の視点からコミュニケーションを考える。

授業の概要：

専門用語や基礎的理論を習得しながら、談話の構造を理解することから始め、効果的な表現法を身につける段階まで到達することとする。

授業の計画：

1回	談話とは何か	10回	発話行為
2回	ことばの構造と機能	11回	ことばの使用
3回	演習	12回	演習
4回	テキストと場面	13回	コミュニケーションの民族誌
5回	談話とコミュニケーション	14回	会話の始め方、終わり方
6回	演習	15回	演習
7回	レトリック		
8回	談話文法		
9回	演習		

授業方法：

教科書にしたがって解説し、これに加えて資料を適宜配布し教科書の内容を補う。また、演習では、できる限りTV番組や雑誌などの生の資料を分析の対象として取り上げ学生の積極的な参加を促したい。毎回の授業で理解度を確認するため、10分程度の課題がある。

達成目標：

コミュニケーション力のうち、特に効果的な読み、書きの能力を習得する。

評価方法：

前期末の試験（60％程度）と授業への取り組み（40％程度）により行う。
 理論を駆使して完成度の高い独自のコミュニケーションができる…S
 理論を部分的に活用してコミュニケーションができる……………A
 理論を使いながら談話の分析ができる……………B
 理論や学術用語を説明できる……………C
 Cのレベルに達していない……………D

教科書：

橋内武『ディスコース—談話の織りなす世界』 くらしお出版（2,520円）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C26201	英語コミュニケーション論講義B	2・3	2	岡良和
C24201	言語コミュニケーション論講義B	4		

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ことばを使わないコミュニケーション、応用言語学	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

コミュニケーション能力の育成をテーマとするが、単なるコミュニケーションの技術ではなくその技術を支えている仕組みを考え身につけるために、談話分析の基礎を習得してもらう。談話分析はわれわれが日常やり取りしている話し言葉や文章にどのような仕組みと働きがあるのかを分析の対象とする。この授業では学生が談話分析の平易な入門書を理解し、日本語と英語を比較しながら対人関係の視点からコミュニケーションを考える。

授業の概要：

専門用語や基礎的理論を習得しながら、談話の構造を理解することから始め、効果的な表現法を身につける段階まで到達することとする。

授業の計画：

1回	会話のさまざまな特徴	10回	話し手、聞き手と話題、ことば使い
2回	ことばを使わないコミュニケーション	11回	ことばと価値観
3回	演習	12回	演習
4回	相手との話の合わせ方	13回	容疑者の取り調べとことばの特徴
5回	社会とことばの使用	14回	文学とことば
6回	演習	15回	まとめ
7回	背景知識と言語の理解		
8回	語りの仕組み		
9回	演習		

授業方法：

教科書にしたがって解説し、これに加えて資料を適宜配布し教科書の内容を補う。また、演習では、できる限りTV番組や雑誌などの生の資料を分析の対象として取り上げ学生の積極的な参加を促したい。毎回の授業で理解度を確認するため、10分程度の課題がある。

達成目標：

コミュニケーション力のうち、特に効果的な読み、書きの能力を習得する。

評価方法：

前期末の試験（60％程度）と授業への取り組み（40％程度）により行う。
 理論を駆使して完成度の高い独自のコミュニケーションができる…S
 理論を部分的に活用してコミュニケーションができる……………A
 理論を使いながら談話の分析ができる……………B
 理論や学術用語を説明できる……………C
 Cのレベルに達していない……………D

教科書：

橋内武『ディスコース—談話の織りなす世界』 くらしお出版（2,520円）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C26501	英語コミュニケーション論特殊講義ⅡA(英語習得論)	2・3	2	岡良和
C24501	言語コミュニケーション論特殊講義ⅡA(言語習得論)	4		

期間	曜日	時限	備考:
前期	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション、批判的思考、問題の発見・原因の解明	コミュニケーション力、グローバルな視野

授業のテーマ:

多くの日本人は、中学、高校、大学とかなりの時間を費やして英語を学んでいるが、使えるレベルまで到達する人はそう多くはない。その一方で、英語圏に留学せず日本で学習するだけでペラペラの人もある。このような違いはどこから来るのかを考える。自分のこれまでの英語学習を振り返り、学習法を考えて行く。

授業の概要:

第二言語習得に関する母語の役割、子どもはふつう第二言語習得に成功するのに、大人は失敗することが多いのはなぜか、外国が学習の適性と動機づけについて考えてもらう。

授業の計画:

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1回 母語を基礎に外国語は習得される | 9回 母語を習得することにより、外国語習得が難しくなる |
| 2回 言語間の距離と習得の難しさ | |
| 3回 言語間の距離と言語転移 | 10回 英語子育ては母語に影響するか |
| 4回 普遍的な習得順序はあるか | 11回 どんな学習者が外国語学習に成功するか |
| 5回 スピーキング重視の問題点 | 12回 外国語学習の適性 |
| 6回 なぜ子どもはことばが習得できるのか | 13回 適性と知能の関係 |
| 7回 第二言語習得に成功するのはどんな学習者か | 14回 適性と学習方法をどうマッチングさせるのか |
| 8回 大人と子どもはどう違うか | 15回 統合的動機づけと道具的動機づけ |

授業方法:

教科書に沿って解説を加えた後、受講生が自身の体験も交えて検討する。また、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などの英語学習に関する学習講座、報道番組、広告、なども検討の題材として利用する。

達成目標:

自らの学習歴を振り返り、検討を経て、よりよい方法を見出す力を身につける。さらにこのプロセスは英語学習以外にも応用することが期待できる。

評価方法:

前期末の試験(60%程度)と授業への取り組み(40%程度)により行う。
 理論を駆使して分析をへて完成度の高い学習法の提示ができる・・・S
 理論を部分的に活用して分析や学習法の提示ができる・・・A
 不十分ながら理論を使い分析ができる・・・B
 理論や学術用語を説明できる・・・C
 Cのレベルに達していない・・・D

教科書:

白井泰弘 著『外国語学習の科学—第二言語習得とは何か』岩波書店 700円+税

参考文献:

なし

実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C26601	英語コミュニケーション論特殊講義ⅡB(英語習得論)	2・3	2	岡良和
C24601	言語コミュニケーション論特殊講義ⅡB(言語習得論)	4		

期間	曜日	時限	備考:
後期	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション、批判的思考、問題の発見・原因の解明	コミュニケーション力、グローバルな視野

授業のテーマ:

多くの日本人は、中学、高校、大学とかなりの時間を費やして英語を学ぶが、使えるレベルまで到達する人はそう多くはないようである。その一方で、英語圏に留学せず日本で学習するだけでペラペラの人もある。このような違いはどこから来るのかを考える。自分のこれまでの英語学習を振り返り、学習法を考えて行く。

授業の概要:

第二言語習得のメカニズム、効果的な教授法や学習法、具体的な学習法のコツを考える。

授業の計画:

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1回 外国語学習のメカニズム | 8回 正しい外国語への志向 |
| 2回 言語の特質 | 9回 文法か会話か |
| 3回 言語はルールでは割り切れない | 10回 文法教育には限界がある |
| 4回 聞くだけで十分? | 11回 効果的な外国語学習法 |
| 5回 インプット+アウトプットの必要性 | 12回 例文暗記の効用 |
| 6回 外国語を身につけるために | 13回 無意味学習と有意味学習の違い |
| 7回 言語学と心理学からのアプローチ | 14回 動機づけを高める |
| | 15回 まとめ |

授業方法:

教科書に沿って解説を加えた後、受講生が自身の体験も交えて検討する。また、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などの英語学習に関する学習講座、報道番組、広告、なども検討の題材として利用する。

達成目標:

自らの学習歴を振り返り、検討を経て、よりよい方法を見出す力を身につける。さらにこのプロセスは英語学習以外にも応用することが期待できる。

評価方法:

前期末の試験(60%程度)と授業への取り組み(40%程度)により行う。
 理論を駆使して分析をへて完成度の高い学習法の提示ができる・・・S
 理論を部分的に活用して分析や学習法の提示ができる・・・A
 不十分ながら理論を使い分析ができる・・・B
 理論や学術用語を説明できる・・・C
 Cのレベルに達していない・・・D

教科書:

白井泰弘 著『外国語学習の科学—第二言語習得とは何か』岩波書店 700円+税

参考文献:

なし

実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C26701	英語コミュニケーション論プロゼミナール	2・3	2	岡良和
C24701	言語コミュニケーション論プロゼミナール	4		

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
対人関係、文脈・場面・コメント	コミュニケーション力、価値判断力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

「コミュニケーション力」は、日常広く使われていて社会でもその必要性が強調されている反面、コミュニケーション力自体についてはどのような能力でどのように培っていけばよいのかを客観的に考察する機会は少ないと思われる。そこで、この授業では、自分の考えや感情を効果的に相手に伝える方法や、異文化社会での伝達能力を身につける。

授業の概要：

前期：コミュニケーション力とはなにか、コミュニケーションと人間関係のありかた、具体的なコミュニケーションのコツなどを扱う。 後期：質問や要約に基づいた協同作業としてのコミュニケーションを扱う。

授業の計画：

1回 コミュニケーション力とは	16回 相づちを打つ
2回 コミュニケーションとは	17回 外国語学習と身体
3回 クリエイティブな関係性	18回 雰囲気感知力
4回 自分と対話しことばを探す	19回 沈黙を感じ分ける
5回 文脈力とは何か	20回 コミュニケーションの技法
6回 メモを取りながら会話する	21回 沿いつつずらす
7回 マッピング・コミュニケーション	22回 要約力
8回 会話の糸口の見つけ方	23回 ブレイン・ストーミングのコツ
9回 本題から入る	24回 プレゼンテーションのコツ
10回 弁証法的な会話	25回 コメント力
11回 コミュニケーションの基盤	26回 質問力
12回 響く身体	27回 人間理解力
13回 目を見て話す	28回 過去・未来を見通す
14回 微笑んで話す	29回 コミュニケーションの可能性
15回 うなづく	30回 まとめ

授業方法：

テキストを検討した後、課題を設定し全員で対話する。対話することの楽しさを感じてもらえるようにしたい。

達成目標：

理論に沿ったコミュニケーションにより、対人関係を発展させることができる。

評価方法：

理論を駆使して完成度の高い独自のコミュニケーションができる…S
 理論を部分的に活用してコミュニケーションができる……………A
 理論を使いながら談話の分析ができる……………B
 理論や学術用語を説明できる……………C
 Cのレベルに達していない……………D

教科書：

斎藤孝 『コミュニケーション力』 岩波書店 735 円

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C26801	英語コミュニケーション論演習	3	4	岡良和
C24801	言語コミュニケーション論演習	4		

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
言語技術、言語の比較対照	コミュニケーション力、価値判断力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

欧米の言語教育で指導されている「言語技術」を日本語で身につけることで「翻訳できる日本語」の習得を目指す。「言語技術」のルールに基づいて外国語を用いると、たとえ少ない語彙でもかなり相手にわかりやすくなる。外国語の習得とあわせて欧米式の「言語技術」を身につけることが役立つことを体得してもらう。

授業の概要：

3年生には卒業論文のテーマを見つけ、4年生には卒業論文に取り組む機会を与える。

授業の計画：

- 1・2回 言語感覚の違い
- 3・4回 欧米の言語教育
- 5・6回 「中間日本語」を身につける
- 7・8回 「あれ」の中身を認識する
- 9・10回 質問の内容を具体的に考える
- 11・12回 5W 1Hを明確にする
- 13・14回 根拠を明確にする
- 15・16回 構文からものの考え方を知る
- 17・18回 かみ合った対話
- 19・20回 問答トレーニングの意味と目的
- 21・22回 問答トレーニングの実践
- 23・24回 わかりやすい説明（描写）とは何か
- 25・26回 描写のレッスン
- 27・28回 説明のレッスン
- 29・30回 まとめ

授業方法：

テキストの担当箇所を受講生が報告した後で、全員で討議する。これに基づいて担当教員が解説を加える。

達成目標：

理論に沿ってコミュニケーションができる。

評価方法：

- 理論を駆使して完成度の高い独自のコミュニケーションができる…S
- 理論を部分的に活用してコミュニケーションができる……………A
- 理論を使いながら談話の分析ができる……………B
- 理論や学術用語を説明できる……………C
- Cのレベルに達していない……………D

教科書：

三森ゆりか 『外国語を身につけるための日本語レッスン』 白水社 1,500円＋税

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D14301	ことばと文化の形成A	2	2	石上文正
C40301	身体文化論特殊講義 I A (ことばと文化の形成)	3・4		

期間	曜日	時限	備考:
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ことばは不思議で、魔術的力をもっている	コミュニケーション力と分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ:

私たちは、当たり前前の日々を、当たり前のように生きています。これは、じつは「不思議」なことです。まず、このことが「不思議」であることに気づいてもらい、そしてこういったことがどのようにして可能なのかについて、言葉や文化から考えていきます。そして、言葉がいかに私たち自身や生活に、大きな影響を与えているのかについて、学生が「驚くこと」ことが、授業の目的です。言葉のもっている「力」のすごさは、想像以上です。また、言葉が違えば、文化も違います。異文化理解の基本もここに 있습니다。私たちは、いかにしたら(外国)人を理解しあえるのでしょうか。このことを考えることも、この授業の大きなテーマです。

授業の概要:

まず、言葉、記号、文化とは何かを考え、つぎにそれらがどのようにして日常性を作り上げているのかについて説明します。さらに、この日常性が異文化と接することによってどのように影響を受けるか具体例を挙げながら論じます。最後に、言葉と文化の関係についての、さまざまな考え方について学んでいきます。

授業の計画:

1. ヴァーチャル・リアリティとしての社会・文化環境
2. ことばと(ヴァーチャル・)リアリティの構築
3. ことばの不思議
4. 言語とは何か?
5. 記号とは何か?
6. ことば・記号と身体
7. ことば・記号と現代社会
8. 文化について
9. 異文化理解について
10. サピア・ウォーフの仮説
11. 角田理論
12. 語彙と反応・行動(心理学的実験)
13. 文法と反応・行動
14. 色彩と言語
15. まとめ

授業方法:

基本的には授業は講義形式で行いますが、対話的な方法も取り入れた授業を展開します。学生は、授業を受け身的に受講するのではなく、積極的に考えながら受講してください。教科書は使用しませんが、関連資料を配付して理解を深めます。

達成目標:

ことばと文化について考える力をつけることによって、さまざまな社会・文化現象を分析する力を養います。とくに、「当たり前のこと」を、批判的に分析・思考する態度を身につけることが目標です。

評価方法:

期末に行う試験によって評価します。期末試験の前には、試験の準備のための詳しいプリントを配布します。なお、授業への積極的な参加や発言も考慮する場合があります。

教科書:

使用しません。ただし、資料として自作のプリントを配布します。

参考文献:

『文化記号論』池上・山中・唐須、講談社学術文庫、『言語・思考・現実』ウォーフ、講談社学術文庫
『英語の感覚』(上・下)大津栄一郎(岩波新書)、『日本語と外国語』鈴木孝夫(岩波新書)

実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D14401	ことばと文化の形成B	2	2	石上文正
C40401	身体文化論特殊講義 I B (ことばと文化の形成)	3・4		

期間	曜日	時限	備考:
後期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
私たちは、日本語と日本文化に「縛られている」	コミュニケーション力と分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ:

私たちは、当たり前の日々を、当たり前のように生きています。これは、じつは「不思議」なことです。まず、このことが「不思議」であることに気づいてもらい、そしてこういったことがどのようにして可能なのかについて、言葉や文化から考えていきます。そして、言葉がいかに私たち自身や生活に、大きな影響を与えているのかについて、学生が「驚くこと」ことが、授業の目的です。言葉のもっている「力」のすごさは、想像以上です。また、言葉が違えば、文化も違います。異文化理解の基本もここに 있습니다。私たちは、いかにしたら(外国)人を理解しあえるのでしょうか。このことを考えることも、この授業の大きなテーマです。

授業の概要:

まず、日本語とはどういう言語かを考え、その後、川端康成の『雪国』の翻訳と原典を比較しながら、翻訳とは何か、日本語とは何かといった問題を考えていきます。次に、日本文化が、西欧の文化と接触していかなる影響を受けてきたかを考えます。最後に、日本の文化の中のとくに教育文化および文化全般についての日米の比較をおこないます。

授業の計画:

1. 日本語について (1)
2. 日本語について (2)
3. 日本語と英語
4. 『雪国』の英訳を通してみた日本語と英語 (1)
5. 『雪国』の英訳を通してみた日本語と英語 (2)
6. 日本文化の異文化との接触
7. 日本文化について
8. 日本文化の異文化との接触 (古代～近世)
9. 日本文化の異文化との接触 (明治～現代)
10. 日米の文化比較 (日本人の同調性について)
11. 日米のしつけと教育 (心理学的アプローチ)
12. 日米のかくれたカリキュラム (社会学的アプローチ)
13. 日米の文化比較 (教科書の内容分析)
14. 日本文化論について (空間の意味づけ、甘え、間人主義について)
15. まとめ

授業方法:

基本的には授業は講義形式で行いますが、対話的な方法も取り入れた授業を展開します。学生は、授業を受け身的に受講するのではなく、積極的に考えながら受講してください。教科書は使用しませんが、関連資料を配付して理解を深めます。

達成目標:

日本語と日本文化について考える力をつけることによって、日本のさまざまな社会・文化現象を分析する力を養います。とくに、「当たり前のこと」を、批判的に分析・思考する態度を身につけることが目標です。

評価方法:

期末に行う試験によって評価します。期末試験の前には、試験の準備のための詳しいプリントを配布します。なお、授業への積極的な参加や発言も考慮する場合があります。

教科書:

使用しません。ただし、資料として自作のプリントを配布します。

参考文献:

- 『人間形成の日米比較』 恒吉僚子 (岩波新書)、『日本語と外国語』 鈴木孝夫 (岩波新書)
『イギリスのいい子 日本のいい子』 佐藤淑子 (岩波新書)、『「甘え」の構造』 土居健郎 (弘文堂)
『間人主義の社会』 浜口恵俊 (東洋経済新報社)、『かくれた次元』 E・ホール (みすず書房)
『ことばと空間』 牧野著 (東海大学出版会)

実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C40801	身体文化論演習	3・4	4	石上文正

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
私たちは、日本語と日本文化に「縛られている」	コミュニケーション力と分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

ことばと文化に関する基本的な文献を読みながら、ことばと文化、異文化理解について考えていきます。とくに、ことばのもっている世界の分節機能やことばと思考を通じて、日本文化と異文化についての理解を深めます。

授業の概要：

今年度は、前期においては、『日本語と外国語』（鈴木孝夫）、『かくれた次元』E・ホールを読みながら、異文化理解という視点から言葉と文化、空間の用い方について学びます。後期は、『日本人の発想、日本語の表現』を講読して、日本語についての理解を深めるとともに、学生が夏休み中に書いてきたレポートについて、発表、議論をおこないます。この演習を通じて、文献の読み方、レポートのまとめ方、発表の仕方、討論の仕方などを学びながら、学問研究の方法を学びます。

授業の計画：

- | | | |
|----|--------|---|
| 前期 | 1. | レポートの書き方、論文の書き方について |
| | 2～3. | 『日本語と外国語』第1章 ことばで世界をどう捉えるか |
| | 4～5. | 『日本語と外国語』第2章 虹は七色か |
| | 6. | 『日本語と外国語』第3章 日本人はイギリスを理解しているか |
| | 7～8. | 『日本語と外国語』第4章 漢字の知られざる働き（Ⅰ） |
| | 9～11. | 『日本語と外国語』第5章 漢字の知られざる働き（Ⅱ） |
| | 12～13. | 『かくれた次元』第11章 通文化的関連におけるプロクセツミクス |
| | 14～15. | 『かくれた次元』第12章 通文化的関連におけるプロクセツミクス |
| 後期 | | 課題発表・議論（毎週一人もしくは二人の発表）をおこなうとともに、『日本人の発想、日本語の表現』を講読し、議論をおこない、日本語についての理解を深めていきます。 |
| | 1～2. | 『日本人の発想、日本語の表現』第1章 |
| | 3～4. | 『日本人の発想、日本語の表現』第2章 |
| | 5～6. | 『日本人の発想、日本語の表現』第3章 |
| | 7～8. | 『日本人の発想、日本語の表現』第4章 |
| | 9～10. | 『日本人の発想、日本語の表現』第5章 |
| | 11～12. | 『日本人の発想、日本語の表現』第6章 |
| | 13～14. | 『日本人の発想、日本語の表現』第7章 |
| | 15. | まとめ（1週） |

授業方法：

授業では、基本的には、毎回、教科書の担当箇所を学生に割り当て、要約・発表してもらい、それについて全員で議論していきます。夏季休業中に、レポートを作成し、それについて後期に発表してもらいます。

達成目標：

活発な議論を通じて、コミュニケーション力を養うとともに、分析・総合の思考力と判断力を養います。とくに、「当たり前のこと」を、批判的に分析・思考する態度を身につけることが目標です。

評価方法：

レポート（50%）、口頭発表（30%）、参加度（20%）等を総合的に判断しておこないます。

教科書：

『日本語と外国語』（鈴木孝夫）岩波書店、780円、『日本人の発想、日本語の表現』中公新書、700円

参考文献：

『かくれた次元』E・ホール（みすず書房）、『言語・思考・現実』ウォーフ、講談社学術文庫、
『ことばと空間』牧野著（東海大学出版会）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C42501	演劇と身体論特殊講義ⅡA (英米文学における人間関係)	2・3・4	2	森順子

期間	曜日	時限	備考:
前期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
感受性、芸術・学問の味わい、対話	コミュニケーション力、価値判断力、美的感受性

授業のテーマ:

シェイクスピアの戯曲には人間関係の中で変化するところが言語を通して描かれている。言語的側面を重視し、作品の構成、人物の心理、テーマ等を考察することにより、シェイクスピアの演劇に見られる関係の中で揺れ動く人間のところを考察する。

授業の概要:

シェイクスピアの作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる段階に到達することを目指す。

授業の計画:

1. 概説
2. 『真夏の夜の夢』 1幕
3. 『真夏の夜の夢』 2幕
4. 『真夏の夜の夢』 3幕
5. 『真夏の夜の夢』 4幕
6. 『真夏の夜の夢』 5幕
7. 演技発表
8. 演習
9. 『冬物語』 1幕
10. 『冬物語』 2幕
11. 『冬物語』 3幕
12. 『冬物語』 4幕
13. 『冬物語』 5幕
14. 演技発表
15. 演習

授業方法:

毎回、5幕からなる各作品を1幕ずつ扱う。学生さんが実際に声優となり、より深く作品を鑑賞できるような授業を行う。作品終了後は実際に演じる。作品ごとにレポートを提出する。

達成目標:

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じること。

評価方法:

授業の取り組み60%レポート40%

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の習得を完全に達成しているーS

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の習得を相応に達成しているーA

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の習得を相応に達成しているがまだ不十分な点があるーB

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の最低限は満たしているーC

Cのレベルに達していないーD

教科書:

白水ブックスの『真夏の夜の夢』『冬物語』(白水社)

参考文献:

なし

実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C42601	演劇と身体論特殊講義ⅡB (英米文学における人間関係)	2・3・4	2	森順子

期間	曜日	時限	備考:
後期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
感受性、芸術・学問の味わい、対話	コミュニケーション力、価値判断力、美的感受性

授業のテーマ:

シェイクスピアの戯曲には人間関係の中で変化するところが言語を通して描かれている。言語的側面を重視し、作品の構成、人物の心理、テーマ等を考察することにより、シェイクスピアの演劇に見られる関係の中で揺れ動く人間のところを考察する。

授業の概要:

シェイクスピアの作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる段階に到達することを目指す。

授業の計画:

1. 概説
2. 『シンベリン』 1幕
3. 『シンベリン』 2幕
4. 『シンベリン』 3幕
5. 『シンベリン』 4幕
6. 『シンベリン』 5幕
7. 意見発表
8. 演劇発表
9. 『アントニーとクレオパトラ』 1幕
10. 『アントニーとクレオパトラ』 2幕
11. 『アントニーとクレオパトラ』 3幕
12. 『アントニーとクレオパトラ』 4幕
13. 『アントニーとクレオパトラ』 5幕
14. 演劇発表
15. 演習

授業方法:

毎回、5幕からなる各作品を1幕ずつ扱う。学生さんが実際に声優となり、より深く作品を鑑賞できるような授業を行う。作品終了後は実際に演じる。作品ごとにレポートを提出する。

達成目標:

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じること。

評価方法:

授業の取り組み60%レポート40%

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の習得を完全に達成しているーS

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の習得を相応に達成しているーA

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の習得を相応に達成しているがまだ不十分な点があるーB

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の最低限は満たしているーC

Cのレベルに達していないーD

教科書:

白水ブックスの『シンベリン』『アントニーとクレオパトラ』(白水社)

参考文献:

なし

実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C42801	演劇と身体論演習	3・4	4	森順子

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
分析・総合の思考力と判断力、コミュニケーション、プレゼン	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、美的感受性

授業のテーマ：

演劇、文学、あるいは学生さんが自由に選んだ分野において一つのテーマを決めた上で、人間のこころを深く考察する。

授業の概要：

演劇、文学、あるいは自分の好きな分野において一つのテーマを見つけ、人間のこころへの考察を行う。それをまとめた上で発表する。演劇、文学作品の場合は、言語的側面を重視し、作品の構成、人物の心理を中心に考察を行う。発表されたテーマに関して毎回全員で話し合う。現代社会に薄れていく人間同士のコミュニケーションをもう一度回復する術を考えてみたい。また独自に創作を行うこともできる。

授業の計画：

- | | |
|--------------|-------------|
| 1. オリエンテーション | 16. 発表、話し合い |
| 2. 話し合い | 17. 発表、話し合い |
| 3. 発表、話し合い | 18. 発表、話し合い |
| 4. 発表、話し合い | 19. 発表、話し合い |
| 5. 発表、話し合い | 20. 発表、話し合い |
| 6. 発表、話し合い | 21. 発表、話し合い |
| 7. 発表、話し合い | 22. 発表、話し合い |
| 8. 発表、話し合い | 23. 発表、話し合い |
| 9. 発表、話し合い | 24. 発表、話し合い |
| 10. 発表、話し合い | 25. 発表、話し合い |
| 11. 発表、話し合い | 26. 発表、話し合い |
| 12. 発表、話し合い | 27. 発表、話し合い |
| 13. 発表、話し合い | 28. 発表、話し合い |
| 14. 発表、話し合い | 29. 発表、話し合い |
| 15. 発表、話し合い | 30. 発表、話し合い |

授業方法：

発表者のプレゼンを受けて、常に全員で話し合いながら考察を深める。

達成目標：

発表者のプレゼンの後、全員でディスカッションを行い、人間のこころについてより深く考えることを目指す。

評価方法：

授業の取り組み60%レポート40%

独自のプレゼンや、コミュニケーションを通して、考察を深めることを完全に達成しているーS

独自のプレゼンや、コミュニケーションを通して、考察を深めることを相応に達成しているーA

独自のプレゼンや、コミュニケーションを通して、考察を深めることを相応に達成しているがまだ

不十分な点があるーB

独自のプレゼンや、コミュニケーションを通して、考察を深めることの最低限は満たしているー

C

Cのレベルに達していないーD

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C43101	宗教と倫理講義A	2・3・4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
宗教、宗教学、宗教研究	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

宗教を見つめる目としての宗教学の対象領域を概観する。

授業の概要：

宗教学と名のつく学問は、19世紀の後半に登場したが、もちろん、それ以前に宗教が理性の目で検討されなかったというわけではない。今日の宗教学成立以前に、様々な宗教において宗教の実質的内容に関しての自覚的検討は行われていた。それら教学と称される学問の体系は、近代的な宗教学という学問によって豊かな宗教の素材庫として受け入れられる。近代的な宗教学は、これを根本的基礎として、より理性的客観的な方向で認識しようと試みを続けている。これらの宗教学の諸研究領域についての概観を述べ、残されている現代的課題を指摘する。

授業の計画：

- 第1部 宗教学概論
- 第1回 第1章 宗教研究の対象と方法
A. 様々な宗教観、B. 宗教の資料、C. 宗教研究の諸分野、D. 宗教学の誕生
- 第2回 第2章 教学（神学）の立場～キリスト教神学を例として
- 第3回 第3章 宗教哲学の立場
A. 哲学および神学に対する宗教哲学の関係、B. 哲学的宗教哲学
C. 神学的宗教哲学～キルケゴールを例として
- 第4回 第4章 宗教史学の立場
- 第5回 第5章 宗教諸科学（狭義の宗教学）の立場
A. 宗教現象学（比較宗教学）① van der Leeuw ② Otto ③ Eliade
B. 宗教社会学 ① Durkheim ② Weber
C. 宗教民俗学 ① 柳田国男 ② 折口信夫
D. 宗教民族学 [宗教人類学] ① Frazer ② Malinowski ③ Levi-Strauss ④ 神話論
E. 宗教心理学 ① James ② Freud ③ Jung

授業方法：

主として講義形式。ビデオを用いることもある。授業用のPDF文書（本文編と資料編）を担当者ホームページに用意するので適宜用いること。

達成目標：

宗教学の諸研究領域について理解し、残されている現代的諸課題を考える。

評価方法：

筆記試験（持込み無し）。毎回出席をとる。

教科書：

授業用PDF文書（本文編・資料編）

参考文献：

担当者ホームページ (<http://www1.uhe.ac.jp>) でユーザー登録して授業用PDF文書（本文編・資料編）をダウンロードして下さい。連絡先 ito@uhe.ac.jp

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C43201	宗教と倫理講義B	2・3・4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考:
後期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
三大宗教、宗教構造、宗教的ダイナミズム	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野

授業のテーマ:

仏教・キリスト教・イスラム教の宗教構造と社会に影響を及ぼす個人の背後にある宗教的ダイナミズムを考える。

授業の概要:

創始宗教における宗教の性格は、その始祖の言動によるところが少なくない。ここでは仏教・キリスト教・イスラム教の始祖を取り上げ、その言動と以後の宗教構造との関係を検討する。その後、社会に影響を及ぼす個人の背後にある宗教的ダイナミズムの例として、ガンジーとボンヘッファーの場合を取り上げ検討する。

授業の計画:

- 第2部 宗教構造と宗教的ダイナミズム
 - 第1章 世界三大宗教の始祖とその宗教構造
 - A. シャカと仏教の宗教構造
 - 第1回 シャカの生涯
 - 第2回 シャカの根本動機
 - 第3回 仏教の宗教構造
 - B. イエスとキリスト教の宗教構造
 - 第4回 イエスの生涯
 - 第5回 イエスの根本動機
 - 第6回 キリスト教の宗教構造
 - C. ムハンマドとイスラム教の宗教構造
 - 第7回 ムハンマドの生涯
 - 第8回 ムハンマドの根本動機
 - 第9回 イスラム教の宗教構造
 - 第2章 宗教的ダイナミズムと社会
 - A. ガンジーの場合
 - 第10回 ガンジーの生涯
 - 第11回 大英帝国の植民地政策
 - 第12回 ガンジー思想と独立への苦悩
 - B. ボンヘッファーの場合
 - 第13回 ボンヘッファーの生涯
 - 第14回 第三帝国の政策
 - 第15回 反ナチ運動とキリストへの服従

授業方法:

主として講義形式。ビデオを用いることもある。授業用のPDF文書(本文編と資料編)を担当者ホームページに用意するので適宜用いること。

達成目標:

仏教・キリスト教・イスラム教の宗教構造と宗教的個人が社会に対して果たした実例から宗教的ダイナミズムを理解する。

評価方法:

筆記試験(持込み無し)。毎回出席をとる。

教科書:

授業用PDF文書(本文編・資料編)

参考文献:

担当者ホームページ(<http://www1.uhe.ac.jp>)でユーザー登録して授業用PDF文書(本文編・資料編)をダウンロードして下さい。連絡先 ito@uhe.ac.jp

実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C43501	宗教と倫理特殊講義Ⅱ A (宗教と歴史)	2・3・4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考:
前期	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
人間、孤独、連帯、沈黙、巡礼	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野

授業のテーマ:

古代から中世における宗教と社会の関りの諸相について具体的に例を取り挙げながら考察する。特に基本的な宗教的歴史観、宗教と文化の歴史などについて考察する。各年度異なった地域・人物・書物等を取り上げて考察する。

授業の概要:

本年度は古代中近東、古代中世のヨーロッパと中近東、中世ユダヤ教、さらに最澄・天台教学と社会、キリシタン期における宗教と社会などを取り上げ、最後に、そのような実例の考察を基礎として宗教と歴史の関わりについて考えてみる。

授業の計画:

(全15回)

1. 古代中世の宗教と文化
 - A. 古代中世における西洋の宗教と文化
 - 第1回: 古代中近東の宗教と文化 (1)
 - 第2回: 古代中近東の宗教と文化 (2)
 - 第3回: 古代中近東の宗教と文化 (3)
 - 第4回: 十字軍とその歴史 (1)
 - 第5回: 十字軍とその歴史 (2)
 - 第6回: 十字軍とその歴史 (3)
 - 第7回: 中世ユダヤ教の思想と社会 (1)
 - 第8回: 中世ユダヤ教の思想と社会 (2)
 - 第9回: 中世ユダヤ教の思想と社会 (3)
 - B. 古代中世における東洋の宗教と文化
 - 第10回: 最澄と弟子たち (1)
 - 第11回: 最澄と弟子たち (2)
 - 第12回: キリシタン期における宗教と社会 (1)
 - 第13回: キリシタン期における宗教と社会 (2)
 - 第14回: キリシタン期における宗教と社会 (3)
2. 宗教と歴史観 [各年度共通]
 - 第15回: 宗教と歴史観

授業方法:

主として講義形式。ビデオを用いることもある。授業用のPDF文書(本文編と資料編)を担当者ホームページに用意するので適宜用いること。

達成目標:

古代中世における宗教的ダイナミクスの理解

評価方法:

筆記試験(持込み無し)。毎回出席をとる。

教科書:

授業用PDF文書(本文編・資料編)

参考文献:

担当者ホームページ(<http://www1.uhe.ac.jp>)でユーザー登録して授業用PDF文書(本文編・資料編)をダウンロードして下さい。連絡先 ito@uhe.ac.jp

実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C43601	宗教と倫理特殊講義ⅡB (宗教と歴史)	2・3・4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考:
後期	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
宗教、政治、政教分離	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野

授業のテーマ:

政治と宗教は古来分離することなく結びついてきたが、近代的な思考の中で政教分離の思想が成立した。しかし、今なお、人々の根底には宗教と政治と社会の結びつきはなくなっていない。ここでは中世から現代における宗教と社会の関りの諸相について戦争・社会革命などの具体的例を取り挙げながら考察する。各年度異なった地域・人物・書物等を取り上げて考察する。

授業の概要:

「政教分離・信教の自由」の思想成立の経緯を概観した後、宗教と政治の関わりについて、宗教改革(本年はカルヴァン中心)、革命における宗教(本年はイラン・イスラム革命)、日本における宗教と社会(本年は近代神道思想と日本社会)、戦争と宗教問題(本年はパレスチナ問題と宗教)の実例を基にして考察し、最後に宗教と政治の未来として宗教教育について考える。

授業の計画:

1. 宗教・政治・社会～「政教分離・信教の自由」の思想成立の経緯 [各年度共通]
 - 第1回: 古代における政治と宗教
 - 第2回: 中世における政治と宗教
 - 第3回: 近世・現代における政治と宗教
2. 宗教と政治のかかわりの諸相
 - A. 宗教改革の思想と社会 (各年度視点を変えて宗教改革諸派の立場の一つを取り上げる)
 - 第4回: ルネサンスから宗教改革へ、宗教改革第2世代のカルヴァン
 - 第5回: カルヴァンとジュネーブ宗教改革の概要
 - 第6回: カルヴァン派の展開
 - B. 革命における宗教 (清教徒革命、フランス革命、アメリカ合衆国独立、ロシア革命、イラン・イスラム革命等から各年度選択して取り上げる)
 - 第7回: イラン・イスラム革命 (1)
 - 第8回: イラン・イスラム革命 (2)
 - 第9回: イラン・イスラム革命 (3)
 - C. 日本における宗教と社会 (仏教への対応、キリスト教への対応、近代神道思想と日本社会などから各年度一つ取り上げる)
 - 第10回: 近代神道思想と日本社会 (1)
 - 第11回: 近代神道思想と日本社会 (2)
 - 第12回: 近代神道思想と日本社会 (3)
 - D. 戦争と宗教問題 (パレスチナ問題と宗教、イラン・イラク戦争と宗教、靖国神社問題などから各年度一つ取り上げる)
 - 第13回: パレスチナ問題と宗教 (1)
 - 第14回: パレスチナ問題と宗教 (2)
3. まとめ
 - 第15回: 宗教と政治の未来～宗教教育への視点

授業方法:

主として講義形式。ビデオを用いることもある。授業用ブックレット (PDF 文書) 本文編と関連資料を集めた資料編を担当者ホームページに用意するので、受講者はそれらを参照して学習すること。資源の有効利用の観点から紙によるプリントは原則として準備しない。

達成目標:

社会的なレベルでの宗教のダイナミクスの理解

評価方法:

筆記試験 (持込み無し)。毎回出席をとる。

教科書:

授業用 PDF 文書 (本文編・資料編)

参考文献:

担当者ホームページ (<http://www1.uhe.ac.jp>) でユーザー登録して授業用 PDF 文書 (本文編・資料編) をダウンロードして下さい。連絡先 ito@uhe.ac.jp

実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C43701	宗教と倫理プロゼミナール	2・3・4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
宗教 歴史 研究方法	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

宗教研究の基礎である宗教史の概論を読み、知識の裾野をひろげる。

授業の概要：

宗教史研究の古典的名著である C.P. ティーレの「宗教史概論」を読みながら、世界の色々な宗教の歴史と実態を理解する。あわせて宗教学研究の基礎文献の紹介や学術的研究の方法についても触れる。

授業の計画：

Cornelius Petrus Tiele の『宗教史概論』(*Outlines of the history of religions to the spread of the universal religions. 1877*) を読みながら宗教史学の研究方法と課題について考える。

本書の目次概要は以下のとおり。

序論

第1章 生気説の支配下の宗教

第2章 中国人の宗教

第3章 ハム族とセム族との宗教

第4章 ギリシャ・ローマ人を除くインド-ゲルマン人の宗教

第5章 セム族とハム族との影響下のインド・ゲルマン族の宗教

授業方法：

授業は、原則として教科書の講読とディスカッションの型式で進める。参加者は、あらかじめ自由な気持ちで疑問等を整理しておき、授業中にディスカッションしながら関連する問題の広がりを理解するという方法を用いる。

達成目標：

宗教史学の対象と研究方法についての諸問題を考える。

評価方法：

授業への参加態度（担当部分の発表の仕方など）および年度末の総括レポートによる。

教科書：

C.P. ティーレ『宗教史概論』（誠信書房）[絶版のため、プリントを配布]

参考文献：

担当者ホームページ（<http://www1.uhe.ac.jp>）参照。連絡先 ito@uhe.ac.jp

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C43801	宗教と倫理演習	3・4	4	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
祈り、宗教史	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

様々な宗教のテキストを取り上げ、具体的な文脈の中で各宗教に共通した部分と相違点とを考察し、現代の我々にとってこれらの宗教がいかなる意味を持つかという事を中心として議論する。

授業の概要：

紀元1世紀のユダヤ教の大転換期に活躍したヨハナン・ベン・ザッカイの生涯を辿りながら、現代にまで至るラビ的ユダヤ教の流れの基礎を理解する。

授業の計画：

Jacob Neusner 『ヨハナン・ベン・ザッカイの生涯』を読みながら、ラビ的ユダヤ教の流れを考察する。『ヨハナン・ベン・ザッカイの生涯』の大体の目次は次のとおり。

プロローグ 「私はあなたのために神々にお願いしていました」

第1部 混沌と慣習

第1章 信仰の町、篤信の民

第2章 遺産の継承

第3章 強き槌

第2部 社会と聖書

第4章 知恵の父：弟子

第5章 知恵の輝き：師

第3部 死と再生

第6章 世の光

第7章 「イスラエルよ、お前は幸せだ」

第8章 高さ柱

エピローグ 未来の父

授業方法：

毎回、担当の部分を読みながら、内容確認と意見交換を中心として進める。

達成目標：

ラビ的ユダヤ教の伝統の成立を理解する。

評価方法：

授業への参加態度（担当部分の発表の仕方など）および年度末の総括レポートによる。

教科書：

担当者の日本語訳の配布による。

参考文献：

担当者ホームページ（<http://www1.uhe.ac.jp>）参照。連絡先 ito@uhe.ac.jp

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D05801	日本語教育演習	4	4	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
卒業論文、アウトライン、先行研究、研究方法	分析・総合の思考力と判断力，問題解決力，価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

卒業論文の講座と位置付け，以下の2点を中心に学ぶ。

1. 研究方法についての知識を得る。
2. 論文の書き方を学ぶ。

授業の概要：

自身の計画に沿って卒業論文を書く。授業は、各自作成途中の卒業論文を順番に発表し、クラス全体で内容や書き方について検討を行う形で進める。

授業の計画：

前期

1. 論文の構成について
2. テーマの絞り込み・研究課題の明確化
3. アウトライン作成
4. アウトライン発表と検討（1）
5. アウトライン発表と検討（2）
6. 先行研究のまとめ方（先行研究から学ぶ）
7. 先行研究のまとめ方練習（各自作成）（1）
8. 先行研究の発表とまとめ方の練習（2）
9. 研究方法論 質問紙
10. データ収集 質問紙の作り方など
11. 分析の方法（1）結果集計、解釈
12. 分析の方法（2）解釈の妥当性
13. 質的研究（自然談話の分析）
14. データ収集（2）質的な研究のためのデータ
15. 談話研究（先行研究を読む）

後期

1. 結果の書き方（1）
2. 結果の書き方（2）
3. 結果の考察（1）
4. 結果の考察（2）
5. 結果の考察（3）
6. 結論、まとめ
7. 参考文献
8. 表記、フォーマット（1）
9. 表記、フォーマット（2）
10. 論文発表—検討（1）
11. 論文発表—検討（2）
12. 論文発表—検討（3）
13. 口頭試問に向けて（1）
14. 口頭試問に向けて（2）
15. 口頭試問に向けて（3）

授業方法：

演習形式で行う。毎回1, 2名が発表し，全員で討議する。発表と同時進行で、論文を構成する各部分についての知識や書き方の技術について理解を深める。

達成目標：

論文を構成する各部分の書き方について理解を深める。論文を完成する。

評価方法：

授業時の課題・発表	50%
アウトライン・卒論	50%

教科書：

授業時に指示する。

参考文献：

『論文ワークブック』くろしお出版
日本語教育ブックレット4「第二言語習得の心理学的研究方法」国立国語研究所編

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D10101	日本史講義 I A (日本古代・中世史研究)	2・3・4	2	松島周一

期間	曜日	時限	備考:
前期	金	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
東アジア世界、対外関係、律令国家、神国意識	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ:

古代から中世にかけての、東アジア地域との交流によって作り出された日本列島の歴史について認識を深め、日本史をより広い「国際的」な視野から捉える姿勢を養う。

授業の概要:

基本的に時代の流れを辿りつつ、各時代の重要と思われる問題を取りあげて講述し、全体として通史的な枠組を修得できるようにしていく。

授業の計画:

おおむね以下のような講義を行う予定。

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 日本の登場 | 9. 日本語表記の形成 |
| 2. 5世紀の日本と東アジア世界 | 10. 武家政権と東アジア |
| 3. 律令国家体制の導入 | 11. 東アジアの中の蒙古襲来 |
| 4. 律令国家導入の国際的背景 | 12. 戦う神々の時代 |
| 5. 律令国家の対外認識 | 13. 室町幕府の「外交」 |
| 6. 律令国家体制の変質と対外関係 | 14. 東アジアと銭貨流通 |
| 7. 日本の「鎖国」化 | 15. 豊臣・徳川の「神国」 |
| 8. 日本的文化の形成 | |

授業方法:

必要な史資料をプリントにして毎回配布する。それを参照しながら、講義形式で授業を進める。質問時間は、適宜、なるべく多くとるようにするので、分からないこと、確認したいことは積極的に質問してほしい。

達成目標:

日本の前近代史を「国際的」な広い視野から理解し、説明できる能力を獲得すること。

評価方法:

最後に試験を行う(90%)。講義内容をきちんと自分の文章でまとめる論述の試験。講義への理解度、文章表現力などが評価の対象。なお、詳しくは授業中に指示するので、必ず確認すること。授業への取り組みが10%。

教科書:

特に定めない。

参考文献:

図書館にある通史のシリーズものなどでよいから、日本の古代・中世史に関する本を何か読んで、時代へのイメージを培ってほしい。

実験・実習・教材費:

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D10201	日本史講義 I B (日本古代・中世史研究)	2・3・4	2	松島周一

期間	曜日	時限	備考:
後期	金	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
武士、武家政権、天皇、貴族社会	分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ:

古代に登場し、中世から近世にかけて政治・社会の中心的存在となり、さらに近代まで日本の精神風土に大きな影響を及ぼしつづけた武士の歴史について概観する。その際に、天皇や貴族社会とどのような関係を構築していたのかという点や、後世のイメージではない武士たちの実像などに注意を払いながら、日本史全体を展望する基礎的な力を養うことを目的とする。

授業の概要:

基本的に時代の流れを辿りつつ、各時代の重要と思われる問題を取りあげて講述し、全体として通史的な枠組を修得できるようにしていく。

授業の計画:

おおむね以下のような講義を行う予定。

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 日本史と武士 | 9. 承久の乱 |
| 2. 武士の登場 | 10. 建武の新政 |
| 3. 貴族と武士 | 11. 室町幕府と天皇・貴族社会 |
| 4. 伊勢平氏と貴族社会 | 12. 織田・豊臣政権と天皇 |
| 5. 平清盛と武家政権への道 | 13. 近世武家政権と天皇 |
| 6. 平氏政権とは | 14. 中世武士の実像 |
| 7. 鎌倉幕府の成立と | 15. 「武士道」の誤解 |
| 8. 源頼朝と天皇・貴族社会 | |

授業方法:

必要な史資料をプリントにして毎回配布する。それを参照しながら、講義形式で授業を進める。質問時間は、適宜、なるべく多くとるようにするので、分からないこと、確認したいことは積極的に質問してほしい。

達成目標:

武士の存在と活動の実態をとらえ、そこから日本史の展開を理解し、説明できる能力を獲得すること。

評価方法:

最後に試験を行う(90%)。講義内容をきちんと自分の文章でまとめる論述の試験。講義への理解度、文章表現力などが評価の対象。なお、詳しくは授業中に指示するので、必ず確認すること。授業への取り組みが10%。

教科書:

特に定めない。

参考文献:

図書館にある通史のシリーズものなどでよいから、日本史に関する本を何か読んで、武士という存在へのイメージを培ってほしい。

実験・実習・教材費:

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D10301	日本史講義ⅡA（日本近世社会論研究）	2・3・4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
武士、武家社会、幕府、天皇、幕藩体制	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、効果的な社会参加

授業のテーマ：

織田・豊臣政権を経て、徳川政権の成立及び幕藩体制の構築という、近世世界形成の歴史的意義を考える。とりわけ、この一連の過程における天皇の果たした役割などに注目しつつ、考察する。

授業の概要：

織田信長政権の特質、豊臣政権と関ヶ原合戦、徳川幕府成立後の諸政策の意義。そして、徳川政権の政治的特質などを、天皇の存在意義などの諸問題を論じる。

授業の計画：

- 1 序論—講義のプラン
- 2 信長と本能寺の変
- 3 秀吉と天下統一
- 4 関ヶ原合戦
- 5 徳川幕府の成立
- 6 徳川・豊臣二重支配体制
- 7 大坂の陣
- 8 幕藩体制の政治構造
- 9 近世の朝廷・天皇と幕府
- 10 近世の朝廷・天皇
- 11 鎖国とは
- 12 東アジアの国際的環境と鎖国Ⅰ
- 13 東アジアの国際的環境と鎖国Ⅱ
- 14 志士と鎖国Ⅰ
- 15 志士と鎖国Ⅱ

授業方法：

講義形式

達成目標：

講義内容を理解すると共に、自己の歴史認識能力を高める。

評価方法：

授業の取り組み 30%、テスト 70%などによって、評価する。

教科書：

なし

参考文献：

講義の中で折々に紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D10401	日本史講義ⅡB（日本近世社会論研究）	2・3・4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
武士、武士道、忠・忠義、近代化	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、効果的な社会参加

授業のテーマ：

徳川時代は近代化の胎動期であり、また、現在の日本社会にも通じる多くの文化遺産の産出期であった。授業では、社会の特性を論考すると共に、同時期における、「知」の成長過程を考察する。

授業の概要：

武士道や武家社会の構造を通して、江戸という時代のタテ社会のメカニズムを検討し、リーダーシップ、組織と個人との関係を論ずる。また、他方では、文化、思想の多様な展開を検討し、徳川社会の政治的近代化を論じる。

授業の計画：

- 1 藩の組織
- 2 武士道Ⅰ
- 3 武士道Ⅱ
- 4 武士道Ⅲ
- 5 元禄時代
- 6 儒学の発展Ⅰ
- 7 儒学の発展Ⅱ
- 8 能力主義とシステム
- 9 ペリー来航と幕藩体制
- 10 志士吉田松陰の誕生
- 11 吉田松陰の武家観
- 12 吉田松陰の天皇観
- 13 吉田松陰の国際観
- 14 維新への胎動
- 15 江戸という時代

授業方法：

講義形式

達成目標：

講義内容を理解すると共に、自己の歴史認識能力を高める。

評価方法：

期末試験（100％）による。

教科書：

なし

参考文献：

講義の中で折々に紹介する。

実験・実習・教材費

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D10501	日本史講義ⅢA（日本近・現代史研究）	2・3・4	2	田浦雅徳

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本近代史、国民国家、立憲政治への胎動	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、グローバルな視野

授業のテーマ：

本講義は、近代における日本の歩みを、その時々日本の生存条件を考えながら見ていこうとするものである。幕末から太平洋戦争に至るまでの歴史なかで、特にペリー来航以来の幕末から明治十四年の政変までの政治過程を講義する。

授業の概要：

明治立憲制が成立していく過程を丹念に追っていく。

授業の計画：

- 第1回 立憲政治実現過程の日欧比較
- 第2回 幕閣専断から公議輿論の尊重へ
- 第3回 加藤弘之の「鄰艸」
- 第4回 王政復古の政変
- 第5回 五箇条の御誓文
- 第6回 「公議」の制度化への試み－公議所の開設
- 第7回 版籍奉還と廃藩置県
- 第8回 岩倉使節団
- 第9回 征韓論と明治六年の政変
- 第10回 大久保利通と明治政府
- 第11回 民撰議院設立建白書
- 第12回 自由民権運動
- 第13回 土族反乱と西南戦争
- 第14回 明治十四年の政変と国家開設の勅諭
- 第15回 試験と解説

授業方法：

教科書を読みながら、パワーポイントのスライドを使って解説を行う。

達成目標：

近代国民国家としての日本が如何にして形成されたかを知ること。そのために必要な知識や歴史観を習得する。

評価方法：

試験（85%）と出席点（15%）によって評価する。

教科書：

鳥海靖『日本の近代＝国民国家の形成・発展と挫折』放送大学教育振興会、2,100円

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D10601	日本史講義ⅢB（日本近・現代史研究）	2・3・4	2	田浦雅徳

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本近現代史、明治憲法、日清・日露戦争、太平洋戦争	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、グローバルな視野

授業のテーマ：

近代における日本の歩みを、その時々日本の生存条件を考えながら見ていこうとするものである。特に伊藤博文の憲法調査から太平洋戦争開始までの政治過程を講義する。もって近代国民国家としての日本が如何にして形成され、激動の近代国際社会の中で苦闘の歴史を築いたかを知ることが目標とする。

授業の概要：

明治憲法の成立から太平洋戦争にいたる歴史をたどっていく。

授業の計画：

- 第1回 伊藤博文の憲法調査と宮中改革
- 第2回 内閣制度の創設と大日本帝国憲法の発布
- 第3回 第一回帝国議会
- 第4回 第四議会と和衷協同の詔勅
- 第5回 明治の外交課題－条約改正と対朝鮮政策
- 第6回 壬午・甲申事変
- 第7回 日清戦争
- 第8回 三国干渉と日露の対立
- 第9回 日露戦争
- 第10回 日露戦後の内政と外交
- 第11回 第一次世界大戦とワシントン会議
- 第12回 中国ナショナリズムの急進化と満洲事変
- 第13回 協調と対立の中の昭和十年代
- 第14回 太平洋戦争の勃発
- 第15回 試験と解説

授業方法：

教科書を読みながら、パワーポイントのスライドを使って解説を行う。

達成目標：

近代国民国家としての日本が如何にして形成されたかを知ること。そのために必要な知識や歴史観を習得する。

評価方法：

試験（85%）と出席点（15%）によって評価する。

教科書：

鳥海靖『日本の近代＝国民国家の形成・発展と挫折』放送大学教育振興会、2,100円

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D12701	国語学概説A	2・3・4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本語の歴史、日本語の文法	コミュニケーション力、分析総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

漢字使用による文学の形成の意義について考える。

授業の概要：

我が国の七、八世紀、いわゆる上代は、人々が口伝による言語生活から脱却し、文字によって言葉を定着させる習慣を持ち始めた時代である。平仮名や片仮名のいまだ成立していないこの時期、中国からもたらされた漢字によってのみ日本語の文をつづり、文学作品をうみだすということは、どのような営みであるのか、そのさまざまなあり方を考える。

授業の計画：

- 1 概説 はじめに
- 2 概説 日本語学の基礎
- 3 言語学的な準備
- 4 古代の日本語 1
- 5 古代の日本語 2
- 6 古代・中世の文法 1
- 7 古代・中世の文法 2
- 8 古代・中世の文法 3
- 9 中世の話し言葉 1
- 10 中世の話し言葉 2
- 11 中世・近世の話し言葉 1
- 12 中世・近世の話し言葉 2
- 13 近代の話し言葉
- 14 まとめ 1
- 15 まとめ 2

※ 授業計画は、受講生の理解・興味等により変更を行う場合がある。

授業方法：

講義形式を基本とするが、適宜対話形式、発表形式を取り入れる。

達成目標：

日本語の歴史についての基礎的な知識を修得する。

評価方法：

定期試験（60%）＋受講姿勢（40%）などにより総合的に評価する。

日本語の歴史についてたいへんよく理解している…S

日本語の歴史についてよく理解している…A

日本語の歴史について理解している…B

日本語の歴史についてだいたい理解している…C

教科書：

野村 剛史『話し言葉の日本史』（歴史文化ライブラリー 311）吉川弘文館（1,700円＋税）

参考文献：

授業時に適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D12801	国語学概説B	2・3・4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本語の歴史、日本語の文法	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

日本語文法の基礎的な知識を習得する。

授業の概要：

日本語文法の基礎的な事項を習得する。

授業の計画：

※前期からの継続受講を基本とする。

- 1 概説
- 2 文の構造 1
- 3 文の構造 2
- 4 活用 1
- 5 活用 2
- 6 助動詞 1
- 7 助動詞 2
- 8 助動詞 3
- 9 感動表現・希望表現
- 10 係り結び 1
- 11 係り結び 2
- 12 条件表現
- 13 指示語
14. まとめ 1
15. まとめ 2

※ 授業計画は、受講生の理解・興味等により変更を行う場合がある。

授業方法：

講義形式を基本とするが、適宜対話形式・発表形式を取り入れる。

達成目標：

日本語の文法についての基礎的な知識を習得する。

評価方法：

定期試験（60%）＋受講姿勢（40%）などにより総合的に評価する。
 日本語文法についてたいへんよく理解している…S
 日本語文法についてよく理解している…A
 日本語文法について理解している…B
 日本語文法についてだいたい理解している…C

教科書：

高山善行・青木博史 編『ガイドブック 日本語文法史』ひつじ書房（1,900円＋税）

参考文献：

阪倉篤義 著『改稿 日本語文法の話』教育出版（2,427円＋税）
 朝比奈英夫 他 編『古典入門』清文堂出版（1,700円＋税）
 その他は、授業時に適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D12901	国語表現	2・3・4	2	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
事実と意見、要旨、意見文	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

趣旨を正確に読み取る力、趣旨が正確に伝わる文を書く力の養成。

授業の概要：

前半は、論説文を読みとり、要旨を書く練習を行う。後半は、構成を考えて、論理的かつ分かりやすい意見文を書く練習を行う。

授業の計画：

1. 長すぎる文（1）
2. 長すぎる文（2）
3. ねじれ文
4. 要約（1）論説文を読み、キーワードを探す
5. キーワードをもとにして要旨を書く
6. 要約（2）論説文を読み、キーワードを探す
7. キーワードをもとにして要旨を書く
8. 事実と意見を区別する
9. 意見文を書く（1）意見を60字程度で表現する
10. 意見文を書く（2）意見を60字程度で表現する
11. 論説文の要約をもとにした意見文を書く（1）
12. 意見文の検討
13. 論説文の要約をもとにした意見文を書く（2）
14. 修正版発表・検討
15. まとめ

授業方法：

要旨、意見文などの文章作成作業は宿題とし、次の授業までに教員にPCメールで課題作文を送付する。授業の主たる作業は、送付された課題作文の検討作業とする。文章遂行は、学生同士（ピア）で行うため、自己の意見を相手にわかるように話す能力と積極的にコミュニケーションに参加する態度が求められる。

達成目標：

正しく、明確に文章の趣旨を読み取れるようになる。
趣旨が正確に伝わる文が書けるようになる。

評価方法：

授業への参加度	30%
提出物	40%
試験	30%

教科書：

プリント配布

参考文献：

特になし

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D13001	漢文学概論A	2・3・4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
読み書き、対話、コミュニケーション	コミュニケーション力

授業のテーマ：

コミュニケーション能力の育成をテーマとして、この授業では中国古典語（いわゆる漢文）の作品を取り上げる。それらの作品は、常に先人の作品を古典として教養に取り込みつつ、新しい創作が積み上げられてきた歴史がある。その結果、紀元前から19世紀に至るまで、ほとんど途切れなく一貫した古典語による世界が形造られることになった。この講義では、紀元前から順に時代を下り、ジャンル別に作品に触れることで、中国文学の流れを体感していく。

授業の概要：

「詩」「文」「小説・戯曲」の三ジャンルのうちから、「詩」を取り上げる。

授業の計画：

以下の予定だが、進度は変更することがある。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1. はじめに（中国文学の流れ） | 9. 初唐・盛唐の詩 |
| 2. 詩経 | 10. 李白 |
| 3. 楚辞 | 11. 杜甫 |
| 4. 漢代の詩 | 12. 中唐・晩唐の詩（1） |
| 5. 魏晋の詩（1） | 13. 中唐・晩唐の詩（2） |
| 6. 魏晋の詩（2） | 14. 宋代以後の詩 |
| 7. 陶淵明 | 15. まとめ |
| 8. 南北朝の詩 | |

授業方法：

講義形式。教科書を読みながら進め、これに加えて資料を適宜配布し、教科書の内容を補う。ただし授業期間内に教科書を終了しません。

達成目標：

コミュニケーション能力のうち、特に文章の効果的な読み書きの能力を習得する。

評価方法：

試験（80%）と授業への取り組み（20%）により行う。
 理論を駆使して完成度の高い独自の読み書きができる…S
 理論を部分的に活用して読み書きができる……………A
 理論を使いながら作品の分析ができる……………B
 理論や用語を説明できる……………C
 Cのレベルに達していない……………D

教科書：

八木章好編著『中国古典文学二十講』（白帝社／2,100円）。

参考文献：

必要に応じて提示。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D13101	漢文学概論B	2・3・4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
読み書き、対話、コミュニケーション	コミュニケーション力

授業のテーマ：

コミュニケーション能力の育成をテーマとして、この授業では中国古典語（いわゆる漢文）の作品を取り上げる。それらの作品は、常に先人の作品を古典として教養に取り込みつつ、新しい創作が積み上げられてきた歴史がある。その結果、紀元前から19世紀に至るまで、ほとんど途切れなく一貫した古典語による世界が形造られることになった。この講義では、紀元前から順に時代を下り、ジャンル別に作品に触れることで、中国文学の流れを体感していく。

授業の概要：

「詩」「文」「小説・戯曲」の三ジャンルのうちから、「文」「小説・戯曲」を取り上げる。

授業の計画：

以下の予定だが、進度は変更することがある。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. はじめに（中国文学の流れ） | 9. 辞賦・駢文・古文（2） |
| 2. 論語 | 10. 文言小説 |
| 3. 孟子・荀子 | 11. 白話小説（1） |
| 4. 老子・荘子 | 12. 白話小説（2） |
| 5. 史記（1） | 13. 戯曲 |
| 6. 史記（2） | 14. 日本における中国文学の受容 |
| 7. 十八史略 | 15. まとめ |
| 8. 辞賦・駢文・古文（1） | |

授業方法：

講義形式。教科書を読みながら進め、これに加えて資料を適宜配布し、教科書の内容を補う。ただし授業期間内に教科書を終了しません。

達成目標：

コミュニケーション能力のうち、特に文章の効果的な読み書きの能力を習得する。

評価方法：

試験（80%）と授業への取り組み（20%）により行う。
 理論を駆使して完成度の高い独自の読み書きができる…S
 理論を部分的に活用して読み書きができる……………A
 理論を使いながら作品の分析ができる……………B
 理論や用語を説明できる……………C
 Cのレベルに達していない……………D

教科書：

八木章好編著『中国古典文学二十講』（白帝社／2,100円）。

参考文献：

必要に応じて提示。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D13401	漢文学講読 I	2・3・4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
読み書き、対話、コミュニケーション	コミュニケーション力

授業のテーマ：

コミュニケーション能力の育成をテーマとして、漢文を講読する。中国の古典文学は古来、様々な形で日本と日本文学に影響を与えてきたが、本来外国語で書かれているものを意外なまでに抵抗なく受容してきた。その背景には漢文訓読が大きく関わっていると考えられる。この授業では、漢文の訓読方法の再確認を目指す。

授業の概要：

教科書のうちから比較的短いものを取り上げる。

授業の計画：

以下の予定だが、受講生の希望に応じて変更する。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. 漢文初歩、「守株」 | 9. 「五十歩百歩」、子之武城、 |
| 2. 「矛盾」、學而時習之。 | 10. 「漁父之利」、子路等待坐。 |
| 3. 「刻舟求劍」、不患人之不己知 | 11. 「螢窗雪案」、三人行必有我師焉。 |
| 4. 「楚共王遣弓」、士志於道。 | 12. 「朝三暮四」、子貢曰君子過也、 |
| 5. 「狐假虎威」、吾嘗終日不食、 | 13. 「推敲」、孟武伯問孝。 |
| 6. 「蛇足」、譬如爲山。 | 14. 「塞翁馬」、有子曰其爲人也孝弟、 |
| 7. 「苛政猛於虎也」、子貢曰貧而無諂 | 15. まとめ |
| 8. 「漱石枕流」、不憤不啓。 | |

授業方法：

演習形式。教科書を選読して進め、毎回指名する。ただし授業期間内に教科書を終了しません。

達成目標：

コミュニケーション能力のうち、特に文章の効果的な読み書きの能力を習得する。

評価方法：

試験（80%）と授業への取り組み（20%）により行う。
 理論を駆使して完成度の高い独自の読み書きができる…S
 理論を部分的に活用して読み書きができる……………A
 理論を使いながら作品の分析ができる……………B
 理論や用語を説明できる……………C
 Cのレベルに達していない……………D

教科書：

榎原邦彦ほか編『漢文入門』（和泉書院／1,260円）。

参考文献：

漢和辞典。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D13601	書道	2・3・4	2	衣川彰人

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
書写 書道 文字 毛筆 硬筆	美的感受性

授業のテーマ：

この授業では、①書写書道教育における現状の諸問題と今後の展開について②小・中学校にて行われる国語科の書写教育における楷書と行書の学習についての知識を深める③日常の書字活動に必要なとされるさまざまな知識を学ぶとともに実技能力の向上を図るという3つのテーマをもとにして講義と実技指導をしていきたい。

授業の概要：

文字を正しく整えて書くための字形のとり方や配字法などのポイントについて講義を交えながら実技指導していく。また、細字（小字）や硬筆の指導も行い、実用の書にも対応できるようにしていきたい。

授業の計画：

第1回 用具・用材について
 第2回 書の美を求めて…書体について
 第3回 楷書の基本点画
 第4～9回 楷書の字形…文字の概形
 第10回 行書の運筆・用筆について
 第11～15回 行書と字形…楷書と行書の違いと変化
 ※希望に応じて、年賀状や慶弔の表書きなどの細字（小字）の筆写についての指導も行う。
 ※毎回の授業にて毛筆と硬筆の筆写を関連させて指導を行う。

授業方法：

講義と実技指導を交えて行う。授業時間の15分程度を書法や字形に関する解説を行ったうえで、残りを実技指導し、毎回、毛筆による清書作品を制作し、その後、硬筆の学習をする。

達成目標：

文字を正しく整えて書くために必要な基礎的な知識を理解し、それらを活かしながら自らの書字能力の向上を図ることを目標とする。

評価方法：

毎回の授業において合格した作品（60%）と出席状況等（40%）を加味して総合的に評価する。

教科書：

全国大学書写書道教育学会編『明解書写教育』（萱原書房／1,500円）
 書道用具一式（大筆・小筆・紙・墨・硯・下敷き・文鎮等）
 硬筆用の鉛筆（Bまたは2B程度の硬さの鉛筆が望ましい）

参考文献：

春名好重・三浦康広・杉村邦彦編集『書の基本資料』（中教出版）

実験・実習・教材費：

各自で書道半紙・墨汁など、実技練習に必要なものを用意すること。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C30601	英米文学における人物像と言語表現A	2・3・4	2	森順子

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
言語表現、含意、芸術・学問の味わい	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、美的感受性

授業のテーマ：

英国の劇作家、シェイクスピアの作品では、言語表現が重要な要素となる。中でも人物の性格や心理を表す独白は内的言語とみなすことができる。シェイクスピアの作品に描かれた人間の内的世界を言語表現の観点から論じる。

授業の概要：

シェイクスピア作品の言語表現から人物の心理を読み取り、独自の解釈で人物像を演じる段階に到達することを目指す。

授業の計画：

1. 概説
2. 『リア王』 1幕
3. 『リア王』 2幕
4. 『リア王』 3幕
5. 『リア王』 4幕
6. 『リア王』 5幕
7. 演技発表
8. 演習
9. 『ハムレット』 1幕
10. 『ハムレット』 2幕
11. 『ハムレット』 3幕
12. 『ハムレット』 4幕
13. 『ハムレット』 5幕
14. 演技発表
15. 演習

授業方法：

シェイクスピアによる四大悲劇の中から『リア王』と『ハムレット』を扱う。人間関係の中で葛藤する登場人物の内的世界を論じる。学生さんが言語表現である台詞を実際に声優として味わい、より深く作品を鑑賞できるような授業を行う。適宜取り上げる英語の原文に関しては丁寧な解説を加える。なお作品終了後は各自実際に演じた上でレポートを提出する。

達成目標：

作品の言語表現から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じること。

評価方法：

授業の取り組み60%レポート40%

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の習得を完全に達成しているーS

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の習得を相応に達成しているーA

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の習得を相応に達成しているがまだ不十分な点があるーB

作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる相応の力の最低限は満たしているーC

Cのレベルに達していないーD

教科書：

白水ブックスの『リア王』『ハムレット』（白水社）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C30701	英米文学における人物像と言語表現B	2・3・4	2	森順子

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
言語表現、含意、芸術・学問の味わい	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、美的感受性

授業のテーマ：

英国の劇作家、シェイクスピアの作品では、言語表現が重要な要素となる。中でも人物の性格や心理を表す独白は内的言語とみなすことができる。シェイクスピアの作品に描かれた人間の内的世界を言語表現の観点から論じる。

授業の概要：

シェイクスピア作品の言語表現から人物の心理を読み取り、独自の解釈で人物像を演じる段階に到達することを目指す。

授業の計画：

1. 概説
2. 『マクベス』 1幕
3. 『マクベス』 2幕
4. 『マクベス』 3幕
5. 『マクベス』 4幕
6. 『マクベス』 5幕
7. 演技発表
8. 演習
9. 『オセロー』 1幕
10. 『オセロー』 2幕
11. 『オセロー』 3幕
12. 『オセロー』 4幕
13. 『オセロー』 5幕
14. 演技発表
15. 演習

授業方法：

シェイクスピアによる四大悲劇の中から『マクベス』と『オセロー』を扱う。人間関係の中で葛藤する登場人物の内的世界を論じる。学生さんが言語表現である台詞を実際に声優として味わい、より深く作品を鑑賞できるような授業を行う。適宜取り上げる英語の原文に関しては丁寧な解説を加える。なお作品終了後は各自、実際に演じた上でレポートを提出する。

達成目標：

作品の言語表現から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じること。

評価方法：

授業の取り組み60%レポート40%
 作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の習得を完全に達成しているーS
 作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の習得を相応に達成しているーA
 作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる力の習得を相応に達成しているがまだ不十分な点があるーB
 作品から人物の心理を読み取り、自分の解釈で演じる相応の力の最低限は満たしているーC
 Cのレベルに達していないーD

教科書：

白水ブックスの『マクベス』『オセロー』（白水社）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C30801	英米文学A	2・3・4	2	森順子

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
感受性、芸術・学問の味わい、理解・尊重	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、美的感受性

授業のテーマ：

作家の人生と作品を味わい、深く理解することを目指す。

授業の概要：

英米文学の作家と作品を英文で学び、人間の生き方について考察を深める。

授業の計画：

1. 概説
2. チョーサー
3. フィリップ・シドニー
4. マーロー
5. 演習
6. シェイクスピア
7. ベン・ジョンソン
8. ジョン・ダン
9. 演習
10. ジョン・ドライデン
11. ポープ
12. サミュエル・ジョンソン
13. 演習
14. オースティン
15. ブレイク

授業方法：

英語で書かれた文学史を読み、作品を実際に味わう。毎回、出席者全員で読み進める。

達成目標：

英文の読解力と文学作品につき独自の意見をまとめ発表する力を習得する。

評価方法：

授業の取り組み60%レポート40%

英文の読解力と文学作品につき独自の意見をまとめ発表する力の習得を完全に達成しているーS

英文の読解力と文学作品につき独自の意見をまとめ発表する力の習得を相応に達成しているーA

英文の読解力と文学作品につき独自の意見をまとめ発表する力の習得を相応に達成しているが、まだ不十分な点があるーB

英文の読解力と文学作品につき独自の意見をまとめ発表する力の最低限は満たしているーC

Cのレベルに達していないーD

教科書：

J.Dougill 著 THE WRITERS OF ENGLISH LITERATURE (Macmillan)

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C30901	英米文学B	2・3・4	2	森順子

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
感受性、芸術・学問の味わい、理解・尊重	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、美的感受性

授業のテーマ：

作家の人生と作品を味わい、深く理解することを目指す。

授業の概要：

英米文学の作家と作品を英文で学び、人間の生き方について考察を深める。

授業の計画：

1. ワーズワース
2. コウルリッジ
3. バイロン
4. シェリー
5. キーツ
6. 演習
7. テニソン
8. ディケンズ
9. ブロンテ姉妹
10. ハーディー
11. オスカー・ワイルド
12. ローレンス
13. ジョイス
14. T・S・エリオット
15. G・グリーン

授業方法：

英語で書かれた文学史を読み、作品を実際に味わう。毎回、出席者全員で読み進める。

達成目標：

英文の読解力と文学作品につき独自の意見をまとめ発表する力を習得する。

評価方法：

授業の取り組み60%レポート40%

英文の読解力と文学作品につき独自の意見をまとめ発表する力の習得を完全に達成しているーS

英文の読解力と文学作品につき独自の意見をまとめ発表する力の習得を相応に達成しているーA

英文の読解力と文学作品につき独自の意見をまとめ発表する力の習得を相応に達成しているが、まだ不十分な点があるーB

英文の読解力と文学作品につき独自の意見をまとめ発表する力の最低限は満たしているーC

Cのレベルに達していないーD

教科書：

J.Dougill 著 THE WRITERS OF ENGLISH LITERATURE (Macmillan)

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C31001	英語学A	2・3・4	2	岡良和

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学校文法、伝統文法、規範文法、記述文法	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

現代の英語学は学問領域として対象が広がっています。英語学の学問領域のなかでも、英語学の基礎ともいえる英文法を講義対象とします。英文法は規則集ではありません。そこで、講義の対象とする英文法は学生になじみのある学校文法を基に、伝統文法および記述文法を視野に入れた穏健な文法観にもとづいた文法について講義をします。

授業の概要：

英文法の用語になじみ、学校文法の理解をさらに深め、学校文法に影響を与えた伝統文法、規範文法をも取り入れた穏健な文法論について理解を深める。

授業の計画：

1回	文の種類（1）	9回	進行形
2回	文の種類（2）	10回	動詞の種類と進行形
3回	文の形態と表現内容	11回	法助動詞の法性
4回	文の構成要素と品詞	12回	許可を表す法助動詞
5回	動詞、時、時制について	13回	可能を表す法助動詞
6回	単純現在形	14回	可能性を表す法助動詞
7回	単純過去形	15回	必然性を表す法助動詞、
8回	完了時制		義務や必要性を表す法助動詞

授業方法：

教科書に従って文法用語、例文、説明文を丁寧に解説する。文法はルールだけを覚えることではなく、表現の違いをできるだけ丁寧に説明して、授業を進める。授業ではこれまでに習った英文法の知識をさらに定着させるように説明を加える。

達成目標：

英文法の用語になれ、既習の学校文法の理解をさらに深める。その上で、伝統文法の有用性を理解し説明できるようにする。

評価方法：

前期末の試験（40％程度）、授業への取り組み（30％）、学期中の1課題（30％程度）により行う。
 伝統文法に基づく文法を理解し説明できる……………S
 伝統文法に基づく文法を理解している……………A
 学校文法に基づく文法を理解している……………B
 文法用語を説明できる……………C
 Cのレベルに達していない……………D

教科書：

水鳥喜喬、岡田啓、西村道信共著 『大学英文法入門』 英宝社

参考文献：

江川泰一郎著 『英文法解説』 金子書房

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C31101	英語学B	2・3・4	2	岡良和

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学校文法、伝統文法、規範文法、記述文法	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

現代の英語学は学問領域として対象が広がっています。英語学の学問領域のなかでも、英語学の基礎ともいえる英文法を講義対象とします。英文法は規則集ではありません。そこで、講義の対象とする英文法は学生になじみのある学校文法を基に、伝統文法および記述文法を視野に入れた穏健な文法観にもとづいた文法について講義をします。

授業の概要：

英文法の用語になじみ、学校文法の理解をさらに深め、学校文法に影響を与えた伝統文法、規範文法をも取り入れた穏健な文法論について理解を深める。

授業の計画：

1回 未来表現を表す単純現在形	9回 as if, as though 節
2回 未来表現を表す現在進行形	10回 主節 + wish + (tha) 仮定法
3回 be going to, will/shall+ 原形不定詞	11回 祈願文、should の仮定法的用法
4回 be + to 不定詞	12回 関係代名詞
5回 過去時における未来	13回 関係形容詞
6回 説明文の条件文	14回 関係副詞
7回 if 条件節と仮定法	15回 不定関係詞、強調構文
8回 前提節が隠されている仮定法	

授業方法：

教科書に従って文法用語、例文、説明文を丁寧に解説する。文法はルールだけを覚えることではなく、表現の違いをできるだけ丁寧に説明して、授業を進める。授業ではこれまでに習った英文法の知識をさらに定着させるように説明を加える。

達成目標：

英文法の用語になれ、既習の学校文法の理解をさらに深める。その上で、伝統文法の有用性を理解し説明できるようにする。

評価方法：

前期末の試験（40％程度）、授業への取り組み（30％）、学期中の1課題（30％程度）により行う。
 伝統文法に基づく文法を理解し説明できる……………S
 伝統文法に基づく文法を理解している……………A
 学校文法に基づく文法を理解している……………B
 文法用語を説明できる……………C
 Cのレベルに達していない……………D

教科書：

水鳥喜喬、岡田啓、西村道信共著 『大学英文法入門』 英宝社

参考文献：

江川泰一郎著 『英文法解説』 金子書房

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C31201	英語音声学	2・3・4	2	岡良和

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
英語の音、日英語の比較、音声習得	コミュニケーション力、グローバルな視野

授業のテーマ：

英語音声の特徴と機能について理解を深め、その知識が「英語らしい」発音の習得にどう生かせるのかを口頭練習を通して学習する。また日本語話者として英語を習得する際の問題点に着目し、日本語と英語の比較を通してその原因と克服法を探る。

授業の概要：

アメリカ英語の音声特徴について、(1) 母音・子音、(2) 連続音声での音声変化、(3) プロソディ(強勢、リズム、イントネーション)の順番で学習を進める。教科書で足りない部分(特に日本語との違いなど)については、こちらでプリントを準備する。

授業の計画：

1. 音声器官と音の分類
2. 母音(強母音と弱母音、短母音)
3. 母音(二重母音、三重母音)
4. 母音(弱母音、半弱母音)
5. 母音のまとめ
6. 子音(閉鎖音、摩擦音)
7. 子音(破擦音、鼻音、側面音、半母音)
8. 音節、子音の結合
9. 語間の音連続、音の脱落、同化
10. 子音、音の連続のまとめ
11. 語アクセント、複合語アクセント
12. 文アクセント、強形と弱形、リズム
13. イントネーションの機能と構造
14. 特殊なイントネーション
15. 綴り字と発音

授業方法：

単元ごとに理論的な解説をまず行い、残りの時間を発音や聴き取りなどの口頭練習に当てる。従って一方的な講義と言うより実習的な性格が強く、受講生の積極的な参加が必須となる。

達成目標：

英語音声学の基礎を養い、その知識を活用して「英語らしい」発音能力を身につける。

評価方法：

授業中に実施する実技テスト(50%)とレポート(50%)により行う。
 英語音声の諸特徴をよく理解し、英語らしさを十分備えた音声表現ができる…S
 英語音声の諸特徴を理解し、英語らしさを備えた音声表現ができる……………A
 英語音声の知識を活用し、英語の発音に向上が見られる……………B
 英語音声に対する基本的な知識をもつ……………C
 Cのレベルに達していない……………D

教科書：

今井由美子他著『英語音声学への扉～発音とリスニングを中心に～』英宝社(1,995円)

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B21101	住環境デザイン論講義A	2・3・4	2	島崎義治

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
空間、建築、環境、デザイン	美的感受性、分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

空間とは何か
 建築とは何か
 環境とは何か
 デザインとは何か について考えます。

授業の概要：

デザインとは私たちのまわりの身近な領域やかたちのしくみや関係性を表すものであることを知り、住まいや建築、都市やランドスケープ、そして環境というものが私たちにどのように現れてくるのかを考察します。

授業の計画：

- | | |
|---|---|
| <空間について>
1. 建築のかたち
2. 空間とは何か
3. 課題講評
<柔らかな建築>
4. モダニズムの視線
5. 人の領域
6. 関係のかたち
7. 課題講評 | <景観という意味>
8. 風土
9. アースワーク
10. ランドスケープ
11. 課題講評
<領域から環境へ>
12. 道
13. 広場
14. 町
15. 課題講評 |
|---|---|

授業方法：

毎回、テーマをひとつ掲げ、それにかかわる多数の映像をスクリーンにより紹介し、説明を加えます。受講者はスクリーンの画像を見ることによって、感じることによって、空間とは何か、建築とは何か、環境とは何か、そして、デザインとは何か、を検証します。

達成目標：

空間や建築、環境やデザインの面白さを感じることを、

評価方法：

テーマに取り組み、
 S：達成目標を超えて、デザインとは何かについて新たな知見を得ることができた。
 A：達成目標に到達でき、デザインとは何かについて知見を得ることができた。
 B：十分とは言えないが、デザインとは何かについて知見を得ることができた。
 C：デザインとは何かについて発見しようとする努力が感じられた。
 D：取り組みが不足し、デザインとは何かについて発見することができなかった。
 授業の取り組み点50%、課題レポート並びに発表による点50%

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B21201	住環境デザイン論講義B	2・3・4	2	島崎義治

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
空間、建築、環境、デザイン	美的感受性、分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

空間とは何か
 建築とは何か
 環境とは何か
 デザインとは何か について考えます。

授業の概要：

住居や建築、都市やランドスケープなどの具体的なデザインが持つ意味や働きを知り、空間やデザインがどのようにして生み出され、つくられているかを考察します。

授業の計画：

- | | |
|----------|---------------|
| <建築の始まり> | 8. 物語 |
| 1. 廃墟 | 9. 意味 |
| 2. 構成 | 10. 課題講評 |
| 3. 光と陰 | <建築をつくるもの> |
| 4. 大地 | 11. 色彩 |
| 5. 課題講評 | 12. 内と外 |
| <建築を読む> | 13. 囲むことと開くこと |
| 6. 隠喩 | 14. 秩序と混在 |
| 7. 象徴 | 15. 課題講評 |

授業方法：

毎回、テーマをひとつ掲げ、それにかかわる多数の映像をスクリーンにより紹介し、説明を加えます。受講者はスクリーンの画像を見ることによって、感じるによって、空間とは何か、建築とは何か、環境とは何か、そして、デザインとは何か、を検証します。

達成目標：

建築空間の表わす多様な意味や表現を感じ取ること

評価方法：

- テーマに取り組み、
- S：達成目標を超えて、建築とは何かについて新たな知見を得ることができた。
- A：達成目標に到達でき、建築とは何かについて知見を得ることができた。
- B：十分とは言えないが、建築とは何かについて知見を得ることができた。
- C：建築とは何かについて知見を得ようとする努力が感じられた。
- D：取り組みが不足し、建築とは何かについて知見を得ることができなかった。

授業の取り組み点50%、課題レポート並びに発表による点50%

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B21501	住環境デザイン論特殊講義ⅡA（住居論）	2・3・4	2	島崎義治

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
住まい、コミュニティ、環境、モダニズム	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、美的感受性

授業のテーマ：

空間とは何か
 建築とは何か
 環境とは何か
 住まいとは何か について深く考えること。

授業の概要：

現代の住まいやコミュニティを生活スタイルやデザイン、生産のしくみや社会の取り組みなどから考察し、その課題を明らかにし、住まいとは何かを深く考えます。

授業の計画：

- ・現代の課題
- 1. 住まいについて
- 2. 記号化 n LDK
- 3. モダンリビング
- 4. ワークショップ（住宅タイプの収集と分析）
- 5. ワークショップ（住宅タイプの収集と分析）
- ・住まいの性能
- 6. 商品化住宅
- 7. 工業化と規格化
- 8. 住宅の快適性
- 9. 高層化住宅
- 10. ワークショップ（商品化住宅の収集と分析）
- 11. ワークショップ（商品化住宅の収集と分析）
- ・コミュニティへ
- 12. ワンルーム / コレクティブハウス
- 13. コミュニティと住まい
- 14. まちづくりと文化の中の住まい
- 15. まとめ

授業方法：

毎回、テーマをひとつ掲げ、それにかかわる多数の映像を紹介し、説明を加えます。受講者はスクリーンの画像を見ることと、提起される問題点を深く考察することによって、住まいとは何か、コミュニティとは何か、環境のデザインとは何か、を検証します。ディスカッションやワークショップを取り入れるので、発言や質問による積極的な授業参加が必要です。

授業の達成目標：

現代の住宅やコミュニティの課題を発見し、住まいとは何かを明らかにすること

評価方法：

テーマに取り組み、
 S：達成目標を超えて、自らの視点によって重要な課題が発見できた。
 A：達成目標に到達でき、重要な課題が発見できた。
 B：十分とは言えないが、課題が発見できた。
 C：課題を発見しようとする努力が感じられた。
 D：取り組みが不足し、課題発見にも至らなかった。
 授業の取り組み点60%、課題レポートの提出ならびに発表による点40%

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B21601	住環境デザイン論特殊講義ⅡB（住居論）	2・3・4	2	島崎義治

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
住まい、コミュニティ、環境、モダニズム	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、美的感受性

授業のテーマ：

空間とは何か
 建築とは何か
 環境とは何か
 住まいとは何か について深く考えること。

授業の概要：

20世紀に現れた住環境デザインの考え方や潮流を振り返り、その地域や時代の文化性、価値観や社会意識を発見し、私たちの住まいや生活空間の課題を深く考えます。

授業の計画：

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ・モダニズムの空間 | ・フィールドワーク |
| 1. 田園都市構想 / 近隣住区論 | 9. 視察報告（調査と分析） |
| 2. 住むための機械 | 10. 視察報告（調査と分析） |
| 3. バウハウスとミース | 11. 視察報告（調査と分析） |
| 4. ケーススタディハウス | 12. まとめ |
| 5. 高蔵寺ニュータウンについて | <集住について> |
| ・モダニズム以降の空間 | 13. 集合住宅1 |
| 6. プレーリーハウス | 14. 集合住宅2 |
| 7. コレクティブハウス | 15. 住まいについて |
| 8. ポストモダニズムの思想 | |

授業方法：

毎回、テーマをひとつ掲げ、それにかかわる多数の映像を紹介し、説明を加えます。受講者はスクリーンの画像を見ることと、提起される問題点を深く考察することによって、住まいとは何か、コミュニティとは何か、環境のデザインとは何か、を検証します。また、各自で高蔵寺ニュータウンを調査してもらいます。それにかかわるディスカッションやワークショップを取り入れるので、発言や質問による積極的な授業参加が必要です。

授業の達成目標：

20世紀における住まいの様々な提言を考察し、現代のあるべき住環境を明らかにすること

評価方法：

テーマに対し、
 S：達成目標を超えて、自らの視点によって重要な課題が発見できた。
 A：達成目標に到達でき、重要な課題が発見できた。
 B：十分とは言えないが、課題が発見できた。
 C：課題を発見しようとする努力が感じられた。
 D：取り組みが不足し、課題発見にも至らなかった。
 授業の取り組み点60%、課題レポートの提出ならびに発表による点40%

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B21701	住環境デザイン論プロゼミナール	2・3・4	2	島崎義治

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
描く、つくる、表現する	美的感受性、コミュニケーション力、問題解決力

授業のテーマ：

デザインを行うための基本となる手法、技術、精神を習得し、
空間とは何か
建築とは何か
環境とは何か
デザインとは何か について考えます。

授業の概要：

基本的な空間造形の制作を試みます。制作する課題作品の内容や進め方を説明した後、各自の制作状況を見ながら随時アドバイスやサポートを行います。受講者自ら、課題作品に取り組み、作品として完成させることで授業が進みます。

授業の計画：

- | | |
|---|--|
| <p>< A. オリエンテーション >
1-2. 制作のための道具や図面、PC 作業について説明する
< B. モデュロールを描く >
3-5. デザインの基本となる人体寸法を測定し、それらを CG により表現する
< C. 高校キャンパスを 2 次元に表わす >
6-9. 高校キャンパスを 6 色の型紙や CG により表現する。
< D. 立方体から住まいを考える >
10-15. 3 m × 3 m × 3 m の立方体に住まいの装置を組み込み、それらを組み合わせ、住居として制作する。</p> | <p>< E. 本宿ウォーキングマップ制作 >
16-22. 本宿を歩き、まちから語りかけられる様々な断片を記録し、ウォーキングマップとして描き、まちを分析する。
< ポケットパークの設計 >
23-30 本宿地域において計画地を自ら選定し、配置計画、モデル制作を行い、ポケットパークを設計する。</p> |
|---|--|

授業方法：

住環境デザイン実習室で制作を行います。研究室の PC やプリンター、製図板などの備品を使いますが、課題制作の簡単な道具は（購入品リストは提示します。）を各自購入してください。消耗品、モデル材料等は実習費で購入します。

達成目標：

- ・図面やスケッチを描き、モデルを制作し、空間を描く。
- ・フォットショップ、イラストレーターなど CG により表現する。
- ・つくりたい、人に伝えたいという表現意欲を持って課題作品を完成させる。

評価方法：

テーマに取り組み、
S：達成目標を超えて、独自のイメージを卓越した表現で表わし、課題作品を完成させることができた。
A：達成目標に到達でき、独自のイメージで課題作品を完成させることができた。
B：十分とは言えないが、課題作品を完成させることができた。
C：イメージを表現しようとする努力が感じられた。
D：取り組みが不足し、課題作品を完成させることができなかった。
授業の取り組み点 40%、課題作品 60%

教科書：

なし。参考文献は必要に応じ説明します。

参考文献：

実験・実習・教材費：

2,000 円

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B21801	住環境デザイン論演習及び実習	3・4	4	島崎義治

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
空間、建築、環境、デザイン	美的感受性、コミュニケーション力、問題解決力、価値判断力

授業のテーマ：

具体的な設計課題に取り組み、自ら課題作品を制作することによって、
空間とは何か
建築とは何か
環境とは何か
デザインとは何か について深く考えます。

授業の概要：

年間4～5程度の課題作品を制作します。各課題ごとに取り組むべき内容や進め方を説明した後、
受講者の制作状況を見ながら随時アドバイスやサポートを行います。提出期限に合わせ、受講者
自ら研究、設計制作を行い、課題作品を完成させます。

授業の計画：

- <前期>
1. 瞑想の森計画
2. 本宿拠点計画
<後期>
3. ファンスワース邸改築計画
4. 本宿公民館計画

授業方法：

授業時は毎回、受講者自ら進めてきた検討内容を報告したり、互いに意見交換を行ったり、教員が
アドバイスをしたりすることで、課題作品を高め、作品として完成させてゆくことで授業が進みます。
住環境デザイン研究室のPCやプリンター、製図板などの備品を使いますが、課題や図面制作、
モデル制作のための道具等を各自購入のこと。モデル等の制作材料、アウトプット用消耗品等は実
習費で購入します。

授業の到達目標：

- ・課題作品に潜む社会の問題点を探求し、取り組むテーマを発見する。
- ・テーマを具現化するコンセプトを発見し、魅力ある建築空間をつくる。
- ・つくりたい、人に伝えたいという表現意欲を持って課題作品を完成させる。
- ・美しくプレゼンテーションする技術とセンスを磨く。

評価方法：

テーマに取り組み
S：自らの独自の表現によって達成目標を超えて、重要な課題を発見することができた。
A：達成目標に到達でき、重要な課題を発見することができた。
B：十分な表現とは言えないが、課題を発見することができた。
C：課題を発見しようとする努力が感じられた。
D：取り組みが不足し、課題の発見に至らなかった。
授業の取り組み点40%、課題作品による点60%

教科書：

なし。参考文献は必要に応じ説明します。

参考文献：

実験・実習・教材費：

15,000円：課題制作用消耗品（モデル一般材料、文房具、画材、印刷用消耗品等）
副専攻学生の課題内容は建築作品には限定しないので、副専攻学生の受講も歓迎です。

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
D21101	茶道文化論講義A	2・3・4	2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
茶道 茶道具 茶人 茶室 露地	グローバルな視野

授業のテーマ：

「茶道文化の基礎知識を学ぶ」
日本人としてのアイデンティティを確立する上で伝統文化として茶道の「道・学・実」を座学として学ぶ。茶道文化全般の知識を学ぶ。

授業の概要：

茶道文化全般の概説をする。裏千家の「ことば」、四規七則、利休道歌より茶道のこころを学ぶ。茶の伝来と発展、茶道の成立、千利休から十六代坐忘斎家元まで歴代について、茶室と露地について概説する。

授業の計画：

- 講義の前に、裏千家の「ことば」、利休道歌、四規七則を唱和
- 1 茶道のこころー裏千家の「ことば」、利休道歌、四規七則の解説
 - 2 茶と禅について
 - 3 茶の古典について
 - 4 茶道の逸話について
 - 5 茶の伝来と発展（奈良、平安時代）
 - 6 茶の伝来と発展（鎌倉、室町時代前期）
 - 7 茶の伝来と発展（珠光、紹鷗による草庵の茶）
 - 8 茶道の成立（利休のわび茶）
 - 9 茶道の成立（利休七哲と大名茶）
 - 10 茶道の成立（千家の成立とその後）
 - 11 裏千家歴代について
 - 12 茶室と露地について
 - 13 茶道具について（表道具）
 - 14 茶道具について（水屋道具）
 - 15 まとめ

授業方法：

一年を通して茶道の基本的な知識を解説します。基本的な覚えるべきことは小テストをします。茶道検定（4級・3級・2級・1級）によって自分の茶道力を確認します。

達成目標：

茶道の基本的な知識・用語を理解する。

評価方法：

前期末試験（60％程度）と授業への取り組み（30％程度）ほかに茶道検定評価（10％程度）筆記試験とレポート課題

教科書：

『裏千家茶道』（財団法人今日庵発行／900円）
裏千家茶道検定3・4級用（1,260円）

参考文献：

佐々木三味著『茶器とその扱い』（淡交社／2,940円）
茶道資料館編『茶道具の鑑賞と基礎知識』（淡交社／2,200円＋税）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D21201	茶道文化論講義B	2・3・4	2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
風炉と炉 茶事 茶業	グローバルな視野

授業のテーマ：

「茶道具の取り合わせ」季節を通しての茶道具の取り合わせを学び、お茶の季節感を体得する。また「茶の湯と陰陽五行」、「茶室における亭主と客の位置関係」について学び、茶室空間を体得する。茶の集大成である茶事の解説。

授業の概要：

裏千家の「ことば」、四規七則、利休道歌を授業のはじめに唱道して茶道のこころを学ぶ。掛物・花入・釜・風炉・香合・炭道具・水指・茶入・薄茶器・茶杓・茶碗・水屋道具など茶道具全般の形、場と格、拝見と扱い、分類を解説して、季節の取り合わせを学ぶ。

授業の計画：

- 1、2、3 風炉と炉について、それぞれの茶道具について
- 4、5、6 茶の湯と陰陽五行、十二支十干について
- 7、8、9 八炉について
- 10、11 茶室における亭主と客の距離について
- 12、13、14 茶事について
- 15 まとめ

授業方法：

茶道の基本的な知識を解説します。基本的な覚えるべきことは小テストをします。茶道文化論講義Aで培った知識を奥行きを深める授業となります。茶道は繰り返し繰り返しの学習によってらせん状的に茶道力が身につくものです。

達成目標：

茶室・茶道具・茶事など茶の湯文化全般を理解する。

評価方法：

後期末試験（60％程度）と授業への取り組み（30％程度）ほかに茶道検定評価（10％程度）筆記試験とレポート課題

教科書：

神谷昇司監修『茶室のしくみ』（淡交社／2,600円）
茶道検定3級・4級用（1,260円）

参考文献：

淡交社編集局編『茶の湯と陰陽五行』（淡交社／1,800円＋税）
茶道文化公式テキスト（1）（2）（3）各（淡交社／1,200円＋税）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D21501	茶道文化論特殊講義ⅡA（茶室と日本建築史）	2・3・4	2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
千利休 古田織部 小堀遠州	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

「茶匠の茶室空間について」

授業の概要：

茶道文化は日本伝統文化の中で高度に確立されたもので、日本人の芸術のこころ、空間設定、固体距離などを探求する上で適したものである。各茶匠の茶室と露地を概説してその茶室空間の特色、美学を見極める。

授業の計画：

- 1、すまいから茶室へ
- 2、日本建築における茶室の特異性
- 3、茶室の条件
- 4、初期の茶室について
- 5、6、紹鷗と利休の茶室について
- 7、8、宗旦の茶室
- 9、10、11、利休の弟子たちの茶室
- 12、13、貴族の茶室
- 14、小堀遠州の茶室「忘筌」～大名茶
- 15、まとめ

授業方法：

最初に茶室と露地の基本的用語を説明します。教科書に則して講義形式で進めますが、ある程度のレベルで各自分担してレジメを作り、発表していただきます。

達成目標：

茶室の構成と意匠を理解すると同時に茶庭（露地）のしくみを理解して茶の空間構成を把握する

評価方法：

筆記試験（50％）とレポート課題（50％）

教科書：

日向進著『茶室に学ぶ』（淡交社／1,890円）
中村昌生著『茶室を読む』（淡交社／1,238円＋税）

参考文献：

尼崎博正著『茶庭のしくみ』（淡交社／1,900円＋税）
神谷昇司監修『茶室のしくみ』（淡交社／2,600円）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D21601	茶道文化論特殊講義ⅡB（茶室と日本建築史）	2・3・4	2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
織田有楽 細川三斎 藤村庸軒 片桐石州	分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

「茶匠の茶室空間について」

授業の概要：

茶室の基本的な知識を理解した上で、茶人と茶室について言及する。建築物は、その居住性や利便性を追及することを主眼とした構造となっている。茶室は自然の中に精神的な空間を創ることを目的としている。そのために日本建築では特異な民家の壁構造を採用した。本講義では茶室と露地の成り立ち、特色を概説すると同時に茶室の起こし絵図を作成して茶室空間を把握する

授業の計画：

- 1、2 織田有楽と細川三斎の茶室の違い
- 3、4 藤村庸軒の道安囲・千家の継承
- 5、6 武家茶人・片桐石州の工夫
- 7、8 貴族好みに和した金森宗和
- 9、10 松平不昧の茶室と露地
- 11、12 千玄々斎の茶室
- 13、14、15 起こし絵図の作成

授業方法：

最初に茶室の基本的用語を説明します。教科書に則して講義形式で進めますが、ある程度のレベルで各自担任してレジメを作り、発表していただきます。

達成目標：

起こし絵図を作成して茶室空間を把握する

評価方法：

筆記試験（50％）とレポート課題（50％）

教科書：

茶室の歴史 中村昌生著『図説 茶室の歴史』（淡交社／1,900円＋税）

参考文献：

根岸照彦著『茶室の解明』（淡交社／3,800円＋税）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D21701	茶道文化論プロゼミナール	2・3・4	2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本文化 茶の湯	分析・総合の思考力と判断力

授業のテーマ：

「茶道のこころ」

茶道は「道・学・実」を三位一体としてはじめて習得できるものである。知識として学び、実技に生かすことを目標とする

授業の概要：

専門用語を理解し、日本文化が凝縮された茶の湯文化を知識として学ぶ

授業の計画：

前期『茶の湯の文化』（谷晃著）

- 1、2 お茶の種類と効能
- 3、4 日本の文化と茶の湯文化
- 5、6、7 茶の湯の歴史
- 8、9、10 茶の湯の考え方
- 11、12 日本美術と茶の湯
- 13、14、15 美の「カタチ」－茶の湯の表現

後期『茶の本（岡倉天心著）』鑑賞

- 1 「茶の本」の現代的意味
- 2、3 「茶の本」の成立事情
- 4、5、6、7、8、9、10 「茶の本」を読む
- 11 現代の茶の湯
- 12、13、14 利休の茶室
- 15 まとめ

授業方法：

教科書に即して講義形式で進めますが、ある程度のレベルで各自分担してレジメを作り、発表していただきます。履修者のレベルにあわせて、茶の湯を色々な切り口でみていきます。

達成目標：

日本の文化と茶の湯文化の位置付けを理解する。

評価方法：

授業への取り組み（60%）、小レポート（30%）、茶道検定評価（10%）

教科書：

谷晃著『茶の湯の文化』（淡交社／1,600円＋税）

立木智子著『岡倉天心「茶の本」鑑賞』（淡交社／1,500円＋税）

参考文献：

川原澄子著『「茶の本」を味わう』（文芸社／1,500円＋税）

東郷登志子著『岡倉天心「茶の本」の思想と文体』（慧文社／3,000円＋税）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D21801	茶道文化論演習及び実習	3・4	4	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
千利休 待庵 山上宗二	分析・統合の思考力と判断力、コミュニケーション力、社交性（社会的相互関係力）、美的感受性

授業のテーマ：

「利休の美学と茶事の実践」

授業の概要：

茶の湯大成者である千利休について。利休の茶・利休茶道具・利休の茶室・利休の美学など利休に関わる事柄を挙げ、人間利休を言及する。また利休伝書『山上宗二記』から利休の精神を学ぶ。そして茶事の実践をする。

授業の計画：

前期

- 1、2 「南方録」と「山上宗二記」について
- 3、4 茶室「待庵について」
- 5、6 利休の茶会記
- 7、8 秀吉と利休の美学
- 9 利休の創意
- 10 利休遺産の継承
- 11、12 武野紹鷗とわび
- 13、14 利休にとっての茶祖「珠光」
- 15 まとめ

後期

- 1 山上宗二について
- 2、3 茶の湯の興り
- 4 大壺の次第
- 5、6 茶碗その他
- 7、8 墨蹟・掛絵
- 9、10 花入の次第
- 11、12 茶入の次第
- 13 茶湯者覚悟十体
- 14 又十体
- 15 茶事実習

授業方法：

教科書に従って解説し、事前に学生が適宜学生が資料を集め、分担して発表させる。

達成目標：

千利休の全体像を理解する。

評価方法：

発表とレポート課題（70％程度）授業への取り組み（30％）

教科書：

神津朝夫著『千利休の「わび」とはなにか』（角川選書／1,500円＋税）
『山上宗二記を読む』筒井絃一著（淡交社／3,500円）

参考文献：

『山上宗二の世界』渡辺誠一著（河原書店／2,800円）
『山上宗二記』天正十四年の眼（五島美術館平成七年図録）

実験・実習・教材費：

3,000円（茶事の実習材料費、消耗品費）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D22801	景観文化論演習及び実習	3・4	4	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
造園、緑地、ガーデニング、設計、景観情報	コミュニケーション力 問題解決力 美的感受性

授業のテーマ：

講義やプロゼミでの内容をふまえ、おもに実習により、景観（緑地）や庭園等に関するより実際的なものの見かたと技術を修得する。

授業の概要：

緑地や園芸の分野に係わるさまざまな技術を幅広く紹介し、4年次の卒業論文課題に結びつけるように指導する。取り扱うテーマは学生の興味なども参考とし決定する。

授業の計画：

- ・緑地の調査と計画に関する技術の修得（岡崎市内の公園や景観を対象とする）
- ・CAD などによる緑地設計技術の修得
- ・リモートセンシングや GIS による緑地の診断技術の修得
- ・ガーデニング・デザイン（寄植、室内園芸等）技術の修得
- ・特定種品種系統と育成技術等の修得
- ・土壌診断技術の修得
- ・植物の生理生態特性（蒸散量、水ポテンシャルなど）の計測技術の修得
など

授業方法：

野外実習は実習農場や演習林等で行い、その他は実習室や演習室、PC 教室等で行う。実習の性格上、汚れても良いような服装での参加を求めることがある。

達成目標：

造園や環境・緑地デザインの分野に関する、実務レベルに近い知識と技術の習得、また卒業研究テーマに向けた方向性を具体的に得ることを目標とする。

評価方法：

成果物（レポートや制作物、60%）と授業への取り組み（40%）で評価する。

教科書：

特に指定しない。教材は適宜配布する。

参考文献：

適宜紹介する。

実験・実習・教材費：

3,000 円（ガーデニング実習材料費（種、苗木、肥料など）、データ購入費、野外見学費として使用）

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
D23101	日本美術文化論講義A	2・3・4	2	菅原太

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
透視図法 モダンアート ジャポニスム 印象派 浮世絵	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 美的感受性

授業のテーマ：

東洋・日本絵画の特質をルネサンス以降の西洋絵画と比較しながら浮彫りにしてゆこうとするのがこの講義です。近代合理主義的世界観を記述する基盤であったルネサンスの透視図法。それに反旗を翻したモダンアートとその表現に影響を与えた日本美術など、著名な美術作品を“空間表現”を軸にてみてゆきます。

授業の概要：

絵画における空間表現＝その時代・地域の世界観の記述という観点から、西洋・東洋・日本の世界観や美意識の違いと影響関係、近代美術がどのように成立したのかをみてゆく。

授業の計画：

1. 授業の概要説明
2. ルネサンス美術 1
3. ルネサンス美術 2
4. 透視図法 1
5. 透視図法 2
6. 透視図法とその問題点 1
7. 透視図法とその問題点 2
8. 東西絵画にみる遠近法
9. 西洋近代絵画 1
10. 西洋近代絵画 2
11. 西洋近代絵画 3
12. 印象派と浮世絵 1
13. 印象派と浮世絵 2
14. 印象派と浮世絵 3
15. まとめ

*授業にとって有用な内容の資料の入手や展覧会の開催等があった場合は変更あり。

授業方法：

主にプリント図版を使い、映像を交えながらの授業となる。

達成目標：

「空間」という観点から西洋・東洋・日本の伝統美術、近代美術それぞれの相違点や類似点、影響関係を把握する。

評価方法：

期末テスト 60%、出席 40%

- ・ 作品を理解した上で自分の美意識や価値観に沿った意見を述べられる… S
- ・ 歴史的変遷に沿った作品の主題や様式、技法を理解している…………… A
- ・ 作品の主題や様式、技法を理解している…………… B
- ・ 作品名、作者、制作年代、形式、技法を知っている…………… C
- ・ Cレベル未満・出席不良…………… D

教科書：

参考文献：

- 辻茂『遠近法の誕生』朝日新聞社 2,600円
 ロバート・L・ソルソ『脳は絵をどのように理解するか』新曜社 3,500円
 鈴木杜幾子『画家ダヴィッド』晶文社 4,200円
 馬淵明子『ジャポニスムー幻想の日本』ブリュッケ 3,500円

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D23201	日本美術文化論講義B	2・3・4	2	菅原太

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
マネ セザンヌ ピカソ キュビズム	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 美的感受性

授業のテーマ：

東洋・日本絵画の特質をルネサンス以降の西洋絵画と比較しながら浮彫りにしてゆこうとするのがこの講義です。合理主義的世界観を記述する基盤であったルネサンスの透視図法。それに反旗を翻したモダンアートとその空間表現に影響を与えた日本美術、さらに絵画空間そのものが終焉を迎え、現代に到るまでをみてゆきます。

授業の概要：

“絵画における空間表現＝その時代、地域の世界観の記述”という観点から、西洋と東洋、日本の世界観や美意識の違いと影響関係を、モダンアートから現代までの美術作品を通してみてゆく。

授業の計画：

1. 西洋の伝統的絵画空間とマネ 1
2. 西洋の伝統的絵画空間とマネ 2
3. 日本美術とマネ
4. セザンヌの静物画と時空表現 1
5. セザンヌの静物画と時空表現 2
6. セザンヌ的視点から見た東洋絵画
7. セザンヌ的視点から見た日本絵画
8. 初期のピカソ
9. 分析的キュビズム
10. 総合的キュビズム
11. ピカソと造形主義
12. ピカソと絵画空間の終焉
13. 現代美術と空間 1
14. 現代美術と空間 2
15. まとめ

*授業にとって有用な内容の資料の入手や展覧会の開催等があった場合は変更あり。

授業方法：

主にプリント図版を使い、映像を交えながらの授業となる。

達成目標：

「空間」という観点から西洋・東洋・日本の伝統美術、近代美術それぞれの相違点や類似点、影響関係を把握する。

評価方法：

期末テスト 60%、出席 40%

- ・ 作品を理解した上で自分の美意識や価値観に沿った意見を述べられる… S
- ・ 歴史的変遷に沿った作品の主題や様式、技法を理解している…………… A
- ・ 作品の主題や様式、技法を理解している…………… B
- ・ 作品名、作者、制作年代、形式、技法を知っている…………… C
- ・ Cレベル未満・出席不良…………… D

教科書：

参考文献：

- 岩田誠『見る脳・描く脳』東京大学出版会 2,600円
 ミシェル・フーコー 阿部崇訳『マネの絵画』筑摩書房 3,500円
 浅野春男『セザンヌとその時代』東信社 2,300円

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D23501	日本美術文化論特殊講義ⅡA（日本・アジアの美術と工芸）	2・3・4	2	菅原太

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
仏教美術 ヒンドゥー教美術 ギリシャ美術 シルクロード	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 グローバルな視野 美的感受性

授業のテーマ：

身体表現は、西洋の美術においては、ギリシャ美術以来その中心的なものであり、現在ではアジアでも西洋の美意識が支配的となっているといえる。それではかつてのアジアに於いて、身体は美術の中でどのように表現されてきたのか。インド、西域、東アジア各地域の身体表現のあり方を見ていき、東洋人にとっての身体とは何かを考える。

授業の概要：

そのプロポーションにおいて現代でも身体美の基準とされ、仏像の成立にも影響を与えたとされる、古代ギリシャ美術にふれ、古代・中世のインド美術を通観。西域（シルクロード）を經由した中国・朝鮮半島の仏教美術、その様式的影響下にある日本仏教美術を比較しながら、日本人の身体観と宇宙観を考える。

授業の計画：

1. 授業の概要、彫刻と偶像の関係
2. 古代ギリシャ美術
3. 古代ギリシャ美術
4. 古代インドの仏教・ヒンドゥー教美術
5. 古代インドの仏教・ヒンドゥー教美術
6. 中世インドの仏教・ヒンドゥー教美術
7. 中世インドの仏教・ヒンドゥー教美術
8. 西域の仏教美術
9. 西域の仏教美術
10. 中国・朝鮮半島と飛鳥時代の仏教美術
11. 中国と天平時代の仏教美術
12. 貞観時代の仏教美術と曼荼羅の宇宙観
13. 藤原時代の仏教美術と浄土の宇宙観
14. 鎌倉時代の仏教美術
15. まとめ

授業方法：

プリントされた図版や映像を使い、身体と空間という身近な感覚として捕らえられる問題として、受講生の感性に訴える。

達成目標：

表現様式の違いを通して、それぞれの地域の身体観、世界観のあり方を理解する。

評価方法：

配布されたプリント図版から出題。

期末テスト60%、出席40%

- ・ 作品を理解した上で自分の美意識や価値観に沿った意見を述べられる…S
- ・ 歴史・地域の変遷に沿った作品の主題や様式、技法を理解している…A
- ・ 作品の主題や様式、技法を理解している…B
- ・ 作品名、作者、制作年代、形式、技法を知っている…C
- ・ Cレベル未満・出席不良…D

教科書：

瓜生中『仏像がよくわかる本』PHP 研究所 860円

参考文献：

田中英道『天平のミケランジェロ』弓立社 2,600円

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D23601	日本美術文化論特殊講義ⅡB（日本・アジアの美術と工芸）	2・3・4	2	菅原太

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
信貴山縁起絵巻 伴大納言絵巻 映画 アニメーション	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 美的感受性

授業のテーマ：

現代のマンガに至るまで、日本人は静止画であるはずの絵に物語という時間表現を担わせようと果敢に取り組んで来た。中でも、平安時代の絵巻『信貴山縁起絵巻』・『伴大納言絵巻』は、現代の映画に通じる優れた物語表現で知られる。講義では両絵巻を中心に他の物語絵巻や映画・アニメーションとも比較しつつ、その時空表現の特性を明らかにする。

授業の概要：

映画の編集手法や構図法を紹介し、そうした映画理論をとおして『信貴山縁起絵巻』・『伴大納言絵巻』の時空表現を読み直してゆく。

授業の計画：

1. 授業の概要説明
2. 絵巻の歴史
3. 絵巻の時間表現
4. 映画編集の歴史 1
5. 映画編集の歴史 2
6. 映画・アニメーションに見る編集の実際 1
7. 映画・アニメーションに見る編集の実際 2
8. 眼球運動と絵の知覚 1
9. 眼球運動と絵の知覚 2
10. 『信貴山縁起絵巻』の時空表現 1
11. 『信貴山縁起絵巻』の時空表現 2
12. 『信貴山縁起絵巻』の時空表現 3
13. 『伴大納言絵巻』の時空表現 1
14. 『伴大納言絵巻』の時空表現 2
15. まとめ

授業方法：

プリントされた図版や映像を使った講義。

達成目標：

古典絵巻を現代の視点から捉え直す。物事の描写から物語的な感動がどのようにして成り立つのか、その仕組みを理解する。

評価方法：

期末テスト 60%、出席 40%

- ・ 作品を理解した上で自分の美意識や価値観に沿った意見を述べられる… S
- ・ 歴史的変遷に沿った作品の主題や様式、技法を理解している…………… A
- ・ 作品の主題や様式、技法を理解している…………… B
- ・ 作品名、作者、制作年代、形式、技法を知っている…………… C
- ・ Cレベル以下・出席不良…………… D

教科書：

参考文献：

- 高畑勲『十二世紀のアニメーション』徳間書店 3,780円
 泉武夫『信貴山縁起絵巻』小学館 1,995円
 黒田日出男『謎解き伴大納言絵巻』小学館 1,995円
 ルイス・ジアネッティ『映画技法のリテラシー 1』フィルムアート社 3,360円

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D23701	日本美術文化論プロゼミナール	2・3・4	2	菅原太

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
源氏物語 絵巻 扇子 あさきゆめみし	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 美的感受性

授業のテーマ：

現代のマンガに至るまで、日本人は静止画である絵に物語という時間表現を担わせようと取組んで来ました。平安時代の絵巻は優れた物語表現で知られています。プロゼミでは『国宝源氏物語絵巻』を中心に、他の源氏絵やマンガとも比較しつつ、その時空表現を探求します。

授業の概要：

作品研究
文字表現である物語を、絵巻はどのように視覚化しているのか。国宝源氏物語絵巻の絵を、時空表現をテーマに、詞書や文献資料の他、物語を描いた絵画、マンガ、映画、アニメーション等様々な視覚メディアの技法を手がかりにして読み解いてゆく。
作品制作
日本の伝統絵画形式で最も身近な扇絵を制作する。

授業の計画：

<p>前期</p> <p>国宝源氏物語絵巻の絵について担当を決め、各自がレポートを作成、発表し、討議をおこなう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要説明 2. 絵巻の技法 3. 絵巻の時間表現 4. 源氏物語の内容 1 5. 源氏物語の内容 2 6. 詞書と絵の関係 1 7. 詞書と絵の関係 2 8. 研究手法 1 9. 研究手法 2 10. レポート作成 1 11. レポート作成 2 12. レポート作成 3 13. レポートの中間発表と討議 1 14. レポートの中間発表と討議 2 15. レポートの中間発表と討議 3 16. レポートの中間発表と討議 4 <p>*前・後期ともに受講者とのやりとりによって進行するため、受講者数と進行状況によって授業の時間配分を調整する。</p>	<p>後期</p> <p>レポートの発表と扇絵の制作</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期授業のレポート発表、討議 1 2. 前期授業のレポート発表、討議 2 3. 前期授業のレポート発表、討議 3 (まとめ) 4. 扇面画の特徴と表現技法の説明 5. 下絵の作成 1 6. 下絵の作成 2 7. 下絵の作成 3 8. 下絵段階での合評 9. 使用画材の技法研究 1 10. 使用画材の技法研究 2 11. 地紙に描く 1 12. 地紙に描く 2 13. 地紙に描く 3 14. 地紙に描く 4 (完成) 15. 扇子に仕立てられた作品の合評
---	--

授業方法：

レポート作成、発表、討議、作品制作等

達成目標：

日本の古典美術に慣れ親しみ、その特質を理解する。

評価方法：

出席 40%、レポート・提出作品 60%

- ・ 作品を理解した上で自己の美意識や価値観に沿った創意工夫のある課題・レポートの提出・発表 … S
- ・ 十分な作品理解と創意工夫のある課題・レポートの提出・発表 … A
- ・ 十分な作品理解のある課題・レポートの提出・発表 … B
- ・ 基礎的な作品理解のある課題・レポートの提出・発表 … C
- ・ 課題・レポートの未提出・出席不良 … D

教科書：

清水婦久子『国宝源氏物語絵巻を読む』和泉書院 2,800円

参考文献：

佐野みどり『じっくり見たい源氏物語絵巻』小学館 1,900円
NHK名古屋「よみがえる源氏物語絵巻」取材班『よみがえる源氏物語絵巻』NHK出版 2,000円
三田村雅子・河添房江編『描かれた源氏物語絵巻』翰林書房 2,400円
三田村雅子・三谷邦明『源氏物語絵巻の謎を読み解く』角川書店 1,600円

実験・実習・教材費：

2,500円。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D23801	日本美術文化論演習及び実習	3・4	4	菅原太

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本画 絵巻 屏風 扇	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 美的感受性

授業のテーマ：

日本絵画を素材に、彩色画、水墨画、コラージュ、CG等、様々なアプローチによる作品制作をおこない、伝統文化を現代の生活空間の中で、どのように再生させていくかを考える。

授業の概要：

生活空間（3次元）に存在する絵画（2次元）の形式として、屏風・絵巻・扇子等の日本絵画形式の現代的な可能性を探る。

授業の計画：

前期：

1. 屏風絵の歴史と展開
2. 屏風の使用方法と構造の研究1
3. 屏風の使用方法と構造の研究2
4. 屏風絵の構図研究1
5. 屏風絵の構図研究2
6. 屏風絵の構図研究3
7. テーマ設定及び素材（モチーフ）と技法の選択1
8. テーマ設定及び素材（モチーフ）と技法の選択2
9. テーマ設定及び素材（モチーフ）と技法の発表
10. 素材（モチーフ）の収集1
11. 素材（モチーフ）の収集2
12. 小下図の作成1
13. 小下図の作成2
14. 小下図の作成3
15. 前期作業のまとめ

後期：

1. 制作案のプレゼンテーション1
2. 制作案のプレゼンテーション2
3. 表現技法と画材の研究1
4. 表現技法と画材の研究2
5. 本画制作1
6. 本画制作2
7. 本画制作3
8. 本画制作4
9. 本画制作5
10. 屏風制作1
11. 屏風制作2
12. 屏風制作3
13. 屏風制作4
14. 作品の展示とプレゼンテーション
15. 作品の展示とプレゼンテーション

授業方法：

画材による描画彩色やCGによる制作の実習と発表。

達成目標：

絵巻・屏風・扇等、日本絵画形式を生かした表現法と使用法の創出

評価方法：

出席20%、提出作品50%、プレゼンテーション30%。

- ・ 絵画形式を理解した上で自己の美意識や価値観に沿った創意工夫のある課題作品の提出・発表 … S
- ・ 絵画形式の理解と創意工夫のある課題作品の提出・発表 … A
- ・ 絵画形式を十分に理解した課題作品の提出・発表 … B
- ・ 絵画形式をふまえた課題作品の提出・発表 … C
- ・ 課題作品の未提出・出席不良 … D

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

5,000円

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D31201	華道史A	2・3・4	2	三浦友馨

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
<ul style="list-style-type: none"> ・室町期のたてばなを見てみよう。 ・江戸初期の立花を見てみよう。 ・京都研修旅行により時代を感じてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分析・総合の思考力と判断力 ・価値判断力（意思決定力） ・美的感受性

授業のテーマ：

- ・「いけばな」の発生から今日までの変遷を知る。
- ・中国挿花と「日本いけばな」の関係を知る。
- ・伝統文化の一つである「いけばな」がはたしてきた役割を知る。

授業の概要：

- ・華道史年表にそって、時代時代の流れを知るとともに時代ごとの作品（デモ）に触れる。
- ・花器と花材の変遷とともに、花形の変化、飾る場所の変化を知る。
- ・レポートを提出することにより、より深い知識を身につける。

授業の計画：

いけばなの全体の流れと各時代の特徴を知る様に。

授業方法：

- ・テキスト（華道史年表）にそって、いけばなの流れを知る。
- ・レポートテーマ（前期3回）を学ぶことにより代表的な動きに理解を深める。

達成目標：

- ・いけばなの歴史をとおして日本の伝統文化を知る。

評価方法：

レポートによる評価 100%

教科書：

華道史年表（日本華道社発行）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D31301	華道史B	2・3・4	2	三浦友馨

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
<ul style="list-style-type: none"> ・室町期のたてばなを見てみよう。 ・江戸初期の立花を見てみよう。 ・京都研修旅行により時代を感じてみよう。 ・池坊 550 年祭の行事に参加し、時代の流れを実感してみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分析・総合の思考力と判断力 ・価値判断力（意思決定力） ・美的感受性

授業のテーマ：

- ・「いけばな」の発生から今日までの変遷を知る。
- ・中国挿花と「日本いけばな」の関係を知る。
- ・伝統文化の一つである「いけばな」が果たしてきた役割を知る。
- ・京都研修旅行により、実物に触れたりして「いけばな」に接近してみる。

授業の概要：

- ・レポートを提出することにより、より深い知識を身につける。
- ・京都研修旅行の計画・実施を通じ、より深い理解を得る。

授業の計画：

- ・研修旅行の目的地を調べ、実り多い研修、安全な旅になるよう。

授業方法：

- ・テキスト（華道史年表）にそって、いけばなの流れを知る。
- ・レポートテーマ（後期3回）を学ぶことにより代表的な動きに理解を深める。
- ・研修旅行を通じ、深く「いけばな」に触れる。

達成目標：

- ・いけばなの歴史をとおして日本の伝統文化を知る。

評価方法：

レポートによる評価 100%

教科書：

華道史年表（日本華道社発行）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

京都研修旅行（11/17,18）…現地集合現地解散、交通費・宿泊費は各自負担、入館料 4,000 円程となります。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D31401	美術・デザイン基礎実習	2・3・4	2	菅原太

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
石膏デッサン プロポーション カラーコーディネート	コミュニケーション力 問題解決力 美的感受性

授業のテーマ：

色や形をどうすれば美しく表現できるのか。絵が上手いとか、色のセンスが良いというのは才能だけの問題ではありません。ちょっと視点を変えた訓練によって潜在的な能力が目覚めるものです。美術、デザイン、マンガ、イラストレーション等、ジャンルを問わず色と形の“基礎体力”を養います。

授業の概要：

前期：石膏デッサン
石膏像をモチーフに、プロポーション（比例）に重点を置いた、美しい形態や構成の追求。鉛筆と画用紙を使用。
後期：色彩基礎
配色カード、ポスターカラーを用いた、配色、混色等、基礎的な色彩理論実習。

授業の計画：

- | | |
|--|---|
| <p>前期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 石膏像の解説と、用具の説明。 2. アグリッパ像のデッサン 3. アグリッパ像のデッサン 4. 合評会 5. マルス像のデッサン 6. マルス像のデッサン 7. 合評会 8. ラボルト像のデッサン 9. ラボルト像のデッサン 10. ラボルト像のデッサン 11. 合評会 12. ミロのヴィーナス像のデッサン 13. ミロのヴィーナス像のデッサン 14. ミロのヴィーナス像のデッサン 15. 合評会 | <p>後期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 色彩の基礎理論講義。 2. 配色カードによる色の3属性とトーン概念のカラーチャート制作。 3. 等色相面図の作成。 4. テーマを設定した配色実習 5. テーマを設定した配色実習 6. テーマを設定した配色実習、合評会 7. 水彩絵具による混色と配色の演習 8. 水彩絵具による混色と配色の演習 9. 水彩絵具による混色と配色の演習 10. ファッションカラーコーディネート実習 11. ファッションカラーコーディネート実習 12. ファッションカラーコーディネート実習、合評会 13. インテリアカラーコーディネート実習 14. インテリアカラーコーディネート実習 15. インテリアカラーコーディネート実習、合評会 |
|--|---|
- *各石膏像につき2～3回。4グループに分かれての持ち回りとなるので順不同。
*受講生の進行状況により変更あり

授業方法：

鉛筆を使ったデッサン。色彩カードと水彩絵具（デザインガッシュ）による色彩演習。各課題終了後には合評会を設ける。

達成目標：

プロポーションの理解、配色に重点を置き、描写力、構成力、色彩感覚といった美術・デザインの基礎的な技術・感性の習得をめざす。

評価方法：

- 提出作品（年間8課題くらい）による評価。
出席40%、課題作品60%
- ・基礎的な技術、感性を踏まえた上での、作品をより効果的に伝達する為の創意工夫、自己の価値観や美意識を反映した作品制作……………S
 - ・与えられた課題と素材の十分な理解、技法の習得、作品をより効果的に伝達する為の創意工夫…A
 - ・与えられた課題と素材の基礎的な理解と技法の習得……………B
 - ・与えられた課題と素材の基礎的な理解と課題提出……………C
 - ・課題の未提出・出席不良……………D

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

材料費 3,000円

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D31701	日本建築史	2・3・4	2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
建築と風土 構造と意匠 建築様式	グローバルな視野、美的感受性

授業のテーマ：

「日本建築の流れ」

本講義では建築様式の展開過程をたどり、日本建築と生活文化のかかわりまで言及し、将来の建築的実践にどのようにつながるかの展望も試みる。

授業の概要：

建築は風土との関わりが大きい。特に日本は四方を海に囲まれている上に、隣国に先進国中国を控えているため、文化史上での中国からの影響は無視できない。建築は外来文化の受容と抵抗の産物である。日本文化の大陸文化との諸条件における大きな隔たり故に、大陸建築の完全な模倣にはならなかった。日本的な空間と日本建築の流れを概説する。

授業の計画：

- (1) 日本建築の特質 建築と風土
- (2) 同 構造と意匠
- (3) 神社建築 神社の成立と変遷
- (4) 寺院建築 伽藍配置とその変遷
- (5) 同 様式—飛鳥様式
- (6) 同 大仏様・禅宗様の建築
- (7) 同 軸部と細部の名称と役割
- (8) 住宅建築 日本建築の二つの流れ
- (9) 同 寝殿造と書院造
- (10) 同 書院造の要素と特長
- (11) 同 数寄屋造
- (12) 城郭建築 天守閣の発生と変遷・縄張
- (13) 霊廟建築
- (14) 茶室
- (15) まとめ

授業方法：

基本的には講義形式で進めますが、必要に応じてビデオやプリントなど資料を用いていきます。

達成目標：

日本建築の特色、建築の構成要素を習得する。

評価方法：

筆記試験 (70%)、授業への取り組み (20%) レポート課題 (10%)

教科書：

日本建築学会編『日本建築史図集』（彰国社／2,415円）

参考文献：

太田博太郎著『日本建築史序説』（彰国社）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B30301	住環境のエコロジカル・デザインA	2・3・4	2	本間宏

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
自然環境、感覚、健康、身体機能、建築環境	分析・総合の思考力と判断力、美的感受性、効果的な社会参加

授業のテーマ：

人間は様々な自然環境のもとで生活を営むために建物の機能を発達させてきた。建築は一面では自然環境を人体の要求に調和させるための役割を担っている。さらなる発展のためには人体が必要とする環境条件を理解し、また多様に変化する自然環境、社会環境を理解することが必要である。生活活動へ自然環境を最大限まで活用するために必要な要件を分析し、建築設計に総合させる手法を学ぶ。

授業の概要：

物理的環境に対する人体の諸感覚を理解し、人体を健康に機能させ、快適さを実現するための環境条件を追求する。次いで住環境に対する太陽や気候の影響、社会や都市の影響を理解する。さらに両者に基づく人体の要求と自然の影響を調和させるための建築の機能を追及する。

授業の計画：

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 建築と気候、風土との関係 | 9. 太陽の動きと日照 |
| 2. 伝統建築から学ぶ | 10. 建築と日影 |
| 3. 気象要素と地域差 | 11. 日影図演習 |
| 4. 生活活動と都市気候 | 12. 自然採光と人工照明 |
| 5. 人体の諸感覚と環境要件 | 13. 建築と日照調節 |
| 6. 環境要件と健康、身体機能 | 14. 光と色彩 |
| 7. 代謝熱と温熱環境指標 | 15. 色彩調節 |
| 8. 太陽熱と太陽光 | 16. 試験及びまとめ |

授業方法：

屋内で生活する居住者の健康、感覚に基づく建築環境要件について考察し、その現代建築への利用について講義する。建築環境に関する諸問題の考察、分析力を発展させると共に、広範な分野の知識を集積し、有機的に構成し、創造的な解決方法を創出するために質問などによる積極的参加を求める。

達成目標：

健康維持、快適性増進、作業効率向上のための室内環境を実現するために住環境に求められる基礎的要件を理解し、建築の改善、発展のための実務的手法を案出する能力を養成する。

評価方法：

試験を主とするが、レポート課題も課す。基本的評価配分は授業への取り組み 25%、試験 50%、レポート 25%とする。コミュニケーション能力、創造力を養成するため、レポート、試験では作文力を重視する。

教科書：

適宜資料を配布し、教科書は使用しない。図書館の利用を推奨する。参考文献として挙げた資料と授業該当部分との比較検討を薦める。

参考文献：

- 建築環境学教科書研究会編著『建築環境学教科書』彰国社
 図解住居学編集委員会編『図解住居学5 住まいの環境』（彰国社）
 堀越哲美他『絵とき 自然と住まいの環境』（彰国社）
 三浦昌生『基礎力が身につく建築環境工学』（森北出版）
 児玉祐一郎『建築探訪4 住まいの中の自然』（丸善）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B30401	住環境のエコロジカル・デザインB	2・3・4	2	本間宏

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
健康、空気、水、建築設備、エネルギー	分析・総合の思考力と判断力、価値判断力、コミュニケーション力

授業のテーマ：

人口の都市への集中は自然環境を歪ませ、建築環境に新たな負荷を加えている。建築に新たに要求される条件を理解し、技術、産業の発展を建築へ応用する手法を展開する必要がある。このための技術、機械設備を理解する。建築は長期間にわたって使用が続けられるが、この間に消費されるエネルギーは建築のライフサイクル全体に注ぎ込まれる中で大きな部分を占める。この抑制手法、環境保全への貢献を目指す。

授業の概要：

建築は自然や都市の環境を健康で身体を充分機能させる住環境に変換する役割を担う。この役割を分析し、建築の設計、運営に有機的に総合する思考力を養う。また建築自体では実現できない条件は設備で補い、稼動にエネルギーを投入する。建築、設備機器を総合的に計画し、自然環境と調和させる計画力を養う。

授業の計画：

- | | |
|--------------|-------------------------|
| 1. 建築音響 | 9. 湿度調節 |
| 2. 室内音響調節 | 10. 冷暖房・空気調和設備 |
| 3. 騒音処理 | 11. 建築のライフサイクル アセスメント演習 |
| 4. 建築伝熱 | 12. 上下水道と水質 |
| 5. 高断熱・高气密建築 | 13. 給排水・衛生設備 |
| 6. 換気と健康 | 14. 建築を取り巻くエネルギー事情 |
| 7. 換気力学 | 15. エコロジカル建築、エコロジカル都市 |
| 8. シックビルディング | 16. 試験及びまとめ |

授業方法：

居住者の健康、感覚に基づく建築環境要件について講義し、社会的要因、資源保存・再利用について考察する。建築環境に関する諸問題を考察し、有機的に構成し、創造的な解決方法を創出するために質問などによる積極的参加を求める。

達成目標：

住環境改善のために建築に設置される諸設備とその省エネルギー手法、環境負荷軽減手法を理解する。さらに建築環境を持続、発展させながら自然環境にたいする負荷を抑制するための住生活、建築設備の設計、運用手法に関する問題解決力を養う。

評価方法：

試験を主とするが、レポート課題も課す。基本的評価配分は授業への取り組み 25%、試験 50%、レポート 25%とする。コミュニケーション能力、創造力を養成するため、レポート、試験では作文力を重視する。

教科書：

適宜資料を配布し、教科書は使用しない。図書館の利用を推奨する。

参考文献：

建築設備学教科書研究会編著『建築設備学教科書』彰国社
 図解住居学編集委員会編『図解住居学 5 住まいの環境』（彰国社）
 堀越哲美他『絵とき 自然と住まいの環境』（彰国社）
 三浦昌生『基礎力が身につく建築環境工学』（森北出版）
 梅干野晁『住まいの環境学』（放送大学教育振興会）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B30501	建築構造A	2・3・4	2	水野啓示朗

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
構造力学, 梁, トラス, ラーメン, 応力	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

建築物は、建築自身や内部に置かれた物などの重さに耐えると共に、地震や風にも耐えなければならない。安全な建築物を設計するためには、物体の内部で力がどのように伝達され、どの部分に力が集中するかを知る必要がある。この授業では、単純な梁と少し複雑なトラスやラーメンを対象として、建築部材内部で力が伝達される様子を計算する方法について講義する。

授業の概要：

建築構造を支える支持点に作用する力である反力と、構造の内部に働く力である応力を計算する方法を講義する。そのため、この授業の大半は計算の手順の説明である。

授業の計画：

- 第1回 授業ガイダンス, 力とモーメント
- 第2回 支持点反力 (1) 支持点
- 第3回 支持点反力 (2) 集中荷重に対する静定梁の反力
- 第4回 支持点反力 (3) 等分布荷重, モーメント荷重に対する静定梁の反力
- 第5回 支持点反力 (4) 計算によって反力を求める方法
- 第6回 支持点反力 (5) 静定トラス, 静定ラーメンの反力
- 第7回 支持点反力 (6) 反力計算の総合演習
- 第8回 断面の応力 (1) 応力とは
- 第9回 断面の応力 (2) 集中荷重に対する静定梁の応力
- 第10回 断面の応力 (3) 等分布荷重に対する静定梁の応力
- 第11回 断面の応力 (3) モーメント荷重に対する静定梁の応力
- 第12回 断面の応力 (4) トラスの応力 (節点法)
- 第13回 断面の応力 (5) トラスの応力 (切断法)
- 第14回 断面の応力 (6) 静定ラーメンの応力
- 第15回 断面の応力 (7) 応力計算の総合演習

授業方法：

講義は、毎回配付するプリントに従って、主に板書で行う。講義の最後に出席確認を兼ねた小テストを出題し、講義内容の理解を確認する。また、練習を促すための宿題も適宜課す。

達成目標：

反力と応力を計算する手順を覚え、手順通りに計算できる能力を身につける。

評価方法：

- 期末試験 100%で評価する。
- 授業で例示していない構造に対しても、反力と応力が計算できる… S
- 授業で例示した構造に対しては、反力と応力が計算できる…………… A
- 授業で例示した構造の大半は、反力と応力が計算できる…………… B
- 授業で例示した構造の半分以上は、反力と応力が計算できる…………… C
- 授業で例示した構造の半分も計算できない…………… D

教科書：

講師作成のプリントを配付する

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B30601	建築構造B	2・3・4	2	水野啓示朗

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
たわみ, たわみ角, 応力度, 許容応力度設計	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

建築構造 A では、部材内部で力が伝達される様子を応力という形で計算する方法について講義するが、力の伝達には必ず部材の変形が伴う。この講義では、部材の変形を計算する方法について講義すると共に、安全な建築物を設計するための手法について講義する。

授業の概要：

この講義は大きく 2 つの内容に分かれ、前半では変形を計算する方法について講義し、後半では構造設計について講義する。これらは建築構造 A の発展的な内容であり、建築構造 A の半分以上を理解した上で受講する必要がある。

授業の計画：

第 1 回	序 (1)	長方形断面に関する諸係数
第 2 回	序 (2)	複雑な断面に関する諸係数
第 3 回	部材の変形 (1)	梁の応力の復習
第 4 回	部材の変形 (2)	モールの定理
第 5 回	部材の変形 (3)	モールの定理の例題
第 6 回	部材の変形 (4)	仮想仕事の原理
第 7 回	部材の変形 (5)	仮想仕事の原理の例題
第 8 回	部材の変形 (6)	梁の変形の演習
第 9 回	断面の設計 (1)	歪度と応力度
第 10 回	断面の設計 (2)	応力状態に対応した応力度
第 11 回	断面の設計 (3)	許容応力度
第 12 回	断面の設計 (4)	梁の断面設計
第 13 回	断面の設計 (5)	座屈について
第 14 回	断面の設計 (6)	柱の断面設計
第 15 回	断面の設計 (7)	断面設計の演習

授業方法：

講義は、毎回配付するプリントに従って、主に板書で行う。講義の最後に出席確認を兼ねた小テストを出題し、講義内容の理解を確認する。また、練習を促すための宿題も適宜課す。

達成目標：

たわみとたわみ角の最大値を計算することができ、許容応力度設計法で断面寸法の設計をすることができる。

評価方法：

期末試験 100% で評価する。
 変形計算ができ、梁と柱両方の断面設計ができる。しかも、計算過程が整理され、分かりやすく表現されている。…S
 変形計算ができ、梁と柱両方の断面設計ができる。…A
 変形計算か、断面設計のどちらかができる。しかも、計算過程が整理され、分かりやすく表現されている。…B
 変形計算か、断面設計のどちらかができる。…C
 変形計算も断面設計もできない。…D

教科書：

講師作成のプリントを配付する

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B30701	建築施工・生産A	2・3・4	2	池田宏之

期間	曜日	時限	備考：後期の「建築施工・生産B」と合わせての受講が望ましい。 (前期と後期合わせて、着工～竣工までの講義内容となる。)
前期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
建築施工・工程・品質	問題解決力、分析・総合の思考力と判断力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

市街地に建てる一般的な鉄骨鉄筋コンクリート造の事務所ビルの施工を例にし、建築関係に就業するにあたり必要と思われる工程と品質についての基礎知識を得る。(建築士受験も視野にいれながら)

授業の概要：

着工から竣工までの全体工程に添って、準備・計画・杭・躯体（・内外装・設備）等の個々の工事の基本的な、工事内容・作業手順、品質基準・品質管理を、理解出来るようになることとする。

授業の計画：

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1回 各種構造・部材名称・構内ツアー | 9回 鉄筋②・・・組立・圧接・各種省力化工法 |
| 2回 建設業とは・企画～受注 | 10回 型枠①・・・材料・加工・組立 |
| 3回 計画・足場・機械 | 11回 型枠②・・・解体・各種省力化工法 |
| 4回 着工準備・山止め壁 | 12回 コンクリート①・・・材料・性能・配合 |
| 5回 既成杭・場所打ち杭 | 13回 コンクリート②・・・打設・検査 |
| 6回 地下工事手順（根切り・構台・切梁） | 14回 コンクリート③・・・各種コンクリート |
| 7回 基準階躯体工事手順 | 15回 現場見学（木造）日程・場所未定 |
| 8回 鉄筋①・・・材料・加工 | |

授業方法：

資料の縮小版を事前配布し、スクリーンに投影した資料にもとづき授業を進める。(毎回20～30カット程度、A3版3P程度)

- ・授業内容に対応する工事ビデオにより実作業を補足説明する。
- ・毎回、理解度確認の小テストを実施する。(主として建築士の試験問題を利用)
- ・毎回、講義終了時に、理解度アンケート兼質問表に記入し提出する。

達成目標：

全体工程、各工事の内容・作業手順、品質基準・品質管理の基本事項を理解し習得する。

評価方法：

- 授業の取り組み・・・40%
試験・・・60%

教科書：

イラスト「建築施工」(社)建設業協会 関西支部・・・教務課にて一括購入予定。(200円程度)4月中に、建築関係の雑誌・・・「新建築」(2,000円程度)等又は住宅関誌・・・を1冊購入すること。

参考文献：

彰国社「新訂 図説施工入門」2,580円(JASS・国交省建築工事共通仕様書)

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B30801	建築施工・生産B	2・3・4	2	池田宏之

期間	曜日	時限	備考：後期の「建築施工・生産A」と合わせての受講が望ましい。 (前期と後期合わせて、着工～竣工までの講義内容となる。)
後期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
建築施工・工程・品質	問題解決力、分析・総合の思考力と判断力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

市街地に建てる一般的な鉄骨鉄筋コンクリート造の事務所ビルの施工を例にし、建築関係に就業するにあたり必要と思われる工程と品質についての基礎知識を得る。(建築士受験も視野にいれながら)

授業の概要：

着工から竣工までの全体工程に添って、準備・計画・杭・躯体（・内外装・設備）等の個々の工事の基本的な、工事内容・作業手順、品質基準・品質管理を、理解出来るようになることとする。

授業の計画：

- | | |
|-------------|--------------------------|
| 1回 鉄骨① | 8回 金属製カーテンウォール・サッシ・ガラス |
| 2回 鉄骨② | 9回 天井内設備・壁天井地下・木 |
| 3回 鉄骨③ | 10回 壁左官・ボード・GL工法 |
| 4回 防水① | 11回 塗装・クロス・床 |
| 5回 防水②・シール | 12回 設備 |
| 6回 屋根・金属 | 13回 保全・改修 |
| 7回 外壁ALC・PC | 14回 見積もり・約款 |
| | 15回 現場見学（RC造又はS造）日程・場所未定 |

授業方法：

資料の縮小版を事前配布し、スクリーンに投影した資料にもとづき授業を進める。(毎回20～30カット程度、A3版3P程度)

- ・授業内容に対応する工事ビデオにより実作業を補足説明する。
- ・毎回、理解度確認の小テストを実施する。(主として建築士の試験問題を利用)
- ・毎回、講義終了時に、理解度アンケート兼質問表に記入し提出する。

達成目標：

全体工程、各工事の内容・作業手順、品質基準・品質管理の基本事項を理解し習得する。

評価方法：

授業の取り組み・・・40%
試験・・・60%

教科書：

イラスト「建築施工」(社)建設業協会 関西支部・・・教務課にて一括購入予定。(200円程度)4月中に、建築関係の雑誌・・・「新建築」(2,000円程度)等又は住宅関誌・・・を1冊購入すること。

参考文献：

彰国社「新訂 図説施工入門」2,580円(JASS・国交省建築工事共通仕様書)

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B30901	建築材料実験	2・3・4	2	山本俊彦

期間	曜日	時限	備考：2 時限連続
前期	火	4・5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
建築材料、材料実験、コンクリート、鋼材、木材	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

建築物を構成する主な構造材料としてコンクリート、金属材料、木材がある。本授業では、この三つの材料を中心に、材料の特性を実験により理解し確かめることを目的とする。種々の材料の特性が把握できた次のステップとして、構造デザインと材料についての関係を、模型実験を通して理解を深める。また、建築材料と環境負荷低減についても実験を通じて考える。

授業の概要：

実験内容の理論的な背景の理解の基に実験を行い、理論と実際との関係を理解する。また、実際の材料に触れることで材料の性質や特性を併せて理解する。実験レポートの作成により、建築材料に対する科学的な見方が出来るようにする。

授業の計画：

1 回	建築材料概論	10 回	金属材料の模型実験
2 回	建築材料と環境負荷低減	11 回	木材の概要
3 回	折れ板製作	12 回	木材実験
4 回	コンクリート材料概要	13 回	実験予備日
5 回	コンクリートの作成	14 回	試験・実験結果の発表
6 回	コンクリートの材料試験	15 回	建築材料実験総括
7 回	金属（鋼、アルミ、ステンレス）材料概要		
8 回	金属の材料試験		
9 回	金属材料の応用実験		

授業方法：

各建築材料の概要、使われ方などを講義し、その後、それぞれの材料について実験を行い、得られたデータを分析・検討し、レポートを作成する。

達成目標：

主要建築材料の実験手法の理解、実験データの収集、実験結果の分析とまとめができる。

評価方法：

レポート 50%、材料実験および試験への取り組み 50%
 各材料の特性を理解し、理論を含めた高い完成度の実験レポートが作成できる。出席 100%…S
 各材料の特性を理解し、実験について高い完成度のレポートが作成できる。出席 90%以上 …A
 実験について高い完成度のレポートが作成できる。出席 80%以上 ………………B
 実験について実験レポートが作成できる。出席 70%以上 ………………C
 C のレベルに達していない ………………D

教科書：

参考文献：

日本建築学会『建築材料実験用教材』（丸善）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B31001	建築測量実習	2・3・4	2	玉置啓二

期間	曜日	時限	備考：2 時限連続 履修抽選対象科目
前期	木	4・5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
水準測量、多角測量、平板測量	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

測量とは、高等学校までは机上の学問に過ぎなかった幾何学のフィールドへの応用である。それは、単に建造物の設計施工に不可欠な技術であるばかりではなく、文化財の調査や自然環境の保全など様々な分野で必要とされており、人間環境学の観点からも極めて重要な技術である。

授業の概要：

本実習においては、建築の設計施工に必要な測量技術の中核としつつも、同時にその他の様々な分野に必要な測量技術とも共通する、最も基本的な測量技術（水準測量、多角測量、平板測量）の修得を目的とする。

授業の計画：

- 第1週：序論（講義）
- 第2週：水準測量1（講義と計算演習）
- 第3週：水準測量2（フィールド実習）
- 第4週：水準測量3（フィールド実習）
- 第5週：水準測量4（レポート作成）
- 第6週：多角測量1（講義と計算演習）
- 第7週：多角測量2（フィールド実習）
- 第8週：多角測量3（フィールド実習）
- 第9週：多角測量4（レポート作成）
- 第10週：平板測量1（講義と実習準備）
- 第11週：平板測量2（フィールド実習）
- 第12週：平板測量3（フィールド実習）
- 第13週：平板測量4（レポート作成）
- 第14週：付論1：寸法単位の歴史（講義）
- 第15週：付論2：測量技術の歴史（講義）

授業方法：

計算演習やレポート作成は個人で行い、フィールド実習はグループで行う。計算演習やレポート作成などに際しては、関数電卓と製図用具を各自で用意する必要がある。フィールド実習に際しては、靴や帽子を含めて、適切な服装でのぞむ必要がある。フィールド実習が雨天順延となった場合には、休講とはせず、付論の講義を先行して行う。

達成目標：

水準測量、多角測量、及び平板測量による地形図の作成

評価方法：

平常点

教科書：

なし（適宜プリントを配布する）

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B31201	建築設計製図 I	2・3・4	2	暮石哲真
期間	曜日	時限	備考 ：2 時限連続 履修抽選対象科目	
前期	金	1・2		
授業のキーワード		人間環境大学が育む八つの能力		
製図法、描法、美的構成法		コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、美的感受性		

授業のテーマ：

- ・ 建築図面（配置図・平面図・立面図・断面図等）の基本的な描き方を習得する。
- ・ 上記以外の建築図面（内観パース等）の描き方や表現方法について習得する。
- ・ 建築図面を理解するために必要な専門知識等の学習を行う。

授業の概要：

建築図面の基本知識を学び、建築図面の基本的な描き方について習得するまで到達することとする。

授業の計画：

- 建築設計製図（2 時限連続）
1. 建築図面の種類・内容について
 2. 製図用具の使い方と線の引き方
 3. 配置図の描き方 1
 4. 配置図の描き方 2
 5. 1 階平面図の描き方 1
 6. 1 階平面図の描き方 2
 7. 1 階平面図の描き方 3
 8. 2 階平面図の描き方 1
 9. 2 階平面図の描き方 2
 10. 立面図及び断面図の描き方 1
 11. 立面図及び断面図の描き方 2
 12. その他の図面の描き方 1
 13. その他の図面の描き方 2
 14. 講評会（全体）
 15. まとめ

授業方法：

授業の前半で、建築における必要な専門知識について実際の工事写真や教科書を見ながら講義を行う。
後半で、学生各自が課題の建築図面を描き、その進捗状況のあわせて指導および評価を行う。

達成目標：

課題の建築図面の指導をとおり、図面の描き方を習得することを目標とする。

評価方法：

授業の取り組み 60%、課題の建築図面 40%により総合的に評価する。

教科書：

< 建築のテキスト > 編集委員会、『初めて学ぶ建築製図』、学芸出版社

参考文献：

他随時、授業中に提示する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B31301	建築設計製図Ⅱ	2・3・4	2	暮石哲真

期間	曜日	時限	備考：2 時限連続
前期	水	1・2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
空間分析、空間設計、空間構成	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、美的感受性

授業のテーマ：

- ・ 建築設計の課題（戸建て住宅・店舗付住宅等）に対して、設計条件の把握分析を行う能力を身につける。
- ・ 分析できた設計条件をもとに、建築図面としてまとめ上げる能力を身につける。
- ・ 建築図面の内容の適正や・正確さおよび表現力を身につける。

授業の概要：

建築設計の課題の分析から、エスキスをとおして考え方をまとめる能力を身につけ、建築図面の表現方法を習得するまで到達することとする。

授業の計画：

- 建築設計製図（2 時限連続）
1. 第一課題（戸建て住宅）の提示と課題内容についての講義
 2. エスキス（建築設計案のスケッチ）の発表 1
 3. エスキス（建築設計案のスケッチ）の発表 2
 4. 建築図面作成 1
 5. 建築図面作成 2
 6. 建築図面作成 3
 7. 第一課題の提出建築図面の講評会
 8. 第二課題（店舗付住宅等）の提示と課題内容についての講義
 9. エスキス（建築設計案のスケッチ）の発表 1
 10. エスキス（建築設計案のスケッチ）の発表 2
 11. 建築図面作成 1
 12. 建築図面作成 2
 13. 建築図面作成 3
 14. 第二課題の提出建築図面の講評会
 15. まとめ

授業方法：

学生の作製するエスキス（建築設計案のスケッチ）・建築図面について、マンツーマンで指導を行い、建築空間設計の基礎を学ぶ。

達成目標：

設計条件の分析とエスキスをとおして、考え方をまとめる能力を身につけ、建築図面の完成まで到達することを目標とする。

評価方法：

エスキス・建築図面等に取り組む姿勢 40%、成果品として提出された建築図面の内容 60%を総合的に判断する。

教科書：

＜建築のテキスト＞編集委員会、『初めての建築計画』、学芸出版社

参考文献：

日本建築学会編、『コンパクト 建築設計資料集成』、丸善
 宮後浩、『宮後浩の 超簡単！プレゼンテクニック』、学芸出版社
 他随時、授業中に提示する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B31401	建築設計製図Ⅲ	2・3・4	2	暮石哲真

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
空間設計、CAD、表現・伝達技法	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、美的感受性

授業のテーマ：

- ・前期：建築設計課題 に対して、設計条件の把握分析を行う能力を身につける。分析できた設計条件をもとに、建築図面としてまとめ上げる能力を身につける。
- ・後期：建築CAD（二次元）の操作を体得し、CADをもちいて建築図面を作成する能力を習得する。
- ・前期及び後期を通じて、描いた建築図面の適正さや・正確さを学習し、更にプレゼン用建築図面の表現力及び発表の仕方を身につける。

授業の概要：

前期：建築設計の課題の分析から、エスキスをとおして空間構築の楽しみを感じ、建築図面の表現方法を習得するまで到達することとする。
後期：建築CADをもちいて、建築図面を作成する能力を習得するまで到達することとする。

授業の計画：

- | | |
|---|--|
| <p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題（幼稚園等）の提示と課題についての講義 2. 設計条件の把握分析についての発表 1 3. 設計条件の把握分析についての発表 2 4. エスキス（建築設計案のスケッチ）1 5. エスキス（同上）2 6. エスキス（同上）3 7. エスキス（同上）4 8. 建築図面作成 1 9. 建築図面作成 2 10. 建築図面作成 3 11. 建築図面作成 4 12. プレゼン用建築図面の作成 1 13. プレゼン用建築図面の作成 2 14. 提出建築図面の講評会 15. まとめ | <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建築CADを用いた設計手法について 2. 動作環境の設定・提出課題（事務所建築）の説明 3. 建築CADの基本操作の体得 1 4. 建築CADの基本操作の体得 2 5. 建築CADを用いた配置図の作成 6. 建築CADを用いた平面図の作成 1 7. 建築CADを用いた平面図の作成 2 8. 建築CADを用いた平面図の作成 3 9. 建築CADを用いた平面図の作成 4 10. 建築CADを用いた断面図の作成 1 11. 建築CADを用いた断面図の作成 2 12. 建築CADを用いた立面図の作成 1 13. 建築CADを用いた立面図の作成 2 14. 提出建築図面の講評会 15. まとめ |
|---|--|

授業方法：

前期：学生の作成するエスキス（建築設計案のスケッチ）・建築図面について、マンツーマンで指導を行う。
後期：建築CADは、学生各自が自らコンピュータを操作し、随時質問を受け付けながら進める。

達成目標：

効果的なプレゼン用建築図面の能力を習得すること、建築CADによる建築図面の完成まで到達することを目標とする。

評価方法：

エスキス・建築図面等に取り組む姿勢 40%、成果品として提出された建築図面の内容・発表態度等 60%を総合的に判断する。

教科書：

前期：＜建築のテキスト＞編集委員会、『初めての建築計画』、学芸出版社
後期：＜建築のテキスト＞編集委員会、『初めての建築製図』、学芸出版社

参考文献：

日本建築学会編、『コンパクト 建築設計資料集成』、丸善
宮後浩、『宮後浩の 超簡単！プレゼンテクニック』、学芸出版社、他随時、授業中に提示する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B31501	建築計画論	2・3・4	2	暮石哲真

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
かたち、デザイン、設計方法、プロセス	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、美的感受性

授業のテーマ：

- ・建物を計画する際に必要な、基本的な考え方を学習する。
- ・特に、住宅、集合住宅、幼稚園等を例に挙げ、それぞれの計画の進め方を学習する。
- ・具体的な図面から、その平面構成・立面構成等について読み取れる力を身につける。

授業の概要：

住宅・集合住宅等身近な建築を例に挙げ、建物種別に分析していくことを通し、計画の考え方・進め方を習得する。

授業の計画：

1. 建築計画の概要1 - 計画の進め方 -
2. 建築計画の概要2 - 空間構成について -
3. 住宅の計画1 - 計画の進め方 -
4. 住宅の計画2 - 空間構成について1 -
5. 住宅の計画3 - 空間構成について2 -
6. 住宅の実例をみて、計画等についてディスカッションを行う
7. 集合住宅の計画1 - 計画の進め方 -
8. 集合住宅の計画2 - 空間構成について1 -
9. 集合住宅の計画3 - 空間構成について2 -
10. 集合住宅の実例をみて、計画等についてディスカッションを行う
11. 幼稚園等の計画1 - 計画の進め方 -
12. 幼稚園等の計画2 - 空間構成について1 -
13. 幼稚園等の計画3 - 空間構成について2 -
14. 幼稚園等の実例をみて、計画等についてディスカッションを行う
15. まとめ

授業方法：

教科書を輪読し、必要な箇所についてはスライド・板書・プリント等にて補足説明をする。
随時、授業で理解度確認の為、課題を行う。

達成目標：

建築の計画をしていく上でのプロセスと、考え方・進め方を習得することを目標とする。

評価方法：

授業の取り組み 40%、授業中に行う参考例の理解度（レポートにて提出）60%により総合的に判断する。

教科書：

＜建築のテキスト＞編集委員会、『初めての建築計画』、学芸出版社

参考文献：

柳沢忠編著、『建築計画－計画・設計課題の解き方－』、共立出版
日本建築学会編、『コンパクト 建築設計資料集成』、丸善
他随時、授業中に提示する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B31601	空間設計論	2・3・4	2	暮石哲真

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
木造在来構法、ディテール、建築と都市計画	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、美的感受性

授業のテーマ：

- ・ 建築を初めて学ぶ学生を対象に、建築及び都市について基礎的な知識を学習する。
- ・ 建築については、各構法（木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造）に関する基礎知識を学習し、特に木造建築に用いられる木材の特性と、在来構法における各部の構法を学習する。更に、建築に用いられている寸法体系についても学習する。
- ・ 都市については、都市計画の歴史を振り返り、当時の政治的・社会的・経済的背景を考察し、我が国における現代都市の目標と都市計画理念を捉え、現下の諸問題を把握する。

授業の概要：

建築についての各構法・ディテールを学習しながら、建築の基礎的な知識を習得する。また、都市計画について建築との関係から理解し、歴史・理念について習得する。

授業の計画：

1. 建築の構法についての概説
2. 鉄筋コンクリート造について
3. 鉄骨造について
4. 木造：材料（木材）の特性
5. 木造：在来構法の概要 1
6. 木造：在来構法の概要 2
7. 各部構法 1：基礎・屋根・壁
8. 各部構法 2：建具・床・階段
9. 各部構法 3：天井・造作と納まり
10. 建築における寸法体系の概説
11. 都市計画の歴史と都市計画思潮
12. 近代都市計画の発展
13. 現代都市の目標と都市計画理念
14. 都市計画の現下の諸問題
15. まとめ

授業方法：

教科書を輪読し、必要な箇所についてはスライド・板書・プリント等にて補足説明をする。随時、授業で理解度確認の為、課題を行う。

達成目標：

建築の各構法、特に木造在来構法についての学習と、都市計画についての理解を目標とする。

評価方法：

授業の取り組み 40%、授業中に行う参考例の理解度（レポートにて提出）60%により総合的に判断する。

教科書：

建築の構法については：1 < 建築のテキスト > 編集委員会、『初めての建築一般構造』、学芸出版社

参考文献：

建築の構法については：1 内田祥哉 編著、『建築構法』、市ヶ谷出版
 都市計画については：2 日笠端・日端康雄、『都市計画』、共立出版
 3 加藤晃・竹内伝史、『新・都市計画概論』、共立出版
 他随時、授業中に提示する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B31701	建築法規	2・3・4	2	暮石哲真

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
生活の中での法規、まちの中での法規、都市の中での法規	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、美的感受性

授業のテーマ：

現在、わが国で建物を設計・施工する場合、建築法規（建築基準法および関連法規等）の様々な規制を受ける。そこで、設計・施工等を行う上で必要となる法律について、建築基準法を中心に、用語の定義や、その内容を理解することを目標とする。

授業の概要：

主に建築基準法について、法令の原則・用語の定義やその内容を学習しながら、建築設計の為の法規の概要を理解する能力を習得する。

授業の計画：

1. 建築法規の概要
2. 用語の定義 1
3. 用語の定義 2
4. 集団規定について 1 - 道路と敷地 -
5. 集団規定について 2 - 用途地域 -
6. 集団規定について 3 - 容積率と建ぺい率 -
7. 集団規定について 4 - 高さ制限 -
8. 集団規定について 5 - 防火地域 -
9. 単体規定について 1 - 採光・換気 -
10. 単体規定について 2 - 天井・床の高さ、階段 -
11. 単体規定について 3 - 木造 -
12. 単体規定について 4 - 防火 -
13. 単体規定について 5 - 内装制限 -
14. 関連法規
15. まとめ

授業方法：

教科書および建築基準法を輪読し、必要な箇所についてはスライド・板書・プリント等にて補足説明をする。（輪読箇所は事前に目を通しておくこと）
随時、理解度の確認の為、事例の検討や参考問題を行う。

達成目標：

集団規定・単体規定について、その内容の理解することを目標とする。

評価方法：

授業の取り組み 40%、授業中に行う参考問題の理解度（レポートにて提出） 60%により総合的に判断する。

教科書：

1. <建築のテキスト>編集委員会、『初めての建築法規』、学芸出版社
2. 今村仁美・田中美都、『図説やさしい建築法規』学芸出版社

参考文献：

建築基準法令集
随時、授業中に提示する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
D32501～03	茶道実習 I	2・3・4	2	神谷昇司

授業コード	期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
D32501	通年	火	1	
D32502	通年	火	2	
D32503	通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
和敬清寂 薄茶 盆略点前 床の間	コミュニケーション力、社交性（社会的相互関係力）、美的感受性

授業のテーマ：

「座礼の日本文化である茶道を通して主客の心を学ぶ」

授業の概要：

点前の規律正しさ、節度ある人との対応の仕方、人間としての本来の姿を養うことを目的とする。亭主と客の動作の実習を通して茶道の真の相を学び、和敬清寂の茶道精神を体得し、人に対しても物に対しても気配りのできる感性豊かな人間形成を目指す

授業の計画：

以下の手順にて実習：

(前期)

(1) 襖のあけしめ、お辞儀の仕方 真、行、草

お菓子、お茶の頂き方

(2) (3) ふくさの扱い方、割稽古

(4) 席入りの仕方、床の拝見

(5) (6) (7) (8) 盆略点前

(9) (10) 柄杓の扱い方

(11) (12) (13) (14) 風炉 薄茶 平点前

(15) 柏露軒茶会

(後期)

(1)～(7) 風炉運び点前

(8)～(14) 炉運び点前

(15) 柏露軒茶会

授業方法：

授業のはじめに「ことば」「利休道歌」「四規七則」の唱和

前期、後期各一度ずつ名古屋にある神谷柏露軒・孤庵・猿庵にて、茶室見学並びに実習をいたします。

達成目標：

茶道の基本である盆略点前とび薄茶平点前を習得する。茶道文化検定を受検して茶道力を養う。

評価方法：

授業への取り組みを重視。

申請によって裏千家初級の資格（入門・小習・茶箱の許状）が取得できます。

教科書：

『裏千家茶道』（財団法人今日庵発行／900円）

裏千家茶道文化検定3・4級用（1,260）

参考文献：

実験・実習・教材費：

10,000円（抹茶・菓子代、消耗品費） 道具を持っていない場合は別途道具代が必要（履修の手引き「茶道の許状取得と茶道実習の履修方法」参照）

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
D32601～03	茶道実習Ⅱ	2・3・4	2	神谷昇司

授業コード	期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
D32601	通年	火	1	
D32602	通年	火	2	
D32603	通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
風炉と炉 平点前 茶箱	コミュニケーション力、社交性（社会的相互関係力）、美的感受性

授業のテーマ：

「茶道の作法を通して日本文化の心を学ぶ」
 棚薄茶点前及び風炉濃茶点前、また茶箱点前を習得致します。

授業の概要：

実習Ⅰに引きつづき実習Ⅱでは、風炉濃茶点前・炉薄茶（はこび・棚）の実習を致します。履修者には茶通箱・唐物・台天目の裏千家許状取得の資格が得られます。なお茶通箱・唐物・台天目・盆点・和巾についてはその内容についての説明と点前・盆点・和巾手順を解説いたします。

授業の計画：

前期は風炉の点前、後期は炉の点前
 1、2、3 風炉 薄茶 運び平点前
 4、5 風炉 薄茶 運び平点前 拝見
 6、7 風炉 薄茶 棚平点前
 8、9 風炉 薄茶 棚平点前 拝見
 9、10 風炉 濃茶 割けい古
 11、12 濃茶における客の作法
 13、14 風炉 濃茶 運び点前
 15 柏露軒茶会

1、2、3 炉 薄茶 運び平点前
 4、5 炉 薄茶 運び平点前 拝見
 6、7 炉 薄茶 棚平点前
 8、9 炉 薄茶 棚平点前 拝見
 9、10 炉 濃茶 割けい古
 11、12 濃茶における客の作法
 13、14 炉 濃茶 運び点前
 15 柏露軒茶会

授業方法：

授業のはじめに「ことば」「利休道歌」「四規七則」の唱和
 前期、後期各一度ずつ名古屋にある神谷柏露軒・孤庵・猿庵にて、茶室見学並びに実習をいたします。

達成目標：

棚薄茶点前及び風炉濃茶点前、また茶箱点前を習得する。また茶道文化検定を受検して茶道力を養う。

評価方法：

授業への取り組みを重視。
 「ことば」「四規七則」「利休道歌」「歴代家元」等暗誦の為の小テスト

教科書：

『裏千家茶道』（財団法人今日庵発行／900円）
 裏千家茶道文化検定3・4級用（1,260円）

参考文献：

『茶道教本 風炉』（淡交社／1,200円＋税）
 『茶道教本 炉』（淡交社／1,200円＋税）

実験・実習・教材費：

10,000円（抹茶・菓子代、消耗品費）

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
D32701～03	茶道実習Ⅲ	3・4	2	神谷昇司

授業コード	期間	曜日	時限	備考：
D32701	通年	火	1	
D32702	通年	火	2	
D32703	通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
荘物（かざりもの） 濃茶 棚点前	コミュニケーション力、社交性（社会的相互関係力）、美的感受性

授業のテーマ：

「くりかえし反復練習して五感と体で覚える」

授業の概要：

各学生のレベルに合わせて棚薄茶点前、荘物（かざりもの）点前、運び濃茶点前を実習します。奥伝（唐物、台天目、盆点、和巾点）の説明と点前の心構えの説明を致します。履修者の内、特に優秀な学生には「行之行台子」の裏千家許状取得が得られます。なお行台子については、その内容についての説明と点前手順の解説を致します。

実習Ⅱに引き続き、前期は風炉棚薄茶点前、荘物、濃茶運び点前、後期は炉棚薄茶点前、荘物、濃茶運び点前習の実習を致します。

授業の計画：

(前期) 風炉	(後期) 炉
1、2 更好棚薄茶点前	1、2 更好棚薄茶点前
3、4 丸卓薄茶点前	3、4 丸棚薄茶点前
5、6 桑小卓薄茶点前	5、6 桑小卓薄茶点前
7 荘物における客の作法	7 荘物における客の作法
8 茶筌荘	8 茶筌荘
9 茶碗荘	9 茶碗荘
10 茶杓荘	10 茶杓荘
11 濃茶の割り稽古	11、12、13、14 炉濃茶運び点前
12、13、14 風炉濃茶運び点前	15 柏露軒茶会
15 柏露軒茶会	

授業方法：

授業のはじめに「ことば」「利休道歌」「四規七則」を唱和。各自のレベルに応じて棚薄茶・荘物・濃茶の点前を反復実習します。客の作法も学びます。

前期、後期各一度ずつ名古屋にある神谷柏露軒・孤庵・猿庵にて、茶室見学並びに実習をいたします。

達成目標：

薄茶と濃茶の違いを習得する。茶道文化検定（2級・3級・4級）を受検して茶道力を養う。

評価方法：

出席を重視

「利休道歌」「歴代家元」、「楽家代々」等暗誦の為の小テスト

教科書：

茶道検定公式テキスト（1・2級用）（2,100円）

参考文献：

『茶道教本 小習事全伝 上』（淡交社／1,575円）

実験・実習・教材費：

10,000円（抹茶・菓子代、消耗品費）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D32801～03	茶道実習Ⅳ	3・4	2	神谷昇司

授業コード	期間	曜日	時限	備考：
D32801	通年	火	1	
D32802	通年	火	2	
D32803	通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
四ヶ伝（茶通箱・唐物・台天目・盆点）	コミュニケーション力、社交性（社会的相互関係力）、美的感受性

授業のテーマ：

「茶の湯とは心に伝え目に伝え耳に伝えて一筆もなし」
茶道は繰り返し練習することで五感と体で覚える。

授業の概要：

各学生のレベルに合わせて、茶通箱（さつうばこ）、唐物、台天目、盆点、和巾点の実習を致します。これらの点前を習得した履修者には行の行台子の点前実習を致します。履修者の内、特に優秀な学生には「大円之草（だいえんのそう）」と「引次（ひきつぎ）」の裏千家許状取得の資格が得られます。なお大円之草についてはその内容についての説明と点前手順の解説を致します。実習Ⅲに引き続き、茶通箱を習得し、奥伝の実習を致します。なお優秀な学生には行の行台子の点前の実習を致します。基本的に前期は風炉点前：後期は炉点前

授業の計画：

前期は風炉の点前、後期は炉の点前
1, 2. 茶通箱（さつうばこ）
3, 4. 唐物（からもの）
5, 6. 台天目（だいてんもく）
7, 8. 盆点（ほんだて）
9, 10. 和巾点（わきんだて）
11, 12. 行の行台子
13, 14. 初炭（しょずみ）
15. 柏露軒茶会

授業方法：

授業のはじめに「ことば」「利休道歌」「四規七則」を唱和。各自のレベルに応じて濃茶・荘物・四ヶ伝の点前を反復実習します。客の作法も学びます。
前期、後期各一度ずつ名古屋にある神谷柏露軒・孤庵・猿庵にて、茶室見学並びに実習をいたします。

達成目標：

もう一度初心に戻って茶道に対する心構えを見直す。茶道文化検定（1級・2級・3級）を受検して茶道力を養う。

評価方法：

授業への取り組みを重視
「利休道歌」「歴代家元」「楽家代々」「茶道知識」等暗誦の為の小テスト、

教科書：

茶道検定公式テキスト（1・2級用）（2,100円）

参考文献：

実験・実習・教材費：

10,000円（抹茶・菓子代、消耗品費）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D32901	華道実習 I A (生花)	2・3・4	(1)	加藤碧玻
期間	曜日	時限	備考： I A・I B両方取得して2単位	
通年	木	3		
授業のキーワード		人間環境大学が育む八つの能力		
楽しい時間、癒し、対話		価値判断力（意思決定力）、グローバルな視野、美的感受性		

授業のテーマ：

生花の基本的技法、知識を学ぶ。

池坊華道の様式である「生花」の実習を通して、日本伝統文化の感性と意義を見出し、国際人としての人格形成の一助とする。

授業の概要：

1. 草木の見つめ方、ため方、省略など基本的な花材の生かし方を学ぶ。
1. 草木の自然と出生の表現を学ぶ。
1. 一種生、二種生を中心とした基本的な正風体生花を修得する。
- ◎一種生
 1. 生花の役枝真副体での構成を学ぶ
 1. 真副体のあしらいの枝、方向性を学ぶ
- ◎二種生
 1. 二種生の体を学ぶ
 1. 真副の草木に対しての体の草木の選び方を学ぶ

授業の計画：

第 1～第 15 一種生

第 16～第 30 二種生

※季節の植物を生けますので、その植物の一番美しい時を選びますから変動も有ります。

授業方法：

手本を生けながら説明した後、実習を行い、生け上がった作品を一作ずつ手直しをする。

達成目標：

自然界にある（生育している）植物の美しさをとらえる目を養う。

評価方法：

出席率、授業態度を評価するが、半期に一度実習テストを行う。

教科書：

なし

参考文献：

「池坊いけばなテキスト生花 I・生花 II」（日本華道社／各 683 円）

実験・実習・教材費：

26,040 円（「生花」花代 @ 840 × 30 回分 + @ 840 正月花）

道具を持っていない場合は、別途道具代が必要（約 3,100 円）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33001	華道実習 I B (自由花)	2・3・4	(1)	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：I A・I B 両方取得して2単位
通年	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
・たての花をいけてみよう。・よこの花をいけてみよう。・ななめの花をいけてみよう。・自由花入門コースを経験してみよう。	価値判断力 (意思決定力)、グローバルな視野、美的感受性

授業のテーマ：

教室の使い方、道具、花材の基本的使い方を身につける。
 華道実習を通し、日本の伝統文化の真髄に触れつつ、その美の鑑賞の仕方を身につける。
 基礎的技術を身につけ、美しい「いけばな」をつくりだす。
 植物の美しさに気がつき、その生かし方を勉強する。

授業の概要：

- ・季節ごとの花材を手にするにより、その性質を学ぶ。
- ・花材の配置、配色による美しい造形を追求する。
- ・花器との調和、飾る場所との調和を追求する。
- ・自由花入門カリキュラムにそって段階を区切り実習を深める。

授業の計画：

第1～第30 入門カリキュラムに添って、花器・花材の取りあつかいを知る。

授業方法：

当日使用する花材の名前や性質について説明する。
 花器を選択し、形づくりを考える。

達成目標：

基礎的な自由花を身につけることと、作法を身につける。

評価方法：

作品の評価 40%、授業態度 30%、出席率 30% 等による。

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

26,880 円 (「自由花」花代 @840 × 30 回分 + @ 840 × 2 回分 正月花、クリスマス花)
 道具を持っていない場合は、別途道具代が必要 (約 3,100 円)

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33101	華道実習ⅡA（生花）	2・3・4	(1)	加藤碧玻
期間	曜日	時限	備考：ⅡA・ⅡB両方取得して2単位	
通年	木	3		
授業のキーワード		人間環境大学が育む八つの能力		
楽しい時間、癒し、対話		価値判断力（意思決定力）、グローバルな視野、美的感受性		

授業のテーマ：

日本の風土と精神が育てた「生花」をさらに深く学ぶことにより、日本人の美意識を再確認し、日本伝統文化の理解の一助とする。

ⅡAでは基本的技法を踏まえた生花三種生を学ぶとともに、現代的な生花新風体を習得する。

授業の概要：

1. 正風体としての生花三種生を修得する
 1. 現代の生活環境に適応した生花新風体を習得する
 1. 三種生と生花新風体の違いを学ぶ
- ◎三種生
1. 一種生、二種生にはない、装飾的な明るい生花を学ぶ

授業の計画：

第1～第10 一種生

第11～第20 二種生

第21～第30 三種生

※季節の植物を生けますので、その植物の一番美しい時を選びますから変動も有ります。

授業方法：

手本を生けながら説明した後、実習を行い、生け上がった作品を一作ずつ手直しをする。

達成目標：

自然界にある（生育している）植物の美しさをとらえる目を養う。

評価方法：

出席率、授業態度を評価するが、半期に一度実習テストを行う。

教科書：

なし

参考文献：

「池坊いけばなテキスト生花Ⅰ・生花Ⅱ」（日本華道社／各 683 円）

実験・実習・教材費：

26,040 円（「生花」花代 @ 840 × 30 回分 + @ 840 正月花）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33201	華道実習ⅡB（自由花）	2・3・4	(1)	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：ⅡA・ⅡB両方取得して2単位
通年	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
・入門から応用へ。・楽しく飾ろう。・植物とお友達に。	価値判断力（意思決定力）、グローバルな視野、美的感受性

授業のテーマ：

華道実習を通じ、日本文化の一端に触れつつ、新しい生活スタイルの中で生きる美しい「いけばな」を追求する。

美しい「いけばな」実習の経験から、豊かな人間性を創りだす。

授業の概要：

季節ごとに変化する花材の性質、名前を知る。

配置、配色により美しい「いけばな」の原理を追求する。

「いけばな」の中での花器の役割を知り、よりよい方向を追求する。

草木の美と、構成の美を結合することにより、さらに美しい「いけばな」のできることを体験する。

ⅢB、ⅣBの学生との合併クラスになる為、先輩の良いところを学ぶ。

授業の計画：

第1～第30

・応用の手がかりを知る。

・正しい作法を知る。

授業方法：

当日の花材の名や、特長について説明する。

花材と花器との調和について考えさせる。

花器に対する「いけばな」構成について考えさせる。

達成目標：

・花器、花材と親しむことができた

・礼儀正しいいけばなをすることができた

評価方法：

作品からの評価（配置、配色、軽重、大小など）40%

実習態度 20%、出席率 40%

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

26,880円（「自由花」花代 @840 × 30回分 + @840 × 2回分 正月花、クリスマス花）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33301	華道実習ⅢA（生花）	3・4	(1)	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：ⅢA・ⅢB両方取得して2単位
通年	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
楽しい時間、癒し、対話	価値判断力（意思決定力）、グローバルな視野、美的感受性

授業のテーマ：

自然の植物をより深く理解し、植物それぞれの持つ特徴（出生）を引き出し、「生花」という様式の中に表現する。

池坊の現行伝書に基づいて古典を学び、意義を見い出す。

授業の概要：

1. 形式にとらわれない生花新風体の理解を深める。
1. 季節に応じた生け方の工夫を学ぶ。
1. 古典生花の現代的応用。

授業の計画：

前期はⅡAに順ずる

後期は生花新風体を勉強

授業方法：

手本を生けながら説明した後、実習を行い、生け上がった作品を一つずつ手直しをする。

達成目標：

自然界にある（生育している）植物の美しさをとらえる目を養う。

評価方法：

出席率、授業態度を評価するが、半期に一度実習テストを行う。

教科書：

なし

参考文献：

「池坊いけばなテキスト生花Ⅰ・生花Ⅱ」（日本華道社／各 683 円）

実験・実習・教材費：

26,040 円（「生花」花代 @ 840 × 30 回分 + @ 840 正月花）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33401	華道実習ⅢB（自由花）	3・4	(1)	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：ⅢA・ⅢB両方取得して2単位
通年	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
・植物大好き人間に。・応用って楽しい。・変幻自在に。	価値判断力（意思決定力）、グローバルな視野、美的感受性

授業のテーマ：

華道実習を通じ、豊かな人間性を見出す。
日本伝統文化に触れつつ、新しい生活スタイルの中で生きる「いけばな」を追求する。
I、IIの経験をふまえ、一層高度な技術と知識を身につける。

授業の概要：

季節にあった「いけばな」、飾る場・時にあった「いけばな」を経験し身につける。
構成の原理を知り、「いけばな」の中で追求する。
他の造形についても興味をもち、「いけばな」との関連を学ぶ。
II B、IV Bとの合併クラスになる為、他の人の個性に触れる。

授業の計画：

第1～第30
・適材適所のいけばなを経験する。
・いけばなの楽しさを味わう。

授業方法：

花材の特長を、実習から花材の軽重・長短などを考えさせる。
花器の色・質・形について考えさせる。

達成目標：

・応用力をつけることができた
・他の造形との関連を知ることができた

評価方法：

作品の出来により評価する。40%
授業態度 20%、出席率 40%

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

26,880円（「自由花」花代 @840 × 30回分 + @840 × 2回分 正月花、クリスマス花）

授業コード	授業科目名		対象学年	単位数	担当教員名
D33501	華道実習ⅣA（生花・伝花）		3・4	(1)	加藤碧玻
期間	曜日	時限	備考：ⅣA・ⅣB両方取得して2単位 ※8月29日、12月18日に集中講義（伝花）があります。		
通年	木	3			
授業のキーワード			人間環境大学が育む八つの能力		
楽しい時間、癒し、対話			価値判断力（意思決定力）、グローバルな視野、美的感受性		

授業のテーマ：

日本の伝承美である生花を、池坊の現行伝書に基づいて再現し、その技法を学ぶと共に、「生花」本来の美の認識を新にする。
「伝花」は古典の花器を使用し、特殊な花形を実習する。

授業の概要：

1. 古典の花器（御玄猪等）を使用して、剣山ではなく花配り（花留め）を勉強、実習する。
1. 竹の二重切の花器で花の花形を生ける。
1. 「生花」の株分けである水陸二株生、魚道生の実習。

授業の計画：

第1～第30 ⅢAに順ずる
集中講座にて伝花

授業方法：

手本を生けながら説明し、その後実習、生け上がった作品を手直し。

達成目標：

自然界にある（生育している）植物の美しさをとらえる目を養う。

評価方法：

出席率と授業態度、そして半期に一度実習テスト。

教科書：

なし

参考文献：

「池坊いけばなテキスト生花Ⅰ・生花Ⅱ」（日本華道社／各683円）

実験・実習・教材費：

34,440円（「生花」花代 @ 840 × 30回分 + @ 840 正月花、「伝花」花代 @ 840 × 10回分）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33601	華道実習ⅣB（自由花・立花）	3・4	(1)	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：ⅣA・ⅣB両方取得して2単位 ※8月30日、31日に集中講義（立花）があります。
通年	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
・立花まで経験してみよう。・いけばなの原形を見てみよう。・学外でのいけばなを見てみよう。	価値判断力（意思決定力）、グローバルな視野、美的感受性

授業のテーマ：

最終年度として、経験した知識と技術を確認しつつ、さらに深い感性を身につける。それを実生活の中で生かす工夫をする。
後期は、立花集中実習を通し、立花の理論と技術を体験する。

授業の概要：

自由花－小さな作品・大きな作品、縦長・横長の作品などを経験し、さまざまな空間に適応する自由花を実習する。
立花－集中講義により、立花の造形理論とその空間を学習する。
基礎的な理論とその鑑賞のしかたを身につける。

授業の計画：

第1～第30
・適材適所のいけばなを経験する。
・いけばなの楽しさを味わう。

授業方法：

テーマを決め、様々な空間に生きる自由花を楽しみつつ、経験させる。
立花の実習により、その理論と空間を経験させる。

達成目標：

・応用力をつけることができた
・他の造形との関連を知ることができた

評価方法：

作品から評価 40%
授業態度 20%、出席率 40%

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

35,280 円（「自由花」花代 @840 × 30 回分 + @ 840 × 2 回分 正月花、クリスマス花 + 「立花」花代 @ 840 × 10 回分）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F00101	教職概論	2・3・4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教師、教職、人づくり	コミュニケーション力、問題解決能力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

学級崩壊、いじめ、引きこもり、また、青少年犯罪の凶悪化など、現在、我が国の教育が大きな混乱状態にあることはいうまでもない。また、これらの教育問題は制度的改革のみで乗り切ることが不可能と考える。

そこで、本講では「教育とは何か」という最も基本的な問題を総合的に考察する。

授業の概要：

授業では、自分自身の教職経験（山口県立高校教諭十四年在職）を具体的に語りながら、教師とは何かということを学生に理解させたい。

授業計画：

- 1 教育とは何か①
- 2 教育とは何か②
- 3 学校教育とは何か①
- 4 学校教育とは何か②
- 5 我が国における学校の発達と性格①
- 6 我が国における学校の発達と性格②
- 7 教師の性格と課題①
- 8 教師の性格と課題②
- 9 家庭・地域と学校①
- 10 家庭・地域と学校②
- 11 教師の性格と課題
- 12 家庭・地域と学校
- 13 学級・学校経営
- 14 教育内容—我が国の教科書
- 15 生徒指導の体制と方法

授業方法：

講義形式

達成目標：

学生が自分で理想の教師像を描き、それに向かって努力するようにする。

評価方法：

期末試験（100％）による。

教科書：

なし

参考文献：

折々に紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F01101	教育原論	2・3・4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
西洋、教育史、人づくり	コミュニケーション力、問題解決能力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

学級崩壊、いじめ、とじこもり、また、青少年犯罪の凶悪化など、現在、我が国の教育が大きな混乱状態にあることはいうまでもない。また、これらの教育問題は制度的改革のみで乗り切ることが不可能と考える。

そこで、本講では「教育とは何か」という最も基本的な問題を総合的に考察する。

授業の概要：

講義では、まず、ギリシア、ローマの教育からはじめ、近代学校制度の成立までを概観する。具体的には、各時代、各地域の代表的な「私塾」、「学校」、「教育者」などを取り上げ、そこで行われた教育実践などを概観し、教育のあり方を総合的に考察する。

授業の計画：

- 1 ギリシアの教育①
- 2 ギリシアの教育②
- 3 ソクラテス
- 4 プラトン
- 5 アリストテレス
- 6 ローマの教育
- 7 イスラエルの教育
- 8 中世の教育①
- 9 中世の教育②
- 10 人文主義と教育
- 11 宗教改革と教育
- 12 啓蒙主義と教育
- 13 ルソー
- 14 ペスタロッチ
- 15 フレーベル

授業方法：

講義形式を中心として進める。

達成目標：

近代教育の源流とされるギリシア以来の西欧教育思想を理解し、今後の我が国の教育を具体的に構想する。

評価方法：

期末試験（100％）による。

教科書：

なし。

参考文献：

折々に紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F03101	教育制度論	2・3・4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本教育、制度史、歴史	コミュニケーション力、問題解決能力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

古代より我国の教育は、行政の一分野と位置付けられ、教育制度の形態、学校の設置、運営、教育内容の決定などを主体的に行い、教育水準の維持、発展を目指してきた。本講義では、我国の学校制度の歴史の変遷、現在の法制度などの基本などについて取り上げ、それぞれの時代における教育制度の精神的、社会的、制度的、経営的な特徴などを論じる。

授業の概要：

我が国では、古代より人づくりが始まり、大陸の文化的影響のもと、制度が整備されてきたことを理解させる。そして、現在の我が国の教育制度は、それらの延長線上にあることを理解させる。

授業の計画：

- 1 古代国家の成立とその教育制度
- 2 大陸の教育・文化の国風化
- 3 ヨーロッパ文化・宋明文化の摂取
- 4 幕府・諸藩の教育政策と学校
- 5 大衆文化の発達と教育の普及
- 6 幕末維新时期における教育近代化の胎動
- 7 近代教育法制の成立と展開
- 8 外国教師の雇用と高等・中等教育の成立
- 9 西洋教育方法の導入と小学校教師の誕生
- 10 教育理念の模索と臣民像
- 11 教育改革運動の展開
- 12 植民地教育の展開
- 13 戦時体制下の教育
- 14 戦後教育改革の進展
- 15 国際状況の変化と我国の教育

授業方法：

講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

達成目標：

我が国の教育制度の発達を理解し、現在のそれについて、自分の意見がもてるようになる。

評価方法：

授業の取り組み 20%、テスト 80%などによって、評価する。

教科書：

なし。史料は適時配布。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F04101	国語教科教育法 I	2・3・4	4	山田克利

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	3	

授業のキーワード				人間環境大学が育む八つの能力	
わかる 想像力	言葉	学習指導案	模擬授業	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力）	問題解決力

授業のテーマ：

国語と教育が関わりあう関係や理念、背景、条件について見識を広げ深める。言葉が人間を作ることのありようを把握し、高校教育として国語を指導することの意味と方法を追求する。

授業の概要：

高校で国語の授業を担当するための基礎作りをし、自分で必要な能力を育てるための方法をつかむことに重点を置く。それが自分自身の人生を豊かにすることも念頭に置きながら、国語教育の知識と技能について、理論面と実践面から学習し訓練を行う。

授業の計画：

前期

- 1、授業の趣旨と計画
- 2、国語の授業の成立 高校での国語教育の意味と条件
- 3、4、学習指導要領 責任 根拠 基準 教科と科目
- 5、国語の授業のための組織と計画
- 6、ことばと「国語」 何を教えるか・学習するか
- 7、8 ことばとは何か ことばの力 ことばを使う力
- 9、授業の展開Ⅰ 授業の計画 学習指導案の作り方
- 10、11、12、授業の展開Ⅱ 対話 学習者の作業 現代文の読解
- 13、授業の展開Ⅲ ——詩・短歌・俳句の学習と授業
- 14・15、授業の展開Ⅳ ——古文・漢文（1）を読むこととその基礎

後期

- 16、授業の展開 V ——古文・漢文（2）の授業の方法と発展
- 17、文法と敬語の指導
- 18、模擬授業。授業実践・訓練と分析 国語表現
- 19、模擬授業。授業実践・訓練と分析 国語表現
- 20、模擬授業。授業実践・訓練と分析 国語総合
- 21、模擬授業。授業実践・訓練と分析 国語総合
- 22、模擬授業。授業実践・訓練と分析 現代文
- 23、模擬授業。授業実践・訓練と分析 現代文
- 24、模擬授業。授業実践・訓練と分析 古典
- 25、模擬授業。授業実践・訓練と分析 古典
- 26、模擬授業。授業実践・訓練と分析 古典講読
- 27、模擬授業。授業実践・訓練と分析 古典講読
- 28、模擬授業の総括、技術・方法・考え方の反省と整理
- 29、指導案の意義・方法の再把握と整理。国語教育担当力のための長期的計画
- 30、国語教育の評価とその意味、方法。試験問題の作り方。

授業方法：

基本的には講義形式によるが、テキストを含めて文献を読み、必要な知識を集めながらの読解作業、また話し、書くこと更には、自分の言葉で授業を進める実践、訓練も行う。

達成目標：

中等教育（高等学校）における国語課目を指導する力の養成を目的とする。

評価方法：

授業に取り組む積極性、レポートなどの課題の処理、指導案の作成などを含む授業を計画し実施する力、を基準に評価を行う。平常の授業で発揮されたものに加え、学期末・学年末に筆記試験を行い、それらを総合して評価する。平常点50%、試験の成績50%。

教科書：

文部科学省編「高等学校学習指導要領解説 国語編」（教育出版、305円（税込み））
文部省「高等学校学習指導要領解説 国語編」（東洋館出版社、399円（税込み））

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F04201	国語教科教育法Ⅱ	2・3・4	4	石原比朗志

期間	曜日	時限	備考：
通年	土	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教材研究、指導目標、指導過程、指導方法、学習指導案づくり	分析・総合の思考力と判断力、コミュニケーション力、問題解決力

授業のテーマ：

中学校の国語教科書の教材を中心に、教材研究を行い、指導目標、指導過程、指導法について学習する。教科書には、物語、詩等の文化的文章、評論、解説等の説明的文章、入門期の古文・漢文等の教材、また、伝統的な言語文化と国語の特性に関する事項が総合的に編集されている。中学校での指導内容を把握し、言語観の確立をはかるとともに、実践的な指導案づくりの仕方を学ぶ。

授業の概要：

中学校学習指導要領が示す国語科の目標や内容等を理解し、求められている国語力についての認識を深める。教科書教材等の分析を通し、教材研究の力を養い、実践的な授業づくりに結びつける。

授業の計画：

前期	後期
1 私の国語科教室	16 詩の指導、詩の創作指導
2 中学校国語科の目標・各学年の目標	17 作文の指導と課題
3 学習指導要領の解説 読むこと・書くこと	18 説明的文章の教材分析 中2教材
4 学習指導要領の解説 話すこと・聞くこと	19 説明的文章の教材分析 中3教材
5 学習指導要領の解説 言語文化、特質	20 説明的文章の教材分析 指導過程
6 文化的文章の教材分析 中1教材	21 古典教材の分析と指導法 古文・漢文
7 文化的文章の教材分析 中3教材	22 短歌・俳句の教材 解釈と創作
8 文化的文章の教材分析 指導内容・計画	23 書写の指導 目標と内容
9 文化的文章の教材分析 指導過程	24 書写の指導 指導法と実習
10 読書の指導と課題	25 漢字・語句の指導法
11 音読・朗読、視写の指導法	26 学習指導案の作成 題材観
12 ノート指導と板書 実習	27 学習指導案の作成 目標と指導計画
13 学習指導案の作成 基本様式	28 学習指導案の作成 本時の学習・展開
14 学習指導案の作成 本時の学習 展開	29 模擬授業の実践と分析
15 模擬授業の実践と分析	30 国語科教師として

授業方法：

中学校国語の教材文や配布資料に基づく講義を中心に、問答、発表等を通して理解を深め、指導案づくり等の実習を取り入れる。

達成目標：

教材研究の力を養うこと、基本的な指導過程・指導法を理解すること、指導案づくりをすること等の学習を通して、国語科を指導する能力を習得する。

評価方法：

平常点 50%、レポート 50%。

- ・ 確実な教材研究の力をつけ、積極的に実習をし、望ましい国語科指導の能力を身につける…S
- ・ 教材研究の方法を理解し、積極的に実習をし、国語科指導の能力を相応に身につける…A
- ・ 教材研究の方法を理解し、実習に参加し、望ましい国語科指導の能力を理解する…B
- ・ 授業内容を理解し、実習に参加し、望ましい国語科指導の能力を理解する…C
- ・ Cのレベルに達していない…D

教科書：

中学校国語教科書『国語1・2・3』（光村図書）

参考文献：

授業中に適宜指示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F04301	社会科・地歴科教育法	2・3・4	4	堀崎嘉明

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教材研究、構成、展開、分析、討議	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

中学社会科と高校地歴科の授業をつくる

授業の概要：

中等社会科教育の領域と課題、中学社会科の地理・歴史的分野の授業例検討、教材の探し方・使い方・多様な学習方法を考察する。高校地歴科の地理・日本史・世界史の授業例検討。さらにテーマ学習の事例を考察する。また学習指導案作成と模擬授業の実施、学習評価法を考察する。

授業の計画：

- 1.2 中等社会科教育（地理・歴史教育）の領域と課題
 - 3.4 中学社会科の目標と課題
 - 5.6 地理的分野の授業展開例の研究
 - 7.8 歴史的分野の授業展開例の研究
 - 9.10 教材の探し方・使い方（地図・地域・視聴覚・実物教材など）
 - 11.12 社会科教育での多様な学習指導法（主題・レポート・討論学習など）の研究
 - 13.14 学習指導案作成にあたっての留意点
 - 15.16 高校地歴科の目標と課題
 - 17.18 地理の授業展開例の研究
 - 19.20 日本史の授業展開例の研究
 - 21.22 世界史の授業展開例の研究
 - 23.24 歴史の授業をつくる－教材と展開例（テーマ学習を通して）
 - 25.26 学習指導案の作成
 - 27.28 模擬授業・分析
 - 29.30 中学社会科・高校地歴科の学力と評価法
- * 1テーマにつき2週で扱う。

授業方法：

テーマの講義が中心となるが、時にビデオの視聴、スピーチ、討論などを随時取り入れる。

達成目標：

中学社会科と高校地歴科を担当できる資質と力量の養成を図る。

評価方法：

成績評価は、読書課題（30%）、模擬授業と学習指導案のレポート（40%）、平常点〔時間毎のミニレポートなど〕（30%）の割合で総合的に評価する。

模擬授業の展開において、

完成度の高い展開能力が示せる・・・S 確かな教材研究と熱心な姿勢が見られる・・・A

教材研究に不十分さを残すも、熱意ある姿勢で実践を展開した・・・B

授業の展開はできるものの、平板な域を出ていない・・・C

Cのレベルに達していない・・・D

教科書：

特に使用せず、資料プリントを配布して行う。

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F04401	社会科・公民科教育法	2・3・4	4	西村／疋田

期間	曜日	時限	備考：2時限連続
通年	土	1・2	(前期授業日) 4/14 4/21 5/12 5/26 6/16 6/30 7/14 7/28 (後期授業日) 9/22 10/6 10/20 11/10 11/24 12/8 12/22 1/12

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
社会認識力、社会形成力、公民的資質、授業構成力、授業実践力	コミュニケーション能力、分析・総合の思考力と判断力、グローバルな視野

授業のテーマ：

社会科、公民科は児童生徒の社会認識形成と社会形成力を育成することにより、公民としての資質・能力を育成する社会系教科である。社会科及び公民科の成立過程を現代社会の教育の動向を背景に掴み、その基本的性格及び目標と内容構成を理解する。学習指導要領の内容構成を理解し、社会科、公民科での授業構想を考え、学習指導案を作成して模擬授業による自己省察を行う。

授業の概要：

社会科、公民科に関する基本的な教科理論を理解しながら、実際に学校教育現場での教育実習における教科指導ができるように教科の目標、内容、方法を確認した上で模擬授業を行う。前半は主に中学校社会科（公民的分野）の授業実践力を、後半は高等学校公民科授業実践力育成を中心に行う。

授業の計画：

(前期)

- 第1回 今日の学校教育の課題、戦後の教育改革と学力観の変遷、民主主義社会の形成者育成
- 第2回 社会科の成立と基本的性格、社会科の目標と内容構成、指導上の留意事項
- 第3回 中学校社会科（公民的分野）の学習内容と学習方法、指導と評価の一体化
- 第4回 教材開発の意義とその方法、教材の構造化
- 第5回 目標の立て方、学習過程の組織化、学習形態と学習活動、板書計画と発問
- 第6回 社会科学習指導案の作成
- 第7回 社会科模擬授業実践とその検討・評価
- 第8回 まとめとテスト

(後期)

- 第1回 高等学校公民科の成立過程、公民科の目標と科目構成、課題探究学習の位置付け
- 第2回 科目「現代社会」の目標と内容、科目「倫理」の目標と内容
- 第3回 科目「政治・経済」の目標と内容、公民科の指導方法と評価
- 第4回 目標の立て方、学習過程の組織化、学習形態と学習活動、教材開発の意義とその方法
- 第5回 先行授業実践例の紹介とその授業分析
- 第6回 公民科学習指導案の作成
- 第7回 公民科模擬授業実践とその検討・評価
- 第8回 まとめとテスト

授業方法：

前期は学習教材として配布した資料の解説を中心に講義形式により、各テーマについて理解していく。後期は前期の理論を実際に教育現場で実践できるように模擬授業を構想し、実際に実践することにより基礎的な力量を身に付けさせる。

達成目標：

社会科及び公民科に関する基礎的な教科理論を理解し、現行の学習指導要領の内容から模擬授業を構想し、実際に実践して身に付けることにより教育実践力の基礎を習得する。

評価方法：

前期においては、授業への取り組み（70%）と授業中に課せられた課題（時事問題の発表）（30%）とし、後期においては、模擬授業の作成とその実践（70%）、テスト（30%）の配分で前期後期を通して総合的に評価する。

教科書：

なし

参考文献：

西村公孝『地球社会時代に「生きる力」を育てる』黎明書房、2004年
日本公民教育学会『テキストブック中学校・高等学校公民教育』第一学習社、2004年

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F04501	英語教科教育法 I	2・3・4	4	平尾節子

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション、4 - skills 育成の教授法、Oral Method, Oral Approach, CLT	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力

授業のテーマ：

コミュニケーション能力の育成の教授法の学習と実践がテーマである。即ちリスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの4領域の技能を養成するための基本的指導法の理論と実践を学ぶ。このため、まず自己の英語運用能力を高めることが必要である。ついで、学習指導要領のねらいや内容を理解し、望ましい授業を行うための教授法に関する諸理論を学び、積極的な授業実践のための演習を図る。

授業の概要：

受講生自身が英語コミュニケーション能力を高め、積極的にコミュニケーションを図る態度を養成する。ついで、これらをどのように指導するか、教授法に関する諸理論に基づいて実践的に演習する。

授業の計画：

- 前期 1回 オリエンテーション：英語教育の理念と教師のあり方
2～3回 日本の英語教育の歴史と国際比較
4～6回 教授法の諸理論の研究
7～9回 中学校学習指導要領・外国語・改訂の趣旨、目標、言語活動
10～12回 高等学校学習指導要領・外国語・目標、カリキュラム、言語活動、言語材料
13～14回 言語活動の指導、Classroom English の活用
15回 まとめ：教育実習の心得、教員採用試験の傾向と対策
- 後期 1回 Speech Presentation: "My Summer Vacation"
2～5回 授業実践：聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、の4技能の指導
6～8回 授業実践：中学校：Teaching Plan の作成
9～10回 授業実践：高等学校：Teaching Plan の作成
11～14回 模擬授業・プレゼンテーション演習と反省・討議
15回 まとめ

授業方法：

講義形式で始めますが、毎回、1人～2人の報告者がレジメを用意して、プレゼンテーションを行い全員で討議する。模擬授業では、全員が教授法の理論を効果的に実践する総合的指導計画を作成する。生徒役の学生が授業評価をして相互に反省討議し、問題解決を図る。必要に応じて、VTR、DVD、Internetなどを活用し、望ましい授業のあり方を研究する。

達成目標：

教授法の理論を活用・実践して、4 - skills の習得のための指導法を学び研究すると共に、積極的に、自己のコミュニケーション能力を高める。(TOEIC スコア：700、英検：準1級程度)

評価方法：

定期試験(40%)、授業中のプレゼンテーション(35%) 模擬授業(25%)
教授法の理論を十分に駆使して実践・指導し、コミュニケーション能力が向上した…S
理論を部分的に活用し、コミュニケーション能力がやや向上した…A
理論を一部使い4技能の指導が部分的にできる…B
理論を部分的に説明できる…C
Cレベルに達しない…D

教科書：

- 「新英語科教育法入門」(研究社)
「中学校学習指導要領・外国語(英語)」(文部科学省)
「高等学校学習指導要領・外国語(英語)」(文部科学省)

参考文献：

田崎清純著「現代英語教授法総覧」(大修館)

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
F04601	英語教科教育法Ⅱ	2・3・4	4	岡良和

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
英語運用能力、教科指導力、教授理論	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

おもに中学校での英語授業実践に取り組んでもらう。学習指導要領の狙いや内容を十分に理解し、望ましい授業を行うための基礎的な知識や実践力を習得する。このために、自己の英語運用能力を一層伸ばすとともに、実践的英語コミュニケーション能力の指導法を検討し、習熟する。

授業の概要：

受講生自身が聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、の4技能を伸ばすことに取り組む。次いで、これらの技能をどのように指導するのかを教授理論に基づき理解し実践する。

授業の計画：

1回 指導要領の基本方針	16～17回	聞くことの指導
2回 指導要領の目標	18～19回	話すことの指導
3～6回 英語科の目標・言語活動	20～21回	読むことの指導
7～8回 言語活動の扱い	22～23回	書くことの指導
9～11回 言語材料	24～25回	4技能の総合的指導
12～13回 言語材料の扱い	26～29回	模擬授業
14回 指導計画の作成	30回	まとめ
15回 まとめ		

授業方法：

テキストに沿って進みながら、受講生に質問していく。その後、ミニ模擬授業を行う。

達成目標：

英語教員として必要とされる英語運用能力と指導力に習熟すること。

評価方法：

前期・後期の試験(50%程度)と授業への取り組み(50%)程度により行う。将来教師を目指す以上、遅刻や欠席は厳に慎むこと。

十分な英語運用力を有し、生徒の状況に応じた授業ができる……………S

十分な英語運用力を有し、理論に基づいた授業ができる……………A

ほぼ十分な英語運用力を有し、一定の援助を得ることで授業ができる……B

教育実習に必要な能力を有している……………C

Cのレベルに到達していない……………D

教科書：

米山、杉山、多田 著 『英語教育実習ハンドブック』大修館書店 2,200円(税抜き)

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F05101	道徳教育の研究	2・3・4	2	濱島秀樹

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	D	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
道徳的葛藤, ディベート, 意見表明	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 (意志決定力)

授業のテーマ：

道徳性の構築や自ら考える力の獲得に効果的な教育方法としてディベートを行う。道徳的な葛藤と向き合いながら他者の意見にコメントし、自分の考えも深めていく。また、それらを言語化・文章化していく力を養う。

授業の概要：

モラルジレンマ課題をディベートの論題としてとりあげ、出席者全員で考えを深めていく。参加者全員がパワーポイントを使用してスライドを作成し、発表をする。その他、中学校での道徳教育の進め方について、また、心理学において道徳性の発達がどのように扱われてきたのかなどを整理する。

授業の計画：

第1回	オリエンテーション モラルジレンマについて	第9回	道徳教育と全人教育
第2回	道徳教育の歴史と学習指導要領	第10回	家庭と道徳教育
第3回	道徳的社会化	第11回	学校・地域と道徳教育
第4回	道徳性の発達と自己の成長	第12回	種々の道徳的課題
第5回	道徳教育指導案作成	第13回	ディベート①
第6回	ディスカッション	第14回	ディベート②
第7回	道徳教育と生徒指導	第15回	ディベート③
第8回	道徳教育と特別活動		

授業方法：

基本的には配布資料とスライドをもとに講義・演習(ディスカッション・ディベート等を含む)を行う。ある課題に対し自分で調べ、考え、そして、発表することが求められる。積極的な能動的参加が必要である。また、小グループでのディスカッションや全体でのディベートなどにおいて、常に自分の考えや意見を他の参加者に表明し、双方向的にコミュニケーションを取ることが必要になると心得ておくこと。

達成目標：

モラルジレンマ課題を通して、自らの道徳観を見つめなおし、児童・生徒のおかれた発達段階や社会状況に即して、広く活用することのできる知識や態度を身につけることを目標とする。

評価方法：

授業の取り組み(ディスカッションやディベート参加点も加味)60%、レポート(講義終了後の設定期間内に提出のこと)20%、授業指導案作成20%で総合的に評価を行う。

教科書：

なし

参考文献：

文部科学省 『心のノート 中学校版』 暁教育図書株式会社 (430円 税込み)
 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 日本文教出版 (139円 税込み)
 太田龍樹 『ディベートの基本が面白いほど身につく本』 (株)中経出版 (1155円 税込み)
 茂木秀昭 『ディベートが面白いほどできる本』 (株)中経出版 (552円+税)

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F06101	特別活動指導法	2・3・4	2	大宮貢

期間	曜日	時限	備考：
前期	土	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
人格の完成、個性の伸長、人間関係の構築、教科外教育	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、効果的な社会参加

授業のテーマ：

教育の目標は人間の成長保障と学力形成保障の両面があり、学校の教育活動は各教科・道徳・特別活動によって構成されている。しかし、現実に行われている教育活動は、学力形成に重点が置かれている。特別活動は心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、人格形成を培う重要な諸活動であることを再認識する。

授業の概要：

人間の人格形成と学力形成は表裏一体である。日本の教育の歴史を理解することから教育は人格の形成を図る諸活動が実践されていることを再認識する。また、人格形成を阻害する諸問題があることを理解する。

授業の計画：

- 1・教育の目的・日本の教育史の概論
- 2・江戸時代の教育と近代の教育の意義と課題
- 3・特別活動総論…新学習指導要領の趣旨 教育課程における特別活動・教科外活動の位置と意義
- 4・人格形成のための学力形成 特別活動と教科指導の関わり、
- 5・学力重視かゆとり（個性）か ビデオ「明治の教育」を視聴して、小論文にまとめ討論
- 6・学級活動・給食指導・清掃指導の意義と課題
- 7・クラブ活動・部活動の意義と課題
- 8・学校行事の意義、活動内容と指導計画 … 修学旅行の実施計画
- 9・修学旅行の実施計画の発表と発表内容についての討論（演習）
- 10・総合的な学習の時間のあり方
- 11・特別支援教育、ボランティア活動
- 12・教科外教育（人権教育・子供の人権・高齢者福祉・女性差別等）
- 13・教科外教育（同和問題・ハンセン病）
- 14・適応学級（いじめと不登校、国際理解教育）
- 15・教員の資質について
- 16・試験（小論文）

授業方法：

基本的には講義方式で進め、授業内容詳説プリントとビデオを教材として用いる。また、受講生に対して課題を出して、小論文の形で提出してもらい、意見の交換を行う。その時間の課題について全員で討議し、自分の考えを確立する。

達成目標：

特別活動は心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、人格形成をする重要な諸活動であることを理解する。人間の成長を保障するさまざまな活動や問題があることを習得する。

評価方法：

課題の小論文40%、演習での発表20%、試験20%、授業の取り組み（発言回数と内容、態度）20%を総合して評価する。
 教育の目標や特別活動の意義や活動を十分理解し、自分の意見が発表できる …S
 教育の目標や特別活動の意義や活動を理解し、自分の意見が発表できる …A
 教育の目標や特別活動の意義や活動を理解し、自分の意見が持てる …B
 教育の目標や特別活動の意義や活動を理解できる …C
 Cのレベルに達していない …D

教科書：

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（ぎょうせい、114円）

参考文献：

講義時間に紹介する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F07101	教材・教具論	2・3・4	2	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
視聴覚教材, 参加型授業, 素材の効果的な利用, 模擬授業	分析・総合の思考力と判断力, 問題解決力, 価値判断力 (意思決定力)

授業のテーマ：

既存の視聴覚教材を利用した参加型授業の実施

授業の概要：

テレビ, ビデオ, アニメ, ゲームなどの視聴覚素材を, 教育の目的に合わせて教材化し, その効果的な利用法を考える。

授業の計画：*すべて, グループワーク

1. 視聴覚教材を利用した参加型授業を実現するための要件 (過去に受けた教育経験を振り返る)。
2. 視聴覚教材を利用した参加型授業を実現するための要件 (体験学習を通じて理解する)
3. 既存の教材 (インターネット, カード, カルタ, 紙芝居, まんがなど紙媒体の教材) 探索。
4. 既存教材・素材の探索
5. 利用する素材の選択, クラスに報告
6. 利用案 (教案) を考える
7. 映像素材 (アニメ, ゲーム他の1シーン) を教材化する
8. 素材の共有 (グループ発表)
9. 共有した素材を利用して, 目的 (中高の国語, 英語, 社会科, 国際理解教育など) に合った利用案発表, 評価
10. 中間報告 (模擬授業 リハーサル)
11. 教案・教材の修正1
12. 教案・教材の修正2
13. 発表 (模擬実習)
14. 発表 (模擬実習)
15. まとめ

授業方法：

学生が主体的に活動をすることによって学習が成立する授業である。グループ単位で, 教材作成, 教案作成, 発表等を行う。欠席は, グループ作業を滞らせるため, 全出席を旨とする。教育実習等理由ある欠席を除き3回以上欠席した者には, 単位は授与されない。教材についての情報を得る, 教材作成のための資料を得るために, インターネットを利用する。また, 発表もパワーポイントを利用して行う。

達成目標：

1. 生の素材を対象者や目的に合わせて教材化できるようになる。
2. 教材を効果的に使って参加型授業が実践できるようになる。

評価方法：

授業参加・貢献	40%
模擬授業 (発表)	40%
レポート	20%

教科書：

特に定めない。

参考文献：

ウェブに公開されているさまざまな教材, 他。

実験・実習・教材費：

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
F08101	生徒指導・進路指導	2・3・4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
生徒指導、生徒理解、教職	コミュニケーション力、問題解決能力、社交性（社会的相互関係力）

授業のテーマ：

学校教育は教科指導にみならず、生徒の人格の完成、人間形成を重視しておこなわなければならない。生徒の人格、人間形成のために重要な役割を果たしているのは、生徒指導・進路指導である。そこで、本講義では、それらについて理解を深め、実際の学校においてはどのような指導が行われているのかを論じたい。

授業の概要：

専門用語の解説などから始め、生徒指導、進路指導の理想的なあり方を、自分で考えられるようにする。

授業の計画：

- 1 生徒指導とは一校内分掌における位置付け
- 2 生徒指導とは一生徒理解
- 3 生徒指導の領域と課題
- 4 生徒指導体制の基本的構造
- 5 生徒指導の場・機会
- 6 生徒指導の事例①
- 7 生徒指導の事例②
- 8 生徒指導の事例③
- 9 進路指導とは一校内分掌における位置付け
- 10 進路指導とは一生徒理解
- 11 進路指導の領域と課題
- 12 進路指導の基本的構造
- 13 進路指導の場・機会
- 14 進路指導の事例①
- 15 進路指導の事例②

授業方法：

講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

達成目標：

生徒指導、進路指導の基本を理解し、学校現場に立った時に、具体的に指導ができる基礎を身に付けさせる。

評価方法：

授業の取り組み 20%、テスト 80%などによって、評価する。

教科書

なし。史料は適時配布。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F09101	教育相談	2・3・4	2	坂本真也

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	B	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
スクールカウンセリング, 学校臨床心理学, 児童・生徒理解	分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、価値判断力（意思決定力）

授業のテーマ：

現在、学校現場ではいじめ・不登校・非行そして発達障害など多くの問題に直面している。また、児童生徒だけでなくその保護者や教師への援助も教育相談では必要とされている。よって、本講義では学校の様々な問題に対する理解とその対応について理論や方法論だけでなく、事例も含めて学校臨床心理学（スクールカウンセリング）の視点から学習することを主要なテーマとする。

授業の概要：

教育相談のあり方や特徴を学習し、学校現場が抱える問題の背後にある児童生徒の心理・発達、教師—児童生徒関係についても理解していく。また、個々の問題への対応や援助の方法を習得し、効果的な教育相談が行えることを目標とする。

授業の計画：

1. 教育相談とは
2. 教育相談の歴史的背景
3. 児童生徒の心理・発達Ⅰ
4. 児童生徒の心理・発達Ⅱ
5. 教師—児童生徒の人間関係
6. 児童生徒への相談活動
7. ケース・ディスカッション（不登校）
8. 保護者への相談活動
9. ケース・ディスカッション（発達障害）
10. カウンセリングの理論
11. 応答技法
12. リフレーミング
13. カウンセリング実習
14. スクールカウンセラーとの連携
15. まとめ

授業方法：

配布資料をもとに講義を行い、実際に学校現場で抱える問題については体験的に理解できるよう事例を通して討論していく。また、カウンセリング実習も行い、相談活動のあり方について全員で考え、意見を交換していく。主要なテーマの内容については、レポートを書いてもらう。

達成目標：

児童生徒の心理・発達の理解および相談方法の習得、保護者への相談対応能力や連携能力の習得

評価方法：

授業への取り組み 30%、レポート課題 70%

S—児童生徒の心理・発達ならびに効果的な相談活動のあり方をほぼ完全に理解できる。

A—児童生徒の心理・発達ならびに効果的な相談活動のあり方を理解できる。

B—児童生徒の心理・発達ならびに効果的な相談活動のあり方を部分的に理解できる。

C—児童生徒の心理・発達ならびに効果的な相談活動のあり方を最低限は理解できる。

D—C のレベルに達していない。

教科書：

なし

参考文献：

前田基成他『生徒指導と学校のカウンセリング心理学』八千代出版（¥1,995）

伊藤美奈子・平野直己編『学校臨床心理学・入門』有斐閣アルマ（¥1,995）

伊藤亜矢子編『学校臨床心理学 ～学校という場を生かした支援』北樹出版（¥1,890）

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F10101	総合演習	4	2	奥田・藪谷

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
共感力、ブレイン・ストーミング、プレゼンテーション	コミュニケーション力、問題解決力、社交性

授業のテーマ：

模擬授業を中心にして、第一に、独善性を排して、相手に誠実かつ説得的に伝える訓練をする。第二に、受講生が互いに批評しあって切磋琢磨する集団的な学習の訓練をする。(教師集団ができないことを生徒集団に求めることは出来ない。)第三に、環境・平和・生命・人権・ジェンダー・国際化等々、縦割りの学科目では取り上げにくいテーマの取り上げ方を検討する。第四に、総合学習の授業例の紹介及び現段階における総合学習の評価について解説する。その中で各自のテーマとアプローチを工夫すること。

(藪谷あや子教授担当部分)

授業の概要：

教育課程に求められている時代の要請を知り、それに対して総合学習に期待されている役割を考える。総合学習と教科学習の違いを理解する。生徒の成長段階に配慮したテーマとアプローチが不可欠であることを理解する。

授業の計画：

1. オリエンテーション～今日、教育に求められているもの
2. 教科学習と総合学習の違い
3. 総合学習の難しさを考える。(例えば、「道徳」等)
4. 5. 共通テーマで授業案を作成する。
6. 7. 発表し、比較する。

授業方法：

基本的にゼミ形式。受講生が相互交流を軸として進める。

達成目標：

同じテーマでも、教える側の価値観、考え方の違いをあることを確認する。そのことをふまえたうえで、共通して児童や生徒に伝えるべきことは何かを全員で考える。

評価方法：

出席70%、積極的・主体的な授業参加態度30%

教科書：

プリントを毎回、配布する。

参考文献：

適宜、紹介する。

実験・実習・教材費：

(奥田 栄教授担当部分)

授業の概要：

総合学習の教案作りをとりあえずのテーマとして、各人2回ずつ発表する。最初の発表では参加者全員でブレインストーミングを行ってアイデアを膨らませ、二度目の発表では教案について批判的な吟味を行う。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 総合学習のテーマを探す
3. テーマを発展させていく (1)
4. テーマを発展させていく (2)
5. テーマを発展させていく (3)
6. 発表と相互評価 (1)
7. 発表と相互評価 (2)
8. 発表と相互評価 (3)

授業方法：

各人の選択したテーマについてアイデアを膨らませ、その議論をまとめる形でプレゼンテーションを行い、相互評価する演習形式。

達成目標：

企画立案し、アイデアを膨らませ、教案として形をなすように出来ること。

評価方法：

相互評価を参考に、授業への取組によって判定する。

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
F11101	事前・事後指導	4	1	岡良和

期間	曜日	時限	備考:授業日は前期4回、後期3回(授業日は別途掲示にて指示)中免希望者は「F11201 教育実習Ⅰ」、 「F11301 教育実習Ⅱ」を、高免希望者は「F11201 教育実習Ⅰ」をあわせて履修登録すること。
通年	水	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教育実習、問題解決力、教育現場への参加	コミュニケーション力、分析・総合の思考力と判断力、社交性(社会的相互関係力)

授業のテーマ：

教育実習は、学生として学ぶ立場から教師として指導する立場へと転換する時期としてとらえることができる。この時期に教師への志望が一段と強くなり、また、人間的にも大きく成長する。この授業では、教育実習参加者が、教育実習の意義を理解し大きな成果をあげるために身につけておくべき事柄について習熟する。

授業の概要：

事前指導では「教育実地研究の手引」を用いながら、教育実習の意義、目的、教育実習の内容、教育実習上の留意事項(登下校時間、服装、ことばづかい、その他)、教育実習簿の記載方法などについて習熟する。事後指導では、教育実習の目的がどこまで達成されたのかを全員で討論し振り返る。

授業の計画：

事前指導

- 1回 教育実習の意義・心構え
- 2回 実習ノートの活用
- 3回 指導案の作成・授業方法についての確認
- 4回 まとめ

事後指導

- 1回 生徒指導の振り返り
- 2回 教科指導の振り返り
- 3回 まとめ

授業方法：

事前指導では、教育現場における課題や問題に対し、実習生としてどのように対処すべきかを討論する。
事後指導では、大学で学習したことと、現場で体験したことを比較し、残された課題について検討する。

達成目標：

将来教員となるのに必要な基礎力を身につける。

評価方法：

授業への取り組み(30%程度)と教育実習校での成果(40%)及びレポート(30%程度)により行う。将来教師を目指す以上、遅刻や欠席は厳に慎むこと。

- 事前準備が完璧で、教育実習において大いに成果をあげた……………S
 事前準備がほぼ完璧で、教育実習において満足できる成果をあげた……………A
 事前準備が一定のレベルにあり、教育実習において一定の成果をあげた…B
 事前準備や教育実習が最低限のレベルには到達していた……………C

教科書：

なし

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし